はじめに

人生 100 年時代を迎え、これまでの人生設計を考えなおす必要性が、多くの人々の人生課題となっています。人生 100 年時代を見据えた社会経済システムを作り上げるため、働きながら学ぶ、キャリアアップのために学びなおすことなどの社会人の学びが推進されています。

本学では、“トータルビューティビジネス”を中核に、広くヒューマンサービス業の分野における創業、継承、再生への経営者、管理者、指導者になるための高度な経営の専門職能力を提供するだけではなく、トータルビューティビジネス業界で革新的なビジネスモデルに挑戦する人材育成に力を入れております。

学校法人メイ・ウシヤマ学園は、ハリウッド美容専門大学校及びハリウッド大学院大学において、多様なニーズに対応する履修・聴講システムを準備し、頑張る社会人の学びなおし（リカレント教育）を支援しています。「独立開業のため、本格的に経営学を学びたい」、「キャリアアップを目指したい」、「美容業界へ転職したい」、「自分の知識をブラッシュアップしたい」などのニーズに応えています。

本事業では、美容分野の「学修成果指標」体系の構築を軸にしてリカレント教育体系を編成し、学修者にとって分かりやすい目標を築く点に特徴を置いて、実施します。

なお、本事業では、一昨年度において 10,000 人を超える本校の卒業生を対象にしたアンケート調査を実施しました。また、本事業の実施においては、多くの方々のご協力を得ました。卒業生の皆様、他ご協力をいただいた皆様方に対して厚く御礼を申し上げます。

学校法人メイ・ウシヤマ学園
ハリウッド美容専門大学校
理事長　　山中　祥弘

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による事業として、学校法人メイ・ウシヤマ学園ハリウッド美容専門大学校が実施した令和 7 年度「学修成果指標を活用した美容師のためのリカレント教育推進プログラムの開発」の成果をとりまとめたものです。

目次

1 概要 1

1-1 事業の趣旨・目的 1
1-2 調査・分析 2
1-3 学修成果指標の体系化・講座開発 3
1-4 実証講座開発 4

2 調査・分析 5

2-1 ニーズ調査（令和 5 年度実施） 5
2-2 ニーズ調査（令和 6 年度実施） 7
2-3 VR と美容 12
2-4 AI と美容 19
2-5 VR と AI 調査まとめ 27

3 学修成果指標開発 28

3-1 学修成果指標 28
3-2 学修成果指標体系化の方法 29
3-3 学修成果指標の体系（領域ごと）構築結果 30

4 カリキュラム開発 88

4-1 カリキュラム開発の考え方 88
4-2 カリキュラム 90

5 実証講座開発 93

5-1 実証講座実施の考え方 93
5-2 実証講座の実施 95
5-3 実証講座の結果 154

6 まとめ 167

付録 168

A 資格枠組のレベル定義 168
B 学修成果指標（美容分野） 173
C 成果報告会配布資料 177

実施委員会名簿

氏名	役職	都道府県
山中　祥弘	学校法人メイ・ウシヤマ学園理事長	東京都
布川　耕吉	北海道美容専門学校校長	北海道
山形　正喜	山梨県美容専門学校校長	山梨県
池淵　　淳	松江理容美容専門大学校校長	島根県
田中　由視	学校法人明日香美容学園理事長	大分県
桜木　孝司	東亜大学学術学部教授・芸術学部学部長・東亜学園評議員	東京都
倉本　大樹	株式会社ガモウ　マーケティング企画本部	東京都
増保　利行	株式会社 MASS ホールディングス　代表取締役社長	東京都
芳賀　俊央	ビューティシオン代表取締役社長	東京都
渡辺　雅美	サロンドユーゥ代表取締役社長	東京都
八木　典子	ハリウッドビューティーサプライ	東京都
佐藤　友彦	日本パーマ協会（JPA）	東京都
中川登紀子	ハリウッド大学院大学　教授	東京都
浦田　幹男	港区教育委員会教育長	東京都
村橋　哲矢	東京都美容生活衛生同業組合	東京都
川口　昭彦	専門職高等教育質保証機構代表理事	東京都

１　概要

１-１　事業の趣旨・目的

本事業では、美容師が知識や技術をアップデートし、最新の美容技術やトレンドに対応するためのリカレント教育プログラムを開発する。美容師は、常に新しいトレンドや技術を必要とし、それに対応するためには、学び続ける機会の提供が不可欠である。美容師リカレント教育推進プログラムは、美容師が自己啓発とスキルアップを目的として、技術や知識を学びなおす機会を提供するものである。

美容師リカレント教育推進プログラムでは、ヘア領域（シャンプー・セット・スパ、カット、アップスタイル、パーマ、カラーリング）、メイクアップ等の領域（メイクアップ、ネイル、エステティック）など、美容に関する様々な領域をカバーする。また、ビジネススキルやコミュニケーションスキル、カウンセリングスキルなど、美容師として必要なスキルも学ぶこともできる。美容業界で競争が激しくなる中、常に最新の知識や技術にアップデートしていくことが、一人前の美容師になるための重要な要素の一つである。

本事業では、美容分野の学修成果指標体系を軸にしてリカレント教育体系を編成し、学修者にとって分かりやすい目標を築く点に特徴を置いて、次のような区分に従って実行する。

①調査・分析

美容師のリカレント教育に関する調査・分析（対美容業界）

②美容リカレント教育に沿った学修成果指標の体系化・講座開発

①の調査結果を基に学修成果指標の構築・体系化・講座の開発

③実証実験講座の実施

②に基づいた実証実験講座の実施

④検証

③の結果を①の調査に照らして検証

１-２　調査・分析

本事業では、一昨年度事業において、本校の卒業生など 10,000 名を超える美容師に対してアンケート調査を実施し、500 名余りの回答を得た。2 年目の昨年度は、その 500 名を中心とした方々のうち、美容サロン経営者を中心とした層に対して調査を実施した。本年度は、1、2 年目の調査結果の中から浮かび上がった、VR（Virtual Reality）や AI（Artificial Intelligence）に着目し、文献やインターネット調査を実施した。

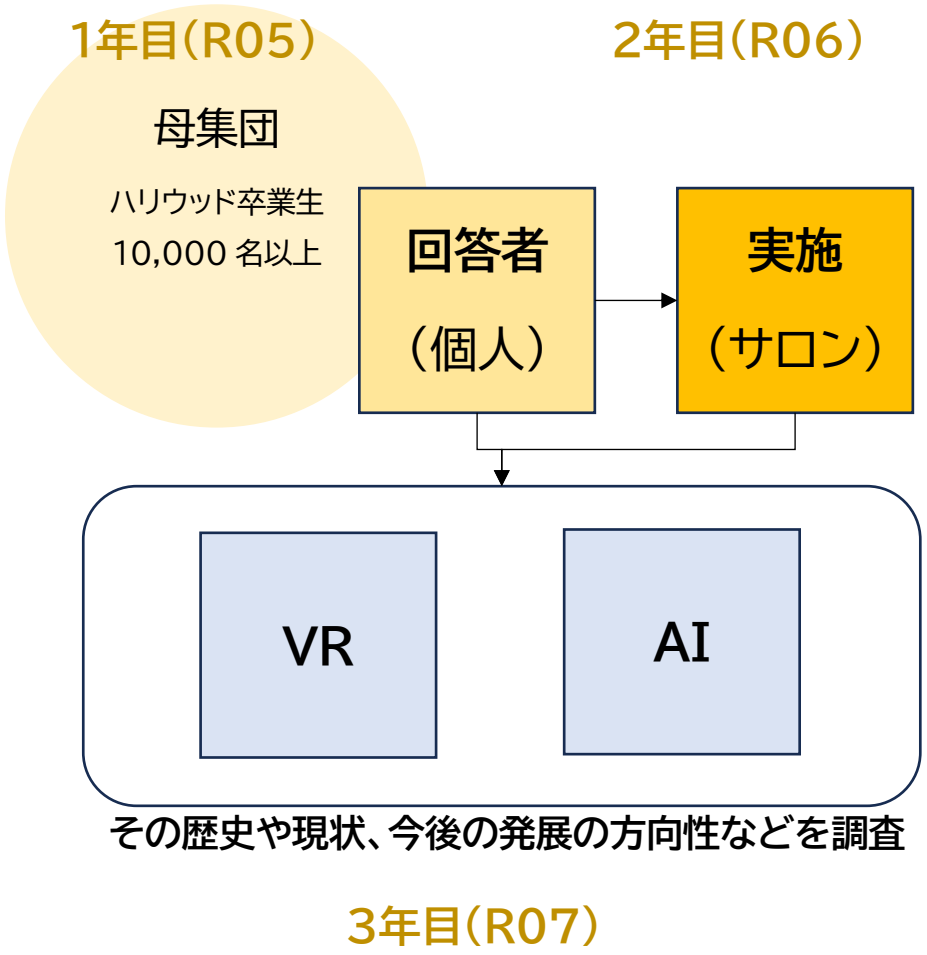


図 1　調査全体の流れ

1-3　学修成果指標の体系化・講座開発

本事業では、リカレント教育プログラムを開発・実施するために、次のようなプロセスを踏んだ。

① ニーズ調査
② ニーズ調査結果を踏まえた「学修成果指標」（学修目標）の構築
③ 「学修成果指標」の達成を目指す「カリキュラム」の開発
④ 「カリキュラム」と整合性のある実現可能な実証講座の開発・実施

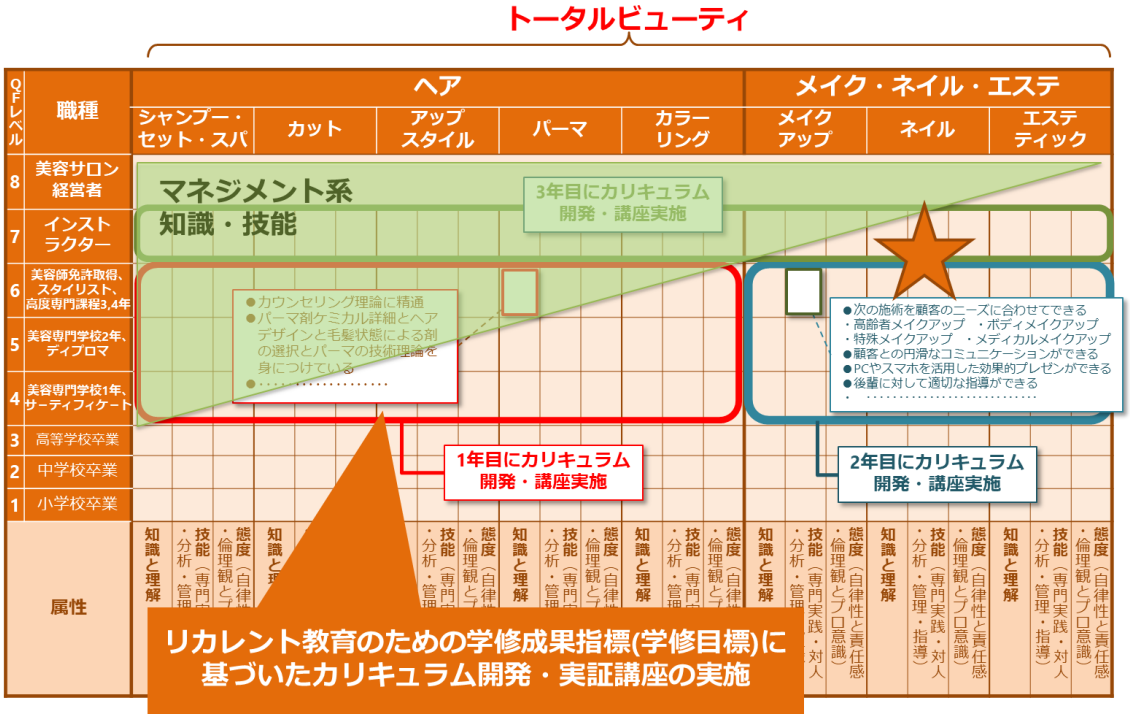


図 2　学修成果指標のもととなる概念図

学修成果指標は、リカレント教育を受けた者が、自身の学修成果を確認するための体系的な指標である。本事業では、一般社団法人専門職高等教育質保証機構が構築した「資格枠組のレベル定義」[1]に基づいた学修の達成指標と矛盾しない、美容分野の「学修成果指標」[2]をもとに、本事業の調査結果等を反映した独自の学修成果指標体系を構築し、その指標をもとに講座の開発を行った。

---

1 「付録　A　資格枠組のレベル定義」を参照
2 「付録　B　美容分野の学修成果指標」を参照

(1) 領域ごとの学修成果指標の体系化

本年度は、国家試験対策、マネジメント、ブランドマネジメント、財務会計、人材育成の各領域ごとに、学修成果指標の体系化を行った。[3]

(2) カリキュラム・シラバス開発

(1) で構築した体系に沿って、リカレント教育プログラムのカリキュラム・シラバスを開発した。[4] また、開発したカリキュラム・シラバスに沿って教材等の開発を行った。

1-4 実証講座開発

実証講座は、リカレント教育のニーズ調査結果に従い、「国家試験対策」、「マネジメント」、「ブランドマネジメント」、「財務会計」、「人材育成」について実施することとした。受講者は、リカレント教育を必要とする者を被験者とするため、本校の卒業生をはじめとして、幅広く募集した。評価の方法としては、アンケート調査を実施した

表 1 実証講座の一覧

カテゴリ	手段	テーマ	時期	時間数	講師	対象	課題など
技術(実習)	VR	国試対策	12/18(木) 9:00~10:30 10:40~12:10 13:00~14:30 14:40~16:10	6.0h	神田 紗那	社会人2年生、最大33名	新規VR(スケール社) ワインディング、カット、オールウェーブ
		カット、カラー	12/8(月) 9:00~10:30 10:40~12:10 12/15(月) 9:00~10:30 10:40~12:10	6.0h	大島 優貴	高専生、一般公募	既存VR(東美組合)
	VTR(映像)	カット、カラー、メイクアップ	11/17(月) 9:00~10:30 10:40~12:10 12/1(月) 9:00~10:30 10:40~12:10	6.0h	大島 優貴	高専生、一般公募	既存VTR(ヘアキャンプ社)
マネジメント	講義	イントロダクション	10/1(水) 18:20~19:50	3.0h	山中 祥弘	大学院生、一般公募	
		マネジメント	10/22(水) 18:20~19:50 10/29(水) 18:20~19:50	6.0h	野嶋 朗	大学院生、一般公募	
			11/12(水) 18:20~19:50	3.0h	蒲生 典子	大学院生、一般公募	ブランドサロンのマネジメント
		財務会計	10/14(火) 20:00~21:30 10/21(火) 20:00~21:30	6.0h	田井 良夫	大学院生、一般公募	
		人材育成	11/26(水) 18:20~19:50 12/10(水) 18:20~19:50	6.0h	津田まどか	大学院生、一般公募	
合計				42.0h			

[3] 詳細は、「3 学修成果指標開発」を参照

[4] 詳細は、「4 カリキュラム開発」を参照

2　調査・分析

2-1　ニーズ調査（令和 5 年度実施）

本事業初年度である令和 5 年度において、美容に関する学修者の、現況および学び直しについてのアンケート調査を実施した。以下は、調査の概要である。

（1）　調査実施時期

令和５年 12 月～令和６年１月

（2）　調査対象

都内美容学校複数校の卒業生等

（3）　調査対象地域

全国

（4）　アンケート配布数

10,757 件

（5）　有効回答数

589 件

（6）　調査方法

郵送によりアンケートを送付し、そこに記載の URL から表示される Microsoft Forms に記入されたアンケート回答を回収した。

（7）　調査項目

図 3　アンケート調査項目のとおりである。

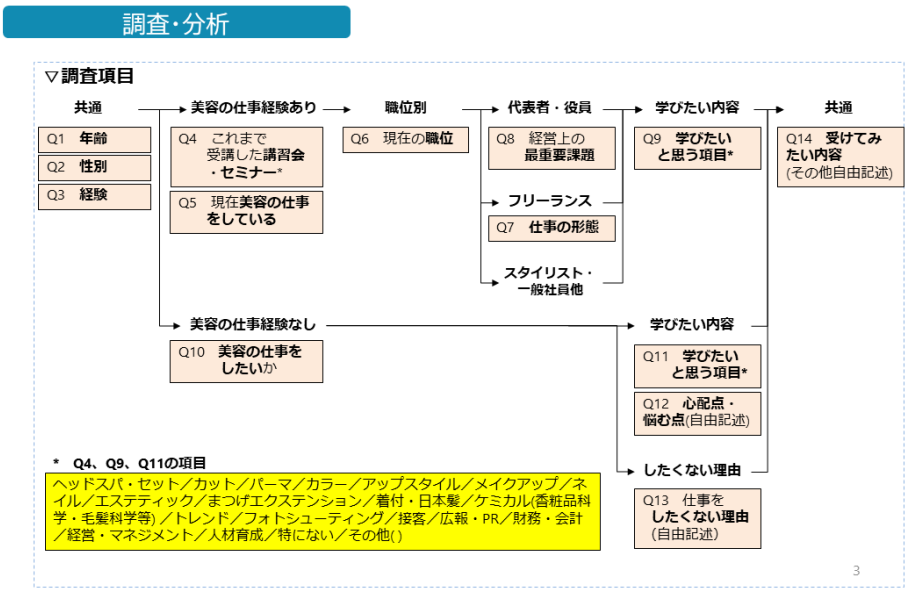


図 3　アンケート調査項目

以下、主な結果を示す。図 4 は、美容従事者に対して実施した「現在学びたいと思う内容」である。これを見ると、「経営・マネジメント」領域が一番多かった。

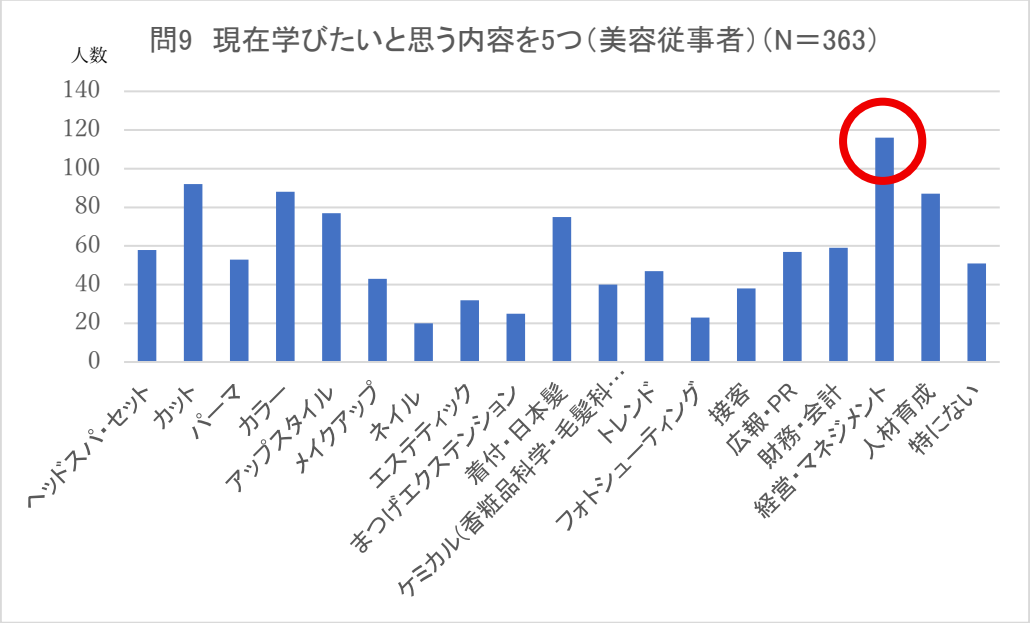


図 4　美容従事者が現在学びたいと思う内容

また、図 5 は、美容非従事者に対して実施した「復帰するにあたり、学び直したい技術・知識」である。これを見ると、「メイクアップ」、「カット」など技術領域が多かった。

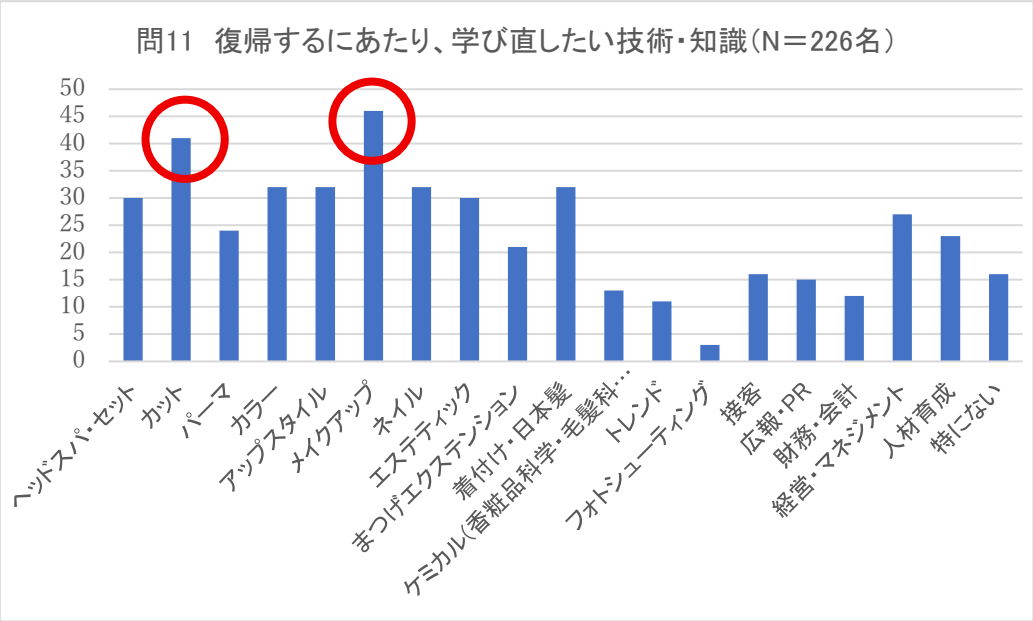


図 5　美容非従事者が復帰するにあたり学び直したいと思う技術・知識

本アンケートの回答から、リカレント教育を実施していく際に、どういった軸でリカレント教育を提供することが美容業界にとって最適かについて考えた。

（ア）　マネジメントに関するテーマ

経営・マネジメントへの高い興味が確認されている。同時に、財務・会計、PR・広報、人材育成といった経営に必要なナレッジ・スキルについても興味関心は低くない。マネジメントに関する講座を提供することはニーズがあると推測される。

（イ）　技術向上を目的としたテーマ

カット、カラーといった基本技術については、高く求められていることが分かった。

（ウ）　復帰を目指す方向けのテーマ

現在は何かしらの理由で美容業界から離れているが、復帰の機会があれば復帰したい、もしくは復帰のきっかけを探している方が多く存在すると推測できるため、そういった方を対象に、復帰しやすい技術、就業形態（着付・日本髪×パート・アルバイト、セットアップ×パート・アルバイト）による復帰テーマをリカレント教育として提供することはニーズがあると推測された。

２-２　ニーズ調査（令和 6 年度実施）

本事業の 2 年目である令和 6 年度においては、1 年目のニーズ調査の結果を踏まえ、1 年目の回答者およそ 500 名のうち、美容サロン経営者を中心とした層に対してニーズ調査を実施した。

（１）調査実施時期

令和 7 年 1 月

（２）調査対象

美容サロン（令和 5 年度ニーズ調査で回答のあったサロンを中心に）

（３）調査対象地域

全国

（４）アンケート配布数（主として、メール送信数）

およそ 500

（５）有効回答数

およそ 100

（6）調査方法

Microsoft Forms に記入されたアンケート回答を回収した。

（7）調査項目

調査項目は図 6 に示した通りである。

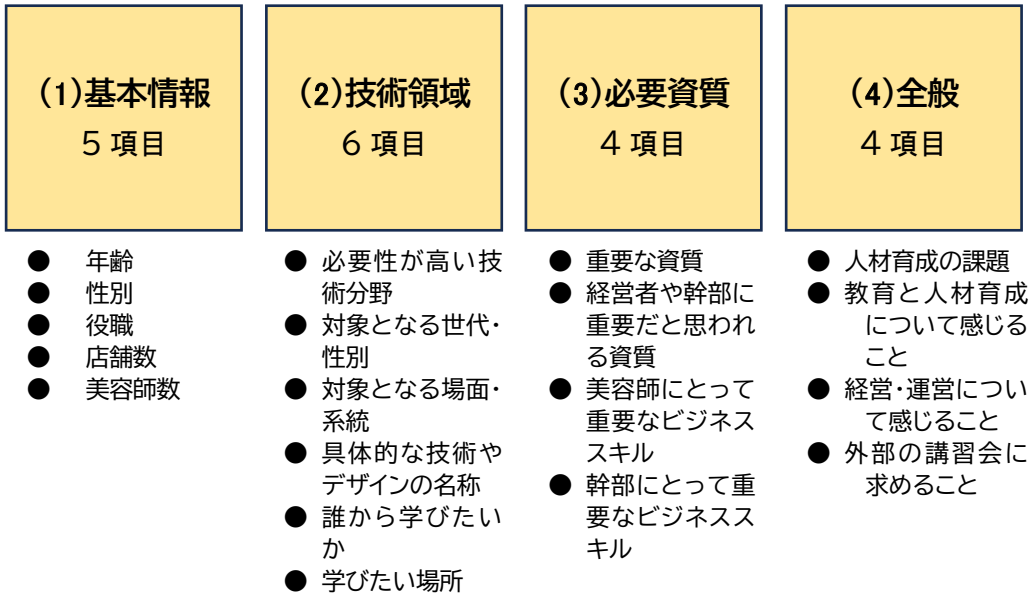


図 6　調査項目

主な結果としては、まず、学びなおしが必要と思う項目（技術分野）に関するものである。下記のとおり、「カット」、「カラー」が群を抜いて多かったが、「パーマ」、「メイクアップ」、「アップスタイル」も多かった。。



図 7　経営層が学びなおしが必要と思う項目

また、図 5 は、美容師の人材育成について現在課題に感じるものである。「美容師のモチベーションを高める」、「教える人によって教え方や態度が違う」、「育成してもすぐ辞めてしまう」の頻度が高いことがわかる。

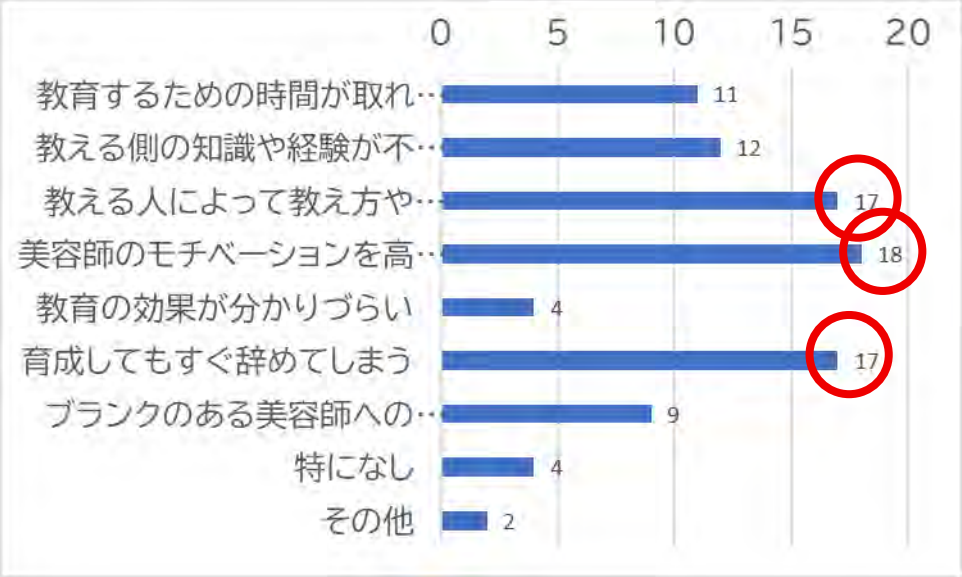


図 8　経営層が美容師の人材育成について現在課題に感じる内容

以上、令和 5 年度、令和 6 年度の調査結果を概観したが、全体について分析的かつ総合的にニーズ調査の結果を述べる。

●学びの希望と重要視されるスキル

- オンライン講習が多く選ばれている。
- 経験者・成功している経営者から学びたいという意見も多い。
- 美容師に重要な資質
  - ✓ 向上心・探求心、センスの良さ、責任感・まじめさ、人間力（人に好かれること）が重視される。
  - ✓ 柔軟性や協調性、信頼感・誠実性も重要視。
- 経営者や幹部に求められる資質
  - ✓ 責任感・まじめさ、信頼感・誠実性、人間力（人に好かれる）が多く挙げられる。
  - ✓ 向上心や自発性、リーダーシップも重視されている。
- 重要なビジネススキル
  - ✓ 美容師：コミュニケーション能力、情報収集力、問題発見力など。
  - ✓ 経営者：リーダーシップ、創造性、交渉力、革新性など。

●美容師の人材育成における課題

- 最も多く挙がった課題
  - ✓ 美容師のモチベーションを高めることが難しい
  - ✓ 教育するための時間が取れない
  - ✓ 育成してもすぐに辞めてしまう
- 教育の効果が分かりづらい
  - ✓ 稼がせるためのロードマップや未来を明確に見せる必要がある
- 自由記述の意見
  - ✓ 「世代のギャップ」を感じるという意見あり。
  - ✓ 美容業界の未来のために人材育成が重要と考えている人がいる。

●美容室の経営・運営に関する意見

- オーナーの責任感が重要という意見がある。
- 地方の美容室の集客に課題を感じている人がいる。
- 他店との差別化のための独自の価値提供が重要と考える経営者もいる。

●外部講習会への希望

- 実践的な技術の習得だけでなく、顧客心理・マーケティング・経営ノウハウも学びたいという要望あり。
- ある程度の練習量や経験が必要だという意見もある。
- 「地域 No.1 美容室を目指すための集客講座」に興味を持つ人もいる。

●まとめ

① 教育・育成の課題が大きい

- 美容師のモチベーション管理や、教育効果の測定が課題。
- 人材育成のロードマップの可視化が求められている。
- 教育の機会が不足していると感じている美容師もいる。

② 役職によって求められるスキルが異なる

- 美容師には技術＋コミュニケーション能力が求められる。
- 経営者や幹部にはリーダーシップ＋経営戦略スキルが必須。

③ 学びの場としてオンライン講習が求められている

- 美容学校やメーカー講習だけでなく、オンライン学習が重視されている。
- 成功している経営者や経験者から直接学びたいという要望が強い。

④ 美容室経営の差別化が重要

- 地方の美容室の集客に課題を感じている。
- 競争が激化する中で独自の価値提供が必要。

以上の結果から、今後の施策として考えられることとして 4 つ挙げることができる。

第一に、美容師のキャリアパスを明確にし、モチベーションを向上させる施策である。例えば、「スキルアップのためのロードマップの提示」、「成長するための明確な指標（給与・ポジションアップの条件）の提示」などである。

第二に、オンライン学習環境の充実を図る施策である。例えば、「成功した美容師・経営者が講師を務めるオンライン講座」、「マーケティングや経営戦略に関するオンライン講座」などである。この「オンライン」には、VR や AI の導入など、生産性の面から DX 技術を活用することによって、教育・育成の生産性向上を図る意味も含まれていると感じられる。

第三に、地方美容室の集客を支援する施策である。例えば、「地域密着型マーケティングのノウハウ提供」、「SNS を活用した集客セミナー」などである。

第四に、幹部・経営者向けのマネジメント講座の強化を図る施策である。例えば、「経営戦略、組織マネジメント、資金管理などの学習機会の提供」が考えられる。

事業の最終年度においては、VR や AI などの新しい技術によって、教育・育成の生産性を高め、かつ、これまでになかった付加価値創成の可能性を探るために、特に、「VR と美容」、「AI と美容」の可能性を追求する必要性が感じられた。そこで、令和 7 年度は、VR と AI に的を絞った調査・分析を実施した。

２-３　VR と美容

2 年目のニーズ調査に基づき、実証講座を実施してきたが、本年度事業を開始するにあたって、この 2 年間に目覚ましい発展を遂げている DX、AI、VR 等の技術を重ね合わせることによって、リカレント教育体系を構築できないだろうかという機運が盛り上がった。そこで、本年度事業では、「美容と VR」、「美容と AI」を取り上げ、まずはその実態調査を実施することにした。

(1)　美容業界とデジタル技術の特性

美容業界は、顧客の好みの個人差が大きく、体験価値が購買行動に直結する産業である。この特性から、可視化・シミュレーション技術との親和性が高く、デジタル技術は比較的早い段階から導入されてきたといえる。

資生堂、花王、L'Oréal、P&G Beauty などの大手企業は、早くからデジタル技術を美容体験に取り入れ、肌解析・カウンセリング支援システムを構築してきた。



百貨店における資生堂社の化粧品売り場
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000002919.000005794.html　より

(2)　VR 登場以前のデジタル美容技術

1990 年代以降、画像処理技術を用いたメイクシミュレーションやフェイシャル分析が登場した。これらは 2D 技術であったが、後の VR・AR 活用の基盤となった。

資生堂の肌解析システム、Kao の顔画像分析技術、L'Oréal のバーチャルメイク研究などが、VR 以前の基盤技術として位置付けられる。



ロレアルグループ傘下のモディフェイスが Amazon に提供した
バーチャルメイク機能（2019 年）
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000063.000004813.html より

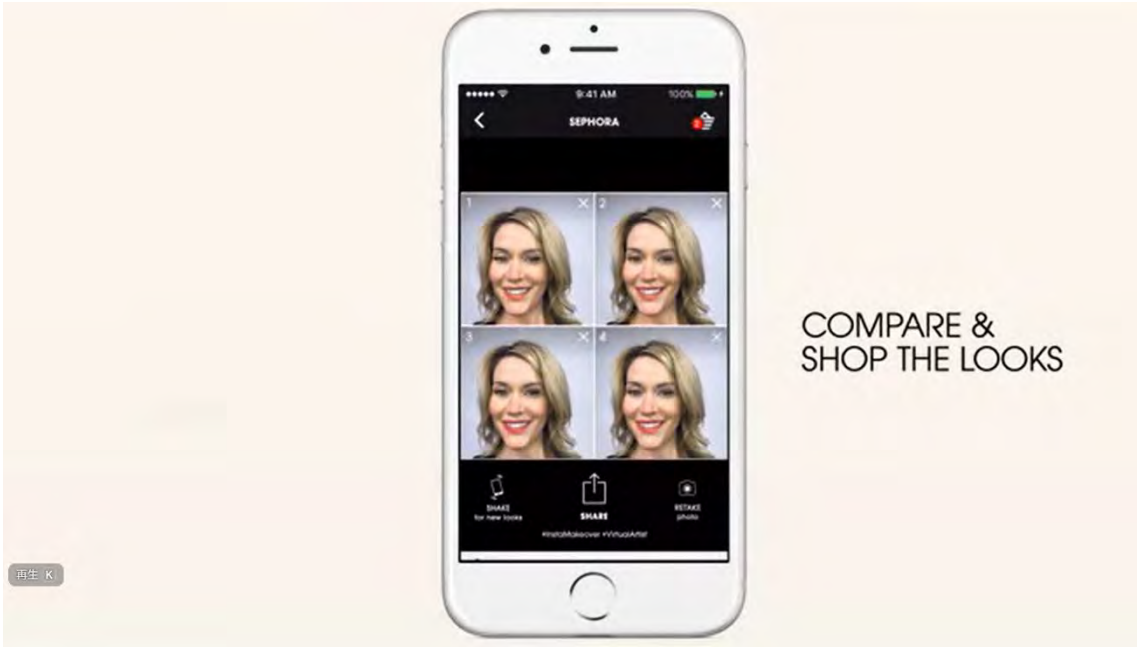
(3)　VR 技術の登場と美容分野への応用可能性

2010 年代の VR 技術復興は、美容業界にも新たな可能性をもたらした。没入型体験により、消費者はより直感的に美容効果を理解できるようになった。

L'Oréal、Sephora、Estée Lauder Companies は、VR・AR 技術を活用した新しい美容体験の可能性を積極的に模索した。



L'Oréal 社の VR 動画
「Digitalisation à 360°　de l'écosystème L'Oréal Operations」
https://www.youtube.com/watch?v=VLu91J_P3ug より



Sephora 社の「Sephora Virtual Artist」
https://www.youtube.com/watch?v=HU2DIB7H7YA&t=1s より

(4)　化粧品業界における VR 活用の初期事例

化粧品業界では、店頭体験やイベントを中心に VR が導入された。ブランドは仮想空間での体験を通じて差別化を図った。

L'Oréal の VR ストア体験、Sephora の仮想店舗、資生堂の体験型展示が代表例として挙げられる。

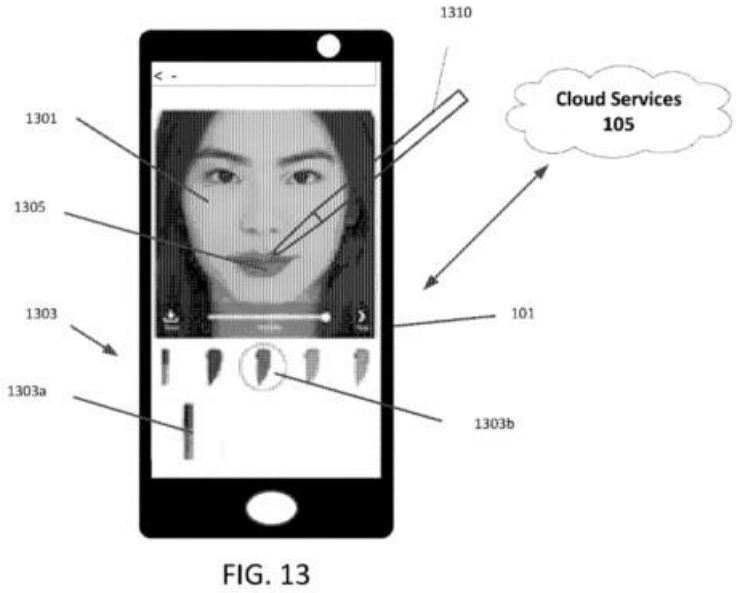


FIG. 13

L'Oréal 社の「デジタルメイクアップパレット」
https://www.moguravr.com/loreal-ar-make-up-system-patent/ より

(5)　サロン・ヘア分野での VR 活用

ヘアサロンでは、施術前のスタイル確認や教育用途として VR が活用されている。顧客満足度向上と技術継承の両面で効果が見られる。

資生堂プロフェッショナル、Kao Salon Division、Wella、L'Oréal Professionnel は、ヘアスタイルシミュレーションや VR 研修を導入している。

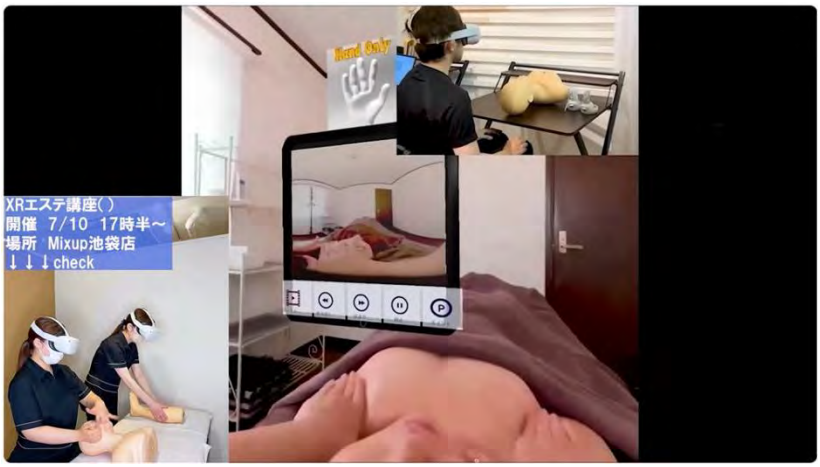


ゼロから学ぶ！SHACHU のベーシックカラー技術
https://www.youtube.com/watch?v=oiyL93OrMwM　より

(6)　美容医療・エステ分野における VR

美容医療分野では、手術説明や不安軽減を目的とした VR 利用が進んでいる。安全性と理解促進に寄与している点が特徴である。

湘南美容クリニック、TCB 美容外科、Allergan Aesthetics などが、施術説明や患者体験向上のために VR を活用している。



VR 講習
https://www.youtube.com/watch?v=ZrEJNBKTfiQ&t=1s　より

(7)　VR と美容マーケティング

VR はブランド体験を拡張し、消費者との新しい接点を創出した。オンラインとオフラインを融合するマーケティング手法が確立されつつある。

Sephora、Dior Beauty、Chanel、資生堂は、VR・デジタル体験をブランドマーケティングに組み込んでいる。



このヘッドセットを使用すると、ショップの顧客はファッションショー、舞台裏、インスピレーションを与えるビデオに没頭して、メゾン ディオールの世界を発見することができます。

This headset allows shop customers to discover the world of Maison Dior by immersing themselves in the videos of fashion shows, backstage and inspirational videos.

We have approached this project by questioning the architecture of the VR headsets currently on the market. Equipped with large support straps and numerous adjustments, they have often been designed for video game players who must be able to wear them for a long time, while keeping the use of their hands.

このヘッドセットを使用すると、ショップの顧客はファッションショー、舞台裏、インスピレーションを与えるビデオに没頭して、メゾン ディオールの世界を発見することができます。

Dior の VR による体験サイト
https://elium.studio/project/dior-eyes/　より



Chanel の VR による体験サイト
https://www.showstudio.com/news/chanel-make-their-first-metaverse-move-for-virtual-reality-experience-le-bal-de-paris　より

(8)　美容教育・人材育成における VR

美容学校や企業研修において、VR は技能訓練や安全教育に活用されている。反復学習と標準化に貢献している。

本校以外でも、資生堂美容技術専門学校、山野美容芸術短期大学、TONI&GUY Academy などで VR 教材の試験導入が行われている。



ハリウッド美容専門大学校「国試対策 VR 教材の解説」
https://www.youtube.com/watch?v=tCehRTL2SMk&t=2s　より



hairVR @美容師向け VR オンライン学習（@hair.vr）- Instagram
https://www.instagram.com/p/CvuIxkLv9KT/?img_index=3　より

(9)　現在の到達点と課題

技術成熟度は向上した一方、コストや導入効果の可視化が課題として残る。消費者の受容性も引き続き検討が必要である。

大手では L'Oréal や資生堂が先行する一方、中小サロンではコスト面が課題となっている。

(10)　　美容業界における VR の未来

今後は AI やメタバースと融合した高度なパーソナライズ体験が期待される。サステナブルな美容体験の創出も重要なテーマとなる。

Meta、Apple、L'Oréal、資生堂は、メタバースや空間コンピューティングを活用した次世代美容体験を構想している。

２-４　AI と美容

次に、美容業界における人工知能（AI）技術の導入と発展の歴史を体系的に整理し、化粧品、ヘアサロン、美容医療、マーケティング、教育分野における活用事例を通して、産業構造および消費者体験の変化を分析する。AI の導入により、美容業界では従来の経験則中心のサービスから、データ駆動型のパーソナライズサービスへの転換が進んでいる。ここでは実在企業の取り組みを中心に、技術的背景、導入効果、課題、さらに今後の展望について多角的に考察する。

(1)　美容業界の構造とデータ化の進展

美容業界は、個人差が極めて大きい産業であり、顧客一人ひとりの肌質、嗜好、生活習慣、年齢、環境要因など多様な要素が製品選択やサービス満足度に影響を与える。このため、従来から対面カウンセリングが重視され、美容部員やスタイリストの経験と知識に依存したサービス提供が行われてきた。しかし、2010年代以降、デジタル技術の進展により、顧客データの蓄積と分析が急速に進み、データ駆動型の美容サービスが注目されるようになった。資生堂、花王、L’Oréal といった大手企業は、会員アプリや EC サイトを通じて顧客データを収集し、購買履歴、閲覧履歴、肌測定結果などを統合管理する基盤を構築している。これにより、従来は属人的であったカウンセリングを標準化し、科学的根拠に基づく提案が可能となった。また、サブスクリプション型サービスの普及により、長期的な顧客関係の構築が進み、データ活用の重要性はさらに高まっている。



日本初 「デジタルカウンセリングミラー」が体験できる次世代の化粧品カウンター導入｜資生堂
https://www.youtube.com/watch?v=xYPxFn3yogI　より

(2)　AI 登場以前のデジタル美容技術

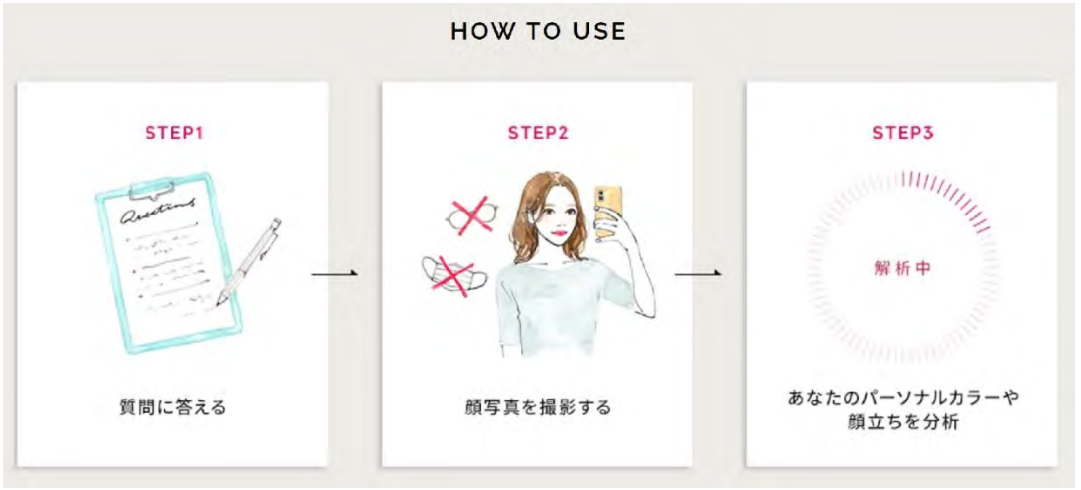
AI が本格的に普及する以前、美容業界では主に画像処理技術とデータベース技術が活用されていた。1990 年代には肌測定機器が登場し、水分量、油分量、キメなどを数値化する技術が普及した。これにより、従来は感覚的であった肌診断が客観的指標に基づいて行われるようになった。2000 年代に入ると、デジタルカメラと画像解析ソフトを組み合わせたシミュレーション技術が開発され、メイク後のイメージを事前に確認できるサービスが登場した。資生堂や花王は、研究所レベルで顔画像解析技術を蓄積し、後の AI 活用に向けた基盤データを構築してきた。これらの技術は、現在のディープラーニング技術の学習データとしても活用されている。

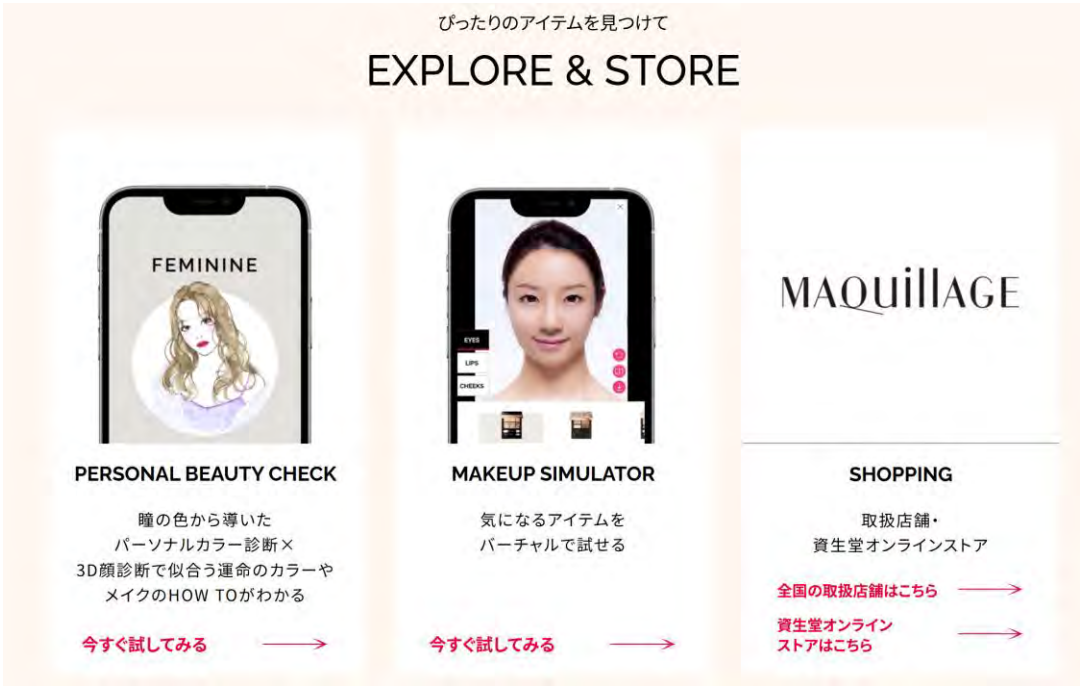


ソニーの画像処理技術を応用した肌解析システム
https://lp-tech.net/articles/VdEFW　より

(3)　機械学習技術の進化

2010 年代に入り、ディープラーニング技術の発展により AI の性能は飛躍的に向上した。特に画像認識分野では、人間の識別能力を上回る精度を達成し、顔認識、表情解析、肌状態分析などが可能となった。この技術革新により、美容分野においても AI 活用の可能性が大きく広がった。GPU 性能の向上とクラウド環境の普及により、大規模データを用いた学習が容易となり、企業は独自データを活用したモデル構築が可能となった。美容業界では、肌画像、購買履歴、SNS データなど多様なデータが AI 学習に活用されている。

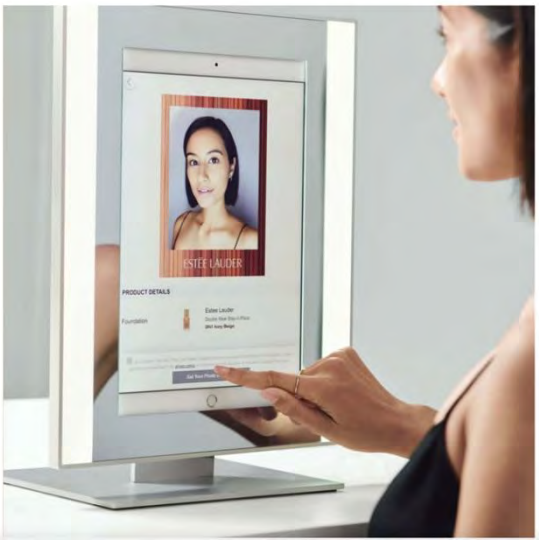




資生堂の「Personal Beauty Chack」
https://maquillage.shiseido.co.jp/personalbeautycheck/　より

(4)　化粧品業界における AI 活用初期事例

化粧品業界では、2015 年以降 AI 活用が急速に進展した。L'Oréal は 2018 年に AR・AI 企業 ModiFace を買収し、バーチャルメイクや肌診断技術を自社サービスに統合した。これにより、EC サイトや店舗でのデジタル体験が飛躍的に向上した。資生堂は独自の皮膚科学データベースと AI 解析技術を組み合わせ、高精度な肌診断システムを開発している。Estée Lauder Companies も、AI レコメンド機能を EC サイトに導入し、顧客一人ひとりに最適な商品提案を行っている。これらの取り組みにより、従来の一律提案型販売から、個別最適化された美容体験への転換が進んだ。



Estée Lauder 社の「AI スマートシェードファインダー」リップのバーチャルメイクで購買率が 2.5 倍に
https://www.perfectcorp.com/ja/business/successstory/Estee-Lauder　より



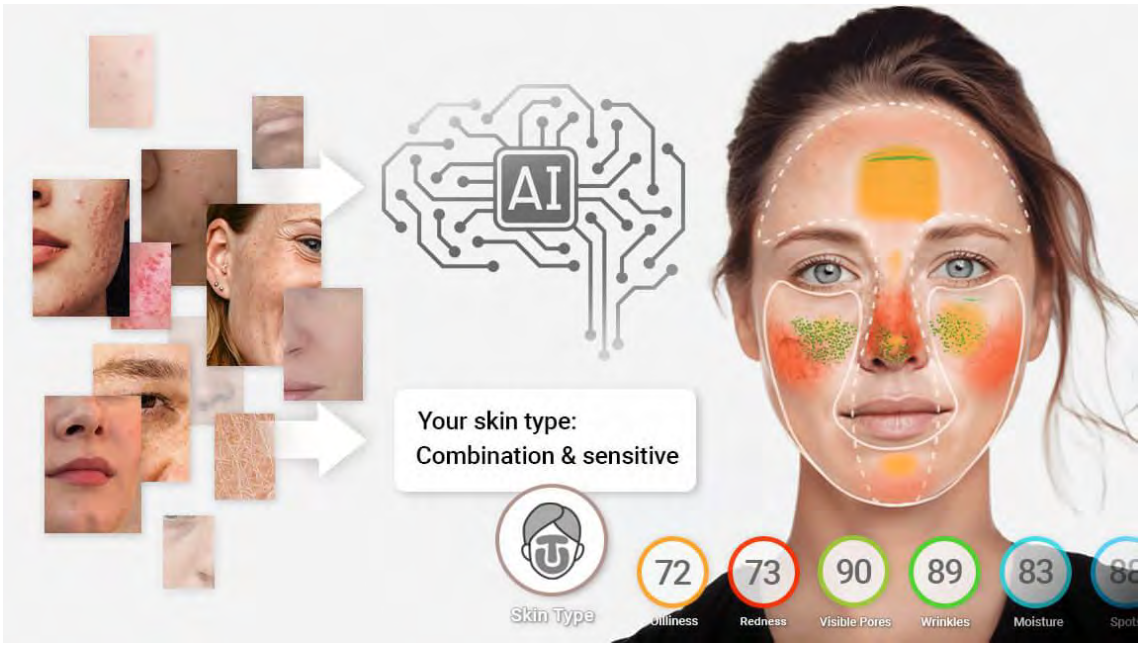
Estée Lauder 社の「AI スマートシェードファインダー」AI シェード提案で納得感とロイヤリティを向上
https://www.perfectcorp.com/ja/business/successstory/Estee-Lauder　より

(5)　パーソナライズ美容の実現

AI の導入により、美容業界では高度なパーソナライズが実現した。肌状態、年齢、生活習慣、地域環境、さらには遺伝情報まで考慮した製品レコメンドが可能となっている。定期購入サービスと組み合わせることで、季節変化や加齢に応じた継続的なケア提案が行われている。これにより顧客満足度とロイヤルティが大きく向上した。



音声 AI と AI カメラによる接客 AI
https://www.youtube.com/watch?v=l5XsjYRulBO&t=1s　より



肌タイプ診断における AI 活用
https://www.perfectcorp.com/ja/business/blog/ai-skincare/how-ai-tech-identifies-different-skin-types-for-customers より

(6)　サロン・美容医療への AI 導入

美容サロンでは、AI による予約最適化や顧客管理が導入されている。来店頻度や施術履歴を基にした需要予測により、スタッフ配置や在庫管理の最適化が進んでいる。美容医療分野では、画像診断 AI が施術計画の支援に活用されている。湘南美容クリニックなどでは、術前シミュレーションに AI を用いて患者の理解促進と不安軽減を図っている。

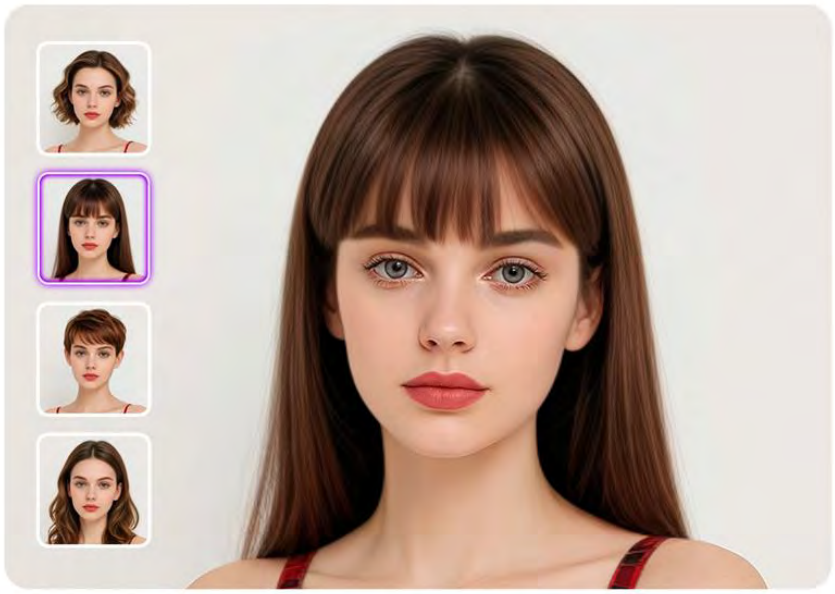




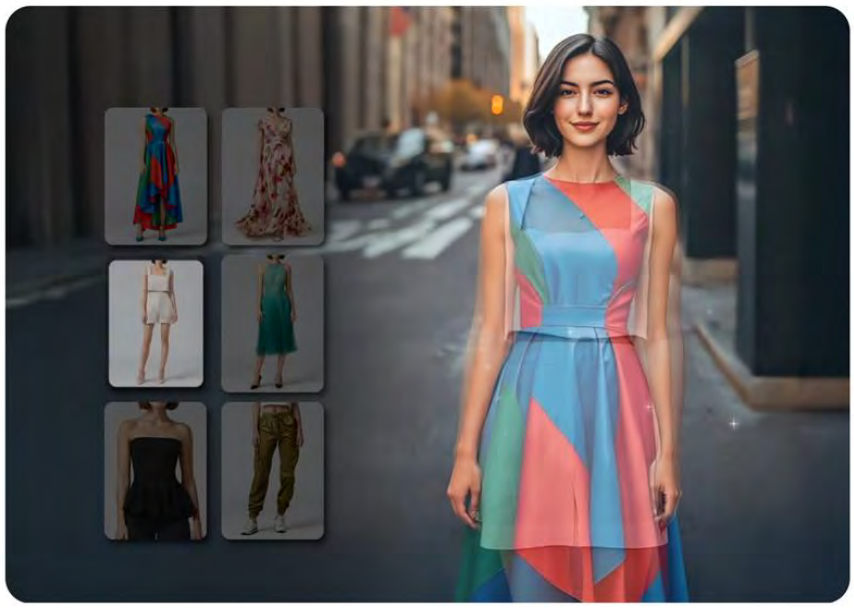
オペ前に二重幅を確認できる SBCAI を使ったらベスト幅で仕上がった【湘南美容クリニック】
https://www.youtube.com/watch?v=02OGFrwaWxw　より

(7)　AI×美容マーケティング

SNS 分析や需要予測に AI が活用され、消費者トレンドをリアルタイムで把握できるようになった。インフルエンサー分析や口コミ解析により、効果的なプロモーション戦略が構築されている。EC と連動したマーケティング施策により、購買率向上と在庫最適化が実現している。



AI ヘアスタイル（YouCam メイク人気の機能）
https://www.perfectcorp.com/ja/consumer/apps/ymk　より



AI 服試着（YouCam メイク人気の機能）
https://www.perfectcorp.com/ja/consumer/apps/ymk　より

(8)　美容教育・人材育成における AI

美容学校や企業研修では、AI による技能評価や e ラーニングが導入されている。カット技術やメイク技術をデータ化し、客観的評価指標として活用する試みが進んでいる。これにより教育の標準化と質の向上が期待されている。



本校の事例
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000037112.html　より

(9)　現在の到達点と課題

AI 活用は大きく進展した一方、個人情報保護や倫理的課題が顕在化している。顔画像や肌データはセンシティブ情報であり、適切な管理体制の構築が不可欠である。アルゴリズムの透明性確保やバイアス対策も重要な課題である。

(10)　美容業界における AI の未来

今後は生成 AI やデジタルヒューマンの活用が進展すると考えられる。仮想美容アドバイザーによる 24 時間対応や、メタバース空間での美容体験提供が期待されている。サステナブルな美容提案や環境負荷低減にも AI が貢献するだろう。

２-５　VR と AI 調査まとめ

美容業界における VR および AI の活用は、顧客体験と産業構造の両面に大きな変革をもたらしている。

VR は主に「体験の可視化」を担い、メイク後の仕上がりやヘアスタイルの変化を仮想空間で事前に確認できる環境を提供している。これにより、消費者は購入前に完成イメージを具体的に把握でき、不安の軽減と購買意欲の向上が実現した。化粧品ブランドや百貨店では、VR 体験ブースを設置し、没入型のブランド体験を提供している。また、サロンや美容教育分野では、VR を用いた技術訓練により、安全かつ反復的な学習環境が構築されている。

一方、AI は「分析と最適化」を担う中核技術として活用が進んでいる。
肌画像解析、購買履歴分析、SNS データ解析などを通じて、個々の顧客に最適化された商品提案が可能となった。資生堂や L’Oréal などの企業は、AI による肌診断やレコメンドシステムを導入し、従来の一律型販売からパーソナライズ型サービスへと転換を進めている。美容医療分野でも、AI による画像診断支援が施術精度向上と安全性確保に寄与している。

VR が「体験の拡張」を担うのに対し、AI は「意思決定の高度化」を担う技術と位置づけられる。両者の融合により、仮想体験とデータ分析を組み合わせた高度な美容サービスが実現しつつある。

今後は生成 AI やメタバースとの連携により、仮想美容アドバイザーやデジタルヒューマンによる接客など、新たなサービス形態が普及すると予測される。

総じて、VR と AI は美容業界において、「感覚的サービス」から「科学的・データ駆動型サービス」への転換を加速させており、今後も産業の中核技術として重要性を増していくと考えられる。

３　学修成果指標開発

３-１　学修成果指標

「学修成果指標」は、一般社団法人専門職高等教育質保証機構が構築した「資格枠組のレベル定義」[5]を頂点としたコンピテンシー体系をモデルとして、分野ごと・レベルごとの学修成果を表したものである。[6]

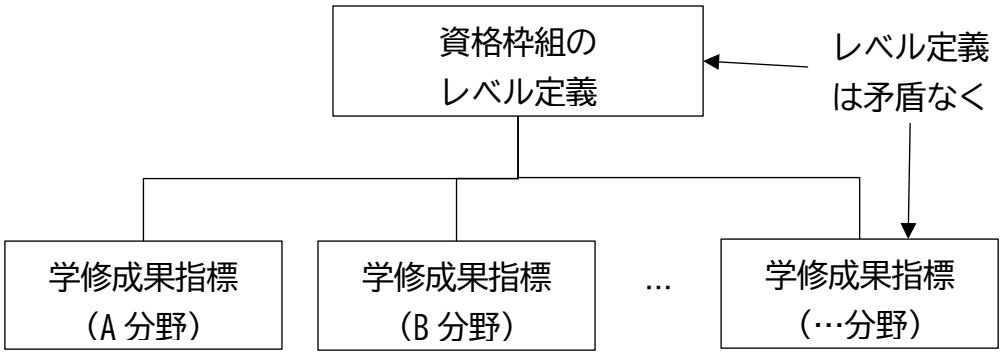


図 9　資格枠組のレベル定義と学修成果指標

[5] 「付録　A　資格枠組のレベル定義」を参照

[6] 「付録　B　美容分野の学修成果指標」を参照

3-2　学修成果指標体系化の方法

本事業では、図 10 のように領域を定義したので、最終年度である本年度は、学修成果指標として全体をまとめる。具体的には、各領域の知識またはスキル項目を大・中・小レベルに分けて体系化し、小レベルの項目ごとに、次のレベル設定を行った。

表 2　本事業の学修成果指標体系におけるレベル設定

レベル	知識項目	スキル項目
5	適切に説明できる	適切に指導できる
4	技術との関係を理解できる	顧客に合わせてできる
3	意味を理解できる	仕様どおりにできる
2	知っている	独りでできる

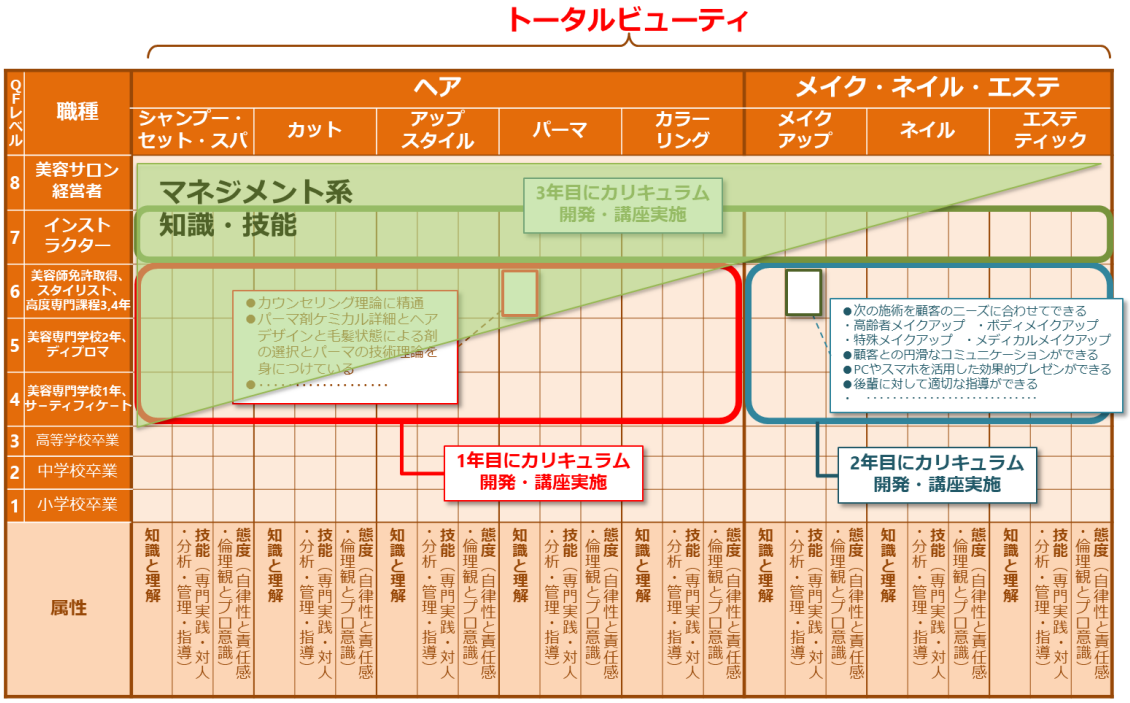


図 10　学修成果指標のもととなる概念図

3-3　学修成果指標の体系（領域ごと）構築結果

以下に、学修成果指標の体系（領域ごと）の構築結果を示す。(1)～(7)は令和5年度、(8)～(10)は令和6年度、そして、(11)～(13)は令和7年度に、それぞれ構築したものである。

(1)　美容マネジメント

美容マネジメント領域の項目は、すべて「知識項目」である。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
美容マネジメント	美容業界のマクロ環境	ファイブフォース	ｻﾛﾝ、ｶｽﾀﾏｰ、新規参入、代替品、ﾒｰｶｰ・ﾃﾞｨｰﾗｰの関係を理解する	5
		美容の市場規模	ﾍｱｻﾛﾝ、ﾈｲﾙｻﾛﾝ、ﾘﾗｸｾﾞｰｼｮﾝｻﾛﾝ、ｱｲｻﾛﾝ、ｴｽﾃｻﾛﾝ	5
		美容サロンの特性	美容師数	5
			経営形態、従業員数構成比	5
			大手チェーン、有名店	5
			訪問美容	5
			ジャンル別利用率・利用金額	5
			サロン利用状況	5
			美容・健康領域の市場規模	5
		新規参入	美容医療	5
			定額制シャンプー	5
			ヘアカラー専門店	5
			シェアサロン・美容モール	5
			代替品「モノ」対「サービス」	5
			進化するプロダクト「おうち美容」「ながら美容」	5
	美容業界のビジネスモデル	サロンの収益構造	コスト：変動費と固定費	5
			粗利益と営業利益	5
			美容サロンの売上構造	5
			新規とリピーター	5
	サービスマネジメント	商材の向上・技術の平準化	技術以外の差別化が必要	5
		顧客のサービス経験値の向上	高度な顧客の要望に応える必要がある	5
		ネットの普及	他サロンとの差別化が必要	5
		お客様を定める前提となる要因	外部要因と内部要因	5
		お客様を定める観点とヒント	エリア、性別、年齢、所得、職業、家族構成、世帯、ライフスタイル、興味、来店頻度	5
		3つのお店	美容ペッパー、クイックカット、サロン・ビューティ	5
		お客様価値	お客様のニーズとお店が提供するモノ・サービスの重なったところ	5
		お客様価値を定める観点とヒント	料金、仕上がり、目的、過ごし方、接客、時間、日常、差別化、気楽度合い、雰囲気、方向性	5

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
		3 つのお店のお客様価値	美容ペッパー、クイックカット、サロン・ビューティ	5
		お客様を広げる・絞る		5
		サービスコンセプト	お客様価値の最大化に向けて、サービスを提供する	5
		3 つのお店のサービスコンセプト	美容ペッパー、クイックカット、サロン・ビューティ	5
		サービストライアングル	サービスコンセプト、お客様、お客様価値	5
		自分のサロンの強みを見つける	モノ要素、カネ要素、ヒト要素、ハコ要素、トキ要素	5
		3C 観点を意識する	顧客・市場のニーズ＆競合状態を意識する	5

(2) 毛髪の基本知識[7]

毛髪の基本知識項目は、すべて「知識項目」である。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
ヘア知識	毛髪の基本（知識）	毛髪の成長メカニズム	毛球	4
			毛乳頭	4
			毛母細胞	4
			メラノサイト	4
		ヘアサイクル(毛周期)	発生期	4
			成長期	4
			退化期	4
			休止期	4
		毛髪の基本構造	キューティクル(毛表皮)	4
			コルテックス(毛皮質)	4
			メデュラ(毛髄質)	4
		キューティクル領域の詳細	エピキューティクル	4
			A-層	4
			エキソキューティクル	4
			エンドキューティクル	4
			inner-層	4
			CMC	4
			lower-β層	4
			δ層(デルタ層)	4
			upper-β層	4
		コルテックス領域の詳細	マクロフィブリル	4
			フィブリル	4
			マトリックス	4
			マクロフィブリル間	4
			メラニン色素	4

[7] 「毛髪の基本知識」の学修成果指標体系は、本校が受託した、平成 28 年度文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の「ビューティビジネスにおける国際通用性のある中核的専門人材養成機関の教育プログラム開発事業」において構築した「キャリアフレームワーク」をベースに、リカレント教育の要素を考慮したものである。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
			NMF	4
			タンパク質	4
			CMC	4
			β層	4
			δ層	4
		毛髪成分の構成	ケラチンタンパク質	4
			非ケラチンタンパク質	4
			メラニン色素・NMF	4
			CMC 脂質	4
		ケラチンタンパク質と非ケラチンタンパク質	アミノ酸の構造	4
			ポリペプチド（PTT）	4
			主鎖と側鎖	4
		毛髪の等電点	毛髪と PH	4
			収れんと膨潤	4
		タンパク質以外の成分	メラニン色素	4
			NMF	4
			水分	4
			CMC 脂質	4
		くせ毛の原因	毛球の角化	4
			加齢	4
			ダメージ	4
		くせ毛の種類	液状毛	4
			捻転毛	4
			連珠毛	4
			縮毛	4
		くせ毛の実際	クセのタイプと特徴	4
		くせ毛と水分	ドライ時	4
			湿度の高い時	4
			ウェット時	4
		ダメージ診断	見て、触って、聞いて、確認	4
			健康毛の疎水性でダメージをチェック	4
		毛髪ダメージの要因	摩擦ダメージ(コーミング、シャンプー、タオルドライ)	4
			環境ダメージ（紫外線、ストレス、食生活）	4
			過度の施術によるダメージ（カット不良、過度のヘアカラー、パーマ施術不良）	4
			熱ダメージ（ドライヤー、アイロン）	4
		ダメージレベル	毛髪の状態	4
			損傷要因	4
			手触り・弾力	4
			潤い	4
			ツヤ	4
			明度	4

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
		ダメージレベルと薬剤選定	ウェーブ剤の選定	4
			カーリング剤の選定	4
			アイロンストレート剤の選定	4
			ストレート剤の選定	4
			コスメ系ストレート料の選定	4
			ヘアカラー剤の選定	4
		多様なダメージ	パーマとヘアカラーによるダメージの違い	4
			コンプレックスダメージ	4
			ダメージスパイラル	4
		年齢による髪の変化	ｴｲｼﾞﾝｸﾞの種類(白髪･ﾊﾘがない･うねり･潤いがない)	4
		白髪が増える要因	病気･遺伝･ストレス･生活習慣	4
		ハリコシがなくなる要因	毛母細胞の活動の弱まり	4
		うねりの要因	毛髪の内部構造の偏り	4
		潤い･ツヤがなくなる要因	分岐脂肪酸の減少	4
		自然な脱毛	ヘアサイクルによる自然な脱毛	4
		さまざまな脱毛	円形脱毛	4
			全身疾患性脱毛	4
			内分泌疾患性脱毛	4
			ダイエット性脱毛	4
			内服薬剤脱毛	4
			乳児高等部脱毛	4
			トリコロチロマニー	4
			結髪性脱毛	4
			薬剤性断毛	4
			老人性脱毛	4
			男性型脱毛	4
			粃糠(ひこう)性脱毛	4
			脂漏(しろう)性脱毛	4

(3) シャンプーなど[8]

シャンプーなど領域は、「シャンプー」、「ケア」、「ブロー&スタイリング」、「シャンプー&ヘッドスパ（知識）」、「トリートメントとリンス（知識）」に区分した。最後の 2 つの大項目は、知識項目である。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
シャンプーなど	シャンプー	準備	クロス準備	2
			シャンプー台準備	2
			案内	2

[8] 「シャンプーなど」の学修成果指標体系は、本校が受託した、平成 28 年度文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の「ビューティビジネスにおける国際通用性のある中核的専門人材養成機関の教育プログラム開発事業」において構築した「キャリアフレームワーク」をベースに、リカレント教育の要素を考慮したものである。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
		「貯め」	センター	2
			耳上(左右)	2
			耳下(左右)	2
		「すすぎ」	センター	2
			耳上ライン(左右)	2
			はちライン(左右)	2
			傾け、襟足すすぎ(左右)	2
		「洗い」	「洗い」泡立て	2
			片手横洗い(左右)	2
			両手縦洗い	2
		「仕上げ」	リンス、流し	2
			アルカリ除去、流し	2
			ストレートバッファー、流し	2
			タオルドライ	2
		応用技術	プレーンリンス	3
			ワンシャン、流し	3
			ツーシャン、流し	3
			パーマ前シャンプー(ストレート前も同様)	3
			パーマ流し	3
			ストレート 1 液、2 液流し	3
			カラー前シャンプー	3
			カラー流し	3
			マニキュア前シャンプーシャンプー	3
			マニキュア流し	3
	ケア	ケア全般	商品知識	3
		スキャルプケア	商品に応じたクレンジングテクニック	4
		ヘッドスパ	商品に応じたマッサージテクニック	4
		ヘアケア	塗布技術	4
	ブロー&スタイリング	準備	各種道具の準備	2
			仕上げ剤の準備	2
			タオルドライ	2
		ブロー技術基礎	ハンドブロー	2
			ブラシの使い方	2
			ドライヤーの扱い方	2
			水分コントロール	2
			ボリュームコントロール	2
		スタイリング技術	スタイリング剤に合わせたセット技術	3
		レイヤーボブ	20 代	3
			30 代	3
			40 代	3
			50 代~60 代	3
		ショートレイヤー	30~40 代	3
			50 代~	3
			細胞膜類似脂質	2

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
	シャンプー＆ヘッドスパ（知識）	シャンプーの配合成分	分岐脂肪酸	2
			植物エキス	2
			PCA-Na	2
			ペプチド	2
			プロテオグリカン	2
			トマト果実エキス	2
			甘草エッセンス	2
			リピジュア	2
			炭酸	2
		シャンプーの主な構成	水分	2
			界面活性剤	2
			トリートメント成分	2
			香料・防腐剤・安定化剤	2
			市販シャンプーとサロン専用シャンプーの違い	2
		シャンプーの目的	シャンプーが落とす汚れの種類	2
		界面活性剤が汚れを落とすメカニズム	親水基	2
			親油基	2
			陰イオン性界面活性剤	2
			陽イオン性界面活性剤	2
			非イオン性界面活性剤	2
			両性界面活性剤	2
	トリートメントとリンス（知識）	トリートメント・リンスの各メカニズム	リンス	2
			コンディショナー	2
			トリートメント	2
			ヘアパック・ヘアマスク	2
		トリートメントの種類	組み合わせ反応タイプ	2
			組み合わせ重ね塗りタイプ	2
			単品浸透・吸着洗い流しタイプ	2
			単品浸透・吸着洗い流さないタイプ	2
		トリートメント成分	油性成分	2
			PPT 類	2
			動植物抽出液	2
			糖類	2
		皮膚の構造と役割	皮脂膜	2
			角層	2
			顆粒層	2
			有棘層	2
			基底層	2
			汗腺	2
			皮脂腺	2
			毛細血管	2
		ターンオーバー	表皮の新陳代謝	2
		皮膚の状態の変動	季節・加齢・男女の差	2
		頭皮と肌の違い	皮膚の厚さ	2

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
			水分量	2
			皮脂腺の数	2
			経皮水分蒸散量	2
		頭皮の健康	頭皮の状態チェック	2
			頭皮の硬さをチェック	2
			頭皮の色をチェック	2
		ヘッドスパの定義	洗髪･ﾍｯﾄﾞﾏｯｻｰｼﾞ･頭皮ｹｱのｴｽﾃﾃｨｯｸ行為	2
		ﾍｯﾄﾞｽﾊﾟのﾘﾗｸｾﾞｰｼｮﾝ効果	唾液中のコルチゾール濃度	2

（4） カット[9]

カット領域は最初の中項目「基礎知識（知識）」のみが知識項目で、あとはすべてスキル項目である。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
カット	カット	基礎知識(知識)	クロス付け	2
			展開図の書き方	2
			ハサミの使い方	2
			コームの使い方	2
			ブロッキング	2
			シェープの角度	2
			左手の使い方	2
			立ち位置	2
		基礎技術	ワンレングス	3
			ローグラデーション	3
			ハイグラデーション	3
			ローレイヤー	3
			セイムレイヤー	3
			ハイレイヤー	3
			刈り上げ	3
			顔周りシャギーの切り方とスタイル（基本的はレイヤーのこと）	3
		ヘアスタイル	キャップスタイル	3
		ベーシックスタイル	スタイル A	3
			スタイル B	3
			スタイル C	3
			スタイル D	3
			スタイル E	3
		応用	髪質、毛流れ対応	4

[9] 「カット」の学修成果指標体系は、本校が受託した、平成 28 年度文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の「ビューティビジネスにおける国際通用性のある中核的専門人材養成機関の教育プログラム開発事業」において構築した「キャリアフレームワーク」をベースに、リカレント教育の要素を考慮したものである。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
			骨格対応	4

(5) アップスタイル

アップスタイル領域は、「アップスタイル領域」と「デザイン領域」に区分した。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
アップスタイル	アップスタイル	基本的な技術	ブラッシングやセクショニングなどの基本的な技術	3
			ヘアピンやクリップの使い方	3
		スタイルのデザインとアート	アップスタイルのデザインの基本原則	3
			ヘアアートやトレンドの把握	3
		ヘアアクセサリーの選定と取り付け	ヘアピース、ヘアバンド、クリップなどのアクセサリーの使い方	3
			アクセサリーを使ったクリエイティブなスタイリング	3
		異なる髪質への対応	直毛、ウェーブ、カールなど異なる髪質に対するスタイリング技術	3
			長さやボリュームの違いによる対応策	3
		トレンドとファッションの理解	最新のファッショントレンドやアップスタイルのスタイルに関する情報の追跡	3
			顧客のファッションスタイルに合わせた提案	3
		アップスタイルの安全性と耐久性	ヘアスタイルの安全性を確保するための技術	3
			長時間の持続性や耐久性を向上させる方法	3
		カスタマーサービスとコミュニケーション	顧客とのコミュニケーションスキル	3
			顧客の要望を理解し、期待に応えるための能力	3
		トラブルシューティングと修正技術	施術中に生じる問題への対処法や修正技術	3
			顧客が不満を抱えた場合の適切な対応方法	3
	デザイン	カラー&パーマ	JPA ベーシックスタイル A~E	3
			ベーシックスタイル A × C カール	3
			ベーシックスタイル A × C、J、S カール	3
			ベーシックスタイル B × C カール	3
			ベーシックスタイル B × C、J、S カール	3
			ベーシックスタイル C × C カール	3
			ベーシックスタイル C × C、J、S カール	3
			ベーシックスタイル D × C カール	3
			ベーシックスタイル D × C、J、S カール	3
			ベーシックスタイル E × C カール	3
			ベーシックスタイル E × C、J、S カール	3

（6） パーマ[10]

パーマ領域は、「パーマ（知識）」（すべて知識項目）、「パーマ（カールスタイル）、「パーマ（ストレート）」に区分した。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
パーマ	パーマ(知識)	パーマ剤の歴史	パーマのルーツと現在の主流	3
		カールがかかる基本	シスチン結合	2
			ウェット	2
			ワインディング	2
			1液塗布	2
			2液塗布+ドライ	2
		ウェーブはなぜダレるのか？	結合の切断と組み換え	2
			キューティクルやコルテックスの歪みの修復	2
			毛髪成分の流失	2
			パーマ施術2液の結合の不完全	2
		シスチン結合が存在する領域	親水性領域のシスチン結合(キューティクル、コルテックス)	2
			疎水性領域のシスチン結合(キューティクル、コルテックス)	2
		シスチン結合と還元剤の関係	チオグリコール酸＆システィン	2
			システアミン＆チオグリセリン	2
		シングル作用とダブル作用	シングル作用(親水、疎水いづれか一方のみ還元)	2
			ダブル作用(親水、疎水の両方とも還元)	2
		4種ミックス-ダブル作用	4種の還元剤のイオン性と親水性	2
		5種ミックス-ダブル作用	還元剤の4種ミックスが毛髪内部と外部を均一還元	2
		1液の薬剤成分	還元剤	2
		2液の薬剤成分	アルカリ剤	2
		3液の薬剤成分	コンディショニング剤	2
		4液の薬剤成分	香料	2
		2液の薬剤成分	酸化剤	2
		3液の薬剤成分	pH 調整剤	2
		4液の薬剤成分	コンディショニング成分	2
		還元液の種類と特徴	チオグリコール酸	2
			システィン	2
			システアミン	2
			チオグリセリン	2
			イオン性	2
			浸透性	2
			カール形成	2

[10] 「パーマ」の学修成果指標体系は、本校が受託した、平成 28 年度文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の「ビューティビジネスにおける国際通用性のある中核的専門人材養成機関の教育プログラム開発事業」において構築した「キャリアフレームワーク」をベースに、リカレント教育の要素を考慮したものである。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
			適したスタイル	2
			質感	2
		中間水洗の目的	2液の酸化作用	2
			ダメージ防止	2
			還元剤の残留	2
			残臭	2
		中間水洗の効果	2週間後のダメージ進行	2
			2週間後のカールダレ	2
		2液の作用	酸性ブロムで酸化	2
		3液の作用	アルカリブロムで酸化	2
		台頭するカーリング料	カーリング料における還元剤の配合可能濃度	2
			還元力と対象毛	2
		過酸化水素と臭素酸ナトリウムの違い	酸化力の違いと特性	2
	パーマ(カールスタイル)	知識	ロッド計算表	3
		準備	クロス	3
			水分コントロール	3
			前処理	3
			ボルテ、ロッドの準備	3
			薬剤の準備	3
		ヘルプ	ワインディングのヘルプ	3
			ターバン(ロッドアウト後に巻く場合の注意点)	3
		カウンセリング	履歴確認	3
			毛髪、ダメージ診断	3
			ヒアリング	3
			提案	3
			ロッド選定	3
			薬剤選定	3
			時間設定	3
		薬剤塗布	1液塗布	3
			2 液塗布	3
		時間管理	1 液の放置時間	3
			2 液の放置時間	3
			塗布スピード	3
			軟化チェック	3
			ロッドアウト	3
		ワインディング	スライスの幅、取り方	3
			シェープの仕方	3
			角度	3
			テンション	3
			ノーテンション	3
			ゴムのかけ方	3
			毛先の巻き込み方	3

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
		カールコントロール	C カール	3
			J カール	3
			S カール	3
			縦巻き	3
			スパイラル	3
			根元巻き	3
			中間巻き	3
			逆巻き	3
		デザイン	JPA ベーシックスタイル A～E	3
		ストレート	ストレートブロー	3
		縮毛矯正	技術スピード	3
			縮毛矯正ブロー	3
			アイロン技術	3
	パーマ(ストレート)	準備	クロス	3
			水分コントロール	3
			前処理	3
			薬剤の準備	3
		カウンセリング	履歴確認	4
			毛髪、ダメージ診断	4
			ヒアリング	4
			提案	4
			薬剤選定	4
			時間設定	4
		薬剤塗布	1液塗布の仕方	3
			1液塗布順序	3
			1液塗布量	3
			2 液塗布の仕方	3
			2 液塗布順序	3
			2 液塗布量	3
			2 液顔周りの処理	3
		時間管理	1 液の放置時間	3
			2 液の放置時間	3
			塗布スピード	3
			軟化チェック	3
		アイロンワーク	スライスの幅、取り方	3
			ステム	3
			アイロンスルー	3
			温度設定	3
		ブロードライ	ストレートブロー	3

(7) カラーリング[11]

カラーリング領域は、最初の中項目のみ知識項目で、あとはすべてスキル項目である。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
カラーリング	カラー	知識	色彩学	2
			デザイン理論	2
		準備	各種準備物	2
			クロス付け	2
			薬剤の準備(配合など)	2
		カウンセリング	履歴確認	4
			毛髪、ダメージ診断	4
			ヒアリング	4
			提案	4
			薬剤選定	4
		基礎技術	道具の使い方	3
			スライスの取り方	3
			チップの取り方	3
			チップの塗り方	3
			時間管理	3
			リタッチ(ゼロテク)	3
			リタッチ+毛先	3
			ワンメイク	3
			ブリーチ	3
		ファッションカラー	トーシアップ	3
			トーンダウン	3
		グレイカラー	トーシアップ	3
			トーンダウン	3
		デザイン	ハイライトトーシアップ	3
			ローライトトーンダウン	3
			リタッチ+ハイライト+毛先	3
			リタッチ+ローライト+毛先	3
			グラデーション	3
			毛先カラー	3
			ダブルカラー	3
			インナーカラー	3
			3D カラー	3
			ブリーチオンカラー	3
			アンブレラカラー	3

[11] 「カラーリング」の学修成果指標体系は、本校が受託した、平成 28 年度文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の「ビューティビジネスにおける国際通用性のある中核的専門人材養成機関の教育プログラム開発事業」において構築した「キャリアフレームワーク」をベースに、リカレント教育の要素を考慮したものである。特に、実証講座として実施した「フォイルヤージュ」については、「バレイヤージュ」、「ハイライト」と共に、新たな体系として追加している。

領域	大項目	中項目	小項目	レベル
			フェイスフレーミングカラー	3
		マニキュア	リタッチ	3
			ワンメイク	3
		バレイヤージュ	基本概念	4
			特徴	4
			トラディショナルフレンチバレイヤージュ	4
			バレイヤージュ応用	4
		ハイライト	基本概念	4
			特徴	4
			チップⅡ	4
			チップⅢ	4
			チップⅣ	4
			Babylights	4
			スライシング	4
		フォイルヤージュ	基本概念	4
			特徴	4
			V with Foil	4
			W with foil	4
			ハイライト+V コンビネーション	4
			ハイライト+W コンビネーション	4
			5 サイドセクションホイルハイライト	4

(8) メイクアップ[12]

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	準備･後始末	美容用具の準備	道具、化粧品等を準備する	2
スキル	準備･後始末	美容用具の後始末	道具、化粧品等の後始末をする	2
スキル	カウンセリング	顧客ニーズの把握	メイクに対する顧客の要望を把握する	3
スキル	カウンセリング	顧客の状態の把握	形態学的に顔を観察･把握する	3
スキル	カウンセリング	顧客の状態の把握	肌の状態を観察･把握する	3
スキル	カウンセリング	提案･合意形成	メイクを提案し合意を形成する	3
スキル	カウンセリング	施術後のアドバイス	施術後のメイクの仕方を指導する	3
スキル	カウンセリング	カルテ作り	カルテを作る	3
スキル	メイクの施術	スキンケア	クレンジングを行う	2
スキル	メイクの施術	スキンケア	トーニングを行う	2
スキル	メイクの施術	スキンケア	プロテクティングを行う	2
スキル	メイクの施術	ベースメイクアップ	ファンデーションを施術する	2
スキル	メイクの施術	ベースメイクアップ	修整メイクアップを行う	3
スキル	メイクの施術	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニックを活用する	3
スキル	メイクの施術	アイメイクアップ	アイシャドウをデザインするアイシャドウを入れる	2
スキル	メイクの施術	アイメイクアップ	アイラインを引く	2
スキル	メイクの施術	アイメイクアップ	マスカラを付ける	2

[12] 「メイクアップ」の学修成果指標体系は、本校が受託した、平成 28 年度文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の「ビューティビジネスにおける国際通用性のある中核的専門人材養成機関の教育プログラム開発事業」において構築した「キャリアフレームワーク」をベースに、リカレント教育の要素を考慮したものである。

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	メイクの施術	アイメイクアップ	つけまつげを付ける	2
スキル	メイクの施術	アイメイクアップ	アイラッシュカールを行う	2
スキル	メイクの施術	アイメイクアップ	描きまつげテクニックを活用する	3
スキル	メイクの施術	アイブロウメイクアップ	アイブロウを入れる	2
スキル	メイクの施術	アイブロウメイクアップ	トリミングを行う	2
スキル	メイクの施術	リップメイクアップ	リップメイクを行う	2
スキル	メイクの施術	リップメイクアップ	リップを修整する	2
スキル	メイクの施術	ブラッシュオンメイクアップ	チークを入れる	2
スキル	メイクの施術	ブラッシュオンメイクアップ	ハイライト・シャドウを入れる	2
スキル	メイクの施術	男性のメイクアップ	男性のメイクアップを行う	3
スキル	メイクの施術	和装メイクアップ	和装メイクアップを行う	3
スキル	メイクの施術	ステージメイクアップ	ステージメイクアップを行う	3
スキル	メイクの施術	イメージメイクアップ	イメージ別メイクアップを行う	3
スキル	メイクの施術	イメージメイクアップ	シーン・TPO 別メイクアップを行う	3
スキル	メイクの施術	ブライダルメイクアップ	ブライダルメイクアップ(洋装)を行う	3
スキル	メイクの施術	ブライダルメイクアップ	ブライダルメイクアップ(和装)を行う	3
スキル	メイクの施術	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップを行う	4
スキル	メイクの施術	ボディメイクアップ	ボディメイクアップを行う	4
スキル	メイクの施術	特殊テクニック	特殊メイクを行う	4
スキル	メイクの施術	メディカルメイクアップ	メディカルメイクアップを行う	4
スキル	評価・改善	自己評価	チェックシートによる自己評価を行う	2
スキル	評価・改善	継続的な改善	継続的な改善のための取り組みを行う	2
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	カウンセリング技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	ベースメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	アイメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	アイブロウメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	リップメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	仕上げメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	男性のメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	和装メイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	ステージメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	イメージメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	ブライダルメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	加齢メイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	ボディメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	特殊テクニック技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	メイクアップ技術者評価	メディカルメイクアップ技術を評価する	3
スキル	後進指導・育成	コーチング	目標を設定する	5
スキル	後進指導・育成	コーチング	コーチングとフィードバックを行う	5
知識	心構えと準備	心構え	お客様の肌に直接触れる仕事であるとの認識	2
知識	心構えと準備	身だしなみなど	清潔感を保つ	2
知識	心構えと準備	身だしなみなど	礼儀をわきまえる	2
知識	心構えと準備	身だしなみなど	言葉遣いをわきまえる	2
知識	心構えと準備	身だしなみなど	明るい笑顔で接する	2
知識	心構えと準備	身だしなみなど	お客様には鏡の正面に座っていただく	2
知識	心構えと準備	身だしなみなど	肩にケープまたはタオルをかける	2
知識	心構えと準備	身だしなみなど	右利きの技術者はお客様の右側(左利きは左側)に立つ	2
知識	心構えと準備	身だしなみなど	お客様に近寄りすぎない配慮	2
知識	心構えと準備	身だしなみなど	施術前には消毒液で手指を消毒	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	フェースブラシの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	チークブラシの機能	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	アイシャドウブラシの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	ライン用ブラシの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	アイライナーブラシの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	リップブラシの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	コンシーラーブラシの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	チップの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	眉ブラシ＆コームの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	アイライナーペンシルの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	アイブロウペンシルの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	スパチュラの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	パフの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	スポンジの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	アイラッシュカーラーの機能	2
知識	心構えと準備	小道具の種類と知識	その他小道具の種類	2
知識	心構えと準備	小道具の配置	鏡側(向こう側)に配置すべきもの	2
知識	心構えと準備	小道具の配置	中央(作業台の上)に配置すべきもの	2
知識	心構えと準備	小道具の配置	モデル(客)の前に配置すべきもの	2
知識	心構えと準備	小道具の配置	技術者の前に配置すべきもの	2
知識	心構えと準備	小道具の配置	その他の配置	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	側頭腺	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	額	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	眉頭	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	眉尻	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	鼻根	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	ほほ(頬骨)	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	鼻唇溝(ほうれい線)	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	口角	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	上唇	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	唇の山	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	下唇	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	顎	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	眉弓(眉弓骨)	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	目のくり(アイホール)	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	上瞼	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	上まつげ	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	目の際	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	目頭	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	目尻	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	下まつげ	2
知識	顔	顔の各部の名称と位置の知識	下瞼	2
知識	顔	フェースプロポーション	顔の横幅の標準	2
知識	顔	フェースプロポーション	顔の長さの標準	2
知識	顔	フェースプロポーション	眉の位置の標準	2
知識	顔	フェースプロポーション	唇の位置の標準	2
知識	メイクアップの手順要素	スキンケア	スキンケアの働き	2
知識	メイクアップの手順要素	スキンケア	スキンケアの要素	2
知識	メイクアップの手順要素	スキンケア	ベースメイクアップの働き	2
知識	メイクアップの手順要素	スキンケア	ベースメイクアップの要素	2
知識	メイクアップの手順要素	スキンケア	目元メイクの働き	2
知識	メイクアップの手順要素	スキンケア	目元メイクの要素	2
知識	メイクアップの手順要素	スキンケア	口元メイクの働き	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	メイクアップの手順要素	スキンケア	口元メイクの要素	2
知識	メイクアップの手順要素	スキンケア	メイクアップの仕上げの働き	2
知識	メイクアップの手順要素	スキンケア	メイクアップの仕上げの要素	2
知識	スキンケア	洗顔	クレンジングの機能	2
知識	スキンケア	洗顔	クレンジングの種類	2
知識	スキンケア	洗顔	ポイント用クレンジングの種類	2
知識	スキンケア	洗顔	ふき取り化粧水の機能	2
知識	スキンケア	洗顔	ふき取り化粧水の種類	2
知識	スキンケア	洗顔	ソープクレンジングの機能	2
知識	スキンケア	洗顔	ソープクレンジングの種類	2
知識	スキンケア	保湿	化粧水の機能	2
知識	スキンケア	保湿	乳液の機能	2
知識	スキンケア	その他のスキンケア	美容液の機能	2
知識	スキンケア	その他のスキンケア	クリームの機能	2
知識	スキンケア	その他のスキンケア	マッサージクリームの機能	2
知識	スキンケア	その他のスキンケア	マスクの機能	2
知識	スキンケア	皮膚の内部	表皮の構成要素	2
知識	スキンケア	皮膚の内部	真皮の構成要素	2
知識	スキンケア	皮膚の内部	皮下組織の構成要素	2
知識	ベースメイクアップ	メイクアップベース	メイクアップベースの機能	2
知識	ベースメイクアップ	メイクアップベース	メイクアップベースの位置づけ	2
知識	ベースメイクアップ	メイクアップベース	メイクアップベースの種類	2
知識	ベースメイクアップ	メイクアップベース	メイクアップベースの形状	2
知識	ベースメイクアップ	メイクアップベース	メイクアップベースのその他の機能	2
知識	ベースメイクアップ	コンシーラー	コンシーラーの機能	2
知識	ベースメイクアップ	コントロールカラー	コントロールカラーの機能	2
知識	ベースメイクアップ	コントロールカラー	グリーン系を顔全体に使用する場合	2
知識	ベースメイクアップ	コントロールカラー	グリーン系を部分的に使用する場合	2
知識	ベースメイクアップ	コントロールカラー	オレンジ系(ピーチ・コーラルを含む)を顔全体に使用する場合	2
知識	ベースメイクアップ	コントロールカラー	オレンジ系(ピーチ・コーラルを含む)を部分的に使用する場合	2
知識	ベースメイクアップ	コントロールカラー	イエロー系を顔全体に使用する場合	2
知識	ベースメイクアップ	コントロールカラー	イエロー系を部分的に使用する場合	2
知識	ベースメイクアップ	コントロールカラー	ピンク系を顔全体に使用する場合	2
知識	ベースメイクアップ	コントロールカラー	パープル系を顔全体に使用する場合	2
知識	ベースメイクアップ	コントロールカラー	コントロールカラー使用上の注意	2
知識	ベースメイクアップ	キメ・毛穴補正料	キメ・毛穴補正料の機能	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	ファンデーションで多く使用される種類	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	パウダー(パウダリー)ファンデーションの特徴	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	パウダー(パウダリー)ファンデーションの使い方	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	リキッド(リクイド)ファンデーション(乳化タイプ)の特徴	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	リキッド(リクイド)ファンデーション(乳化タイプ)の使い方	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	クリームファンデーション(乳化タイプ)の特徴	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	クリームファンデーション(乳化タイプ)の使い方	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	スティックファンデーション(油性タイプ)の特徴	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	スティックファンデーション(油性タイプ)の使い方	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	ローションファンデーション(水性タイプ)の特徴	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	ローションファンデーション(水性タイプ)の使い方	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	ケーキファンデーションの特徴	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	ケーキファンデーションの使い方	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーション	その他のタイプ	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーションの色	ファンデーションの色調	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	ベースメイクアップ	ファンデーションの色	オークル系のイメージ	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーションの色	ピンク系のイメージ	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーションの色	イエロー系のイメージ	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーションテクニック	顔全体に対するファンデーションの基礎技術	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーションテクニック	上瞼	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーションテクニック	下瞼	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーションテクニック	鼻	2
知識	ベースメイクアップ	ファンデーションテクニック	口	2
知識	ベースメイクアップ	パウダーファンデーションテクニック	スポンジで伸ばす技術	2
知識	ベースメイクアップ	パウダーファンデーションテクニック	指でのばす技術	2
知識	ベースメイクアップ	リキッドファンデーションテクニック	スポンジで伸ばす技術	2
知識	ベースメイクアップ	リキッドファンデーションテクニック	指でのばす技術	2
知識	ベースメイクアップ	リキッドファンデーションテクニック	共通する技術(手順の最後で)	2
知識	ベースメイクアップ	リキッドファンデーションテクニック	共通する技術(トラブルがカバーできていない場合)	2
知識	ベースメイクアップ	リキッドファンデーションテクニック	共通する技術(フェースパウダーの使用)	2
知識	ベースメイクアップ	フェースパウダーの種類	ほんのり肌の色がつくタイプ	2
知識	ベースメイクアップ	フェースパウダーの種類	透明タイプ	2
知識	ベースメイクアップ	フェースパウダーの種類	白くなるタイプ	2
知識	ベースメイクアップ	フェースパウダーの種類	ツヤが出るタイプ	2
知識	ベースメイクアップ	フェースパウダーテクニック	フェースパウダーの使用目的	2
知識	ベースメイクアップ	フェースパウダーテクニック	パフを使ったフェースパウダー	2
知識	ベースメイクアップ	フェースパウダーテクニック	ブラシを使ったフェースパウダー	2
知識	ベースメイクアップ	いろいろな肌の質感	肌の質感の分類	3
知識	ベースメイクアップ	いろいろな肌の質感	ツヤ肌の特性	3
知識	ベースメイクアップ	いろいろな肌の質感	マット肌の特性	3
知識	ベースメイクアップ	いろいろな肌の質感	ツヤ肌のイメージ(むき卵のような肌)	3
知識	ベースメイクアップ	いろいろな肌の質感	マット肌のイメージ(桃のような肌)	3
知識	ベースメイクアップ	いろいろな肌の質感	ツヤ肌のテクニック(ポイント)	3
知識	ベースメイクアップ	いろいろな肌の質感	マット肌のテクニック(ポイント)	3
知識	ベースメイクアップ	いろいろな肌の質感	ハーフマットな肌	3
知識	ベースメイクアップ	修整メイクアップのいろいろ	カバーメイク	3
知識	ベースメイクアップ	修整メイクアップのいろいろ	補整色	3
知識	ベースメイクアップ	修整メイクアップのいろいろ	ファンデーションのタイプ	3
知識	ベースメイクアップ	修整メイクアップのいろいろ	テクニック＋補整料	3
知識	ベースメイクアップ	修整メイクアップのいろいろ	その他の肌悩み	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	薄いシミ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	少し濃いめのシミ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	濃いシミ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	ソバカス	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	色ムラ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	赤ら顔(うっすら広がった赤み)	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	赤ら顔(寒い時期など強い赤み)	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	上瞼の薄いクマ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	下瞼のクマ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	二段になったクマ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	濃いクマ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	透明感がない、うっすらとしたくすみ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	濃いくすみ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	部分的なくすみ・色の差	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	口元周辺のくすみ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	黄くすみ	3

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	血色がない	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	ニキビ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	脂性肌	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	乾性肌	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	脂性乾性肌	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	小じわ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	キメ・毛穴	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	たるみ	3
知識	ベースメイクアップ	スキントラブルテクニック	濃い肌を明るく	3
知識	目元	アイシャドウ	アイシャドウの機能	2
知識	目元	アイシャドウ	パウダータイプ	2
知識	目元	アイシャドウ	ペンシルタイプ	2
知識	目元	アイシャドウ	クリームタイプ	2
知識	目元	アイシャドウ	リキッドタイプ	2
知識	目元	アイシャドウ	アイシャドウデザイン	2
知識	目元	アイシャドウ	パウダーアイシャドウテクニック(手順)	2
知識	目元	アイシャドウ	ペンシルアイシャドウテクニック(ポイント)	2
知識	目元	アイシャドウ	クリームアイシャドウテクニック(ポイント)	2
知識	目元	アイシャドウ	リキッドアイシャドウ的ニック(ポイント)	2
知識	目元	アイライン	アイラインの機能	2
知識	目元	アイライン	ペンシルタイプ	2
知識	目元	アイライン	筆ペンタイプ	2
知識	目元	アイライン	リキッド、ケーキタイプ	2
知識	目元	アイライン	ジェルタイプ	2
知識	目元	アイライン	アイラインの基本的な入れ方	2
知識	目元	アイライン	アイラインテクニック(手順)	2
知識	目元	アイライン	いろいろなアイラインの描き方	2
知識	目元	マスカラ	マスカラの機能	2
知識	目元	マスカラ	ナチュラルタイプ	2
知識	目元	マスカラ	ロングタイプ	2
知識	目元	マスカラ	ボリュームタイプ	2
知識	目元	マスカラ	カールタイプ	2
知識	目元	マスカラ	ウォータープルーフタイプ	2
知識	目元	マスカラ	マスカラ下地	2
知識	目元	マスカラ	マスカラコート	2
知識	目元	マスカラ	マスカラの基本的なつけ方	2
知識	目元	マスカラ	アイラッシュカーラーなど	2
知識	目元	マスカラ	マスカラテクニック(手順)(上まつ毛)	2
知識	目元	マスカラ	マスカラテクニック(手順)(下まつ毛)	2
知識	目元	マスカラ	つけまつ毛(アイラッシュ)のつけ方テクニック(手順)	2
知識	目元	マスカラ	ペースト(まつ毛のり)のつけ方	2
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	腫れぼったい目	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	目の形が左右違う目	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	三白眼	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	左右の眉の高さが異なる	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	強い上がり目	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	下がり目	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	下瞼のふくらんだ目	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	目と眉が離れすぎている目	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	目と眉が近すぎる目	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	くぼんだ目	3

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	目と目の間が広すぎる	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	目と目の間が狭すぎる	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	シワの多い目	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	一重瞼を生かしたい	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	奥二重を生かしたい	3
知識	目元	さまざまな目元とアイメイクアップ	二重瞼を生かしたい	3
知識	目元	アイシャドウデザイン	目の際を濃く徐々に淡く	3
知識	目元	アイシャドウデザイン	上下瞼の色違い	3
知識	目元	アイシャドウデザイン	多色使い	3
知識	目元	アイシャドウデザイン	眉弓にハイライト	3
知識	目元	アイシャドウデザイン	目頭にハイライト	3
知識	目元	アイシャドウデザイン	瞼中央にハイライト	3
知識	目元	アイシャドウデザイン	目尻にシャドウ	3
知識	目元	アイシャドウデザイン	目のくりを強調	3
知識	目元	つけまつ毛のつけ方応用テクニック	上向きにつける	3
知識	目元	つけまつ毛のつけ方応用テクニック	下向きにつける	3
知識	目元	つけまつ毛のつけ方応用テクニック	カーブをつける(目頭を水平に、目尻を上げる)	3
知識	目元	その他のテクニック	アイラッシュカット応用テクニック	3
知識	目元	その他のテクニック	描きまつ毛テクニック	3
知識	目元	その他のテクニック	2 枚のまつ毛を重ねて濃いまつげを作るテクニック	3
知識	目元	その他のテクニック	部分的に重ねるテクニック	3
知識	目元	その他のテクニック	バラバラにしてつけるテクニック	3
知識	眉	アイブロウ	ペンシルタイプの機能	2
知識	眉	アイブロウ	パウダー(ケーキ)タイプの機能	2
知識	眉	アイブロウ	筆ペンタイプの機能	2
知識	眉	アイブロウ	眉用マスカラの機能	2
知識	眉	眉の位置	標準的な位置	2
知識	眉	眉の位置	細い顔の場合・目と目が接近しすぎている場合	2
知識	眉	眉の位置	太めの顔の場合・目と目が離れすぎている場合	2
知識	眉	アイブロウテクニック	アイブロウの一般的手順	2
知識	眉	眉の形とイメージ	ストレート眉のイメージ	2
知識	眉	眉の形とイメージ	アーチ眉のイメージ	2
知識	眉	眉の形とイメージ	角眉のイメージ	2
知識	眉	眉の形とイメージ	上がり眉のイメージ	2
知識	眉	眉の形とイメージ	水平眉のイメージ	2
知識	眉	眉の形とイメージ	下がり眉のイメージ	2
知識	眉	眉の毛流	眉の毛流の特徴	3
知識	眉	眉の色	黒を使う場合	3
知識	眉	眉の色	グレーを使う場合	3
知識	眉	眉の色	こげ茶を使う場合	3
知識	眉	眉の色	緑みのブラウンを使う場合	3
知識	眉	眉の色	赤みのブラウンを使う場合	3
知識	眉	眉の色	黄みの淡いブラウンを使う場合	3
知識	眉	眉の色	ブラウンを使う場合	3
知識	眉	眉の色	眉に色をつける一例	3
知識	眉	アイブロウ応用テクニック	眉毛が欠けている場合	3
知識	眉	アイブロウ応用テクニック	全体的に淡く仕上げたい場合	3
知識	眉	アイブロウ応用テクニック	下がっている眉を上げたい場合	3
知識	眉	アイブロウ応用テクニック	濃い眉にしたい場合	3
知識	眉	アイブロウ応用テクニック	細く見せたい場合	3
知識	眉	眉のトリミング	眉のトリミングに使用する道具とトリミングの意味	3

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	眉	眉のトリミング	形を決めにくいときのテクニック(手順)	3
知識	唇	唇の化粧道具	口紅(リップスティック)とその機能	2
知識	唇	唇の化粧道具	口紅(クリームタイプ、液状タイプ)とその機能	2
知識	唇	唇の化粧道具	リップペンシル(リップライナー・ルージュライナー)とその機能	2
知識	唇	唇の化粧道具	リップグロスとその機能	2
知識	唇	唇の形のいろいろ	アウトカーブとその印象	2
知識	唇	唇の形のいろいろ	インカーブとその印象	2
知識	唇	唇の形のいろいろ	ストレートとその印象	2
知識	唇	唇の形のいろいろ	S 字カーブとその印象	2
知識	唇	唇の形のいろいろ	舟底型とその印象	2
知識	唇	リップブラシによるテクニック(ポイント)	内側からつける	2
知識	唇	リップブラシによるテクニック(ポイント)	リップブラシを寝かせる	2
知識	唇	リップブラシによるテクニック(ポイント)	口紅がなくなったら内側へ	2
知識	唇	リップブラシによるテクニック(ポイント)	唇を張らせる	2
知識	唇	リップブラシによるテクニック(ポイント)	逆方向もある	2
知識	唇	リップブラシによるテクニック(ポイント)	口角をむすぶ	2
知識	唇	リップブラシによるテクニック(ポイント)	必ずスパチュラにとる	2
知識	唇	リップブラシによるテクニック(ポイント)	描くときは、少しずつ慎重にブラシを選ぶ	2
知識	唇	リップブラシによるテクニック(ポイント)	色選びのポイント	2
知識	唇	リップペンシル(リップライナー)テクニック(ポイント)	口紅の後に使用する場合(手順)	3
知識	唇	リップペンシル(リップライナー)テクニック(ポイント)	口紅の前に使用する場合(手順)	3
知識	唇	リップペンシル(リップライナー)テクニック(ポイント)	リップグロスを使用する方法	3
知識	唇	リップペンシル(リップライナー)テクニック(ポイント)	ファンデーションでリップラインを描く	3
知識	唇	リップの修整	出っ張っている唇・大きすぎる唇の場合の注意	3
知識	唇	リップの修整	形のアンバランスな唇・小さすぎる唇の場合の注意	3
知識	唇	リップの修整	色素の濃い唇	3
知識	唇	リップの修整	しわの目立つ唇	3
知識	唇	唇の大きさを変化させるテクニック	小さく見せる方法	3
知識	唇	唇の大きさを変化させるテクニック	大きく見せる方法	3
知識	唇	唇の大きさを変化させるテクニック	立体的に見せる	3
知識	仕上げ	チーク	チークの機能	2
知識	仕上げ	チーク	パウダータイプ	2
知識	仕上げ	チーク	リキッドタイプ	2
知識	仕上げ	チーク	クリーム、スティックタイプ	2
知識	仕上げ	チーク	チークの一般的な色	2
知識	仕上げ	チーク	チークテクニック(ポイント)	2
知識	仕上げ	チーク		2
知識	仕上げ	チーク		2
知識	仕上げ	ハイライト・シャドウ	ハイライトの機能	2
知識	仕上げ	ハイライト・シャドウ	シャドウの機能	2
知識	仕上げ	ハイライト・シャドウ	ハイライトテクニック	2
知識	仕上げ	ハイライト・シャドウ	シャドウテクニック	2
知識	仕上げ	チーク応用テクニック	チークラインの入れ方(標準的なフェースプロポーションの場合)	3
知識	仕上げ	チーク応用テクニック	チークラインの入れ方(標準的なフェースプロポーションでない場合)	3
知識	仕上げ	シャドウ・ハイライトテクニック応用	考え方	3
知識	仕上げ	シャドウ・ハイライトテクニック応用	頬骨が張っている場合	3
知識	仕上げ	シャドウ・ハイライトテクニック応用	額が狭い場合	3
知識	仕上げ	シャドウ・ハイライトテクニック応用	頬がふくらんでいる婆	3
知識	仕上げ	シャドウ・ハイライトテクニック応用	目の下がふくらんでいる、鼻唇溝が深い場合	3
知識	仕上げ	ノーズシャドウとハイライト	ノーズシャドウの効果	3
知識	仕上げ	ノーズシャドウとハイライト	ノーズシャドウの基本テクニック(ポイント)	3

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	男性のメイクアップ	男性メイクアップの基本	考え方	2
知識	男性のメイクアップ	男性メイクアップの基本	アイシャドウ	2
知識	男性のメイクアップ	男性メイクアップの基本	眉	2
知識	男性のメイクアップ	男性メイクアップの基本	ヒゲ	2
知識	男性のメイクアップ	男性メイクアップの基本	頬	2
知識	男性のメイクアップ	男性メイクアップの基本	肌	2
知識	男性のメイクアップ	男性メイクアップの基本	ツヤ	2
知識	和装メイクアップ	目的別の着物とメイクアップイメージ	基本的なイメージ	2
知識	和装メイクアップ	目的別の着物とメイクアップイメージ	結婚披露宴・結納・成人式・卒業式など	2
知識	和装メイクアップ	目的別の着物とメイクアップイメージ	結婚式・会合など	2
知識	和装メイクアップ	目的別の着物とメイクアップイメージ	お茶会・会合・パーティなど	2
知識	和装メイクアップ	目的別の着物とメイクアップイメージ	ショッピング・デート(おしゃれ着)など	2
知識	和装メイクアップ	和装メイクアップの技術的ポイント	整肌	2
知識	和装メイクアップ	和装メイクアップの技術的ポイント	コントロールカラー	2
知識	和装メイクアップ	和装メイクアップの技術的ポイント	ファンデーション	2
知識	和装メイクアップ	和装メイクアップの技術的ポイント	フェースパウダー	2
知識	和装メイクアップ	和装メイクアップの技術的ポイント	チーク	2
知識	和装メイクアップ	和装メイクアップの技術的ポイント	アイメイクアップ	2
知識	和装メイクアップ	和装メイクアップの技術的ポイント	アイブロウ	2
知識	和装メイクアップ	和装メイクアップの技術的ポイント	リップ	2
知識	和装メイクアップ	和装メイクアップの技術的ポイント	首・襟足	2
知識	ステージメイクアップ	ステージメイクアップの考え方	人物像を把握する	2
知識	ステージメイクアップ	ステージメイクアップの考え方	時代考証をふまえる	2
知識	ステージメイクアップ	ステージメイクアップの考え方	ファンデーションの重要性(油性ファンデーション)	2
知識	ステージメイクアップ	ステージメイクアップの考え方	その他	2
知識	色彩について	色彩の基礎知識	無彩色	2
知識	色彩について	色彩の基礎知識	有彩色	2
知識	色彩について	色彩の基礎知識	色の三属性	2
知識	色彩について	色彩の基礎知識	色の三原色	2
知識	色彩について	色彩の基礎知識	色の作成	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	色相の意味	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	赤	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	橙	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	黄橙	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	黄	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	黄緑	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	緑	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	青緑	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	緑青	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	青	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	青紫	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	紫	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	赤紫	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	補色	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	色相対比	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	明度対比	2
知識	色彩について	色相と色相が持つ表情	彩度対比	2
知識	色彩について	配色	コントラスト配色	2
知識	色彩について	配色	コンコード配色	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ペール	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ライトグレイッシュ	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	色彩について	トーン別色相環	グレイッシュ	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ダークグレイッシュ	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ライト	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ソフト	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ダル	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ダーク	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ブライト	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ストロング	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ディープ	2
知識	色彩について	トーン別色相環	ビビッド	2
知識	色彩について	色相対比の効果を考えたﾒｲｸｱｯﾌﾟ	互いに鮮やかに見える例	3
知識	色彩について	明度対比の効果を考えたﾒｲｸｱｯﾌﾟ	一方が暗く他方が明るく見える例	3
知識	色彩について	対比効果で注意する点	目が充血している場合	3
知識	色彩について	対比効果で注意する点	真紅の口紅をつける場合	3
知識	色彩について	対比効果で注意する点	ローズの口紅をつける場合	3
知識	色彩について	ｺｽﾁｭｰﾑ&照明とﾒｲｸｱｯﾌﾟ	コスチュームや背景の色調を考慮したメイクアップ	3
知識	色彩について	ｺｽﾁｭｰﾑ&照明とﾒｲｸｱｯﾌﾟ	コスチュームの色や肌の色による変化の注意例	3
知識	色彩について	ｺｽﾁｭｰﾑ&照明とﾒｲｸｱｯﾌﾟ	灯りによる変化の注意例	3
知識	色彩について	色の名前	茜色(アカネイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	小豆色(アズキイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	臙脂(エンジ)	4
知識	色彩について	色の名前	柿色(カキイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	鮭色(サケイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	桜色(サクライロ)	4
知識	色彩について	色の名前	珊瑚色(サンゴイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	朱色(シュイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	真紅(シンク)	4
知識	色彩について	色の名前	スカーレット(スカーレット)	4
知識	色彩について	色の名前	橙色(ダイダイイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	ピーチ(ピーチ)	4
知識	色彩について	色の名前	緋色(ヒイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	ピンク(ピンク)	4
知識	色彩について	色の名前	紅色(ベニイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	弁柄色(ベンガライロ)	4
知識	色彩について	色の名前	牡丹色(ボタンイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	マゼンタ(マゼンタ)	4
知識	色彩について	色の名前	蜜柑色(ミカンイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	桃色(モモイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	煉瓦色(レンガイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	ローズピンク(ローズピンク)	4
知識	色彩について	色の名前	藍色(アイイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	インディゴ(インディゴ)	4
知識	色彩について	色の名前	群青色(グンジョウイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	コバルトブルー(コバルトブルー)	4
知識	色彩について	色の名前	紺(コン)	4
知識	色彩について	色の名前	シアン(シアン)	4
知識	色彩について	色の名前	空色(ソライロ)	4
知識	色彩について	色の名前	セルリアンブルー(セルリアンブルー)	4
知識	色彩について	色の名前	ターコイズブルー(ターコイズブルー)	4
知識	色彩について	色の名前	ネイビーブルー(ネイビーブルー)	4
知識	色彩について	色の名前	水色(ミズイロ)	4

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	色彩について	色の名前	瑠璃色(ルリイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	江戸紫(エドムラサキ)	4
知識	色彩について	色の名前	菫色(スミレイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	藤色(フジイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	ボルドー(ボルドー)	4
知識	色彩について	色の名前	紫(ムラサキ)	4
知識	色彩について	色の名前	モーブ(モーブ)	4
知識	色彩について	色の名前	ライラック(ライラック)	4
知識	色彩について	色の名前	ラベンダー(ラベンダー)	4
知識	色彩について	色の名前	ワインレッド(ワインレッド)	4
知識	色彩について	色の名前	青緑(アオミドリ)	4
知識	色彩について	色の名前	エメラルドグリーン(エメラルドグリーン)	4
知識	色彩について	色の名前	オリーブ(オリーブ)	4
知識	色彩について	色の名前	草色(クサイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	苔色(コケイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	コバルトグリーン(コバルトグリーン)	4
知識	色彩について	色の名前	ビリジアン(ビリジアン)	4
知識	色彩について	色の名前	深緑(フカミドリ)	4
知識	色彩について	色の名前	緑色(ミドリイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	萌木(モエギ)	4
知識	色彩について	色の名前	若草色(ワカクサイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	黄土色(オウドイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	芥子色(カラシイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	山吹色(ヤマブキイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	レモン色(レモンイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	アンバー(アンバー)	4
知識	色彩について	色の名前	葡萄茶(エビチャ)	4
知識	色彩について	色の名前	褐色(カッショク)	4
知識	色彩について	色の名前	栗色(クリイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	焦茶(コゲチャ)	4
知識	色彩について	色の名前	セピア(セピア)	4
知識	色彩について	色の名前	チョコレート(チョコレート)	4
知識	色彩について	色の名前	ベージュ(ベージュ)	4
知識	色彩について	色の名前	マルーン(マルーン)	4
知識	色彩について	色の名前	駱駝色(ラクダイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	生成(キナリ)	4
知識	色彩について	色の名前	銀鼠(ギンネズ)	4
知識	色彩について	色の名前	漆黒(シッコク)	4
知識	色彩について	色の名前	鉛色(ナマリイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	灰色(ハイイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	金色(キンイロ)	4
知識	色彩について	色の名前	銀色(ギンイロ)	4
知識	ｲﾒｰｼﾞﾒｲｸｱｯﾌﾟ	イメージのとらえ方	女性(男性)というイメージ	3
知識	ｲﾒｰｼﾞﾒｲｸｱｯﾌﾟ	イメージのとらえ方	ソフト(ハード)というイメージ１	3
知識	ｲﾒｰｼﾞﾒｲｸｱｯﾌﾟ	イメージのとらえ方	ソフト(ハード)というイメージ２	3
知識	ｲﾒｰｼﾞﾒｲｸｱｯﾌﾟ	イメージのとらえ方	硬い(軟らかい)というイメージ	3
知識	ｲﾒｰｼﾞﾒｲｸｱｯﾌﾟ	配置の効果	顔の各部の配置から受ける印象	3
知識	ｲﾒｰｼﾞﾒｲｸｱｯﾌﾟ	配置の効果	顔の輪郭や眉の形と顔の印象の関係	3
知識	ｲﾒｰｼﾞﾒｲｸｱｯﾌﾟ	好感が持たれる顔の条件要素	肌の明るさ	3
知識	ｲﾒｰｼﾞﾒｲｸｱｯﾌﾟ	好感が持たれる顔の条件要素	肌の色	3
知識	ｲﾒｰｼﾞﾒｲｸｱｯﾌﾟ	好感が持たれる顔の条件要素	肌の質感	3

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	眉の印象	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	眉の太さ	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	眉の形	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	眉の方向性	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	目の形	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	アイシャドウの明るさ	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	アイシャドウの色	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	アイライン	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	マスカラ	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	マスカラの量	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	リップの色	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	リップの形	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	チークの色	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	チークの濃さと入れ方	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	立体感(骨格)	3
知識	イメージメイクアップ	好感が持たれる顔の条件要素	配置	3
知識	イメージメイクアップ	テーマ	ナチュラル	3
知識	イメージメイクアップ	テーマ	エレガント	4
知識	イメージメイクアップ	イメージ別メイクアップ	やさしい顔	4
知識	イメージメイクアップ	イメージ別メイクアップ	かわいい顔	4
知識	イメージメイクアップ	イメージ別メイクアップ	スポーティーな顔	4
知識	イメージメイクアップ	イメージ別メイクアップ	知的な顔	4
知識	イメージメイクアップ	イメージ別メイクアップ	セレブな顔	4
知識	イメージメイクアップ	イメージ別メイクアップ	シャープな顔	4
知識	イメージメイクアップ	イメージ別メイクアップ	女っぽい顔	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	成人式	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	就職面接	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	結婚式のおよばれ(和装)	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	結婚式のおよばれ(洋装)	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	パーティ(ホテル):祝賀会など	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	パーティ(レストラン):誕生パーティなど	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	ダンス	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	浴衣	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	バカンス:海のリゾートなど	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	冬山:スノーボード、スキーなど	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	告別式	4
知識	イメージメイクアップ	シーン・TPO別メイクアップ	その他	4
知識	ブライダルメイクアップ	洋装の場合のポイント	整肌&ネイル	3
知識	ブライダルメイクアップ	洋装の場合のポイント	ファンデーション・パウダー	3
知識	ブライダルメイクアップ	洋装の場合のポイント	チーク・ポイントメーク	3
知識	ブライダルメイクアップ	洋装の場合のポイント	デコルテライン	3
知識	ブライダルメイクアップ	洋装の場合の留意点	明るい肌作り	3
知識	ブライダルメイクアップ	洋装の場合の留意点	写真うつりのよいメイクアップ	3
知識	ブライダルメイクアップ	洋装の場合の留意点	くずれにくい化粧	3
知識	ブライダルメイクアップ	洋装の場合の留意点	首・胸元・背・手・爪のメイクアップ&ムダ毛処理	3
知識	ブライダルメイクアップ	洋装の場合の留意点	手のメイクアップテクニック	3
知識	ブライダルメイクアップ	和装の場合のポイント	洋装の場合との相違点	3
知識	ブライダルメイクアップ	和装の場合のポイント	整肌&ネイル	3
知識	ブライダルメイクアップ	和装の場合のポイント	ファンデーション・パウダー・チーク(手順)	3
知識	ブライダルメイクアップ	和装の場合のポイント	ポイントメイクアップ	3
知識	ブライダルメイクアップ	和装の場合のポイント	手	3

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	ブライダルメイクアップ	和装の場合のポイント	留意点	3
知識	ブライダルメイクアップ	和装の場合のポイント	水白粉(ローションタイプのファンデーション)	3
知識	ブライダルメイクアップ	和装の場合のポイント	水白粉の作り方	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の構造と働き	皮溝	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の構造と働き	皮丘	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の構造と働き	汗孔	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の構造と働き	毛孔	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の内部	表皮	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の内部	真皮	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の内部	皮下組織	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の働き	皮脂膜	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の働き	角質層バリヤ	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の働き	表皮のターンオーバー	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の働き	メラノサイト	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の働き	毛細血管	3
知識	皮膚のメカニズム	皮膚の働き	繊維芽細胞	3
知識	皮膚のメカニズム	皮脂膜	皮脂膜の役割	3
知識	皮膚のメカニズム	皮脂膜	皮質分泌コントロール	3
知識	皮膚のメカニズム	皮脂膜	皮脂膜の性質	3
知識	皮膚のメカニズム	皮脂膜	大切なこと	3
知識	皮膚のメカニズム	表皮のターンオーバー	表皮のターンオーバーの役割	3
知識	皮膚のメカニズム	表皮のターンオーバー	ターンオーバーの速度の変化	3
知識	皮膚のメカニズム	表皮のターンオーバー	表皮のターンオーバーが早まる場合	3
知識	皮膚のメカニズム	表皮のターンオーバー	表皮のターンオーバーが遅れる場合	3
知識	メイクアップ理論	顔の長さ・短さ	左右対称の顔	4
知識	メイクアップ理論	顔の長さ・短さ	眉を上げる	4
知識	メイクアップ理論	顔の長さ・短さ	目を上げる	4
知識	メイクアップ理論	顔の長さ・短さ	口を下げる	4
知識	メイクアップ理論	顔の長さ・短さ	短く見せる	4
知識	メイクアップ理論	顔の長さ・短さ	縦の線と横の線	4
知識	メイクアップ理論	縦・横の効果	顔立ちを変化させる	4
知識	メイクアップ理論	縦・横の効果	長い顔の特徴	4
知識	メイクアップ理論	縦・横の効果	長い顔の修整テクニック	4
知識	メイクアップ理論	縦・横の効果	短い顔の特徴	4
知識	メイクアップ理論	縦・横の効果	短い顔の修整テクニック	4
知識	メイクアップ理論	2 つのフェースライン	フェースラインのとらえ方	4
知識	メイクアップ理論	配置のよる効果(小顔)	卵形や逆三角形になるようなデザイン	4
知識	メイクアップ理論	表情の表現	表現要素	4
知識	メイクアップ理論	表情の表現	代表的な表情	4
知識	メイクアップ理論	表情の表現	「笑い」の基本原則	4
知識	メイクアップ理論	表情の表現	「笑い」の特徴ポイント	4
知識	メイクアップ理論	表情の表現	「怒り」の基本原則	4
知識	メイクアップ理論	表情の表現	「怒り」の特徴ポイント	4
知識	メイクアップ理論	表情の表現	「悲しみ」の基本原則	4
知識	メイクアップ理論	表情の表現	「悲しみ」の特徴ポイント	4
知識	加齢とメイクアップ	年齢を重ねるということ	40 代(徐々に複雑な顔になっていく)	4
知識	加齢とメイクアップ	年齢を重ねるということ	50 代(だから…)	4
知識	加齢とメイクアップ	年齢を重ねるということ	60 代(もしかしたら)	4
知識	加齢とメイクアップ	年齢を重ねるということ	70 代	4
知識	加齢とメイクアップ	年齢を重ねるということ	80 代	4
知識	加齢とメイクアップ	肌色の変化	血色がよくなくなる	4

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	加齢とメイクアップ	肌色の変化	透明感がなくなる、顔色が悪くなる、くすみ、黄ぐすみ	4
知識	加齢とメイクアップ	ポイントの形状変化	すべて下降（眉、目、口、頬）	4
知識	加齢とメイクアップ	たるみの発生	目の下、鼻唇溝	4
知識	加齢とメイクアップ	スキントラブル	シミ	4
知識	加齢とメイクアップ	スキントラブル	クマ	4
知識	加齢とメイクアップ	スキントラブル	小じわ	4
知識	加齢とメイクアップ	スキントラブル	乾燥	4
知識	加齢とメイクアップ	スキントラブル	大ジワ	4
知識	加齢とメイクアップ	スキントラブル	まつ毛の減少	4
知識	加齢とメイクアップ	毛の変化	眉毛の減少、長い眉毛発生	4
知識	加齢とメイクアップ	毛の変化	頭髪の減少、髪が細く	4
知識	加齢とメイクアップ	毛の変化	フェースラインの後退	4
知識	加齢とメイクアップ	毛の変化	白髪	4
知識	加齢とメイクアップ	唇の形・色	上唇が薄くなる	4
知識	加齢とメイクアップ	骨格の変化	こめかみ、頬の下のくぼみ	4
知識	加齢とメイクアップ	骨格の変化	頭骨、顎骨の縮小	4
知識	加齢とメイクアップ	歯の変化	脱落	4
知識	加齢とメイクアップ	目の変化	色のにごり	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	ファンデーションのポイント	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	ファンデーションの方法	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	チークのポイント	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	チークの方法	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	ハイライトの方法	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	眉のポイント	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	眉の方法	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	アイシャドウのポイント	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	アイシャドウの方法	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	リップのポイント	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	リップの方法	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	メガネのポイント	4
知識	加齢とメイクアップ	高齢者向けメイクアップテクニック	メガネの方法	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	首が黒い＆太り気味	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	顔色のくすみ＆シミ＆頬でっぱり	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	痩せすぎ＆眉と眉接近	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	眉アートのくずれ（眉尻下がり）＆たるみ＆上唇薄い	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	大ジワ＆たるみ＆唇たてじわ	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	求心的＆太り気味	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	ツリ目＆痩せすぎ＆奥二重＆目と目接近	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	顔黒い＆首白い＆額狭い＆ニキビ	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	くま＆キメ粗い＆くすみ	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	目小さい＆色白＆ソバカス	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	赤ら顔＆太り気味	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	口角・眉下がり＆たるみ 唇（口角下がり、上唇薄い）＆眉（位置高い、下がり気味）	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	口角下がり気味＆きつい目と眉ライン	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	求心的＆唇とがり	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	面長＆眉位置高い	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	角ばった頬骨＆きつい眉ライン	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	太り気味＆眉接近＆目小さい	4
知識	実践メイクアップ	複合トラブルのいろいろ	エラ張り＆角眉	4
知識	カウンセリング	観察の基本	外面	4
知識	カウンセリング	観察の基本	内面	4

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	カウンセリング	キーワード	自然に見せたい、目立たなくしたい、薄化粧が好き	4
知識	カウンセリング	キーワード	目にポイントをおく、個性的にしたい、トレンドメイクをしたい	4
知識	カウンセリング	キーワード	肌をきれいに見せたい、明るめが好き、スキントラブルを目立たなくしたい	4
知識	カウンセリング	キーワード	おまかせ、分からない、はっきりしない	4
知識	カウンセリング	キーワード	透明感のあるメイクが好き	4
知識	カウンセリング	キーワード	若々しく見せたい	4
知識	カウンセリング	キーワード	目を大きくしたい	4
知識	カウンセリング	キーワード	ほっそり・小顔に見せたい	4
知識	カウンセリング	キーワード	健康的になりたい	4
知識	カウンセリング	キーワード	ツヤのあるメイクが好き	4
知識	カウンセリング	基本的な流れ(事例)	観察	4
知識	カウンセリング	基本的な流れ(事例)	判断	4
知識	カウンセリング	基本的な流れ(事例)	好みのメイクアップ傾向を聞く	4
知識	カウンセリング	基本的な流れ(事例)	返答からキーワードを抽出	4
知識	カウンセリング	基本的な流れ(事例)	メイクアップ	4
知識	カウンセリング	細部の観察(どこに重点をおいているかを知る)	目元に重点がおかれている	4
知識	カウンセリング	細部の観察(どこに重点をおいているかを知る)	口元に重点がおかれている	4
知識	カウンセリング	細部の観察(どこに重点をおいているかを知る)	肌に重点がおかれている	4
知識	カウンセリング	細部の観察(どこに重点をおいているかを知る)	アクション	4
知識	カウンセリング	細部の観察(どこに重点をおいているかを知る)	重点が分かりにくい場合の対応法	4
知識	カウンセリング	細部の観察(特徴を知る)	考え方	4
知識	カウンセリング	細部の観察(特徴を知る)	ベースメイクアップ	4
知識	カウンセリング	細部の観察(特徴を知る)	アイメイクアップ	4
知識	カウンセリング	細部の観察(特徴を知る)	リップメイクアップ	4
知識	カウンセリング	ほめる	全体をほめる	4
知識	カウンセリング	ほめる	部分をほめる	4
知識	カウンセリング	ほめる	細部をほめる	4
知識	カウンセリング	ほめる	その他	4
知識	カウンセリング	技術指導(レベルにあわせる)	基本的な考え方	4
知識	カウンセリング	技術指導(レベルにあわせる)	メイクアップレベル初級の方	4
知識	カウンセリング	技術指導(レベルにあわせる)	メイクアップレベル中級の方	4
知識	カウンセリング	技術指導(レベルにあわせる)	メイクアップレベル上級の方	4
知識	カウンセリング	技術指導(テスティング&半顔メイク)	テスティングの意味	4
知識	カウンセリング	技術指導(テスティング&半顔メイク)	テスティングの見せ方　－肌に直接－	4
知識	カウンセリング	技術指導(テスティング&半顔メイク)	テスティングの見せ方　－小道具(ティシュー)を使う－	4
知識	カウンセリング	技術指導(テスティング&半顔メイク)	テスティングの見せ方　－手を使う－	4
知識	カウンセリング	技術指導(テスティング&半顔メイク)	テスティングの見せ方　－腕を使う－	4
知識	カウンセリング	技術指導(テスティング&半顔メイク)	半顔メイク	4
知識	カウンセリング	技術指導(プロテクニックを見せて信頼を得る)	トラブルをかくす	4
知識	カウンセリング	技術指導(プロテクニックを見せて信頼を得る)	リップラインを整える	4
知識	カウンセリング	技術指導(プロテクニックを見せて信頼を得る)	眉のラインを整える	4
知識	カウンセリング	技術指導(プロテクニックを見せて信頼を得る)	自然なアイラインを入れる	4
知識	カウンセリング	技術指導(プロテクニックを見せて信頼を得る)	描きまつ毛	4
知識	カウンセリング	技術指導(プロテクニックを見せて信頼を得る)	すぐに化粧料を手にしない	4
知識	カウンセリング	販売現場における色の選定・勧め方	お客様の持っている色が適切でない場合	4
知識	カウンセリング	販売現場における色の選定・勧め方	お客様の持っている色が適切な場合	4
知識	カウンセリング	販売現場における色の選定・勧め方	好みを取り入れながら他の色をプラスする場合	4
知識	カウンセリング	販売現場における色の選定・勧め方	具体的にイメージしやすい色名を使う	4
知識	カウンセリング	メイクアップとスキンケアの連動	メイクアップとスキンケアを結びつけたカウンセリングと技術指導	4
知識	カウンセリング	カルテ作り	カルテの項目	4
知識	ボディメイクアップ	トラブルを目立たなくするメイクアップ	トラブルを目立たなくするメイクアップシーンとポイント	4

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	ボディメイクアップ	トラブルを目立たなくするメイクアップ	トラブルごとのファンデーションの色味	4
知識	ボディメイクアップ	日焼け肌に見せるメイクアップ	肌の色を濃く、褐色にメイクアップ	4
知識	ボディメイクアップ	装飾的なメイクアップ	バレー・ミュージカル・オペラなど	4
知識	ボディメイクアップ	装飾的なメイクアップ	舞踏	4
知識	ボディメイクアップ	装飾的なメイクアップ	ペインティング	4
知識	ボディメイクアップ	装飾的なメイクアップ	民族衣装	4
知識	ボディメイクアップ	ボディメイクアップの注意点	汗をおさえる	4
知識	ボディメイクアップ	ボディメイクアップの注意点	形をくっきりさせたい場合	4
知識	ボディメイクアップ	ボディメイクアップの注意点	その他の注意点	4
知識	特殊テクニック	特殊メイク(傷・火傷)	古傷	4
知識	特殊テクニック	特殊メイク(傷・火傷)	切り傷	4
知識	特殊テクニック	特殊メイク(傷・火傷)	水ぶくれ	4
知識	特殊テクニック	特殊メイク(傷・火傷)	火傷	4
知識	メディカルメイクアップ	褐色のトラブル	雀卵斑	4
知識	メディカルメイクアップ	褐色のトラブル	肝斑	4
知識	メディカルメイクアップ	褐色のトラブル	老人性色素班	4
知識	メディカルメイクアップ	褐色のトラブル	炎症性色素沈着	4
知識	メディカルメイクアップ	褐色のトラブル	脂漏性角化症	4
知識	メディカルメイクアップ	褐色のトラブル	摩擦黒皮症	4
知識	メディカルメイクアップ	青味のトラブル	太田母斑	4
知識	メディカルメイクアップ	青味のトラブル	青色母斑	4
知識	メディカルメイクアップ	青味のトラブル	刺青	4
知識	メディカルメイクアップ	赤みのトラブル	血管腫	4
知識	メディカルメイクアップ	赤みのトラブル	単純性血管腫	4
知識	メディカルメイクアップ	白みのトラブル	尋常性白斑	4
知識	メディカルメイクアップ	白みのトラブル	先天性白斑症	4
知識	メディカルメイクアップ	白みのトラブル	脱色性母斑	4
知識	メディカルメイクアップ	その他	植皮痕	4
知識	メディカルメイクアップ	その他	火傷痕	4
知識	メディカルメイクアップ	その他	事故瘢痕	4
知識	メディカルメイクアップ	その他	手術瘢痕	4
知識	デモンストレーション	デモンストレーションの実際	準備	4
知識	デモンストレーション	デモンストレーションの実際	照明	4
知識	デモンストレーション	デモンストレーションの実際	アーティストの立ち位置	4
知識	デモンストレーション	デモンストレーションの実際	モデルの向き	4
知識	デモンストレーション	デモンストレーションの実際	メイクアップの手順	4
知識	デモンストレーション	デモンストレーションの実際	アーティストの姿勢	4
知識	デモンストレーション	デモンストレーションの実際	モデルの誘導	4
知識	デモンストレーション	デモンストレーションの実際	展示	4
知識	デモンストレーション	デモンストレーションの実際	メイクアップ効果	4
知識	デモンストレーション	デモンストレーションの実際	メイクアップの解説	4

(9) エステティック[13]

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	カウンセリング	エステティックカウンセラーの役割	カウンセリングとコンサルティング	4
スキル	カウンセリング	エステティックカウンセラーの役割	ソワンエステティック	4
スキル	カウンセリング	エステティックカウンセラーの役割	心理学療法　受容、理解、共感、共有化、浄化	4
スキル	カウンセリング	エステティックカウンセラーの役割	ストレスによるホメオスタシスの低下	4
スキル	カウンセリング	エステティックカウンセラーの役割	エステティックサロンに求められるもの	4
スキル	カウンセリング	心のメカニズムと顧客心理	意識・情動・欲求	4
スキル	カウンセリング	心のメカニズムと顧客心理	顧客心理のポイント	4
スキル	カウンセリング	心のメカニズムと顧客心理	聴き上手になる	4
スキル	カウンセリング	心のメカニズムと顧客心理	話し上手になる	4
スキル	カウンセリング	カウンセリングの流れ	受付対応	4
スキル	カウンセリング	カウンセリングの流れ	施術前確認	4
スキル	カウンセリング	カウンセリングの流れ	施術中のカウンセリング	4
スキル	カウンセリング	カウンセリングの流れ	施術後のフォロー	4
スキル	カウンセリング	カウンセリングの流れ	退店対応	4
スキル	カウンセリング	カウンセリング手順(実践)	サロン内環境	4
スキル	カウンセリング	カウンセリング手順(実践)	コンサルテーションシート	4
スキル	カウンセリング	カウンセリング手順(実践)	肌性トラブルに対する判断	4
スキル	カウンセリング	カウンセリング手順(実践)	体型体質の判断	4
スキル	カウンセリング	カウンセリング手順(実践)	カウンセリング機器	4
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルエステティックとは	フェイシャルエステティックの目的と効果	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルエステティックの流れ	フェイシャルエステティックの流れ	2
スキル	フェイシャルエステティック	事前準備とカウンセリング	事前準備	2
スキル	フェイシャルエステティック	事前準備とカウンセリング	ビフォーカウンセリング	2
スキル	フェイシャルエステティック	事前準備とカウンセリング	カウンセリング後のトリートメント準備	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルトリートメント	クレンジング	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルトリートメント	スチームタオル	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルトリートメント	皮膚の観察	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルトリートメント	ディープクレンジング(スチーマー)	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルトリートメント	ディープクレンジング(ブラシクレンジング)	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルトリートメント	ディープクレンジング(吸引)	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルトリートメント	ディープクレンジング(エレクトロクレンジング)	2
スキル	フェイシャルエステティック	エステティック機器	エステティック機器(パター)	2
スキル	フェイシャルエステティック	エステティック機器	エステティック機器(超音波)	2
スキル	フェイシャルエステティック	エステティック機器	エステティック機器(バイブレーション)	2
スキル	フェイシャルエステティック	エステティック機器	エステティック機器(高周波)	2
スキル	フェイシャルエステティック	エステティック機器	エステティック機器(イオン導入)	2
スキル	フェイシャルエステティック	スキンチェック機器	スキンチェックの機器(マイクロスコープ)	2
スキル	フェイシャルエステティック	スキンチェック機器	スキンチェックの機器(ブラックライト)	2
スキル	フェイシャルエステティック	スキンチェック機器	スキンチェックの機器(脂分計)	2
スキル	フェイシャルエステティック	スキンチェック機器	スキンチェックの機器(水分計)	2
スキル	フェイシャルエステティック	スキンチェック機器	スキンチェックの機器(皮膚温度計)	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルマッサージ	フェイシャルマッサージ(軽擦法)	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルマッサージ	フェイシャルマッサージ(強擦法)	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルマッサージ	フェイシャルマッサージ(揉捻法)	2

[13] 「エステティック」の学修成果指標体系は、本校が受託した、平成 28 年度文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の「ビューティビジネスにおける国際通用性のある中核的専門人材養成機関の教育プログラム開発事業」において構築した「キャリアフレームワーク」をベースに、リカレント教育の要素を考慮したものである。

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルマッサージ	フェイシャルマッサージ(打法)	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルマッサージ	フェイシャルマッサージ(振動法)	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルマッサージ	フェイシャルマッサージ(圧迫法)	2
スキル	フェイシャルエステティック	フェイシャルマッサージ	フェイシャルマッサージ(実際の流れ)	2
スキル	フェイシャルエステティック	ケミカルピーリング	ケミカルピーリング薬剤 AHA(アルファヒドロキシ酸)	2
スキル	フェイシャルエステティック	ケミカルピーリング	ケミカルピーリング薬剤 TCA(トリクロール酢酸)	2
スキル	フェイシャルエステティック	ケミカルピーリング	ケミカルピーリング薬剤 ブルーピール	2
スキル	フェイシャルエステティック	ケミカルピーリング	ケミカルピーリング薬剤 フェノール	2
スキル	ボディエステティック	ボディエステティックとは	ボディエステティックの目的と効果	2
スキル	ボディエステティック	ボディエステティックの流れ	ボディエステティックの流れ	2
スキル	ボディエステティック	事前準備とカウンセリング	事前準備	2
スキル	ボディエステティック	事前準備とカウンセリング	ビフォーカウンセリング	2
スキル	ボディエステティック	事前準備とカウンセリング	カウンセリング後のトリートメント準備	2
スキル	ボディエステティック	ボディトリートメント	ボディの観察、温浴、ディープクレンジング	2
スキル	ボディエステティック	ボディトリートメント	エステティック機器、マッサージ	2
スキル	ボディエステティック	ボディトリートメント	パック・マスク、仕上げ、アフターカウンセリング	2
スキル	ボディエステティック	エステティック機器	エステティック機器(低周波)	2
スキル	ボディエステティック	エステティック機器	エステティック機器(バイブレーター)	2
スキル	ボディエステティック	エステティック機器	エステティック機器(吸引)	2
スキル	ボディエステティック	エステティック機器	エステティック機器(ボディガルバニック)	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ	ボディマッサージ(軽擦法)	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ	ボディマッサージ(強擦法)	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ	ボディマッサージ(揉捻法)	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ	ボディマッサージ(打法)	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ	ボディマッサージ(振動法)	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ	ボディマッサージ(圧迫法)	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ	ボディマッサージ(運動法)	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	全操作	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	下肢後面	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	臀部	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	腰背部	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	下肢前面	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	上肢	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	腹部	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	胸部	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	デコルテ	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	頸部	2
スキル	ボディエステティック	ボディマッサージ(実際の流れ)	頭部	2
スキル	脱毛	エステティック脱毛	エステティックサロンでの脱毛 光脱毛(SSC脱毛)スムーススキンコントロール	2
スキル	脱毛	エステティック脱毛	エステティックサロンでの脱毛 電気脱毛(ニードル脱毛)	2
スキル	脱毛	エステティック脱毛	エステティックサロンでの脱毛 光脱毛(IPL脱毛)インテンス・パルス・ライト	2
スキル	脱毛	エステティック脱毛	エステティックサロンでの脱毛 レーザー脱毛	2
スキル	脱毛	エステティック脱毛	エステティックサロンでの脱毛 フラッシュ脱毛	2
スキル	脱毛	エステティック脱毛	エステティックサロンでの脱毛 プラズマ脱毛	2
スキル	脱毛	エステティック脱毛	エステティックサロンでの脱毛 ワックス脱毛	2
スキル	メイクアップ	メイクアップ技術ポイント	化粧下地	2
スキル	メイクアップ	メイクアップ技術ポイント	コントロールカラー	2
スキル	メイクアップ	メイクアップ技術ポイント	ファンデーション	2
スキル	メイクアップ	メイクアップ技術ポイント	フェイスパウダー	2
スキル	メイクアップ	メイクアップ技術ポイント	アイシャドー	2
スキル	メイクアップ	メイクアップ技術ポイント	アイライン	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	メイクアップ	メイクアップ技術ポイント	マスカラ	2
スキル	メイクアップ	メイクアップ技術ポイント	アイブロー	2
スキル	メイクアップ	メイクアップ技術ポイント	リップメイク	2
スキル	メイクアップ	メイクアップ技術ポイント	チークメイク	2
スキル	まつげ	まつげ	まつげパーマ	3
スキル	まつげ	まつげ	まつげエクステンション	3
スキル	まつげ	まつげ	まつげトリートメント	3
スキル	マニキュア	マニキュア(ハンド&ネイルケア)の実際	マニキュアの準備	3
スキル	マニキュア	マニキュア(ハンド&ネイルケア)の実際	アームレストの準備	3
スキル	マニキュア	マニキュア(ハンド&ネイルケア)の実際	消毒	3
スキル	マニキュア	マニキュア(ハンド&ネイルケア)の実際	リムーブ	3
スキル	マニキュア	マニキュア(ハンド&ネイルケア)の実際	カウンセリング	3
スキル	マニキュア	マニキュア(ハンド&ネイルケア)の実際	ファイリング	3
スキル	マニキュア	マニキュア(ハンド&ネイルケア)の実際	甘皮処理	3
スキル	マニキュア	マニキュア(ハンド&ネイルケア)の実際	ハンドマッサージ	3
スキル	マニキュア	マニキュア(ハンド&ネイルケア)の実際	カラーリング	3
スキル	マニキュア	ネイルリペア・ナチュラルネイルの修理	ネイルリペアに必要な材料と用具	3
スキル	マニキュア	ネイルリペア・ナチュラルネイルの修理	亀裂や二枚爪の修理	3
スキル	マニキュア	ネイルアート	カラーグラデーション	3
スキル	マニキュア	ネイルアート	フレンチマニキュア	3
スキル	ペディキュア	ペディキュア(フット&ネイルケア)の実際	ペディキュアの準備	3
スキル	ペディキュア	ペディキュア(フット&ネイルケア)の実際	消毒リムーブ	3
スキル	ペディキュア	ペディキュア(フット&ネイルケア)の実際	カウンセリング	3
スキル	ペディキュア	ペディキュア(フット&ネイルケア)の実際	爪のカットとファイリング	3
スキル	ペディキュア	ペディキュア(フット&ネイルケア)の実際	爪回りの角質ケア	3
スキル	ペディキュア	ペディキュア(フット&ネイルケア)の実際	足の角質ケア	3
スキル	ペディキュア	ペディキュア(フット&ネイルケア)の実際	フット＆レッグ・マッサージ	3
スキル	ペディキュア	ペディキュア(フット&ネイルケア)の実際	カラーリング	3
知識	生命活動とホメオスタシス	生命と適応進化の歴史	生命誕生、紫外線防止・乾燥防止・酸化防止の三大適応進化	2
知識	生命活動とホメオスタシス	生命と適応進化の歴史	活性酸素	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスとは	体内環境を最適な状態に保とうとする性質(ホメオスタシス)の定義と発見	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスの実際	リズム(周期)とエイジング(不可逆性)	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスの実際	体温調節	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスの実際	血糖の調節	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスの実際	塩化ナトリウム濃度の調節	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスの実際	血中カルシウム濃度の調節	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスの実際	体液のpH の調節	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスの実際	心肺機能の調節	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスの実際	ストレス反応	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	角質層バリア	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	細胞と細胞膜	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	感覚受容器	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	脳と3つの配線	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	自律神経系	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	内分泌系	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	免疫系(自然免疫)	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	免疫系(獲得免疫)	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	免疫系のしくみ	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	アレルギー(即時型アレルギー)	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを制御するしくみ	アレルギー(遅延型アレルギー)	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを乱すストレス	ストレスの定義、ストレッサーの種類	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを乱すストレス	ストレス反応の発見	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを乱すストレス	ストレス学説	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを乱すストレス	脳のなかの葛藤	2
知識	生命活動とホメオスタシス	ホメオスタシスを乱すストレス	心理的ストレッサーによる病気や肌への影響	2
知識	生命活動とホメオスタシス	生体の持つ3つの時間軸	生体反応の時間的構造(ホメオスタシス、リズム、エイジング)	2
知識	生命活動とホメオスタシス	生体の持つ3つの時間軸	時間的性質を生かしたエステティックの可能性	2
知識	生命活動とホメオスタシス	生体の持つ3つの時間軸	時間医療(クロノセラピー)	2
知識	解剖生理学	身体の構成	細胞の構成	2
知識	解剖生理学	身体の構成	核(遺伝子情報の保存場所)	2
知識	解剖生理学	身体の構成	細胞周期	2
知識	解剖生理学	身体の構成	細胞のガン化	2
知識	解剖生理学	身体の構成	細胞死	2
知識	解剖生理学	身体の構成	幹細胞	2
知識	解剖生理学	身体の構成	細胞から個体まで(上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織)	2
知識	解剖生理学	身体の設計図	遺伝子情報(染色体)	2
知識	解剖生理学	身体の設計図	DNA	2
知識	解剖生理学	身体の設計図	遺伝子上の暗号からのタンパク質合成	2
知識	解剖生理学	身体を構成する物質	アミノ酸	2
知識	解剖生理学	身体を構成する物質	ペプチド結合	2
知識	解剖生理学	身体を構成する物質	タンパク質	2
知識	解剖生理学	身体を構成する物質	血液(赤血球)	2
知識	解剖生理学	身体を構成する物質	血液(白血球)	2
知識	解剖生理学	体区分	基本的な体区分	2
知識	解剖生理学	体区分	エステティック手法に出てくる詳細な体区分	2
知識	解剖生理学	骨格系	骨の役割	2
知識	解剖生理学	骨格系	骨の構造と代謝	2
知識	解剖生理学	骨格系	関節	2
知識	解剖生理学	骨格系	骨格の構成	2
知識	解剖生理学	筋肉系	筋肉の役割	2
知識	解剖生理学	筋肉系	筋肉の種類	2
知識	解剖生理学	筋肉系	骨格筋	2
知識	解剖生理学	筋肉系	骨格筋の構成(全身)	2
知識	解剖生理学	筋肉系	骨格筋の構成(顔面)	2
知識	解剖生理学	筋肉系	三叉神経	2
知識	解剖生理学	筋肉系	速筋と遅筋	2
知識	解剖生理学	筋肉系	筋の疲労と回復	2
知識	解剖生理学	筋肉系	乳酸回路	2
知識	解剖生理学	神経系	神経情報伝達のしくみ	2
知識	解剖生理学	神経系	神経細胞(ニューロン)の構造	2
知識	解剖生理学	神経系	シナプス伝達	2
知識	解剖生理学	神経系	中枢神経系	2
知識	解剖生理学	神経系	末梢神経系	2
知識	解剖生理学	中枢神経系	脳の構造と機能グループ	2
知識	解剖生理学	中枢神経系	大脳皮質(前頭葉、頭頂葉、後頭葉、側頭葉、右脳、左脳)	2
知識	解剖生理学	中枢神経系	大脳辺縁系(帯状回、海馬など)	2
知識	解剖生理学	中枢神経系	間脳	2
知識	解剖生理学	中枢神経系	脳幹	2
知識	解剖生理学	中枢神経系	脳と睡眠	2
知識	解剖生理学	末梢神経系	脊髄神経	2
知識	解剖生理学	末梢神経系	脳神経	2
知識	解剖生理学	自律神経系	自律神経系の中枢	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	解剖生理学	自律神経系	自律神経系の特徴	2
知識	解剖生理学	自律神経系	交感神経系と副交感神経系の作用	2
知識	解剖生理学	感覚	感覚の分類	2
知識	解剖生理学	感覚	皮膚感覚	2
知識	解剖生理学	感覚	深部感覚	2
知識	解剖生理学	感覚	内臓感覚	2
知識	解剖生理学	感覚	味覚	2
知識	解剖生理学	感覚	嗅覚	2
知識	解剖生理学	感覚	視覚	2
知識	解剖生理学	感覚	聴覚・平衡感覚	2
知識	解剖生理学	内分泌系	内分泌系の役目	2
知識	解剖生理学	脳下垂体から分泌されるホルモン	副腎皮質刺激ホルモン	2
知識	解剖生理学	脳下垂体から分泌されるホルモン	成長ホルモン	2
知識	解剖生理学	脳下垂体から分泌されるホルモン	プロラクチン	2
知識	解剖生理学	脳下垂体から分泌されるホルモン	甲状腺刺激ホルモン	2
知識	解剖生理学	脳下垂体から分泌されるホルモン	黄体形成ホルモン	2
知識	解剖生理学	脳下垂体から分泌されるホルモン	卵胞刺激ホルモン	2
知識	解剖生理学	脳下垂体から分泌されるホルモン	メラノサイト刺激ホルモン	2
知識	解剖生理学	脳下垂体から分泌されるホルモン	オキシトシン	2
知識	解剖生理学	脳下垂体から分泌されるホルモン	バゾプレッシン	2
知識	解剖生理学	副腎から分泌されるホルモン	アドレナリン	2
知識	解剖生理学	副腎から分泌されるホルモン	ノルアドレナリン	2
知識	解剖生理学	副腎から分泌されるホルモン	アルドステロン	2
知識	解剖生理学	副腎から分泌されるホルモン	コルチゾール	2
知識	解剖生理学	松果体から分泌されるホルモン	メラトニン	2
知識	解剖生理学	甲状腺から分泌されるホルモン	チロキシン	2
知識	解剖生理学	甲状腺から分泌されるホルモン	カルシトニン	2
知識	解剖生理学	すい臓から分泌されるホルモン	インスリン	2
知識	解剖生理学	すい臓から分泌されるホルモン	グルカゴン	2
知識	解剖生理学	すい臓から分泌されるホルモン	ソマトスタチン	2
知識	解剖生理学	卵巣から分泌されるホルモン	エストロゲン	2
知識	解剖生理学	卵巣から分泌されるホルモン	プロゲステロン	2
知識	解剖生理学	精巣から分泌されるホルモン	テストステロン	2
知識	解剖生理学	呼吸器系	呼吸のあらまし	2
知識	解剖生理学	呼吸器系	外呼吸と内呼吸	2
知識	解剖生理学	呼吸器系	呼吸器の構造	2
知識	解剖生理学	呼吸器系	呼吸運動	2
知識	解剖生理学	呼吸器系	呼吸運動の調節	2
知識	解剖生理学	循環器系	心臓の構造	2
知識	解剖生理学	循環器系	血液循環	2
知識	解剖生理学	循環器系	特殊循環(門脈循環)	2
知識	解剖生理学	循環器系	血圧	2
知識	解剖生理学	循環器系	冠動脈と狭心症・心筋梗塞	2
知識	解剖生理学	循環器系	心臓の興奮伝達系	2
知識	解剖生理学	循環器系	リンパ系の機能	2
知識	解剖生理学	循環器系	リンパ系の循環	2
知識	解剖生理学	循環器系	脂質の運搬	2
知識	解剖生理学	循環器系	リンパ器官	2
知識	解剖生理学	循環器系	リンパ節	2
知識	解剖生理学	消化器系	消化作用	2
知識	解剖生理学	消化器系	口腔	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	解剖生理学	消化器系	食道	2
知識	解剖生理学	消化器系	胃	2
知識	解剖生理学	消化器系	肝臓	2
知識	解剖生理学	消化器系	すい臓	2
知識	解剖生理学	消化器系	小腸	2
知識	解剖生理学	消化器系	大腸	2
知識	解剖生理学	泌尿器系	腎臓の構造	2
知識	解剖生理学	泌尿器系	腎臓の分泌物質	2
知識	解剖生理学	泌尿器系	副腎とは	2
知識	解剖生理学	泌尿器系	副腎のホルモン	2
知識	解剖生理学	生殖器系	月経のメカニズム	2
知識	解剖生理学	生殖器系	妊娠	2
知識	解剖生理学	生殖器系	胚葉分化	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	皮膚の役割	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	皮膚表面の構造	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	皮膚の厚さと大まかな構造	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	表皮	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	基底層	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	有棘層	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	顆粒層	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	角質層バリア	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	皮脂腺	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	汗腺	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	エクリン腺	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	アポクリン腺	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	真皮	2
知識	皮膚科学	皮膚の基本知識	皮下組織	2
知識	皮膚科学	皮脂膜	皮脂膜の役割と分布	2
知識	皮膚科学	皮脂膜	皮脂分泌の過剰が問題	2
知識	皮膚科学	角質層	角質層バリア	2
知識	皮膚科学	角質層	角質層の構造	2
知識	皮膚科学	角質層	表皮ターンオーバー	2
知識	皮膚科学	角質層	角質片の剥がれ方と表皮の生まれ変わり	2
知識	皮膚科学	メラノサイト	肌の色	2
知識	皮膚科学	メラノサイト	日焼け反応	2
知識	皮膚科学	メラノサイト	メラニン生成の要因	2
知識	皮膚科学	毛細血管	毛細血管の働き	2
知識	皮膚科学	毛細血管	体温と皮膚温	2
知識	皮膚科学	毛細血管	気温と皮膚温	2
知識	皮膚科学	線維芽細胞	真皮層	2
知識	皮膚科学	線維芽細胞	線維芽細胞の老化	2
知識	皮膚科学	線維芽細胞	線維芽細胞の働き	2
知識	皮膚科学	皮膚バランス	皮膚バランス	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	紫外線	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	UVBとUVA	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	紫外線の強さ	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	紫外線量の季節変化	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	寒気	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	乾燥	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	加齢	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	月経	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	妊娠	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	更年期	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	精神的ストレス	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	胃腸の不調	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	偏食	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	嗜好品	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	運動不足	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	睡眠不足	2
知識	皮膚科学	肌の美しさを損ねる原因	お手入れ不足	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	肌悩みの年代変化	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	美しい肌のイメージ	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	美しい肌の条件	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	肌タイプ	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	美肌を損なう要因	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	お手入れの4つの視点	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	正しい美容習慣	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	衰えた肌の状態	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	肌を衰えさせる要因	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	衰えた肌のケアポイント	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	シワ	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	ハリ弾力	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	たるみ	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	肌の色の年代変化	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	シミのケア	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	日焼けのケア	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	紫外線防止	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	炎症後の色素沈着	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	老人性色素斑・脂漏性角化症	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	そばかす	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	肝斑	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	摩擦性黒皮症	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	アザ	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	ニキビの状態	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	ニキビの要因	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	ニキビケア	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	アクネ菌	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	ニキビダニ	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	肌荒れ・敏感肌の状態	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	炎症を起こす要因	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	肌荒れ・敏感肌のケア	2
知識	皮膚科学	さまざまな肌状態	アトピー性皮膚炎	2
知識	皮膚科学	肌と環境	肌と地域気候	2
知識	皮膚科学	肌と環境	日射量・湿度の地域差	2
知識	皮膚科学	肌と環境	都市型気候と肌	2
知識	皮膚科学	肌と環境	肌は季節を後追いする	2
知識	皮膚科学	肌と環境	スキンケアの季節区分	2
知識	皮膚科学	肌と環境	スキンケアプランの組み立て方	2
知識	皮膚科学	肌と環境	季節と保湿ケア	2
知識	皮膚科学	肌分析	肌分析を行う上で考慮すべきポイント	2
知識	皮膚科学	肌分析	肌質チェック4つの項目	2
知識	皮膚科学	肌分析	皮脂	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	皮膚科学	肌分析	乾燥	2
知識	皮膚科学	肌分析	敏感	2
知識	皮膚科学	肌分析	UV感受性	2
知識	皮膚科学	肌分析	肌タイプの分類	2
知識	皮膚科学	肌分析	TゾーンとUゾーン	2
知識	皮膚科学	肌分析	普通肌、脂性肌、乾燥肌、混合肌	2
知識	皮膚科学	肌分析	混合肌の増加	2
知識	細菌学	細菌	細菌の種類と型その分類	2
知識	細菌学	細菌の成長と増殖	細菌の活動期、不活動期と動き回る能力	2
知識	細菌学	細菌感染	細菌感染の感染源、感染原因、感染による症状、身体の防衛方法	2
知識	細菌学	免疫	免疫	2
知識	細菌学	保菌者	保菌者	2
知識	細菌学	細菌破壊	細菌を破壊する方法や予防、治療方法	2
知識	細菌学	身体の自衛力	身体の第一、第二、第三の防衛線について	2
知識	細菌学	植物と細菌	有害な植物から出る細菌	2
知識	細菌学	昆虫(寄生虫)	昆虫が運ぶ微生物	2
知識	細菌学	病気の予防	病気予防の為の個人の衛生と公衆衛生	2
知識	皮膚の障害	ｴｽﾃﾃｨｼｬﾝと皮膚科医の相互扶助	エステティシャンと皮膚科医の相互扶助	2
知識	皮膚の障害	皮膚科学の定義	皮膚科学の定義	2
知識	皮膚の障害	皮膚の状態	皮膚の状態	2
知識	皮膚の障害	皮膚の病変	皮膚の病変	2
知識	皮膚の障害	皮膚病に関する用語	皮膚病に関する用語	2
知識	皮膚の障害	皮脂腺の異常	ニキビ、粟粒腫、アクネ、嚢胞、丘疹、ニキビ跡	2
知識	皮膚の障害	ﾌﾞﾗｯｸﾍｯﾄﾞ(黒にきび)の摘出方法	ブラックヘッド(黒にきび)の摘出方法	2
知識	皮膚の障害	ﾎﾜｲﾄﾍｯﾄﾞ(白にきび)の摘出方法	ホワイトヘッド(白にきび)の摘出方法	2
知識	皮膚の障害	汗腺の不調	臭汗症、無汗症、多汗症、あせも	2
知識	皮膚の障害	皮膚の炎症	湿疹、乾癬、ウィルス性疱疹、職業的手荒れ	2
知識	皮膚の障害	皮膚の色素沈着	日焼け、ソバカス、ほくろ、シミ、痣、白斑、しらこ	2
知識	皮膚の障害	肥厚症(角質増殖)	イボ	2
知識	皮膚の障害	老化した皮膚の特徴	シワ	2
知識	皮膚の障害	その他の重大な皮膚病	皮膚癌	2
知識	皮膚の障害	性病	性病	2
知識	皮膚の障害	アレルギー	ｱﾄﾋﾟｰ、ｱﾚﾙｷﾞｰ性皮膚炎、食物ｱﾚﾙｷﾞｰ、花粉症、鼠鼻、じんましん、薬物ｱﾚﾙｷﾞｰ、薬物性皮膚炎、など	2
知識	皮膚の障害	皮膚の再生と回復	皮膚の再生と回復	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	栄養素の種類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	タンパク質	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	アミノ酸	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	脂質	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	炭水化物	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	食物繊維	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	無機質と水	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	カルシウム	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	リン	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	マグネシウム	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ナトリウム	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	カリウム	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	鉄	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	銅	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ヨウ素	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	クロム	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	マンガン	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	亜鉛	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	モリブデン	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	セレン	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	硫黄	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	塩素	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	コバルト	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	水	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ビタミンA	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ビタミンD	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ビタミンK	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ビタミンE	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ビタミンB1	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ビタミンB2	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ニコチン酸	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ビタミンB6	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	葉酸	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	パントテン酸	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ビタミンB12	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	ビタミンC	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	栄養価	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	栄養所要量	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	基礎代謝量	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	エネルギー代謝率	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	エネルギー必要量	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	一日に必要な栄養所要量	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	食欲と空腹感	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	渇感	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	飲食物の消化吸収	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	食品の分類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	食品6群分類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	穀類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	いも類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	豆類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	野菜類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	果実類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	海藻類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	魚介類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	獣鳥肉類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	卵類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	乳類	2
知識	栄養学	栄養学の基礎知識	油脂類	2
知識	栄養学	健康と栄養	栄養状態の判定	2
知識	栄養学	健康と栄養	栄養歴	2
知識	栄養学	健康と栄養	視診と身体検査	2
知識	栄養学	健康と栄養	肥満	2
知識	栄養学	健康と栄養	体型バランス　BMI法	2
知識	栄養学	健康と栄養	体脂肪率	2
知識	栄養学	健康と栄養	美しいプロポーション	2
知識	栄養学	健康と栄養	体型バランスの加齢変化	2
知識	栄養学	健康と栄養	肥満の原因	2
知識	栄養学	健康と栄養	肥満の生理状態	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	栄養学	健康と栄養	肥満の治療	2
知識	栄養学	健康と栄養	中老年期の栄養	2
知識	栄養学	健康と栄養	生活習慣病	2
知識	栄養学	健康と栄養	美しいボディライン作りの栄養	2
知識	栄養学	健康と栄養	美肌作りの栄養	2
知識	栄養学	サプリメント	栄養補助食品とは。	2
知識	栄養学	食品添加物	食品添加物の種類。	2
知識	化粧品学	化粧品概論	化粧品・医薬部外品と薬事法	2
知識	化粧品学	化粧品概論	化粧品の分類	2
知識	化粧品学	化粧品概論	化粧品の品質と品質保証	2
知識	化粧品学	化粧品概論	使用期限	2
知識	化粧品学	化粧品概論	保管方法	2
知識	化粧品学	化粧品概論	使用量	2
知識	化粧品学	化粧品概論	バッチテスト	2
知識	化粧品学	化粧品概論	全成分表示	2
知識	化粧品学	化粧品概論	化粧と化粧品の歴史	2
知識	化粧品学	フェイシャル化粧品	洗顔化粧品	2
知識	化粧品学	フェイシャル化粧品	整肌化粧品	2
知識	化粧品学	フェイシャル化粧品	賦活化粧品の目的と働き	2
知識	化粧品学	フェイシャル化粧品	栄養料	2
知識	化粧品学	フェイシャル化粧品	マッサージ料	2
知識	化粧品学	フェイシャル化粧品	パック・マスク料	2
知識	化粧品学	フェイシャル化粧品	賦活化粧品の主成分	2
知識	化粧品学	ボディ化粧品	洗浄料	2
知識	化粧品学	ボディ化粧品	シェイプアップ料	2
知識	化粧品学	ボディ化粧品	サンケア料	2
知識	化粧品学	ボディ化粧品	制汗・防臭料	2
知識	化粧品学	ボディ化粧品	浴用料	2
知識	化粧品学	ボディ化粧品	脱毛料	2
知識	化粧品学	ボディ化粧品	除毛料	2
知識	化粧品学	ボディ化粧品	脱色剤	2
知識	化粧品学	メイクアップ化粧品	ファンデーション類	2
知識	化粧品学	メイクアップ化粧品	パウダー類	2
知識	化粧品学	メイクアップ化粧品	アイメイクアップ料	2
知識	化粧品学	メイクアップ化粧品	口紅類	2
知識	化粧品学	メイクアップ化粧品	チークメイク類	2
知識	化粧品学	ネイル化粧品	ネイルポリッシュ	2
知識	化粧品学	ネイル化粧品	ポリッシュリムーバー	2
知識	化粧品学	ヘアケア化粧品	洗髪料	2
知識	化粧品学	ヘアケア化粧品	育毛料	2
知識	化粧品学	ヘアケア化粧品	ヘアスタイリング料	2
知識	化粧品学	ヘアケア化粧品	トリートメント料	2
知識	化粧品学	ヘアケア化粧品	パーマネントウェーブ料	2
知識	化粧品学	ヘアケア化粧品	染毛料・ヘアブリーチ	2
知識	化粧品学	フレグランス	香水	2
知識	化粧品学	フレグランス	香水以外のフレグランス	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	使用目的と剤型タイプ	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	水	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	エタノール	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	保湿剤	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	炭化水素、鉱物油	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	化粧品学	化粧品の原料	高級アルコール	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	高級脂肪酸	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	油脂類	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	ロウ類	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	エステル油	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	シリコーン油	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	アニオン界面活性剤	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	カチオン界面活性剤	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	両性界面活性剤	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	非イオン界面活性剤	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	高分子化合物	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	着色剤	2
知識	化粧品学	化粧品の原料	香料	2
知識	化粧品学	化粧品に用いられる薬剤とその働き	紫外線カット剤	2
知識	化粧品学	化粧品に用いられる薬剤とその働き	酸化防止剤	2
知識	化粧品学	化粧品に用いられる薬剤とその働き	防腐防カビ剤	2
知識	化粧品学	化粧品に用いられる薬剤とその働き	美白剤	2
知識	化粧品学	化粧品に用いられる薬剤とその働き	肌荒れ防止剤	2
知識	化粧品学	化粧品に用いられる薬剤とその働き	ニキビ用薬剤	2
知識	化粧品学	化粧品に用いられる薬剤とその働き	制汗・防臭料	2
知識	化粧品学	化粧品に用いられる薬剤とその働き	その他	2
知識	運動生理学	運動生理学とは	運動の必要性	2
知識	運動生理学	運動生理学とは	運動効果	2
知識	運動生理学	運動生理学とは	筋肉について	2
知識	運動生理学	運動生理学とは	筋収縮エネルギー	2
知識	運動生理学	運動生理学とは	筋疲労と超回復	2
知識	運動生理学	運動生理学とは	呼吸・心臓と運動	2
知識	運動生理学	運動生理学とは	血液と運動	2
知識	運動生理学	運動とアンチエイジング	筋肉と老化	2
知識	運動生理学	運動とアンチエイジング	呼吸・心臓と老化	2
知識	運動生理学	運動とアンチエイジング	骨・関節と老化	2
知識	運動生理学	運動とアンチエイジング	メタボリックシンドローム	2
知識	運動生理学	運動とアンチエイジング	ストレスと運動	2
知識	運動生理学	運動と代謝	エネルギー代謝率	2
知識	運動生理学	運動と代謝	糖質と代謝	2
知識	運動生理学	運動と代謝	脂質と代謝	2
知識	運動生理学	運動と代謝	タンパク質と代謝	2
知識	運動生理学	運動と代謝	基礎代謝と運動	2
知識	運動生理学	運動と代謝	消費カロリー	2
知識	運動生理学	運動プログラム	運動プログラム	2
知識	運動生理学	運動プログラム	運動の種類	2
知識	運動生理学	運動プログラム	運動・トレーニングの原則	2
知識	運動生理学	運動プログラム	運動の強度	2
知識	運動生理学	運動プログラム	運動の持続時間・頻度	2
知識	運動生理学	運動プログラム	運動と消費カロリー	2
知識	運動生理学	姿勢・ポジショニング	重力と姿勢	2
知識	運動生理学	姿勢・ポジショニング	カウンターバランスと拮抗関係	2
知識	運動生理学	姿勢・ポジショニング	骨盤の役割	2
知識	運動生理学	姿勢・ポジショニング	股関節の重要性	2
知識	運動生理学	姿勢・ポジショニング	動作と姿勢の関係	2
知識	運動生理学	姿勢・ポジショニング	姿勢と故障の関係	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	運動生理学	運動の実際	ウォーキング	2
知識	運動生理学	運動の実際	ストレッチ	2
知識	エステティック機器学	電気理論	原子と自由電子	2
知識	エステティック機器学	電気理論	イオン結合、共有結合、金属結合	2
知識	エステティック機器学	電気理論	電流と電子	2
知識	エステティック機器学	電気理論	オームの法則、電力、電気量	2
知識	エステティック機器学	電気理論	動電気、静電気	2
知識	エステティック機器学	電気理論	発熱作用、電気分解作用、磁場生成作用	2
知識	エステティック機器学	電気理論	直流と交流	2
知識	エステティック機器学	人体と電気	化学物質による情報伝達、電気的情報伝達	2
知識	エステティック機器学	人体と電気	電気信号伝達のメカニズム	2
知識	エステティック機器学	エステティック機器	エステティック機器の種類	2
知識	エステティック機器学	エステティック機器の原理	低周波機器	2
知識	エステティック機器学	エステティック機器の原理	高周波機器	2
知識	エステティック機器学	エステティック機器の原理	イオン導入	2
知識	エステティック機器学	エステティック機器の原理	電気洗浄	2
知識	エステティック機器学	エステティック機器の原理	超音波	2
知識	エステティック機器学	カウンセリング機器の原理	マイクロスコープ	2
知識	エステティック機器学	カウンセリング機器の原理	ブラックライト	2
知識	エステティック機器学	カウンセリング機器の原理	脂分計	2
知識	エステティック機器学	カウンセリング機器の原理	水分計	2
知識	エステティック機器学	カウンセリング機器の原理	皮膚温度計	2
知識	エステティック概論	エステティックの概念	エステティックとは何か	2
知識	エステティック概論	エステティックの概念	内面美容としてのエステティック	2
知識	エステティック概論	エステティックの本質と領域	エステティックの語源と歴史	2
知識	エステティック概論	エステティックの本質と領域	ソワンエステティック	2
知識	エステティック概論	エステティックの本質と領域	メディカルエステティック	2
知識	エステティック概論	エステティックの本質と領域	ソシオエステティック	2
知識	エステティック概論	ソワンエステティック	ソワンエステティックの目的と期待される効果	2
知識	エステティック概論	ソワンエステティック	スキンタッチの重要性	2
知識	エステティック概論	ソワンエステティック	五感美容	2
知識	エステティック概論	美と健康	健康美心身のバランスから	2
知識	エステティック概論	美と健康	ウェルネス	2
知識	エステティック概論	美と健康	アンチエイジング	2
知識	エステティック概論	エステティシャンとしての心構え	エステティシャンの資質	2
知識	エステティック概論	エステティシャンとしての心構え	ホスピタリティ―マインドの意義	2
知識	エステティック概論	日本のエステティック	日本のエステティックの確立	2
知識	エステティック概論	日本のエステティック	エステティック業界の発展と改革	2
知識	エステティック概論	日本のエステティック	日本のエステティックの課題	2
知識	エステティック概論	日本のエステティック	CIDESCO シデスコ	2
知識	エステティック概論	日本のエステティック	一般社団法人 日本エステティック協会	2
知識	エステティック概論	日本のエステティック	JEO 認定 エステティシャン試験制度	2
知識	エステティック概論	日本のエステティック	エステティック市場の現状と展望	2
知識	エステティック概論	世界のエステティック	欧米における歴史と現状	2
知識	エステティック概論	世界のエステティック	アジアにおける歴史と現状	2
知識	エステティック概論	世界のエステティック	各国のエステティシャン教育と資格	2
知識	関連法規	「法」の基礎知識	社会生活と法	2
知識	関連法規	「法」の基礎知識	法とは社会規範	2
知識	関連法規	「法」の基礎知識	法の強制力	2
知識	関連法規	「法」の基礎知識	法の強制力原則	2
知識	関連法規	「法」の基礎知識	日本の資格制度	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	関連法規	「法」の基礎知識	エステティックと法律	2
知識	関連法規	消費者保護	消費者政策	2
知識	関連法規	消費者保護	エステティックに関連する消費者トラブル	2
知識	関連法規	消費者保護	トラブル対応の心得	2
知識	関連法規	人の身体に直接触れる職業に関連する法律	4つの衛生法規	2
知識	関連法規	人の身体に直接触れる職業に関連する法律	医師法	2
知識	関連法規	人の身体に直接触れる職業に関連する法律	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する法律	2
知識	関連法規	人の身体に直接触れる職業に関連する法律	栄養士法	2
知識	関連法規	人の身体に直接触れる職業に関連する法律	理学療法士および作業療法士法	2
知識	関連法規	人の身体に直接触れる職業に関連する法律	美容師法、理容師法	2
知識	関連法規	人の身体に直接触れる職業に関連する法律	公衆浴場法	2
知識	関連法規	人の身体に直接触れる職業に関連する法律	薬事法	2
知識	関連法規	人の身体に直接触れる職業に関連する法律	健康食品に関する法律	2
知識	関連法規	経済行為に関連する法律	商法	3
知識	関連法規	経済行為に関連する法律	不当景品不当表示防止法、薬事法	3
知識	関連法規	経済行為に関連する法律	個人情報保護	3
知識	関連法規	経済行為に関連する法律	民法	3
知識	関連法規	経済行為に関連する法律	消費者契約法	3
知識	関連法規	経済行為に関連する法律	特定商取引に関する法律	3
知識	関連法規	経済行為に関連する法律	割賦販売法	3
知識	関連法規	経済行為に関連する法律	都道府県条例	3
知識	関連法規	エステティック業界の統一自主基準	エステティックの定義	3
知識	関連法規	エステティック業界の統一自主基準	日本エステティック振興協議会の倫理綱領	3
知識	関連法規	エステティック業界の統一自主基準	サロンの営業に関する遵守事項	3
知識	関連法規	エステティック業界の統一自主基準	サロンでの施術に関する遵守事項	3
知識	関連法規	エステティック業界の統一自主基準	施設、設備に関する遵守事項	3
知識	関連法規	エステティック業界の統一自主基準	衛生に関する遵守事項	3
知識	関連法規	エステティック業界の統一自主基準	教育に関する遵守事項	3
知識	関連法規	エステティック業界の統一自主基準	統一自主基準の違反への対応	3
知識	公衆衛生・衛生管理	公衆衛生	公衆衛生の世界史	2
知識	公衆衛生・衛生管理	公衆衛生	公衆衛生の日本史	2
知識	公衆衛生・衛生管理	衛生管理	衛生管理全般	2
知識	公衆衛生・衛生管理	衛生管理	消毒方法の種類と使用法	2
知識	公衆衛生・衛生管理	衛生管理	消毒の準備と用具	2
知識	公衆衛生・衛生管理	衛生管理	施術にかかわるものの消毒方法	2
知識	公衆衛生・衛生管理	感染症	感染のメカニズム	2
知識	公衆衛生・衛生管理	感染症	エステティックに関連する感染症	2
知識	公衆衛生・衛生管理	衛生管理の実践	手指の洗浄と消毒	2
知識	公衆衛生・衛生管理	衛生管理の実践	消毒剤の効果と特徴	2
知識	接客マナー	笑顔・あいさつ	接客の基本	2
知識	接客マナー	笑顔・あいさつ	美しい笑顔	2
知識	接客マナー	笑顔・あいさつ	理想のあいさつ	2
知識	接客マナー	身だしなみ	身だしなみの注意点	2
知識	接客マナー	言葉遣い	接客基本用語	2
知識	接客マナー	言葉遣い	言葉遣い、敬語	2
知識	接客マナー	態度・振る舞い	サロンの代表として振る舞う	2
知識	接客マナー	態度・振る舞い	来客対応の美しい流れ	2
知識	接客マナー	態度・振る舞い	真心のある効率的なサービス	2
知識	接客マナー	電話対応の心得	電話対応の一連の流れ	2
知識	接客マナー	電話対応の心得	電話をかけるときの注意点	2
知識	接客マナー	基本動作	立ち姿	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	接客マナー	基本動作	歩き方	2
知識	接客マナー	基本動作	美しい座り方	2
知識	接客マナー	基本動作	美しい座り姿	2
知識	接客マナー	基本動作	お辞儀	2
知識	接客マナー	基本動作	案内・誘導	2
知識	接客マナー	基本動作	ものの授受、預かり方	2
知識	接客マナー	基本動作	終了後、会計	2
知識	接客マナー	基本動作	表情トレーニング	2
知識	接客マナー	お客様への心遣い	客の立場への共感、歓迎、ほめ言葉、名前で呼ぶ、恥をかかせない。	2
知識	接客マナー	クレーム処理	トラブルの原因、電話クレーム、表情と言葉遣い、クレームは最後まで聞く。	2
知識	接客マナー	サロン実習	技術的業務と事務的業務	2
知識	接客マナー	サロン実習	サロンワークロールプレイング	2
知識	接客マナー	サロン実習	お客さまの信頼を得るための接客	2
知識	接客マナー	サロン実習	職場における人間関係	2
知識	救急法	救急法の基本	正しい救急法、応急手当、一次救命処理、救助者の心構え。	3
知識	救急法	エステティシャンにかかわる救急法	事前準備、コンサルテーションでの留意、救急の記録	3
知識	救急法	エステティシャンにかかわる救急法	サロンやスパなどで起こりうるアクシデント	3
知識	救急法	エステティシャンにかかわる救急法	救急車の適正な利用	3
知識	救急法	エステティシャンが行う「応急手当」	傷病者の見方と手当ての方法	3
知識	救急法	エステティシャンが行う「応急手当」	応急手当で気をつけること	3
知識	救急法	エステティシャンが行う「応急手当」	止血法の実際	3
知識	救急法	エステティシャンが行う「応急手当」	三角巾の活用	3
知識	救急法	エステティシャンが行う「応急手当」	救急箱の設置	3
知識	救急法	エステティシャンが行う「一次救命措置」	一次救命処置の方法	3
知識	救急法	エステティシャンが行う「一次救命措置」	傷病者の反応の観察	3
知識	救急法	エステティシャンが行う「一次救命措置」	救命処置の流れと具体法	3
知識	救急法	エステティシャンが行う「一次救命措置」	気道遺物除去	3
知識	救急法	エステティシャンが行う「一次救命措置」	エステでのアクシデント実例	3
知識	救急法	傷病者の移動	傷病者の運搬の実際。	3
知識	脱毛	体毛について	体毛の役割	2
知識	脱毛	体毛について	毛の構造	2
知識	脱毛	体毛について	毛の構成成分	2
知識	脱毛	体毛について	毛の発生のメカニズム	2
知識	脱毛	体毛について	体毛の種類	2
知識	脱毛	体毛について	体毛とホルモン	2
知識	脱毛	体毛について	ムダ毛処理方法	2
知識	脱毛	医療脱毛	医療機関での脱毛　電気脱毛(絶縁針脱毛)	3
知識	脱毛	医療脱毛	医療機関での脱毛　医療レーザー脱毛	3
知識	脱毛	医療脱毛	医療機関での脱毛　光脱毛	3
知識	色彩学	色の基礎知識	色を感じるしくみ	3
知識	色彩学	色の基礎知識	色の三属性(色相、明度、彩度)	3
知識	色彩学	色の基礎知識	トーン、イメージ、配色	3
知識	色彩学	色の組み合わせによる効果	光と色の三原色	3
知識	色彩学	色の組み合わせによる効果	色の対比現象、同化現象	3
知識	色彩学	色の組み合わせによる効果	色の見えやすさ	3
知識	メイクアップ	メイクアップ概論	顔の構造	2
知識	メイクアップ	メイクアップ概論	筋肉と表情	2
知識	メイクアップ	メイクアップ概論	顔のプロポーション	2
知識	メイクアップ	メイクアップ概論	メイクアップのための錯覚の応用	2
知識	メイクアップ	メイクアップ概論	メイクアップの目的	2
知識	メイクアップ	メイクアップ概論	準備と用具	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	メイクアップ	メイクアップ概論	化粧品の種類とテクニック	2
知識	マニキュア	マニキュアとは	マニキュアの歴史	3
知識	マニキュア	マニキュアとは	マニキュアの必要性	3
知識	マニキュア	マニキュアとは	ネイル技術体系(ネイルケア、ネイルエクステンション、ネイルリペア、ネイルアート)	3
知識	マニキュア	爪の構造と役割	爪の役割	3
知識	マニキュア	爪の構造と役割	爪の構造と働き	3
知識	マニキュア	爪の構造と役割	爪の発生と成り立ち	3
知識	マニキュア	手の骨格・関節・筋肉・腱	手の骨格・関節・筋肉・腱	3
知識	マニキュア	手の神経と循環組織	手の皮膚知覚神経	3
知識	マニキュア	手の神経と循環組織	触覚受容器	3
知識	マニキュア	手の神経と循環組織	手の循環組織	3
知識	マニキュア	手の神経と循環組織	リンパ系	3
知識	マニキュア	爪の病気とトラブル	爪の病気とトラブル	3
知識	マニキュア	爪の病気とトラブル	色の異常	3
知識	マニキュア	マニキュア化粧品の特徴と効果	マニキュア化粧品の特徴と効果	3
知識	マニキュア	マニキュア化粧品の特徴と効果	ネイルポリッシュの組成	3
知識	ペディキュア	ペディキュアとは	ペディキュアの歴史	3
知識	ペディキュア	ペディキュアとは	ペディキュアの必要性	3
知識	ペディキュア	足の骨格・関節・筋肉・腱	足の骨格、アーチ	3
知識	ペディキュア	足型と特徴	足型の特徴、足底の着力の移動。	3
知識	ペディキュア	爪の病気とトラブル・足のトラブル	爪の病気とトラブル	3
知識	ペディキュア	爪の病気とトラブル・足のトラブル	足のトラブル	3
知識	ペディキュア	ペディキュア化粧品の特徴と効果	ペディキュア化粧品の特徴と効果	3
知識	フィトテラピー(植物療法)	フィトテラピー(植物療法)とは何か	植物療法の歴史	3
知識	フィトテラピー(植物療法)	フィトテラピー(植物療法)とは何か	フィトテラピストの資格	3
知識	フィトテラピー(植物療法)	ハーバリズムとは何か	ハーブと精油の関係	3
知識	フィトテラピー(植物療法)	ハーバリズムとは何か	ハーブ活用法	3
知識	フィトテラピー(植物療法)	ハーバリズムとは何か	フィトテラピーで使われるハーブを有効な症状	3
知識	フィトテラピー(植物療法)	アロマテラピーとは何か	アロマテラピーの活用方法	3
知識	フィトテラピー(植物療法)	アロマテラピーとは何か	精油の作用経路	3
知識	フィトテラピー(植物療法)	アロマテラピーとは何か	アロマテラピーで使われる精油の種類と有効な症状	3
知識	フィトテラピー(植物療法)	アロマテラピーとは何か	精油使用の注意	3
知識	フィトテラピー(植物療法)	アロマテラピーとは何か	保管の注意	3
知識	ハイドロテラピー(水治療法)	ハイドロテラピー(水治療法)とは何か	ハイドロセラピーの歴史	3
知識	ハイドロテラピー(水治療法)	ハイドロテラピー(水治療法)とは何か	水の物理的作用	3
知識	ハイドロテラピー(水治療法)	ハイドロテラピーの実践	ハイドロセラピー、バスセラピーの種類と効果	3
知識	ハイドロテラピー(水治療法)	ハイドロテラピーの実践	バスタブ、シャワーの種類と効果	3
知識	タラソテラピー(海水治療法)	タラソテラピー(海水治療法)	タラソテラピー(海水治療法)	3
知識	リンパドレナージュ	リンパドレナージュとは何か	リンパドレナージュの成り立ちと特徴	3
知識	リンパドレナージュ	リンパ系のしくみ	体液	3
知識	リンパドレナージュ	リンパ系のしくみ	リンパ液	3
知識	リンパドレナージュ	リンパ系のしくみ	リンパ系の構造	3
知識	リンパドレナージュ	リンパ系のしくみ	リンパ系の流れ	3
知識	リンパドレナージュ	リンパ系のしくみ	リンパ液とリンパ系の働き	3
知識	リンパドレナージュ	リンパ系のしくみ	むくみ	3
知識	リンパドレナージュ	リンパドレナージュの手法	リンパ節のポンパージュ	3
知識	リンパドレナージュ	リンパドレナージュの手法	ドレナージュ(往方向の圧迫)	3
知識	リンパドレナージュ	リンパドレナージュの手法	フーラージュ(環方向の圧迫)	3
知識	リンパドレナージュ	リンパドレナージュの手法	リンパドレナージュ施術上のポイント	3
知識	リンパドレナージュ	リンパドレナージュの手法	リンパドレナージュの効果	3
知識	リンパドレナージュ	リンパドレナージュの手法	エステティックへの応用	3

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	リンパドレナージュ	リンパドレナージュの手法	カウンセリング	3
知識	リフレクソロジー	リフレクソロジーとは何か	リフレクソロジーの西洋史	3
知識	リフレクソロジー	リフレクソロジーとは何か	リフレクソロジーの東洋史	3
知識	リフレクソロジー	リフレクソロジーとは何か	リフレクソロジーの目的と効果	3
知識	リフレクソロジー	リフレクソロジーとは何か	足の解剖学	3
知識	リフレクソロジー	リフレクソロジーとは何か	反射区	3
知識	リフレクソロジー	西洋式リフレクソロジーの実践	施術環境	3
知識	リフレクソロジー	西洋式リフレクソロジーの実践	技術者の注意事項	3
知識	リフレクソロジー	西洋式リフレクソロジーの実践	お客様の位置	3
知識	リフレクソロジー	西洋式リフレクソロジーの実践	禁忌事項	3
知識	リフレクソロジー	西洋式リフレクソロジーの実践	施術の方法	3
知識	リフレクソロジー	西洋式リフレクソロジーの実践	基本テクニック	3
知識	東洋医学	東洋医学の特徴・東洋医学の基礎理論	陰陽五行説	3
知識	東洋医学	東洋医学の特徴・東洋医学の基礎理論	気と血	3
知識	東洋医学	東洋医学の特徴・東洋医学の基礎理論	虚と実、補と瀉	3
知識	東洋医学	東洋医学の特徴・東洋医学の基礎理論	経絡と経穴(ツボ)	3
知識	東洋医学	東洋医学の特徴・東洋医学の基礎理論	六臓六腑と経絡	3
知識	東洋医学	東洋医学の特徴・東洋医学の基礎理論	ツボの探し方	3
知識	東洋医学	東洋医学の特徴・東洋医学の基礎理論	東洋医学の診断法(望、聞、問、切)	3
知識	東洋医学	東洋医学に基づいたマッサージ	経絡・経穴に基づいたマッサージ	3
知識	東洋医学	東洋医学に基づいたマッサージ	エステティックへの応用	3
知識	東洋医学	東洋医学に基づいたマッサージ	経絡・経穴に基づいたマッサージ技術のポイント	3
知識	代替療法	代替療法の現状	代替療法(オルタナティブ・セラピー)とは	3
知識	代替療法	代替療法の現状	欧米の代替療法	3
知識	代替療法	代替療法の現状	日本の現状	3
知識	代替療法	代替療法の現状	代替療法を必要とする理由	3
知識	代替療法	代替療法の歴史と主な分類	代替療法の発祥と歴史	3
知識	代替療法	代替療法の歴史と主な分類	代替療法の分類	3
知識	代替療法	エステティックと代替療法	五感の活用によるセラピー	3
知識	代替療法	エステティックと代替療法	マッサージ	3
知識	代替療法	エステティックと代替療法	指圧	3
知識	代替療法	エステティックと代替療法	リフレクソロジー	3
知識	代替療法	エステティックと代替療法	タラソテラピー	3
知識	代替療法	エステティックと代替療法	リンパドレナージュ	3
知識	代替療法	エステティックと代替療法	アロマテラピー	3
知識	代替療法	エステティックと代替療法	ミュージックセラピー	3
知識	代替療法	エステティックと代替療法	カラーセラピー	3
知識	代替療法	エステティックと代替療法	フレーバーセラピー	3
知識	代替療法	代替療法におけるサプリメント(栄養補助食品)	ビタミン・ミネラル不足の解消	3
知識	代替療法	代替療法におけるサプリメント(栄養補助食品)	サプリメントの必要性	3

（10）ネイル[14]

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	ネイルケア	ポリッシュオフ	カラーポリッシュをカラーポリッシュリムーバーで落とす	2
スキル	ネイルケア	ポリッシュオフ	カラーポリッシュをカラーポリッシュリムーバーできれいにかつ素早く落とす	3
スキル	ネイルケア	ファイルング	ナチュラルネイルの形の整え方(タウンドカットスタイル):長さ・形を整える	2
スキル	ネイルケア	ファイルング	ナチュラルネイルの形の整え方(タウンドカットスタイル):バランスを考慮する	3
スキル	ネイルケア	ファイルング	ナチュラルネイルの形の整え方(タウンドカットスタイル):バランス、長さを考慮して素早く施術	4
スキル	ネイルケア	クリーンナップ	キューティクルをプッシュアップして、ルースキューティクルを除去する	2
スキル	ネイルケア	クリーンナップ	ドライケアする	3
スキル	ネイルケア	クリーンナップ	甘皮カットする加減を知り、素早くきれいに処理する	4
スキル	ネイルケア	カラーリング	はみ出すなく塗る	2
スキル	ネイルケア	カラーリング	色むらなく、表面のつやを出し、長持ちさせる	3
スキル	ネイルケア	カラーリング	(ジェルの場合にきれいなフォルムを出す	4
スキル	ネイルケア	カットスタイルのレッスン	5 種類のカットスタイルを順に練習する	2
スキル	ネイルケア	ハンドトリートメント	様々な手技を行いながら、スムーズな流れでハンドトリートメントが行えるようになる	3
スキル	リペア＆イクステンション	ナチュラルネイルのリペア(グルーオンテクニック)	爪の亀裂の広がりをグルーで止め、修復・補強する方法	2
スキル	リペア＆イクステンション	リペア・ラップテクニック③グルー&フィラー(シルク)	ナチュラルネイルの欠損、薄くなる、二枚爪などの場合のシルクを貼ったリペア方法	3
スキル	リペア＆イクステンション	リペア・ラップテクニック⑥レジン(グラスファイバー)	グラスファイバーを貼り、レジンとアクティベーターで形と厚みを整える③同様のリペア方法	3
スキル	リペア＆イクステンション	イクステンションstep1 チップアプリケーション	ネイルチップの装着方法	3
スキル	リペア＆イクステンション	イクステンションstep2③グルー&フィラー(シルク)	ネイルチップをシルクを貼り、グルーとフィラーで形と厚みを整える方法	3
スキル	リペア＆イクステンション	イクステンションstep3⑥レジン(グラスファイバー)	ネイルチップをグラスファイバーを貼り、アクティベーターとレジンで形と厚みを整える方法	3
スキル	ネイルアート	水玉	水玉を描くことで、アクリル絵の具の基本的な使い方	2
スキル	ネイルアート	アーガイルチェック	アーガイルチェックの描き方	2
スキル	ネイルアート	花(バラ)	花(バラ)の描き方	2
スキル	ネイルアート	花(ドロップ型の花びら)	花(ドロップ型の花びら)の描き方	2
スキル	ネイルアート	花(リーフ型の花びら)	花(リーフ型の花びら)の描き方	2
スキル	ネイルアート	レース	曲線、直線、ドットの組み合わせとホログラムののせ方	2
スキル	ネイルアート	逆フレンチ	逆フレンチとラインストーンののせ方	2
スキル	ネイルアート	シェブロン(シボレー)	シボレーのくっきりしたラインの描き方	2
スキル	ネイルアート	ボーダー	様々な素材でボーダーを表現する	2
スキル	ネイルアート	チェック	太いラインと細いラインをバランスよく配置してチェック柄を描く	2
スキル	ネイルアート	ブロッキング	大小の四角に塗り分けるデザイン	2
スキル	アクリル イクステンション	ネイルフォーム装着	正しいネイルフォームの装着方法をマスターする	3
スキル	アクリル イクステンション	ファイリング	イクステンション施術の仕上げであるファイリングのプロセス	3
スキル	アクリル イクステンション	アクリル スカルプチュア(ナチュラル)	アクリルリキッドとアクリルパウダーを混合して使用する造形技術	3
スキル	アクリル イクステンション	アクリル スカルプチュア(フレンチ)	フレンチスタイルに仕上げるインクテンションテクニック	3
スキル	アクリル イクステンション	バーチャル	短いネイルベッドを長く見せるための技術	3
スキル	アクリル イクステンション	ネイルチップの基礎知識と仕込み	ネイルチップの種類、サイズの選びかたや仕込みの方法	3
スキル	アクリル イクステンション	アクリル チップオーバレイ(ナチュラル)	ナチュラルネイルにネイルチップをオーバーレイする技術	3
スキル	アクリル イクステンション	アクリル チップオーバレイ(ホワイト)	ナチュラルネイルにホワイトのネイルチップを装着し、フレンチスタイルに仕上げる技術	3
スキル	アクリル イクステンション	リペア①フローター	ナチュラルネイルの補強、補整するリペアの基本技術(クリアのミクスチュアを使用)	3
スキル	アクリル イクステンション	リペア②ファイルを使ったフィルイン	イクステンションを施した爪が伸びてきた時の修復技術	4
スキル	アクリル イクステンション	リペア③ネイルマシーンを使ったフィルイン	リペア②をネイルマシーンで行うテクニック	4
スキル	アクリル イクステンション	リペア④バックフィル	フレンチスタイルのイクステンションが伸びてきた時の修正技術	4
スキル	アクリル イクステンション	アクリルネイルのオフ①ファイルを使う方法	アクリルネイルをファイルでオフする方法	3
スキル	アクリル イクステンション	アクリルネイルのオフ②ネイルマシーンを使う方法	アクリルネイルをネイルマシーンでオフする方法	3

[14] 「ネイル」の学修成果指標体系は、本校が受託した、平成 28 年度文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」の「ビューティビジネスにおける国際通用性のある中核的専門人材養成機関の教育プログラム開発事業」において構築した「キャリアフレームワーク」をベースに、リカレント教育の要素を考慮したものである。

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	ジェル イクステンション	ジェル スカルプチュア(クリア)	イクステンション用ジェルを使って爪を美しく造形する技術	3
スキル	ジェル イクステンション	ジェル チップオーバーレイ(ホワイト)	ナチュラルネイルにホワイトのネイルチップを装着し、イクステンション用ジェルでオーバーレイする技術	3
スキル	ジェル イクステンション	リペア①フローター	ジェルを用いた補強、補整する技術	3
スキル	ジェル イクステンション	リペア②ファイルを使ったフィルイン	ジェルを用いたイクステンションを施した爪が伸びてきた時の修復技術	4
スキル	ジェル イクステンション	リペア③ネイルマシーンを使ったフィルイン	リペア②をネイルマシーンで行うテクニック	4
スキル	ジェル イクステンション	ジェルネイルのオフ①ファイルを使う方法	ジェルネイルをファイルでオフする方法	3
スキル	ジェル イクステンション	ジェルネイルのオフ②ネイルマシーンを使う方法	ジェルネイルをネイルマシーンでオフする方法	3
スキル	チップ＆ラップ	スキル	チップ＆ラップの用具・用材と使用目的	3
スキル	チップ＆ラップ	チップ&ラップ(シルク&フィラー)	ネイルチップを装着した後シルクを貼り、グルーとフィラーで形と厚みを整える方法	3
スキル	チップ＆ラップ	チップ&ラップ(グラスファイバー&レジン)	ネイルチップを装着した後グラスファイバーを貼り、アクティベーターとレジンで形と厚みを整える方法	3
スキル	ネイルアート	エアブラシ①1色のグラデーション	エアブラシでの1色を重ねる技術の習得	3
スキル	ネイルアート	エアブラシ②2色のグラデーション	2色で奥行きのあるグラデーションを作る技術の習得	3
スキル	ネイルアート	エアブラシ③ネガティブのマスキングを使ったアート	ベースカラーのモチーフが浮かび上がるネガティブマスキング手法	3
スキル	ネイルアート	エアブラシ④ポジティブのマスキングを使ったアート	ポジティブマスキングで輪郭を際立たせるグラデーションの手法	3
スキル	ネイルアート	エアブラシ⑤ネガティブとポジティブのマスキングを使ったアート	ネガとポジの組み合わせで描く方法	3
スキル	ネイルアート	エアブラシ⑥ジェルエアブラシ	粘度を調整したカラージェルを使ったエアブラシでの表現方法	4
スキル	ネイルアート	立体アート①エンボス	ミクスチュアで爪の上にモチーフをつくる技法	3
スキル	ネイルアート	立体アート②3D	あらかじめミクスチュアでつくった立体的なパーツを爪の上で組み立てて装着させる技法	3
スキル	ネイルアート	立体アート③ミックスメディアアート	フラットアート、エンボス、3Dをミックスしたアート技法	3
スキル	ネイルアート	イクステンションアート①アクリル デザインスカルプチュア1	ミクスチュアでモチーフのエンボスを施し、その上をクリアなミクスチュアでオーバーレイする手法	4
スキル	ネイルアート	イクステンションアート①アクリル デザインスカルプチュア2	アクリル デザインスカルプチュア1をクリアなアクリルパウダーとカラーリキッドでオーバーレイする手法	4
スキル	ネイルアート	イクステンションアート②ジェル デザインスカルプチュア	ジェルを使用した、アクリル同様、表面がフラットで精巧なアートが埋め込まれている仕上がりの手法	3
スキル	ネイルアート	イクステンションアート③アクリル+ジェル デザインスカルプチュア	アクリルでベースをつくり、ジェルで精巧なモチーフを描き、最後にトップジェルで仕上げるアート手法	3
スキル	ネイルアート	イクステンションアート④アクリルグラデーション	アクリルのベースをつくり、カラーのミクスチュアでグラデーションにしていく手法	3
スキル	ネイルアート	イクステンションアート⑤ジェルグラデーション	イクステンション用ジェルでベースをつくり、カラージェルでグラデーションにしていく手法	3
スキル	ネイル基本技術	ネイルケア	手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング、キューティクルクリーン	2
スキル	ネイル基本技術	ポリッシュカラーリング	水分油分の除去、ベースコート、ポリッシュ、トップコート	2
スキル	ネイル基本技術	ジェルカラーリング	サンディング、油分除去、ベースジェル、カラージェル、トップジェル	2
スキル	ジェルイクステンション技術	ジェルクリアスカルプチュア A フリーエッジが2~3mmの場合	ネイルフォーム装着、アプリケーション、ファイリング、仕上げ	3
スキル	ジェルイクステンション技術	ジェルクリアスカルプチュア B フリーエッジが1cm程度の場合	ネイルフォーム装着、アプリケーション、ファイリング、仕上げ	3
スキル	ジェルイクステンション技術	ジェルクリアスカルプチュア C オーバルに仕上げる場合	ネイルフォーム装着、アプリケーション、ファイリング、仕上げ	3
スキル	ジェルイクステンション技術	ジェルチップオーバーレイ	ネイルチップ装着、ファイリング、アプリケーション、ファイリング、仕上げ	3
スキル	ジェルオフ技術	ソークオフジェルのオフ	ジェルを削る、リムーバー浸透、オフ	2
スキル	ジェルオフ技術	ハードジェルのオフ	エッジのカット、ジェルを削る	3
スキル	ジェルオフ技術	ネイルマシーンの基本的な使い方	中央、キューティクル際、爪先、サイドウォール近く	3
スキル	ジェルアート技術	グラデーション	カラージェルをグラデーションに塗布する手法、タッピングで色の境をなじませる方法	2
スキル	ジェルアート技術	フレンチカラーリング	爪先を白で塗り分ける手法(基本)	2
スキル	ジェルアート技術	フレンチカラーリング	爪先を白で塗り分ける手法(爪のバランスを考慮し、全てのカーブを揃えたスマイルラインができる)	3
スキル	ジェルアート技術	ピーコック	カラーで線を描き筆で引いて模様を描く手法	2
スキル	ジェルアート技術	マーブル	カラーでドットを描き筆でランダムに引いて模様を描く手法	2
スキル	ジェルアート技術	フラワー	ドットを描き筆で引いて花びらにする手法	2
スキル	ジェルアート技術	グリッターグラデーション	イクステンション用ジェルのベースの上にグリッタージェルをグラデーションに塗布する手法	2
スキル	準備・後始末	美容用具の準備	用具、美材等を準備する	2
スキル	準備・後始末	美容用具の後始末	用具、美材等の後始末をする	2
スキル	カウンセリング	顧客ニーズの把握	ネイルに対する顧客の要望を把握する	4
スキル	カウンセリング	顧客の状態の把握	爪の状態を観察・把握する	4
スキル	カウンセリング	提案・合意形成	ネイルを提案し合意を形成する	4
スキル	カウンセリング	施術後のアドバイス	ホームケアをアドバイスする	4
スキル	カウンセリング	カルテ作り	カルテを作る	4
スキル	カウンセリング	ハンドケア・フットケア	ハンドマッサージを行う	4
スキル	カウンセリング	ハンドケア・フットケア	フットマッサージを行う	4

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	評価・改善	自己評価	チェックシートによる自己評価を行う	3
スキル	評価・改善	継続的な改善	継続的な改善のための取り組みを行う	3
スキル	後進指導・育成	ネイル技術者評価	カウンセリング技術を評価する	5
スキル	後進指導・育成	ネイル技術者評価	ネイルケア技術を評価する	5
スキル	後進指導・育成	ネイル技術者評価	アーティフィシャルネイル技術を評価する	5
スキル	後進指導・育成	ネイル技術者評価	ネイルアート技術を評価する	5
スキル	後進指導・育成	ネイル技術者評価	ハンドケア・フットケア技術を評価する	5
スキル	後進指導・育成	コーチング	目標を設定する	5
スキル	後進指導・育成	コーチング	コーチングとフィードバックを行う	5
スキル	ドライケア	ドライケア	お湯に浸せないクリーンナップ、そしてマシンを使ったケア	3
スキル	ネイルシール	ネイルシールの使い方	ネイルシールの種類を理解し使い方を身に付ける	2
スキル	ネイルパーツ	ネイルパーツの止め方	平面的のパーツや立体的のパーツの止め方	2
スキル	ネイルケア	巻き爪矯正	巻き爪を矯正する	4
知識	基礎知識	ネイルの歴史	ネイルの起源とその発展、日本のネイル史と近現代の動き	2
知識	基礎知識	ネイル技術体系	ネイルの技術の様々な種類を体系で理解する	3
知識	基礎知識	爪の構造と働き	爪の構造とそれぞれの部位の名称とその役割を理解する	2
知識	基礎知識	ネイルのための皮膚科学	爪と皮膚の関係、皮膚の働き、構造などの基礎知識	2
知識	基礎知識	ネイルのための皮膚科学生理解剖学Ⅰ~神経・循環~	指先の鋭い感覚を司る器官、爪の健康に深く関わる血液やリンパの流れについて	2
知識	基礎知識	爪や皮膚の病気とトラブル	爪や皮膚の病気やトラブルについて、その種類、感染の有無等の特性	2
知識	基礎知識	消毒法	手指と器具の消毒についてその意味や使用する薬剤の種類など正しい知識	2
知識	基礎知識	トリートメント理論	トリートメントの目的や効果、その基本手技	3
知識	基礎知識	化粧品学(ネイル用化粧品)	ネイル化粧品の種類と使用目的、内容成分を理解する	4
知識	基礎知識	色彩理論	色彩理論を理解して、基本的な色の選び方を身につける	3
知識	基礎知識	プロフェッショナリズム	常に質の高いサービスを提供するために、ネイリストにとってのプロフェッショナリズムを考える	3
知識	基礎知識	ネイルカウンセリング	ネイルカウンセリングの留意点を整理する	3
知識	基礎知識	ネイルサロン環境	お客様にとって清潔かつ快適で、ネイリストにとって安全安心なネイルサロンの環境とは	3
知識	基礎知識	衛生基準と関連法規	サービスを提供する際に、守るべき衛生基準の意味や衛生行政を含めた法規について	3
知識	ネイルケア	基本的なテーブルセッティング	基本的なテーブルセッティングにおける用具、用材の配置を説明	2
知識	ネイルケア	ネイルケアの用具・用材と使用目的	ネイルケアの用具・用材と使用目的について	2
知識	ネイルケア	その他の用具類と使用目的	その他の用具類と使用目的	2
知識	ネイルケア	カラーリング用品と使用目的	カラーリング用品と使用目的	2
知識	ネイルケア	ネイルケアのステップ	ネイルケアの手順	2
知識	ネイルケア	手指消毒	施術者自身とお客様への擦式清拭消毒の方法	2
知識	ネイルケア	ポリッシュオフ	カラーポリッシュをカラーポリッシュリムーバーで落とす方法	2
知識	ネイルケア	ポリッシュオフ	カラーポリッシュをカラーポリッシュリムーバーできれいにかつ素早く落とす方法	3
知識	ネイルケア	ファイルング	ナチュラルネイルの形の整え方(タウンドカットスタイル):長さ・形を整える方法	2
知識	ネイルケア	ファイルング	ナチュラルネイルの形の整え方(タウンドカットスタイル):バランスの考慮	3
知識	ネイルケア	ファイルング	ナチュラルネイルの形の整え方(タウンドカットスタイル):バランス、長さの考慮と素早さ	4
知識	ネイルケア	クリーンナップ	キューティクルをプッシュアップして、ルースキューティクルを除去する方法	2
知識	ネイルケア	クリーンナップ	ドライケアの方法	3
知識	ネイルケア	クリーンナップ	甘皮カットする加減を知り、素早くきれいに処理する方法	4
知識	ネイルケア	カラーリング	美しく長持ちさせるためのカラーリング工程(はみ出しなく塗る方法)	2
知識	ネイルケア	カラーリング	美しく長持ちさせるためのカラーリング工程(色むらなく、表面のつやを出し、長持ちさせる方法)	3
知識	ネイルケア	カラーリング	美しく長持ちさせるためのカラーリング工程(ジェルの場合にきれいなフォルムを出す方法)	4
知識	ネイルケア	カットスタイリング別ファイリング	5 種類のカットスタイリング別のファイリング方法	2
知識	リペア&イクステンション	リペア&イクステンションの用具・用材と使用目的	リペア&イクステンションの用具・用材と使用目的	2
知識	ネイルアート	ネイルアートに使用する用具・用材と使用目的	ネイルアートに使用する用具・用材と使用目的	2
知識	ネイルアート	ネイルアートの基礎知識	使用する絵の具の種類や色の種類等の知識	2
知識	基礎知識	緑膿菌感染について	緑膿菌感染(グリーンネイル)の症状を理解する	2
知識	アクリル イクステンション	アクリル イクステンションの用具・用材と使用目的	アクリル イクステンションの用具・用材と使用目的を知る	3
知識	アクリル イクステンション	基本のプレパレーション	持ちを良くするために、イクステンション施術前に行うこと	3

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	ジェル イクステンション	ジェル イクステンションの用具・用材と使用目的	ジェル イクステンションの用具・用材と使用目的	3
知識	ジェル イクステンション	基本のプレパレーション	持ちを良くして仕上がりを美しくするために、イクステンション施術前に行うこと	3
知識	ネイルアート	エアブラシの用具・用材と使用目的	エアブラシの用具・用材と使用目的	3
知識	ネイルアート	ジェルエアブラシの用具・用材と使用目的	ジェルエアブラシの用具・用材と使用目的	3
知識	ネイルアート	立体アートの用具・用材と使用目的	立体アートの用具・用材と使用目的	3
知識	アクリルネイルとジェルネイルの材料学	アクリルネイルとジェルネイルの材料	アクリルネイルとジェルネイルの材料を知る	3
知識	アクリルネイルとジェルネイルの材料学	アクリルネイルの材料学	アクリルネイルの構成分子、重合反応・膨潤・溶解などの仕組みを知る	3
知識	アクリルネイルとジェルネイルの材料学	ジェルネイルの材料学	ジェルネイルと重合反応・光重合について知る	3
知識	ジェルネイル基礎理論	ジェルネイル概論	ジェルネイル開発と発展の経緯、ソークオフジェルとハードジェルの特徴	3
知識	ジェルネイル基礎理論	ジェルネイル材料の基礎理論	主要成分、材料の違い、光と重合の基礎、ソークオフジェルとハードジェル、重合反応	3
知識	ジェルネイル基礎理論	ジェルネイル技術体系	ジェルネイルの技術の種類と体系	2
知識	ジェルネイル基礎理論	ジェルネイルの安全な施術とトラブル防止	用材の衛生的取り扱い、安全な施術、ライトと硬化、用材の保管、カウンセリングと確認事項	2

（11）国家試験対策

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	ワインディング	センター構成の巻き方	直径13mm のロッド 6 本を上巻き	2
スキル	ワインディング	センター構成の巻き方	スライス幅は、使用するロッドの直径幅で取り、根元から表、裏面をシェープ	2
スキル	ワインディング	センター構成の巻き方	ロッドの収まりはオンベースで収まるようにストランドの角度は、120 度以上にして巻く	2
スキル	ワインディング	センター構成の巻き方	ロッドにまかれた毛髪をロッドの長さまで広げて巻き込み、ロッドの中央にゴームをかける	2
スキル	ワインディング	センター構成の巻き方	第 3 ブロックに直径 12mm のロッド 4 本を下巻きで巻く	2
スキル	ワインディング	センター構成の巻き方	ロッドの収まりは 2 分の1オフベースで収まるように、ストランドの角度は 90 度、頭皮に対して直角に引き出して巻く	2
スキル	ワインディング	センター構成の巻き方	注意点は、オンベースから2分の1オフベースにつながる第2ブロックの6本目の角度をやや下げ、第 3 ブロックの12mmのロッド1本目をやや上げて巻くとロッドの配列のバランスが取れる	2
スキル	ワインディング	センター構成の巻き方	第4ブロックに直径 11mmのロッド 3 本と 10mmのロッド 2 本を続けて巻く	2
スキル	ワインディング	センター構成の巻き方	センターでは 4 種類のすべての太さのロッドを使用	2
スキル	ワインディング	センター構成の巻き方	ネープはのベース幅に応じた本数のショートロッドを使用	2
スキル	ワインディング	フロント構成スライスの取り方	第 1 ブロックの横幅を正中線で半分に分ける	2
スキル	ワインディング	フロント構成スライスの取り方	左側のフロント角から後方の正中線に向けて斜めに分けとる	2
スキル	ワインディング	フロント構成スライスの取り方	取った斜めの線の奥から0.8㎝の位置に右側のフロント角からつなげると三角形ベースになる	2
スキル	ワインディング	フロント構成スライスの取り方	正中線から右側 4cm 幅を 3 等分、左斜めラインを 3 等分にし、分け取ると 3 つのベースになる	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	ワインディング	フロント構成スライスの取り方	第 5 ブロックのフェースライン下の角から第 1 ブロックの右後ろ角につなげる	2
スキル	ワインディング	フロント構成スライスの取り方	フェースラインの縦幅を 2 等分にし、第 1 ブロックの後ろラインの残りを 2 等分にして 5 つのベースにする	2
スキル	ワインディング	フロント構成スライスの取り方	フェースラインのベース幅よりセンター側のベース幅がやや広くなる	2
スキル	ワインディング	フロント構成巻き方	フロントからは頭部の丸みに沿ってロッドがラウンドするように巻き収める	2
スキル	ワインディング	フロント構成巻き方	使用するロッドは 13mm のショート 2 本とロング 3 本をオンベースで巻く	2
スキル	ワインディング	フロント構成巻き方	3 本目からは、取ったスライス線と平行に巻くことで扇方に収まる	2
スキル	ワインディング	フロント構成巻き方	左腕の肘を上げて巻くことでフェース側にロッドが浮かずにバランスよく収まる	2
スキル	ワインディング	右バックサイド構成巻き方	バックサイド 13mm のロッド 4 本をオンベースで巻き収める	2
スキル	ワインディング	右バックサイド構成巻き方	スライスの取り方はセンター側のロッドの直径 1.5 幅で、サイド側は 13mm のロッドの直径幅で取る	2
スキル	ワインディング	右バックサイド構成巻き方	4 本目は、センターの6本目のロッドと同じ位置に巻き収めるように下巻きで巻く	2
スキル	ワインディング	右バックサイドのネープ構成巻き方	ロッド 12mm から 10mm のロッドを使用し 2 分の 1 オフベースで巻く	2
スキル	ワインディング	右バックサイドのネープ構成巻き方	右側のスライス幅は使用するロッドの直径幅で、左側のスライス幅は、12mm ロッドの直径幅は 1.3 倍、11mm は 1.5 倍、10mm はロッドの幅で取る	2
スキル	ワインディング	右バックサイドのネープ構成巻き方	スライス線の位置はセンターのロッドに合わせて取る	2
スキル	ワインディング	右バックサイドのネープ構成巻き方	ロッドは、頭部の丸みに沿ってラウンドするように巻き収める	2
スキル	ワインディング	右バックサイドのネープ構成巻き方	ネープに向かってショートロッドを使用する	2
スキル	ワインディング	右バックサイドのネープ構成巻き方	ネープのロッドの収まりが横にならないようにスライス線の取り方に注意が必要	2
スキル	ワインディング	右サイド構成巻き方	サイドはショートロッド 12mm の 2 本と 11mm の 2 本を 2 分の1オフベースで巻き収める	2
スキル	ワインディング	右サイド構成巻き方	立ち位置はサイドブロックの正面に立つことで、フェイスライン側にロッドが浮かずにきれいに収まる	2
スキル	ワインディング	左バックサイド構成巻き方	第9ブロックのフェースライン下の角から第 1 ブロックの左後ろ角につなげる	2
スキル	ワインディング	左バックサイド構成巻き方	フェースラインの縦幅を 2 等分にし、第 1 ブロックの後ろラインの残りを 2 等分にして2つのベースにする	2
スキル	ワインディング	左バックサイド構成巻き方	左フロント 13mm のロッド 2 本をオンベースで巻く	2
スキル	ワインディング	左バックサイド構成巻き方	バックサイドの 13mm ロッド 4 本も右側と同様にオンベースで巻く	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	ワインディング	左バックサイド構成巻き方	スライス線の取る位置やストランドの角度も右側同様に行うことでロッドの収まりがよくなり、バランスが取れる	2
スキル	ワインディング	左バックサイド構成巻き方	左側のスライス幅は使用するロッドの直径幅で、右側のスライス幅は、13mm のロッドは直径幅の 1.5 倍で取る	2
スキル	ワインディング	左バックサイドネープ構成巻き方	右側同様にバックサイド 12mm から 10mm のロッドを使用し頭皮の丸みに沿ってラウンドするように巻き収める	2
スキル	ワインディング	左バックサイドネープ構成巻き方	13mm ロッド同様に、左側のスライス幅は使用するロッドの直径幅で、右側のスライス幅は 12mm ロッドの直径幅は 1.3 倍、11mm は 1.5 倍、10mm はロッドの幅で取る	2
スキル	ワインディング	左バックサイドネープ構成巻き方	ネープに向かってショートロッドを使用する	2
スキル	ワインディング	左サイド構成巻き方	右側同様にショートロッド12mm2本、11mm2本を2分の1オフベースで収める	2
スキル	ワインディング	左サイド構成巻き方	巻く時の立ち位置も少し顔側にすることでロッドが浮かずに綺麗に収まる	2
スキル	ワインディング	終了後の手直し	ロントの収まり、左右のシンメートリ、バック側からセンタの収まり、左右のバックサイドのシンメートリをチェック	2
スキル	オールウェーブセッティング	1 段目作り方	正中線から左側 45 度に毛流れを作り、緩やかな半円、馬蹄形を作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	1 段目作り方	スカルプチュアカールはカウンタークロックワイズワインドカールのスカルプチュアカールを 5 個作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	1 段目作り方	カールは正中線から奥行き 6 ㎝の位置でスカルプチュアカールの 4 個目のスライスを先に取っておく	2
スキル	オールウェーブセッティング	1 段目作り方	1 個目のカールのスライス位置は、正中線から 3.5 ㎝の位置で、1.5㎝で幅をコームのテールで毛髪を分け取り、左示指はスライスした線上に置き、毛髪をしっかり押さえたままコームで毛髪を反時計回りに回転させ、ループを作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	1 段目作り方	裏面に左拇指と表に示指で持ってストランドを裏面にし、もう一度シェープ	2
スキル	オールウェーブセッティング	1 段目作り方	毛先を内側に巻き込んでループの裏面を表に戻し、ステムの上に収め片面打ちでスライス線と平行にピニング	2
スキル	オールウェーブセッティング	1 段目作り方	1 個目のカールはループの半分が顔面に出るように収める	2
スキル	オールウェーブセッティング	1 段目作り方	2個目からはループとループはオーバーラップさせてピニング	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	2段目からフィンガウェーブを作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	1段目のカールの下の毛流れを右45度に流す	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	その後ウェーブの半円を作っていく	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	コームで右側に45度の方向に毛を動かして、想定したウェーブ幅の2分の1の所に左示指で押さえながらコームを回転させ左45度に毛流れを作る	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	ウェーブの毛流れはオープン側からクローズ側へ進んでいく	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	繰り返し半円の毛流れを作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	半円の完成した位置からリッジの想定線より1㎝以内の上に左示指を置いて、コームの歯を立てた状態で示指の下に置き、オープン側に2～3㎝移動	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	引き終わった場所でコームの歯先を上に向けて軽く3回くらい押さえながらクローズ側に戻り、隆起している毛髪の上と下から左示指と中指で空気を抜きながら押さえ、コームを左示指に対して垂直におろす	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	このとき、リッジをつままないように注意	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	もう一度示指の下にコームを置いて、毛髪を右下45度の方向にコームを移動させ、下の段の毛流れまで作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	半円の幅は、左サイド側は耳上4段のウェーブ幅が必要なので 3.5 ㎝くらい、右側は3段のウェーブ幅になるので4cm くらいバランスを取りながら作ることが大事	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	3段目の両サイドまで、ウェーブを作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	2段目から3段目のウェーブの作り方	両サイドのフェイスラインはウェーブの半円が顔面に出るように作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	3段目のスカルプチュアカールの作り方	3段目からはおおむね、3等分し、左側、中央、右側3分の1ずつにする	2
スキル	オールウェーブセッティング	3段目のスカルプチュアカールの作り方	3段目の中央にスカルプチュアカールを6個作る。左右のサイドはウェーブが作られているのでウェーブの毛流れに合わせてカールの毛流れも同じ方向にする	2
スキル	オールウェーブセッティング	3段目のスカルプチュアカールの作り方	カール1個目のスタートは正中線の位置から3㎝右側に移動した位置からスライスを取り始める	2
スキル	オールウェーブセッティング	3段目のスカルプチュアカールの作り方	スライスの位置はウェーブ幅の 2 分の1、トローの位置で取る	2
スキル	オールウェーブセッティング	3段目のスカルプチュアカールの作り方	カールの作り方は1段目と同様	2
スキル	オールウェーブセッティング	3段目のスカルプチュアカールの作り方	コームのテールで毛髪を分け取り、左示指はスライスした線上に置き、毛髪をしっかり押さえたままコームで毛髪を反時計回りに回転させ、ループを作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	3段目のスカルプチュアカールの作り方	裏面に左拇指と表に示指で持ってストランドを裏面にし、もう一度シェープ	2
スキル	オールウェーブセッティング	3段目のスカルプチュアカールの作り方	毛先を内側に巻き込んでループの裏面を表に戻し、ステムの上に収め片面打ちでピニング	2
スキル	オールウェーブセッティング	3段目のスカルプチュアカールの作り方	3 段目のカールはループの上部がウェーブのリッジにつく位置に収める	2
スキル	オールウェーブセッティング	3段目のスカルプチュアカールの作り方	カールを6個作り終わったら、ウィッグを前に回し、中央に収まってるかをチェック	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目から6段目の両サイドフィンガーウェーブの作り方	3段目のカールが終わったところから左サイドのフィンガーウェーブとピンカールの境目から流れに沿って分け取りフィンガーウェーブを6段まで作る	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	オールウェーブセッティング	4段目から6段目の両サイドフィンガーウェーブの作り方	その後、右サイドのフィンガーウェーブとピンカールのつなぎ目の位置から流れに沿って分け取り6段までのフィンガーウェーブを作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目から6段目の両サイドフィンガーウェーブの作り方	終了後は、ウィッグをまっすぐした状態で、左右のウェーブ幅のバランスやリッジのつながりをチェック	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目から6段目の両サイドフィンガーウェーブの作り方	中央側のウェーブ幅は 4.5 ㎝くらいの幅になるように作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目から6段目の両サイドフィンガーウェーブの作り方	7 段目のカールを作るために 6 段目のウェーブ幅のトローの位置で分け取り毛髪は上部の位置にアメピンでとめおく	2
スキル	オールウェーブセッティング	7段目のクロッキノールカールの作り方	6段目の両サイドのフィンガーウェーブのリッジを壊さないように半円の毛流れにシェープをし、4つに分け取る	2
スキル	オールウェーブセッティング	7段目のクロッキノールカールの作り方	根元から5㎝離れた位置でストランドの裏面に左示指を入れてシェープ	2
スキル	オールウェーブセッティング	7段目のクロッキノールカールの作り方	ストランド表面が外側に出るように、表、裏がねじらようにしながら指先に向けてらせん状に巻きつける	2
スキル	オールウェーブセッティング	7段目のクロッキノールカールの作り方	巻き終わった毛先を左母指で押さえ、コームのテール先でステムの位置を少し上げながら左示指を立てコームの先を使ってループを頭皮につける	2
スキル	オールウェーブセッティング	7段目のクロッキノールカールの作り方	さらにループの直径をコームのテールで広げ、ループの中に中指を入れた状態で両面打ちのピニング	2
スキル	オールウェーブセッティング	7段目のクロッキノールカールの作り方	ここで注意点は、ストランドを持ち上げないこと	2
スキル	オールウェーブセッティング	7段目のクロッキノールカールの作り方	1 個目のカールと 4 個目のカールはリッジの真下に収める	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目のリフトカールの作り方	両サイドのウェーブのトローの位置に合わせて分け取る	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目のリフトカールの作り方	ウェーブの毛流れに合わせて、右斜め縦スライスでストランドを 5 つに分け取る	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目のリフトカールの作り方	ステムの方向、角度はウェーブのリッジ線に合わせた位置(45 度以上)にテンションを加えてシェープ	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目のリフトカールの作り方	左母指を表面、左示指を裏面に持ったまま、ストランドを時計回りに円を描くようにシェープし、ステムに立ち上がりを付けたままループを作る	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目のリフトカールの作り方	作ったループはスライス線上に巻き収める	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目のリフトカールの作り方	ループの上部はフィンガーウェーブのリッジラインにつながる	2
スキル	オールウェーブセッティング	4段目のリフトカールの作り方	カールとカールはオーバーラップするようにして収める	2
スキル	オールウェーブセッティング	5段目のリフトカールの作り方	両サイドのウェーブのトローの位置に合わせて分け取る	2
スキル	オールウェーブセッティング	5段目のリフトカールの作り方	ウェーブの毛流れに合わせて、左斜め縦スライスでストランドを 5 つに分け取る	2
スキル	オールウェーブセッティング	5段目のリフトカールの作り方	ループの作り方は 4 段目と同じ	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	オールウェーブセッティング	5段目のリフトカールの作り方	ステムの方向、角度はウェーブのリッジ線に合わせた位置(45 度以上)にテンションを加えてシェープ	2
スキル	オールウェーブセッティング	5段目のリフトカールの作り方	左母指を表面になるように持って、コームをストランとの裏面から入れて毛先までシェープし、ステムに立ち上がりを付けたままループを作り、作ったループはスライス線上に収める	2
スキル	オールウェーブセッティング	5段目のリフトカールの作り方	カールとカールはオーバーラップするようにして収める	2
スキル	オールウェーブセッティング	6段目のメイポールカールの作り方	リフトカール同様に、両サイドのウェーブのトローの位置に合わせて分け取る	2
スキル	オールウェーブセッティング	6段目のメイポールカールの作り方	メイポールカールは、右斜め縦スライスでストランドを3つに分け取る	2
スキル	オールウェーブセッティング	6段目のメイポールカールの作り方	ストランドの角度は持ちあげずにステムの方向を決め表と裏をはっきりさせてシェープ	2
スキル	オールウェーブセッティング	6段目のメイポールカールの作り方	ピポットポイントに左示指をあて、ストランドの表面が外側になるように巻き付ける	2
スキル	オールウェーブセッティング	6段目のメイポールカールの作り方	一周する手前で左中指をループの大きさを決める位置にあててストランドを指先に巻き付ける	2
スキル	オールウェーブセッティング	6段目のメイポールカールの作り方	そのとき外側のループを左薬指で押さえながらストランドを巻き、毛先はコームのテールでループのしたに入れ込む	2
スキル	オールウェーブセッティング	6段目のメイポールカールの作り方	ピニングはループの内側の中指、示指の 2 本の間にステムに対して直角にアメピンをうち、オニピンを交差するように打ちループを止める	2
スキル	オールウェーブセッティング	6段目のメイポールカールの作り方	メイポールカールのピニングはクロス掛けにする	2
スキル	オールウェーブセッティング	終了後のチェック	ウェーブの構成は作りながら手直しができるので、やりながら気になるところは直す	2
スキル	オールウェーブセッティング	終了後のチェック	ピニングは一列ことに同じ方向に揃うようにする	2
スキル	カッティング	トップとフロントの前髪のつなぎ	前髪のカット:トップポイントを中心に直径約 4 センチ幅を円形に丸く取り、垂直に持ち上げ、指定の 10cm の長さにカット	2
スキル	カッティング	トップとフロントの前髪のつなぎ	前髪のカット:トップの4㎝幅から両側のウィッグの黒目の内側を目安にフェースラインに向かって分け取り、長方形のベースに	2
スキル	カッティング	トップとフロントの前髪のつなぎ	前髪のカット:ベースの生え際から 2cm 幅を分け取り、前髪が自然に下ろした状態で、指定の長さ 6cm でカット	2
スキル	カッティング	トップとフロントの前髪のつなぎ	トップとフロントのつなぎ:トップ 10cm とフロントのガイド6㎝の長さをオンベースで引き出し、正中線上でカット	2
スキル	カッティング	フロント部分のヘムラインのカット	前髪からもみあげ、外耳へのガイドをとりヘムラインをつなげる:トップから左右イヤーツーイヤーで分ける	2
スキル	カッティング	フロント部分のヘムラインのカット	前髪からもみあげ、外耳へのガイドをとりヘムラインをつなげる:フェースラインに沿っ	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
			てもみあげまでもみあげから耳上の生え際に沿って 2 ㎝幅のガイドを取る	
スキル	カッティング	フロント部分のヘムラインのカット	前髪からもみあげ、外耳へのガイドをとりヘムラインをつなげる:両サイドのもみあげ長さは、もみあげ先端部分を四角くベースでとり、顎先に向かって引き出し、指定の長さ 10 ㎝でカット:	2
スキル	カッティング	フロント部分のヘムラインのカット	前髪からもみあげ、外耳へのガイドをとりヘムラインをつなげる:外耳はバック部分とつなげやすくするための目安として、約 5mm の幅を 13 ㎝で斜めにカットし、もみあげと外耳をつなげる	2
スキル	カッティング	フロント部分のヘムラインのカット	もみあげ長さから前髪の長さにつなげる:サイドのガイドとフロントガイドは、顔面側に台座と平行になるように引き出してつなげる	2
スキル	カッティング	フロント部分のヘムラインのカット	もみあげ長さから前髪の長さにつなげる:右側同様に行う	2
スキル	カッティング	フロントのレイヤーカット	サイドの毛髪を顔面側の方へ引き出し、ガイドに合わせてカット	2
スキル	カッティング	フロントのレイヤーカット	毛髪の量が多い場合は 2 回に分けてカット	2
スキル	カッティング	フロントのレイヤーカット	またトップフロントラインにサイドの毛髪を引き上げ、長い部分をカット	2
スキル	カッティング	フロントのレイヤーカット	左右同じようにする	2
スキル	カッティング	フロントのレイヤーカット	毛髪の量が多い場合は 2 回に分けてカット	2
スキル	カッティング	サイドのレイヤーカット	トップからもみあげの先端をつなぐラインを取る。そのラインを挟む両サイド 1 ㎝幅のベースの中心に対してオンベース、90 度以上引き上げてつなげていく	2
スキル	カッティング	サイドのレイヤーカット	もみあげのガイドのトップ側とつなげる	2
スキル	カッティング	サイドのレイヤーカット	サイドの部分をすべて、トップともみあげライン上に引き出し、 切り残しの無いようにカット	2
スキル	カッティング	サイドのレイヤーカット	両サイド同じようにカットして、フロント部分を仕上げる	2
スキル	カッティング	バック部分のブロッキングとヘムラインのカット	バック部分のブロッキングは、トップからネープに向かって正中線を引き2つに分ける	2
スキル	カッティング	バック部分のブロッキングとヘムラインのカット	次は、両耳上部から水平に正中線に向かってラインを引く。交わったところがバックポイント	2
スキル	カッティング	バック部分のブロッキングとヘムラインのカット	バックの上段は止めておく	2
スキル	カッティング	バック部分のブロッキングとヘムラインのカット	左右外耳からネープへと 2 ㎝幅でバックのヘムラインのガイドのベースをとる	2
スキル	カッティング	バック部分のブロッキングとヘムラインのカット	ネープの中心 5 ㎝幅を自然に落ちる方向にシェープし、ネープの生え際を指定の 10 ㎝の長さにカット	2
スキル	カッティング	バック部分のブロッキングとヘムラインのカット	次は、ネープ 10 ㎝と外耳の 13 ㎝をつなげる	2
スキル	カッティング	バック部分のブロッキングとヘムラインのカット	幅が広いのでコームを利用して中間の長さを決めてつなげるとつなぎやすい	2
スキル	カッティング	バック部分のブロッキングとヘムラインのカット	ステムの角度は持ち上げずにカット	2

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
スキル	カッティング	バック部分のブロッキングとヘムラインのカット	左右とも同じようにフロント部分のヘムラインとバック部分のヘムラインがつながるようにする	2
スキル	カッティング	バック部分下段のレイヤーカットモヒカンガイド	正中線のバックポイントに横幅 4 ㎝の毛髪を 5 ミリ程分け取り、指定の 10 ㎝にカットし、BP のガイドを作る	2
スキル	カッティング	バック部分下段のレイヤーカットモヒカンガイド	バックポイントからネープに向かって 4 ㎝幅のベースを分け取り、オンベースに引き出して、バックポイントとネープのガイドにつなげる	2
スキル	カッティング	バック部分　:バックポイントから下段のレイヤーカットの仕上げ	下段の毛髪をすべて、真横に上部へ引き上げて、モヒカンラインとヘムラインの間にまだカットしていない部分をカット	2
スキル	カッティング	バック部分　:バックポイントから下段のレイヤーカットの仕上げ	センターのモヒカンを基準に左右別々い分けてやるとやりやすい	2
スキル	カッティング	バック部分　:バックポイントから下段のレイヤーカットの仕上げ	これをカットすることで、上部のレイヤーカットの目安となるガイドになる	2
スキル	カッティング	バック部分 上段のレイヤーカット トップからネープ	正中線のトップから横幅 4 ㎝でバックポイントまでベースを分けとる	2
スキル	カッティング	バック部分 上段のレイヤーカット トップからネープ	オンベースに引き出して 10 ㎝の長さでトップから BP までレイヤーカット	2
スキル	カッティング	バック部分 上段のレイヤーカット トップからネープ	右のトップからみつえりへと結ぶラインから内側の毛髪をセンターに寄せて正中線上でカット	2
スキル	カッティング	左右のバックサイドのレイヤーカット	ップから両みつえりにつないだラインを中心に両側 1 ㎝ずつの幅の取りオンベースに引き出してレイヤーでカット	2
スキル	カッティング	左右のバックサイドのレイヤーカット	次にイヤーツーイヤーのラインから後ろの毛髪をみつえりラインに引き寄せ、みつえりライン上でレイヤーのつながりを整える	2
スキル	カッティング	左右のバックサイドのレイヤーカット	センターに寄せてカットしたバックサイドの毛髪が目安になる	2
スキル	カッティング	左右のバックサイドのレイヤーカット	バックサイドはトップからみつえりに向かい、毛髪の長さは少しずつ長くなる	2
スキル	カッティング	左右のバックサイドのレイヤーカット	最後にサイド側の1㎝とイヤーツーイヤのラインからバックサイド側の毛髪を合わせてオンベースで引き出し、角度をあげてレイヤーのつながりを整える	2
スキル	カッティング	チェックカット	1　ヘムラインのつながり 2　トップ➡フロントのつながり 3　左右サイドのレイヤーカット 4　トップ➡ネープのつながり 5　左右のバックサイドのレイヤーカット 6　トップ、フロント、もみあげ、ネープの長さ	2

(12) マネジメント

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	美容業界の構造と経営課題	業界構造の課題	サロン数の過剰・競争激化	3
知識	美容業界の構造と経営課題	業界構造の課題	クーポン依存・低価格競争の常態化	3
知識	美容業界の構造と経営課題	業界構造の課題	SNS や口コミによる評価時代への移行	3
知識	美容業界の構造と経営課題	経営課題	集客数の減少とリピーターの確保	3
知識	美容業界の構造と経営課題	経営課題	美容師の人材不足と離職率の高さ	3
知識	美容業界の構造と経営課題	経営課題	流行・社会情勢の影響と売上変動	3
知識	美容業界の構造と経営課題	経営リスク	倒産件数の増加(地方と都市部の構造差)	3
知識	美容業界の構造と経営課題	経営リスク	造的な人材難と供給過多の併存	3
知識	サロン運営の基礎	経営管理の基礎	売上・客単価・稼働率の管理	3
知識	サロン運営の基礎	経営管理の基礎	固定費(人件費・家賃・材料費)の把握	3
知識	サロン運営の基礎	経営管理の基礎	損益分岐点・帳簿管理の理解	3
知識	サロン運営の基礎	店舗運営力の強化	時間管理・スタッフ配置の最適化	3
知識	サロン運営の基礎	店舗運営力の強化	IT ツール(予約・レジ・カルテ等)の活用	3
知識	サロン運営の基礎	店舗運営力の強化	接客マナー・施術手順の標準化	3
知識	サロン運営の基礎	法令遵守と衛生管理	消毒・薬剤管理などの衛生基準順守	3
知識	サロン運営の基礎	法令遵守と衛生管理	労務管理(労働時間・休憩・残業)	3
知識	サロン運営の基礎	ブランディングと雰囲気づくり	店舗の世界観・内装・香り・音楽	3
知識	サロン運営の基礎	ブランディングと雰囲気づくり	サービスの「選ばれる理由」の明確化	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	顧客維持とリピート施策	初回来店フォローと顧客情報の活用	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	顧客維持とリピート施策	SNS・スタンプカード・クーポン	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	顧客維持とリピート施策	クーポンサイト依存のリスクと自社囲い込み	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	サービス品質とメニュー改善	技術力・接客品質の継続的チェック	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	サービス品質とメニュー改善	高付加価値メニュー(ヘッドスパ等)の導入	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	サービス品質とメニュー改善	カウンセリングとパーソナライズ提案の強化	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	働きやすい職場づくり	勤務時間短縮・休日制度・有休制度の整備	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	働きやすい職場づくり	公平な評価制度と報酬体系の確立	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	スタッフ育成とキャリア設計	OJT・外部研修・トレンド教育の推進	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	スタッフ育成とキャリア設計	キャリア観の転換(山登り型→筏下り型)	3
知識	顧客マネジメントと人材育成	スタッフ育成とキャリア設計	柔軟な働き方と多様な経験の価値化	3
知識	経営の成功事例と失敗事例	成功事例の紹介	apish(継続的学習と経営者の成長)	3
知識	経営の成功事例と失敗事例	成功事例の紹介	STRAMA(技術研鑽と顧客満足の追求)	3
知識	経営の成功事例と失敗事例	失敗事例とその教訓	技術依存・数字管理不足による経営破綻	3
知識	経営の成功事例と失敗事例	失敗事例とその教訓	ワンマン経営・チーム運営の不全	3
知識	今後の展望	マネジメントスキルの重要性	サロン運営力＝総合力(数字・人・空間)	3
知識	今後の展望	マネジメントスキルの重要性	学び続ける姿勢と異業種からの吸収	3
知識	今後の展望	未来に向けた視点	SNS・顧客データ活用によるデジタル戦略	3
知識	今後の展望	未来に向けた視点	フリーランス対応・シェアサロン導入	3
知識	今後の展望	未来に向けた視点	人材定着とキャリア支援の両立	3
知識	ブランドマネジメントの重要性と役割	サロン経営におけるブランドの必要性	美容業界の競争環境(コンビニよりも多い店舗数)	3
知識	ブランドマネジメントの重要性と役割	サロン経営におけるブランドの必要性	単なるロゴやデザインではないブランド戦略	3
知識	ブランドマネジメントの重要性と役割	サロン経営におけるブランドの必要性	顧客に選ばれる価値づくり	3
知識	ブランドマネジメントの重要性と役割	ブランド構築による経営効果	顧客ロイヤリティの向上	3
知識	ブランドマネジメントの重要性と役割	ブランド構築による経営効果	競合との差別化	3
知識	ブランドマネジメントの重要性と役割	ブランド構築による経営効果	広告に頼らない集客	3
知識	ブランドマネジメントの重要性と役割	ブランド構築による経営効果	適正価格での安定経営	3
知識	ブランド構築のステップと戦略	ブランドコンセプトの明確化	ペルソナ設定(具体的なターゲット像)	3
知識	ブランド構築のステップと戦略	ブランドコンセプトの明確化	提供価値の言語化	3
知識	ブランド構築のステップと戦略	差別化要素の明確化	USP(独自の強み)の洗い出し	3
知識	ブランド構築のステップと戦略	差別化要素の明確化	看板メニューの設計	3
知識	ブランド構築のステップと戦略	視覚と体験の統一	ロゴ・内装・制服等の一貫性	3

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	ブランド構築のステップと戦略	視覚と体験の統一	サービス内容と接客の整合性	3
知識	ブランド構築のステップと戦略	情報発信戦略	ターゲットに合った SNS・媒体活用	3
知識	ブランド構築のステップと戦略	情報発信戦略	コンセプトに合った発信トーン	3
知識	日常運営におけるブランド体現	スタッフ教育とブランド浸透	理念の共有と朝礼	3
知識	日常運営におけるブランド体現	スタッフ教育とブランド浸透	マニュアルとロールプレイ研修	3
知識	日常運営におけるブランド体現	顧客体験の一貫性	接客・空間演出のブレなさ	3
知識	日常運営におけるブランド体現	顧客体験の一貫性	五感への配慮（香り・BGM・味覚など）	3
知識	日常運営におけるブランド体現	品質管理とフィードバック	トラブル対応の誠実さ	3
知識	日常運営におけるブランド体現	品質管理とフィードバック	アンケートや SNS 評価の活用	3
知識	ブランドの発信と成長展開	ブランドの外部発信	SNS・ブログでの世界観演出	3
知識	ブランドの発信と成長展開	ブランドの外部発信	顧客との双方向コミュニケーション	3
知識	ブランドの発信と成長展開	ブランド価値の拡張	商品開発や多店舗展開時の一貫性	3
知識	ブランドの発信と成長展開	ブランド価値の拡張	品質を維持するライン設計	3
知識	ブランドの発信と成長展開	人材・業界評価との連動	採用面での優位性	3
知識	ブランドの発信と成長展開	人材・業界評価との連動	出身スタッフによる信頼の波及	3
知識	まとめと今後への提言	ブランドの本質と意義	ブランド＝無形資産であること	3
知識	まとめと今後への提言	ブランドの本質と意義	小規模サロンにも必要な戦略	3
知識	まとめと今後への提言	今後の実践ポイント	ミッション・コンセプトの明確化	3
知識	まとめと今後への提言	今後の実践ポイント	日々の積み重ねによる信頼構築	3
知識	まとめと今後への提言	今後の実践ポイント	時代変化に合わせた柔軟な進化	3

（13）財務会計

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	財務諸表分析の意義	財務諸表の種類と役割	貸借対照表（B/S）	3
知識	財務諸表分析の意義	財務諸表の種類と役割	損益計算書（P/L）	3
知識	財務諸表分析の意義	財務諸表の種類と役割	キャッシュフロー計算書（C/F）	3
知識	財務諸表分析の意義	分析の重要性	経営健全性や収益性の評価	3
知識	財務諸表分析の意義	分析の重要性	投資判断・経営改善の基礎資料	3
知識	財務諸表分析の意義	分析の重要性	実務スキルとしての有用性	3
知識	分析の視点と指標	安全性	流動比率	3
知識	分析の視点と指標	安全性	自己資本比率	3
知識	分析の視点と指標	安全性	債務返済能力の確認	3
知識	分析の視点と指標	収益性	売上高当期純利益率	3
知識	分析の視点と指標	収益性	ROE（自己資本利益率）	3
知識	分析の視点と指標	収益性	本業の収益力・資本効率	3
知識	分析の視点と指標	効率性	総資本回転率	3
知識	分析の視点と指標	効率性	棚卸資産回転日数	3
知識	分析の視点と指標	効率性	経営資源の活用度合い	3
知識	分析の視点と指標	成長性	売上高・利益の前年比伸び率	3
知識	分析の視点と指標	成長性	将来性・市場拡大力の評価	3
知識	実践演習と事例分析	分析の流れ	財務諸表の読解	3
知識	実践演習と事例分析	分析の流れ	数値の把握と解釈	3
知識	実践演習と事例分析	分析の流れ	前提条件（業種・規模など）の共有	3
知識	実践演習と事例分析	実際の分析例	安全性：流動比率 100%以上、自己資本比率低め	3
知識	実践演習と事例分析	実際の分析例	収益性：良好な利益率と ROE	3
知識	実践演習と事例分析	実際の分析例	効率性：業界平均並みの回転率	3
知識	実践演習と事例分析	実際の分析例	成長性：前年比プラスの推移	3
知識	結論と学びの示唆	学びの要点	客観的評価に不可欠な財務分析	3
知識	結論と学びの示唆	学びの要点	指標の組み合わせによる多面的判断	3
知識	結論と学びの示唆	学びの要点	手を動かして学ぶ重要性	3

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	結論と学びの示唆	今後の応用	習得した分析手法の継続的活用	3
知識	結論と学びの示唆	今後の応用	現実の企業データへの応用力強化	3
知識	結論と学びの示唆	今後の応用	実務力を意識した継続的学習の必要性	3

（14）人材育成

区分	大項目	中項目	小項目	レベル
知識	背景と目的	美容業界における人材の重要性	高度な技術と顧客対応力の必要性	3
知識	背景と目的	美容業界における人材の重要性	サロン成長を支える人的資本	3
知識	背景と目的	高離職率の実態と課題	美容師の早期離職（1 年で 50%、3 年で 80%）	3
知識	背景と目的	高離職率の実態と課題	若年層中心の業界構造	3
知識	背景と目的	高離職率の実態と課題	育成と定着支援の必要性	3
知識	現状と課題	OJT 中心の育成と限界	現場指導の属人化	3
知識	現状と課題	OJT 中心の育成と限界	指導者不足とマニュアル不整備	3
知識	現状と課題	業界構造的な問題	低待遇（給与・労働時間・休日）	3
知識	現状と課題	業界構造的な問題	職場環境（人間関係・ストレス）	3
知識	現状と課題	業界構造的な問題	キャリアパスの不明確さ	3
知識	サロンにおける育成実践例	ステップアップ型育成モデル	技術習得目標の段階的設定	3
知識	サロンにおける育成実践例	ステップアップ型育成モデル	技術チェック・ロールプレイ研修の定期実施	3
知識	サロンにおける育成実践例	ステップアップ型育成モデル	サービスマニュアル・技術手順書の整備	3
知識	サロンにおける育成実践例	モチベーション維持と評価制度	成功体験の積み重ね	3
知識	サロンにおける育成実践例	モチベーション維持と評価制度	合格による業務範囲拡大（例：ジェルネイル）	3
知識	サロンにおける育成実践例	接客マインドの育成	接客シミュレーション研修	3
知識	サロンにおける育成実践例	接客マインドの育成	コミュニケーション能力向上のための取り組み	
知識	キャリア形成支援と定着率向上	キャリア面談と目標設定	定期的な個人面談	
知識	キャリア形成支援と定着率向上	キャリア面談と目標設定	将来像に応じた役割・研修の提供	
知識	キャリア形成支援と定着率向上	キャリアパスの提示	トップ技術者、マネージャー、教育担当など多様な道	
知識	キャリア形成支援と定着率向上	キャリアパスの提示	昇進制度・表彰制度による可視化と動機付け	
知識	キャリア形成支援と定着率向上	心理的安全性と風通しの良い職場文化	相談しやすい職場づくり	
知識	キャリア形成支援と定着率向上	心理的安全性と風通しの良い職場文化	学習意欲と定着率の向上	
知識	結論と学生への示唆	人材育成は投資である	技術・サービス品質向上による経営効果	
知識	結論と学生への示唆	人材育成は投資である	「人が育てばサロンが育つ」という信念	
知識	結論と学生への示唆	社会人基礎力としての育成視点	新人時の自己成長意識	
知識	結論と学生への示唆	社会人基礎力としての育成視点	リーダー時の育成マインドの重要性	
知識	結論と学生への示唆	普遍性のある人材育成の教訓	業界を超えて通じる人材育成の重要性	
知識	結論と学生への示唆	普遍性のある人材育成の教訓	現場目線での人の成長支援の姿勢	3

４　カリキュラム開発

４-１　カリキュラム開発の考え方

(1)　カリキュラムの全体像

カリキュラムの全体像として、本事業では、技術領域とマネジメント領域を大別した。技術領域では、毛髪、シャンプー、カット、パーマ、カラーなどのヘア領域と、メイクアップ、エステティック、ネイルなどヘア以外の領域に大別した。マネジメント領域では、美容経営管理、顧客サービスとサービス提供、美容業界知識に大別した（下図）。

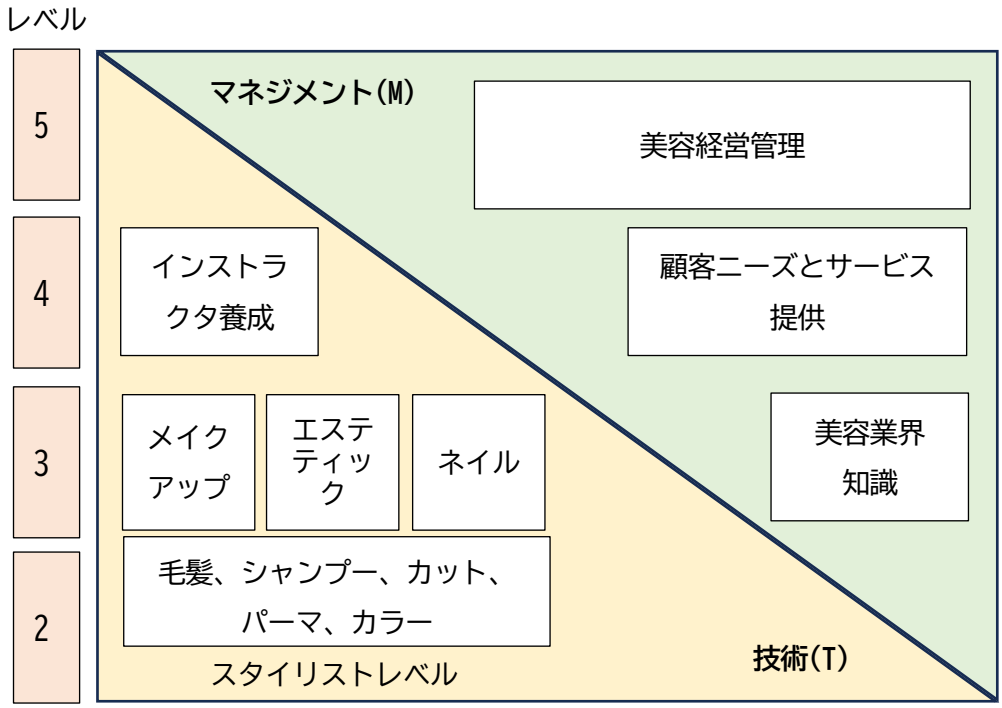


図 11　カリキュラムの全体像

(2)　マネジメント領域

マネジメント領域では、レベル３として「美容業界知識」を取り上げた。美容業界の特性、特徴、規制の有無、その他全般に渡って、マネジメント知識の基礎となる事項を学習する。

レベル４として「顧客ニーズ」を取り上げた。美容サロンに来店する顧客のニーズをとらえることは、同じレベルの技術領域である「インストラクタ養成」とも対応し、必須の事項である。

レベル 5 として「美容経営管理」を取り上げた。ここでは、美容サロン経営に必要な知識、例えば、会社の起業から、経営財務状況の把握、経営戦略など幅広く学習する。

(3) 技術領域

技術領域では、レベル 2～3 として、ヘアの各領域を取り上げ、レベル 3～4 として、ヘア領域以外の 3 領域、メイクアップ、エステティック、ネイルなどの実践技術を取り上げた。

レベル 2～3 は、美容師免許を取得した次の段階である。美容サロンでは、スタイリスト、あるいは、ビューティシャンに向けた修業の機会であり、まさに、「実践的な」技術を磨く段階である。

レベル 3 は、スタイリストレベルであるから、ずばり「スタイリストレベル技術」を磨く観点から科目を配すべきである。

レベル 4 は、各種技術領域を対象とした「インストラクタ」の養成科目を配すべきである。

4-2　カリキュラム

以下、今回開発した各科目のシラバスを示す。

(1)　マネジメント領域

●レベル 5　マネジメント

回	テーマ	内容	方式	時間
1	イントロダクション	・マネジメント領域学習の重要性 ・ブランドマネジメントの基礎 ・財務会計の基礎 ・人材育成の基礎	講義	1.5
2 3	マネジメント	・美容業界の構造と経営課題 ・サロン運営の基礎 ・現場マネジメントの基本 ・顧客マネジメントとスタッフ育成 ・実践例と課題 ・成功事例と改善点 ・結論と今後の展望	講義	3.0
4	ブランドマネジメント	・サロン経営におけるブランドマネジメントの重要性 ・独自ブランド構築のステップと差別化戦略 ・ブランド体験の提供と日常運営 ・ブランド価値の発信と顧客ロイヤリティの醸成 ・まとめと今後への示唆	講義	1.5
6 7	財務会計	・講義の背景と目的 ・財務諸表分析の意義 ・分析の視点と指標 ・実践演習と事例分析	講義	3.0

回	テーマ	内容	方式	時間
8 9	人材育成	・背景と目的 ・現状と課題 ・サロンにおける育成実践例 ・キャリア形成支援と定着率向上 ・結論と学生への示唆	講義	3.0
	合計			12.0

（2） 技術領域

●レベル 4　インストラクタ養成

回	テーマ	内容	方式	時間
1	教育理論と指導方法	・教育心理学の基本 ・教育法や学習スタイルに関する理解 ・クラス構造と効果的な授業計画	講義･演習	3.0
2	基本的な美容知識と技術	・美容の基本概念と歴史 ・ヘアスタイリングの基本技術 ・ネイルケア基本技術 ・エステティック基本技術 ・皮膚ケアと基本的なフェイシャルトリートメント ・その他の基本知識と技術	講義･演習	3.0
3			講義･演習	3.0
4	指導技術とフィードバック	・実技の指導方法とテクニック ・学習者への適切なフィードバックの提供 ・クラス内での学習者の進捗の追跡と評価	講義･演習	3.0
5			講義･演習	3.0
6	業界トレンドと最新技術	・美容業界のトレンドと進化 ・最新の美容技術と製品の研究 ・学修者に対して常に最新情報を提供する方法	講義･演習	3.0
7			講義･演習	3.0

回	テーマ	内容	方式	時間
8	コミュニケーションスキルと顧客サービス	・学修者とのコミュニケーションスキルの向上 ・クライアントとの効果的なコミュニケーション ・顧客サービスの重要性と技術	講義･演習	3.0
9			講義･演習	3.0
10	法規制と倫理規定	・美容業界の法規制と倫理規定 ・ライセンスの取得に必要な要件 ・倫理的な問題に対処する方法	講義･演習	3.0
11			講義･演習	3.0
12	実習と実践経験	・美容サロンや学内サロンでの実地経験 ・学修者が実際の状況で指導経験を積む機会の提供	実習	3.0
13			実習	3.0
14	プロフェッショナル開発とキャリアサポート	・キャリアの計画と目標設定 ・履歴書の書き方や面接の技術 ・美容インストラクターとしてのキャリアの構築戦略	講義･演習	3.0
15			講義･演習	3.0
	合計			45.0

「インストラクタ養成」のシラバスでは、美容業界での成功を目指す学修者に必要な知識、スキル、および実践的な経験を提供することが期待される。

●レベル 3　国家試験対策（VR 教材使用）

回	テーマ	内容	方式	時間
1	イントロダクション	・VR の使い方説明 ・実習環境の説明	講義	1.5
2	カッティング	・VR を使用した演習	実習	1.5
3	ワインディング	・VR を使用した演習	実習	1.5
4	オールウェーブセッティング	・VR を使用した演習	実習	1.5
	合計			6.0

5　実証講座開発

5-1　実証講座実施の考え方

前章で説明したカリキュラムから、本事業のリカレント教育ニーズに鑑みて、実証講座を開発した。

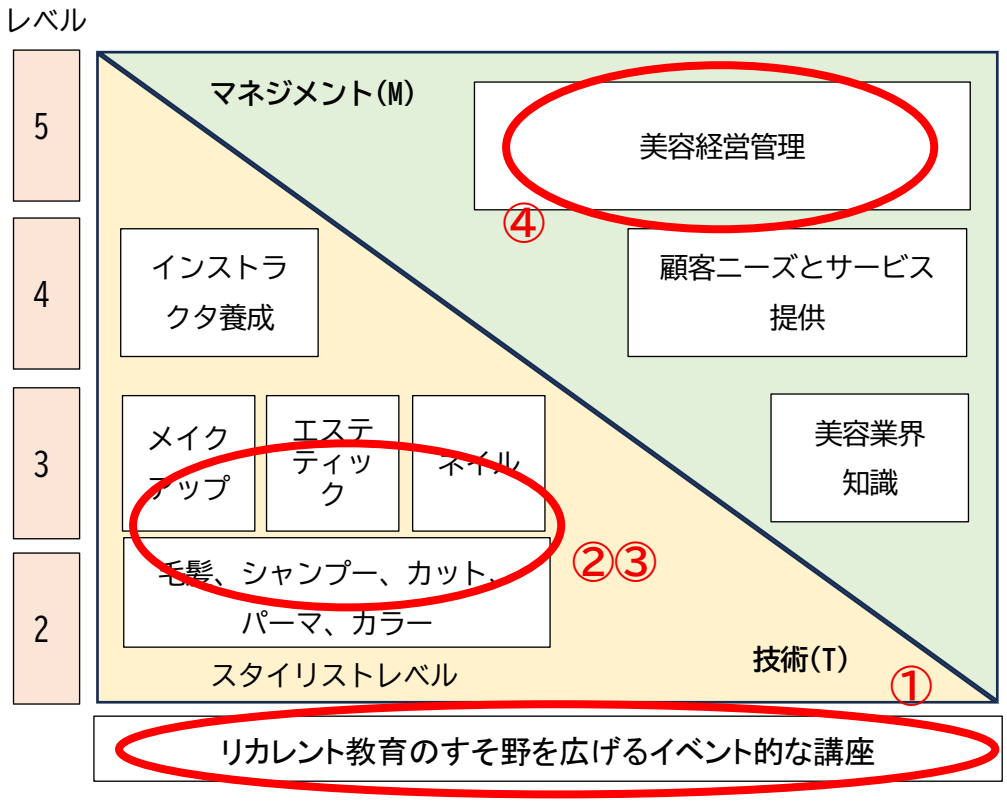


図 12　実証講座開発の考え方

上図は、本事業におけるカリキュラム開発の考え方と、実証講座として開発した①～⑥の位置関係を表したものである。

まず、①は、昨年度事業において、「リカレント教育」を対象としていること、美容の高齢者マーケットが拡大していることなどから、その教育のすそ野を広げるためのイベント的な講座を、前振り段階として実施してはどうか、との発想から実施することにした講座（イベントの名称は「MINATO シニアコレクション」）が好評だったことを受け、本年度も実施することにした。具体的には、港区のご協力を得て、「MINATO シニアコレクション」を企画した（下図）。

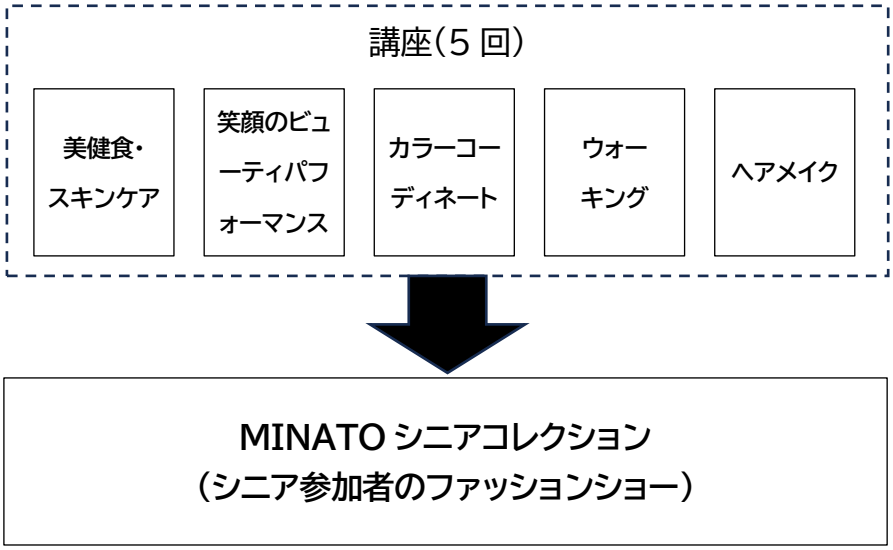


図 13　MINATO シニアコレクションの構成図

シニアコレクションは、最終的に、シニア参加者によるファッションショーで、参加者に対しては、そのための準備段階として、5 回から成る講座を実施するものである。トータルビューティは楽しさから、楽しさを地元の社会人と共有することにより、リカレント教育の下地を広げる役割を持つ講座としてとらえることにした。この講座とショーの実施を通じて、地元民に本校のリカレント教育に対する取組をアピールし、その教育の内容の充実を図る。

次に、②は、本事業で開発した VR 動画を用いた「国家試験対策講座」を開発・実施することにした。具体的には、本校の高度美容専門課程における社会人クラスを対象として、VR 動画を用いた講座とした。③は、高度美容課程生を対象にして、VTR を用いた講座を実施した。

最後に、④は、本学の大学院生を対象にして、主として「トータルビューティビジネス論」の授業枠を借りて、マネジメント講座として実施した。

５-２　実証講座の実施

(1)実証講座の実施内容

① MINATO シニアコレクション

第 1 回	**2025 年 9 月 4 日（木）14:00～16:00** **美健食・スキンケア** **ジェニー牛山(美健食)　ハリウッド大学院大学教授** **光江　弘恵(スキンケア)　ハリウッド大学院大学講師**

●キャッチ

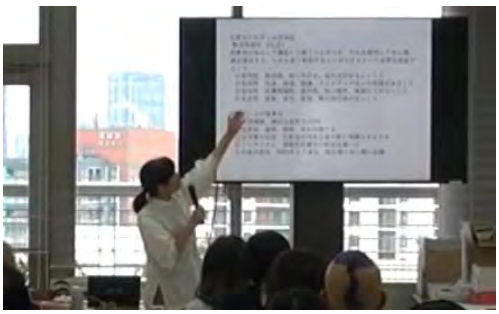
<美健食>

美は生命の輝き。健康と美容は果菜食から。朝食の大切さをお話しします。

<スキンケア>

自己流になっているスキンケアを見直してみませんか。日々のお手入れを楽しくしましょう。





第 2 回	**2025 年 9 月 18 日（木）14:30～16:00** **笑顔のビューティパフォーマンス** **佐藤　綾子　ハリウッド大学院大学特任教授**

●キャッチ

昨年出版の自著 201 冊目の最新作「人生がうまくいく笑顔の教科書」の内容と 2 つの医学学会の発表内容も含めて、皆様に笑顔の魅力を知っていただきます。講師オリジナルの「かめあす体操」をしながら、血中酸素濃度もあげて、イキイキした表情筋の動きで幸福感を実感しましょう。





第 3 回	2025 年 9 月 18 日（木）16:10～17:40 カラーコーディネート 山田　晶子（ハリウッド大学院大学講師） 横山　庄藏（一般社団法人日本カラリスト協会専務理事）

●キャッチ

シニア世代のカラーコーディネートは、顔映りを明るくする暖色系（赤・オレンジ）や上品な緑、紫をメインに取り入れ、白・紺・グレーなどのベーシックカラーと組み合わせるのが基本です。









第 4 回	2025 年 10 月 2 日（木）14:30～16:00 ウォーキング 玉利かおる　ハリウッド大学院大学准教授 MANAMI　トータルビジュアルプロデューサー・モデル

●キャッチ

歩くという最も身近な全身運動。正しい歩き方を身につけると自分の脚で歩き続ける身体づくりに役立ち、スタイルアップやダイエットなど嬉しい効果も。あなたの魅力とオーラを引き出すウォーキングのテクニックもお伝えします。




第 5 回	2025 年 10 月 2 日（木）16:10～17:40 ヘアメイク 渡邊　雅美　ハリウッド大学院大学教授 津久間　由美　ハリウッド美容専門大学校講師

●キャッチ

ヘアスタイルの仕上がりがうまくいかない？　メイクアップがイメージ通りにいかない？　何が違うのかしら？　色々なお悩みをスッキリ解消、楽しみながら自然な自分を演出してみませんか。




第 6 回	2025 年 10 月 25 日（土）13:30～15:00 MINATO シニアコレクション ファッションショー

本校は、港区の外郭団体公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団(愛称：Kiss ポート財団)が展開されている「みなと区民大学」に協力しており、2025 年度も昨年度に引き続き、みなと民大学を開催した。

今年度は 9 月 4 日(木)・9 月 18 日(木)・10 月 2 日(木)の 3 日間(全 5 回)、ファッション＆ビューティ講座～いきいきと美しく輝いて生きる～を開催し、その成果を披露するファッションショーとして、港区×学校法人メイ・ウシヤマ学園 生活支援体制整備事業「MINATO シニアコレクション 2025―美しく輝く私とこの港区(まち)で―」を実施した。







② 国家試験対策講座（VR 使用）

2025 年 12 月 18 日（木）9:00～15:40
国家試験対策講座（VR 使用）
　神田　紗那　ハリウッド美容専門大学校講師



神田講師から講座の趣旨について説明を受ける。



VR の使い方についてインストラクタから指導を受ける。



一通り、VR の使い方について理解する。



熱心に VR 動画を見入る学生たち。



VR 動画を見て、カッティングの準備に入る学生たち

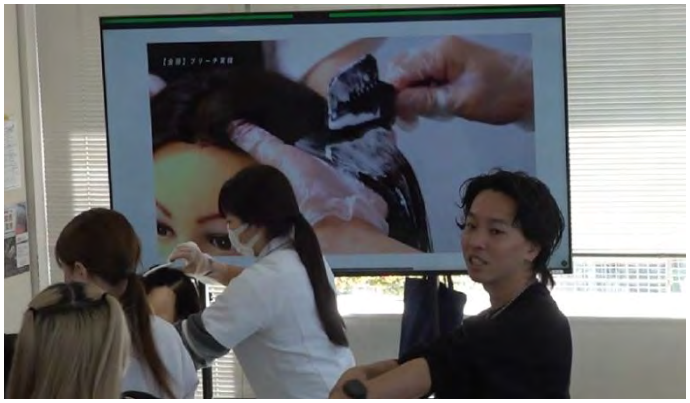


VR 動画で学んだことを、実際にウィッグを使って試す学生たち

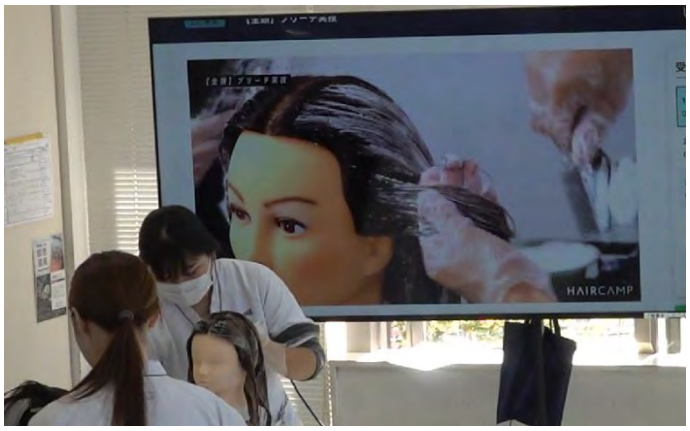
③ VTR 講座

2025 年 11 月 17 日(月)、12 月 1 日(月)、12 月 8 日(月)、12 月 15 日(月)
時間帯はいずれの日も 9:00～10:30、10:40～12:10
VTR 講座　　大島　優喜　ハリウッド美容専門大学校講師

（11 月 17 日　カラーリング　VTR 使用）



VTR を使った学習の目的について理解させる。

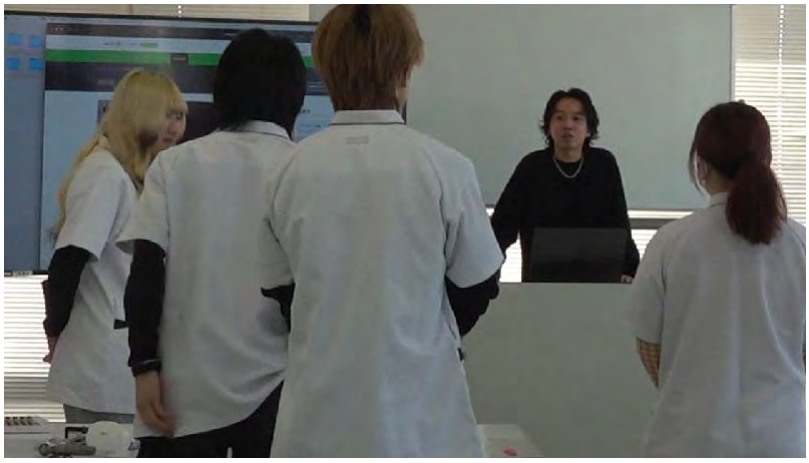


第 1 回はカラーリングの VTR を使った授業を実施する。



VTR を使った授業を受けた後、早速、ウィッグを使った練習を行う。

（12 月 1 日　カット、メイクアップ　VTR 使用）



カット、メイクアップについて、VTR を参考にした授業を行う。その趣旨について大島講師から説明を行う。



まず、カット。VTR を十分に見た後、講師の指導の下でウィッグを使った実習を行う。



次に、メイクアップ。VTR を十分に見た後、講師の指導の下でウィッグを使った実習を行う。

（12 月 8 日　カット、カラー　既存 VR 使用）



既存で公開された VR 動画を、VR ゴーグルではなく、スマートフォンを使って再生する方式に関する説明を行う。



まずは、VR 動画（360 度動画）をよく見て、学習のポイントをつかむ。



VR 動画で見たことを思い出しながらウィッグを使って実習する。

（12 月 15 日　カット、カラー　既存 VR 使用）



前回実施した既存 VR 動画を使った実習のポイントを復習指導。



熱心な復習に講師の熱も入る。



360 度動画の例。

④ マネジメント講座

●イントロダクション　　山中　祥弘　講師

第 1 回	2025 年 10 月 1 日（水）18:20～19:50



【講座の背景と目的】

講義の冒頭で山中氏は、現代の政策立案において「実証」（エビデンス）の重要性が高まっている背景を説明しました。少子高齢化や技術革新など社会課題が複雑化する中、勘や経験だけに頼る従来型の政策決定では限界があり、客観的なデータに基づく検証が不可欠だと指摘しました。実証講座はまさに政策担当者や研究者が科学的根拠に基づくアプローチを学ぶ場であり、本講義の目的も実証実験の意義や方法を共有し、より効果的な政策形成につなげることにあります。山中氏自身の専門分野や経験に触れつつ、政策の現場と学術的知見を橋渡しする姿勢が示されました。



発言者たち

【エビデンスに基づく政策立案の重要性】

山中氏は「エビデンスに基づく政策立案（EBPM）」の重要性を強調しました。政策効果を事前に推測するだけでなく、小規模な実証実験で実際に試行しデータを得ることで、政策の有効性や副作用を客観的に評価できると述べています。特に海外では政策決定前にランダム化比較試験（RCT）などを用いて施策の効果検証を行っており、日本においてもこうした手法を積極的に取り入れる必要性があると語りました。例えば教育や福祉の分野では、エビデンスに基づく施策によって予算の重点化やプログラム改善が進んでおり、山中氏はデータ分析と現場の知見を組み合わせることで「きめ細やかな対応が可能になる」と指摘しました。このように、科学的根拠に裏付けられた政策立案は行政の説明責任を高め、限られた資源を効果的に配分する手段になると結論づけました。

【実証実験の進め方と具体例】

講義の中盤では、山中氏が効果的な実証実験の進め方について具体的に解説しました。まず政策目的に対応した仮説設定と評価指標の明確化が重要であり、次に少人数の対象地域やグループで施策を試行するパイロット事業を設計すると述べています。実証実験では関係者の理解と協力を得るため、目的や方法を透明に示し、必要に応じて専門家と連携してデータ収集と分析を行うことが推奨されました。山中氏は国内外からいくつかの事例を紹介し、例えば生活者の脱炭素行動を促す協創型の実証プロジェクトでは、学校での環境教育と店舗でのキャンペーンを組み合わせた施策を試み、アンケートや購買データを分析して有効なアプローチを検証したと説明しました。また横浜市で進められている地域交通の実証実験では、得られたビッグデータを基に次世代の統合的な移動サービス（MaaS）の検討が行われており、実証によって新たなサービス設計の方向性が示されたと述べています。これらの具体例を通じて、実証実験は理論を現場で検証しフィードバックを得る有効な手段であることが示されました。

【講義で示された成果と知見】

山中氏は自身が関与したプロジェクトや最新の研究知見から、実証実験によって得られた主な成果や教訓を紹介しました。あるプロジェクトでは実証を通じて対象者の行動変容が数値で確認できただけでなく、副次的な効果（例：周辺住民の意識向上や組織間連携の強化）も明らかになったとしています。実証データの分析により、当初想定していなかった課題やボトルネックを発見できたケースもあり、山中氏は「失敗から学ぶことも実証の重要な成果である」と強調しました。さらに、実証結果から得られた知見が政策に反映された例として、脱炭素プ

ロジェクトでは効果的だった施策を拡大実施し、効果の乏しかった施策は中止・見直しするなどメリハリのある政策展開につなげたことを挙げました。講義ではデータ解析の具体的な手法（統計解析や AI の活用など）にも触れられ、山中氏は専門家だけでなく行政職員自身が基礎的な分析スキルを身につける必要性にも言及しました。これらの知見は、実証に基づく PDCA サイクルを行政に根付かせる上で貴重な示唆を与えるものです。

【結論と今後への示唆】

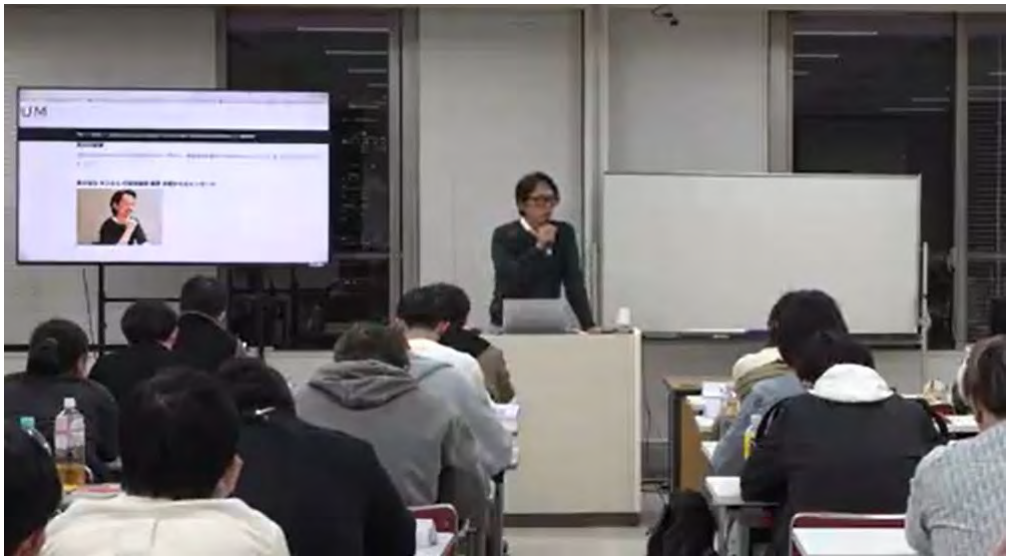
最後に山中氏は、講義の総括として実証的アプローチを今後さらに推進するための提言を述べました。第一に、政策立案プロセスに小規模な試行と評価のステップを制度的に組み込むことを提案しました。予算要求や法制度の設計段階で実証実験の結果を反映させる仕組みを整えることで、効果の高い政策を選別できるとしています。第二に、官民や学官の連携強化です。行政だけで完結せず、大学や民間の研究機関と協働することで、専門知識の活用や客観的な評価が可能になると指摘しました。特に統計や AI 分析など専門性の高い領域では、外部の知見を取り入れる意義が大きいとしています。第三に、人材育成の重要性です。エビデンス志向の政策を担うには、行政職員自身がデータリテラシーを身につける必要があり、研修やリカレント教育によって「現場の感覚とデータ科学の双方に精通した人材」を育てるべきだと述べました。

講義の結論として、「小さく試し、大きく育てる」という言葉で実証の精神を表現し、受講者に対しては自らの業務で少しでもエビデンスを活用する姿勢を持つようエールが送られました。以上のように、本講座は政策立案における実証の価値と具体的な実践方法について示唆に富む内容となっていました。



●マネジメント　　野嶋　朗　講師

第 1 回	2025 年 10 月 22 日（水）18:20～19:50



【美容業界の構造と経営課題】

美容業界は一見華やかですが、その裏では経営環境が非常に厳しい状況にあります。日本の美容室（美容所）数は年々増加し、2023 年度末には約 27.4 万店に達しました。これは人口減少に反してサロンが乱立していることを意味し、競合過多による顧客争奪戦が激化しています。その結果、クーポン割引合戦や低価格競争が常態化し、多くのサロンで利益率が圧迫される構造が拡大しています。実際、全国の美容室数は大手コンビニの約 4.5 倍にも上り、飽和状態です。このように選択肢が多い市場では、美容技術・接客・サービス品質などどれか一つでも評判が悪いと顧客に選ばれなくなるため、経営者は細部にまで気を配る必要があります。さらに近年はネットで口コミや評価を確認してサロンを選ぶ顧客が多く、安売りすれば集客できる時代は終わりつつあるとも指摘されています。健全な店舗運営や働きやすい環境づくりなど、サロン経営の根本的見直しが求められているのです。

現在、美容サロン経営者が直面する主な課題は大きく 3 点にまとめられます：

1. 集客数の減少

前述のような競争激化により新規顧客の獲得が難しく、既存顧客も奪い合いの状態です。実際、2021 年には 15～69 歳の男女のサロン年間利用回数が前年より減少し、人口減少や景気不安による美容サービス需要の落ち込みが見られます。

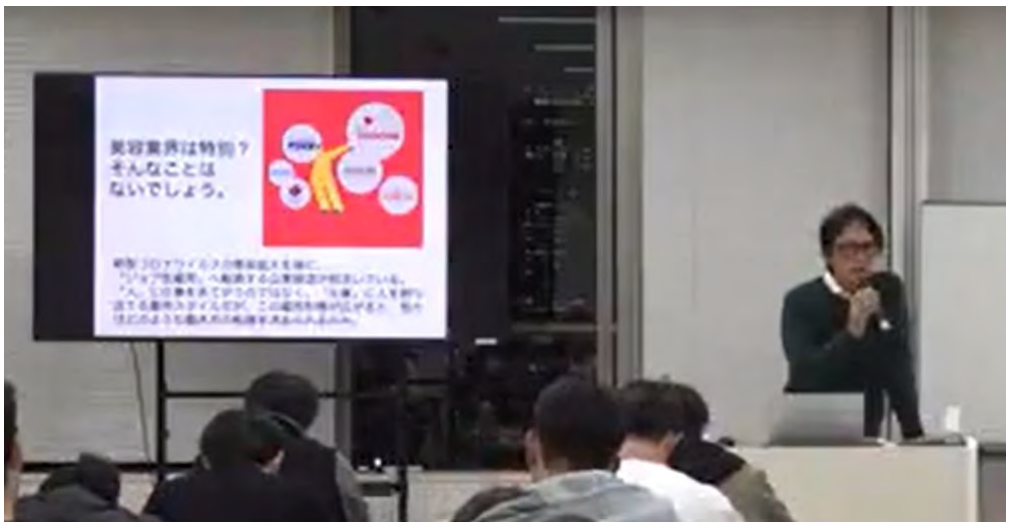
また、新規顧客のリピート率の低さも課題で、リピーター確保に苦戦するサロンが多いとされています。

2. 美容師の人材不足

サロン数の増加に対し、美容師の供給が追いつかず慢性的な人手不足にあります。特に若手の離職率が高く、長時間労働や低賃金など厳しい労働条件が新人離れの原因になっています。従来の先輩がマンツーマンで新人を育成する文化も、働き方の規制や指導方法の見直しで実行しにくくなり、教育体制の崩壊が進んでいます。結果として育成が追いつかず新人が定着しない悪循環に陥り、現場の人材確保が困難になっています。

3. トレンドや情勢の影響

美容業界は流行の変化や社会情勢に業績が大きく左右される特徴があります。例えば、新型コロナウイルス感染症の流行下では美容サービスの利用が激減し、2020 年 4 月の美容室の平均カット代支出は前年同月比 36%減となりました。また、パーマ需要が長期的に低下するなど、ヘアスタイルのトレンド変化も売上構成に影響します。このような外的要因による急激な顧客減に耐える経営の柔軟性も課題です。



以上の課題が重なり、美容室の倒産件数も増加傾向にあります。帝国データバンクの調査によれば、2025 年 1～8 月の美容室倒産は 157 件に上り前年同期比 13%増加、3 年連続で増加する深刻な状況です。倒産は負債 1,000 万～5,000 万円規模の中小サロンに集中し、都市部では高騰する家賃・人件費に耐えられず、地方では人口減少で顧客不足に陥るケースが目立ちます。このように、美容業界は

構造的な供給過多と人材難に直面しており、現場の経営者にはこれまで以上に高度なマネジメント能力が要求されています。

しかし裏を返せば、今こそサロン運営の在り方を見直し持続可能なビジネスモデルへ進化させる好機とも言えます。実際、講義講師の野嶋氏も「教育次第で組織の生産性や売上は変わる」と述べており、経営改善の余地は大いにあると指摘しています。

【サロン運営の基礎】

こうした厳しい環境下でサロンを経営していくには、現場型の基本的な運営スキルを身につけることが不可欠です。まず、経営者・店長にはビジネスの基礎知識が求められます。サロンはサービス業であると同時に事業体であり、収支の管理や採算ラインの把握といった財務面の基礎を理解しておかなければなりません。毎月の売上目標や客数、客単価など主要な数字を把握し、材料費・人件費・家賃など固定費の管理を徹底することが経営の土台です。例えば、客単価や稼働率を上げる工夫、損益分岐点を意識した施策立案などは、日々のサロン運営で常に念頭に置くべきポイントです。また、現金管理や帳簿付けなど会計の初歩も理解しておくと、後述の講義「会計」の内容とあわせて経営の全体像を掴みやすくなるでしょう。



次に、効率的で安定した店舗運営を行うための現場力が重要です。サロンが１日に営業できる時間には限りがあるため、できるだけ多くの顧客に対応するには時間の有効活用が鍵となります。具体的には、スタッフの配置や施術スケジュールを最適化し、予約管理システムの導入などデジタルツールを活用して無駄な待

ち時間や空き時間を減らす工夫が有効です。たとえば予約受付のオンライン化やレジ締め作業のシステム化、カルテの電子化など、人手を介さなくてもできる業務は積極的に IT 化することで業務効率を上げられます。最初は導入に手間取るかもしれませんが、長期的にはパフォーマンスが向上し生産性アップに繋がるとされています。また、サービス標準の確立もサロン運営の基礎です。スタッフ全員が統一した接客マナーや施術手順を守ることで、来店する顧客に安定した品質のサービスを提供できます。サービスマニュアルの整備や定期的なミーティングで情報共有を図り、現場での事故防止・品質維持に努めることが信頼獲得につながります。

さらに、法令遵守と衛生管理も現場経営者の重要な責務です。美容所は厚生労働省の衛生管理基準を満たす必要があり、消毒の徹底や器具管理、薬剤の適正使用など守るべきルールがあります。不備があれば行政指導や営業停止のリスクもあるため、現場で働く全員に衛生意識を周知徹底し、安全・清潔なサロン環境を維持することが大前提です。また労務管理の面でも、スタッフの労働時間や休憩取得など遵法精神を持った運営を心掛けなければなりません。

最後に、店舗の雰囲気づくりとブランディングも基礎として挙げられます。サロンの内装や音楽、香り、接客スタイルなどトータルな雰囲気は他店との差別化要素であり、顧客満足度に直結します。例えば、ターゲット客層に合わせたコンセプトを明確に打ち出し、一貫した世界観を演出することで「あの店に行きたい」という顧客の指名動機を作ることができます。実際に価格以外の“あえてそのサロンを選ぶ理由”を作れていないと、リピーター獲得は難しいと指摘されています。どのような価値を提供する店なのか、経営者自らが言語化しスタッフと共有することで、サロン全体の方向性が定まり経営判断もブレなくなるでしょう。

【顧客マネジメントとスタッフ育成】

・顧客マネジメント： サロン経営の安定には新規顧客の開拓と既存顧客のリピート化の双方が欠かせません。特に、売上の大部分は常連顧客によって支えられるため、リピーターの確保・育成が経営課題の筆頭です。一般に理想的な新規：既存顧客の比率は 2：8 または 3：7 と言われ、新規集客コストは既存客維持の約 5 倍もかかるため、リピーターの定着率向上こそ収益改善の近道です。新規顧客を初回来店で終わらせずファン化するには、初回施術時の満足度を高めることはもちろん、来店後のフォローが重要になります。具体的には、施術後にお礼メー

ルや次回予約の提案連絡をする、スタンプカードや次回使えるクーポンを渡すなどで再来店のきっかけ作りを行います。

また、自社 SNS やブログで髪や美容の有益情報を発信し続け、サロンと顧客との関係を継続的に育むことも有効です。ホットペッパービューティーなど外部のクーポンサイトに集客を依存しすぎるのは危険で、そうしたサイトから自社の SNS や予約ページに誘導して囲い込む戦略が推奨されます。事実、クーポンサイト経由の顧客は価格や条件で店を選ぶ傾向があり、サービスを通じた感動がなければ定着しにくいと言われています。したがって、価格以上の価値提供――技術力向上や心地よい接客、居心地の良い空間づくり――によって「この店でなければ」と思わせることがリピート率向上の決め手です。

一方で、顧客離れの原因も把握しておく必要があります。一般的にリピートしない理由として「価格に見合わない仕上がり」「技術への不満」「接客態度の悪さ」「店内の雰囲気の悪さ」「口コミ評価の悪さ」「選ぶ理由がない」等が挙げられます。これらを未然に防ぐため、サービス品質の定期点検を行うことが有効です。例えば毎月、スタッフ同士で技術チェックや接客ロールプレイを行い課題を共有したり、外部のマナー講習・ホスピタリティ研修に参加したりすることが推奨されています。

また、提供メニューについても定期的に見直しを図りましょう。時代や流行に合わせて高付加価値メニュー（ヘッドスパやトリートメント等）を導入し、単価アップと顧客満足度向上を両立する戦略も重要です。顧客は単なるカットやカラーだけでなく「自分に合った提案」や「癒しの体験価値」を求めているため、カウンセリングを充実させたりパーソナルな提案力を磨いたりすることが固定客づくりにつながります。

・スタッフ育成： 優れたサービスを提供し続けるには、人材育成と職場環境づくりが欠かせません。現在の人手不足を克服するには、離職率の低下と人材定着が最優先課題です。そのためにはまず労働環境や待遇の改善に取り組む必要があります。具体的には、無理な長時間営業を見直し残業が発生しない予約スケジュールを組む、週休二日制や定休日を導入する、有給休暇や育児・介護休暇を取得しやすくするといった施策が効果的です。時短勤務やフレックスタイム制度の導入など働き方の柔軟性を高めることも、現代では重視すべき点と言えます。これらによりスタッフのワークライフバランスが向上すれば、職場への定着率向上と求人応募の増加が期待できます。また、給与や昇給制度の透明性を高め、公平な評価・報酬体系を整えることもモチベーション維持に有効です。

育成面では、技術力と接客力の底上げが他店との差別化に直結します。計画的な研修と学習機会の提供によってスタッフの成長を支援しましょう。野嶋氏は「現状に一喜一憂せず高い技術を追求し続けるべき」「オーナー自ら育成の時間を確保すべき」と述べており、必要に応じて外部セミナーへの参加なども積極的に取り入れることを推奨しています。実際、最新トレンドが頻繁に変わる業界で顧客ニーズに応え続けるには、スタッフが常に新しい技術や知識を学び続ける姿勢が不可欠です。その際、育成計画（カリキュラム）を体系化し、目標設定と評価フィードバックを行うことで、スタッフも自らの成長を実感しやすくなります。

さらに近年では、野嶋氏が提唱するように従来の「山登り型」一本槍のキャリアパスから、多様な経験を積む「筏下り型」のキャリア形成へと発想転換する動きも求められています。従来はアシスタントからスタイリスト、店長へと一直線に昇進するのが一般的でしたが、それでは急激な時代変化に対応しきれないという指摘です。代わりに、川下りの筏のように現場を渡り歩きながら地力を付け、突然訪れるチャンスを掴むといった柔軟なキャリア観が必要とされています。例えばヘアサロン運営だけでなく、メーカーの商品開発や教育トレーナー、フリーランスなど多様な立場を経験した人材は視野が広がり、結果としてサロンに戻ってきた際に新たな価値をもたらすことができます。このようにスタッフ一人ひとりの可能性を広げる育成を行い、長期的な視点で組織の人材力強化を図ることが大切です。

【実践例と課題】

理論だけでなく、現場で実践された成功事例や教訓から学ぶことも重要です。本講義ではいくつかの具体的なサロン経営のケースが紹介されました。その中から代表的なものを取り上げます。

・絶え間ない学習で生き残る経営例（Apish）： 原宿・表参道エリアで 20 年以上サロンを経営する 「apish」 の坂巻哲也氏は、激しいトレンド変化と競争を乗り越える秘訣として「常に学ぶ姿勢を持ち、自分の成長を言語化する」ことを挙げています。流行や業界動向を貪欲に学び、仕事観や目標をスタッフと共有しながら楽しんで課題をクリアしていくことで、長期にわたり第一線で活躍できたといいます。この事例は、経営者自身が学び続けることで組織を牽引し、変化に適応し続ける重要性を示しています。

・技術研鑽と顧客満足向上でゼロから成功（STRAMA）： 南青山に大型店

「STRAMA」をオープンした豊田永秀氏は、開業当初まったくお客様がつかない苦境に立たされました。しかし彼は広い店舗空間を活かしたイベントや発信に取り組む一方、「お客様が喜ぶデザインを増やすには技術向上が不可欠」としてトレーニングや勉強会に社員一丸で注力しました。その結果、新規顧客が着実に増加し軌道に乗ったといいます。この例は、経営が行き詰まった際こそ原点に立ち返り「顧客とスタッフのために何が必要か」を考え抜くことの大切さを物語っています。技術力強化とサービス改善への地道な投資が、新規集客にも繋がった好例です。

これら成功事例から学べるのは、共通して「継続的な改善努力」と「ブレない信念」が経営を好転させる原動力となっている点です。前者の Apish では経営者自身の成長意欲が組織文化となり、スタッフの士気や顧客満足度を高めています。一方 STRAMA では顧客目線に立ったサービス価値の追求と従業員育成への投資が、結果として集客力向上と差別化につながりました。両者に共通するのは、経営者が現場の問題から逃げずに正面から向き合い、具体的な行動計画を立てて実践した点です。「何をすれば売上が伸びるか」「どうすればスタッフが成長し定着するか」を明確にし、一つ一つ着実に実行することで状況を好転させています。課題が山積するとき一度に全て解決しようとせず、優先順位を付け計画的に取り組むことが成功への近道だとも言えるでしょう。

一方で、講義では反面教師的な教訓も紹介されました。例えば、「技術さえ高ければお客様はついてくる」と思い込み、経営の数字管理やマーケティングをなおざりにして失敗したケースです。あるサロンオーナーは自らのカット技術に絶対の自信を持っていましたが、新規獲得の仕組みづくりやリピート施策を怠ったため客数が伸び悩み、結果的に廃業に追い込まれました。この事例から分かるように、職人肌のオーナーほど経営面を軽視しがちですが、それでは現代の競争環境を生き残れません。技術・センスと経営マインドの両輪が揃ってこそ、サロン運営は安定するのです。

また、「自分一人で何でも背負い込む経営者」の例も紹介されました。スタッフに仕事を任せず経営者が施術から雑務まで抱え込むと、全体を俯瞰したマネジメントがおろそかになりがちです。その結果スタッフの成長機会が奪われ、人材が育たないばかりか経営者自身も疲弊してしまいます。このケースからは、適切な権限移譲とチーム運営の重要性が浮き彫りになりました。経営者は現場の信頼できるスタッフに業務を任せ、自分は経営戦略や数字管理、お客様視点でのサービス改善など本来注力すべきマネジメント業務に専念することが求められます。

以上のような実例と課題から得られる示唆は、「現場力＋経営視点」の両立が鍵であるということです。成功しているサロンは現場で高品質なサービス提供を追求する一方で、経営者が冷静に数値を分析し戦略を練っています。逆に失敗するケースでは、このバランスが崩れてどちらか一方に偏りがちです。現場を知り尽くした経営者だからこそできる細やかなマネジメントと、経営者だからこそ見るべき俯瞰的な戦略策定――その両方を意識することで、サロン運営力は飛躍的に高まるのです。

【結論と今後の展望】

本講義を通じて明らかになったのは、美容業界におけるマネジメントスキル習得の重要性です。業界構造の課題（過当競争、人材不足、変化への対応）に直面する中で、サロン経営者・店長は従来以上に幅広い能力を求められています。経営数字の理解、顧客対応力、スタッフ育成力、デジタル活用、ブランディングといった多岐にわたるスキルの総合力こそが「サロン運営力」と言えるでしょう。

本講義の対象である社会人基礎レベルの学生の皆さんにとって、これらはすぐに全て身につくものではありません。しかし、現場で働きながら少しずつ経験を積み、自ら学び続けることで磨かれていく能力です。野嶋氏も「他人の意見を取り入れ、成功者から学ぶことで新たな発想が得られる」と強調しています。常に謙虚に学ぶ姿勢を持ち、現場の声に耳を傾け、時には業界外の知見も吸収しながら成長していくことが、将来の成功につながるでしょう。

今後の展望として、美容業界はさらなる変革期を迎える可能性があります。例えば、デジタル技術の進展によってマーケティングや顧客管理の在り方は大きく変わりつつあります。SNS や Google マップ、ホットペッパービューティーといったオンライン媒体の活用が集客効率を大きく左右する時代となり、特に Instagram や TikTok での情報発信は若年層の新規顧客を呼び込む強力な手段になっています。今後はこれらデジタル集客を更に強化しつつ、顧客データを活用したパーソナライズ施策などテクノロジーを味方に付けた経営が主流になるでしょう。

また、人材面でも働き方改革やフリーランス美容師の増加など大きな変化が起きています。従来の常識にとらわれず、多様な人材と協業できる柔軟な組織作りが必要です。例えば、シェアサロンや業務委託といった新しい雇用形態を取り入れて人材流出を防ぎつつ、スタッフ一人ひとりのキャリア支援を充実させることで組織の安定性を高める取り組みも重要になるでしょう。

結論として、現場型マネジメント力の向上こそが美容業界の未来を切り拓く鍵です。経営者・リーダーはサロンを取り巻く環境変化を正しく理解し、自店の強みと弱みを把握した上で、戦略的かつ機動的に舵を取らねばなりません。幸い、美容業界には「教育次第で生産性も売上も変えられる」という希望があります。スタッフの成長に投資し現場力を強化することで、組織全体の成果が上がることは既に実証されています。受講された皆さんには、ぜひ本講義で学んだ知見を自身の職場や将来の経営に活かし、技術だけでなくマネジメントにも優れた美容人材として業界を盛り上げていってほしいと思います。現場からイノベーションを起こし、業界全体で新しい価値を創造していく原動力になることを期待しています。



●マネジメント　　野嶋　朗　講師

第 2 回	2025 年 10 月 29 日（水）18:20～19:50

【業界の構造と課題】

美容業界のサロン数は年々増加し、現在国内には約 27 万店もの美容室が存在しており、コンビニの店舗数を大きく上回る飽和状態にあります。この過当競争の中で各サロンは生き残りをかけた戦略が求められています。業界全体の課題としては、人材不足や価格競争の激化が挙げられます。少子化により美容師志望の学生が減少し、新規参入する若手人材の確保が難しくなっています。

一方で、ホットペッパービューティーなど予約サイトの影響もあり低価格競争が常態化し、加えて近年の材料費高騰や物価上昇によって安易な値上げも難しい状況で、サロンの収益モデルが揺らぎやすくなっています。このように業界の構造的な問題（過剰供給と人材難、収益構造の脆弱さ）が存在する中、各サロンには独自の強みを打ち出しつつ経営を安定させるマネジメント力が求められています。

【現場マネジメントの基本】

サロン現場のマネジメントでは、日々のオペレーションを安定させサービスの質を維持向上することが基本となります。具体的には、接客サービスの標準化（例えば挨拶や施術手順の統一）、店内の清潔さ管理、予約・在庫管理や売上管理といった業務の徹底が含まれます。現場責任者や店長はスタッフに対してサロンの経営理念や目標を伝え、チーム全体で共有する役割を担います。経営側の理念・方針を現場に浸透させ、組織の習慣を変えていくことで、スタッフ一人ひとりが持てる力を最大限発揮できる環境を作ることが重要です。このようにトップダウンのビジョン浸透とボトムアップの現場力を両立させることが、現場マネジメントの基本となります。

また、ミドルマネジメント（中間管理職）の役割も重要視されます。店長やマネージャーといった立場のスタッフが、経営者の意図をくみ取り現場に伝える橋渡しとなり、同時に現場からの声を経営側にフィードバックすることで組織全体のコミュニケーション活性化を図ります。現場マネジメントではスタッフとの信頼関係構築も欠かせません。日々の朝礼やミーティングで目標を確認し合い、業務後の振り返りで課題を共有するなど、コミュニケーションデザインを工夫することで現場の士気とサービス品質の維持に繋げています。さらに、労務管理の観点からはスタッフの勤務時間や休日を適正に管理し、法令順守（コンプライアンス）を徹底することも基本です。美容業界はかつて長時間労働が常態化しがちだ

った背景もあり、働きやすい職場環境づくりは現場マネジメントの重要課題です。現場の安定なくして良質なサービス提供はできないため、まずは現場運営の基盤を固めることがマネジメントの出発点となります。



【顧客・人材管理】

顧客管理（顧客マネジメント）においては、来店するお客様に対し一貫して満足度の高い体験を提供し、「また利用したい」と思ってもらうことが最重要目標です。サロンでは施術の技術力はもちろん、丁寧な接客や心地よい雰囲気づくりなど顧客体験全体の質が問われます。顧客一人ひとりの好みや要望を把握し、カルテ等で情報管理して次回以降のサービス向上に活かすことも有効です。例えば施術後のアフターフォロー（スタイリング方法のアドバイスや自宅ケアの提案）を行う、定期的にニュースレターや SNS で情報発信して顧客との接点を保つなど、来店時以外でも関係構築を図ることで顧客ロイヤルティを高めることができます。

加えて、価格戦略にも留意が必要で、高価格帯であればそれに見合った付加価値を提供し、低価格帯ならば気軽さや利便性を打ち出すなど、自店のブランドコンセプトに沿った顧客層を明確にして管理することが有効です。クレーム対応においては、迅速かつ誠実な対応を心掛け、顧客の信頼を損なわないようにします。こうした顧客志向のマネジメントにより、顧客のファン化（常連客・紹介客の増加）を促し、安定した集客基盤を築くことができます。

一方、人材管理（スタッフマネジメント）はサロン運営のもう一つの柱です。美容サロンでは新入社員の育成に時間がかかる傾向があり、専門学校を出たばかりの新人美容師は約 2〜3 年、長ければ 4 年以上のアシスタント期間を経て一人前のスタイリストになるのが一般的です。この長い育成期間中に新人を戦力化で

きるかどうかが店舗の生産性を左右するため、「人材育成」はサロン経営における最大のテーマです。現場では先輩スタッフがマンツーマンで指導する OJT 体制や社内技術研修カリキュラムを整備し、シャンプーなどの基本から接客マナー、専門知識に至るまで計画的に指導を行うことが重要です。最近の成長企業では新人をできるだけ早く戦力化すべく工夫を凝らしており、短期間で多くの技術を習得させるメソッドやモチベーション管理術を導入しています。例えば技術試験を段階的に設けて小さな成功体験を積ませる、社内コンテストや目標達成表彰制度でモチベーションを維持させる、といった取り組みが見られます。

人材管理ではスタッフの定着率向上も重要課題です。美容師は離職率が他業種に比べ高い傾向が指摘されており、特に入社 1〜3 年以内で退職してしまうケースが多いと言われています。離職の主な要因は待遇面（給与・労働時間）や将来の不安、職場の人間関係など多岐にわたります。

これに対し、経営側は待遇改善を検討するとともに、働きがいを感じられる職場づくりに努める必要があります。具体的には明確なキャリアパスを提示して将来の展望を持たせる（例：スタイリスト昇格や将来的な独立支援制度の整備）、日頃から感謝や成果をきちんと認める風土を醸成する、スタッフ同士がサポートし合えるチーム文化を育む、といった取り組みが効果的です。新人を大切に育成し一人も漏らさず戦力化するという業界独特の教育観もあり、マネジメント側はスタッフ一人ひとりの成長を支援する姿勢を示すことが求められます。人材管理全般を通じて「このサロンで働き続けたい」とスタッフに思ってもらえる職場を作ることが、優秀な人材の流出を防ぎサービス品質を安定させる鍵といえます。

【成功事例と改善点】

厳しい市場環境下でも成功しているサロンの事例から、効果的なマネジメントのポイントが見えてきます。顧客戦略の成功事例としては、高単価帯サロン「ABBEY」のブランド戦略が挙げられます。首都圏の一等地に複数店舗を構える ABBEY では、スタッフ全員が「お客様に満足や感動を与えたい」という思いを持ち続けながら、一人ひとりの顧客と真摯に向き合い、ブランドが「お客様にとってかけがえのない存在」になることを常に追求しています。価格競争に陥るのではなく、価格に見合った高い体験価値を提供し続けることで、たとえ料金が高くとも「この店を選びたい」と思わせる付加価値を創出し、熱心な支持層を獲得しています。このようにブランドコンセプトの確立とそれを支えるサービスクオリティによって差別化を図ることが、生き残れるサロンの条件の一つとなっています。

人材マネジメントの成功事例としては、徹底した教育体制と社員満足度向上で成長を遂げているサロン企業があります。例えば全国展開する大手サロンでは、新人研修専門のアカデミーを設けて技術指導を平準化し、入社から 2 年程度でスタイリストデビューできるよう育成期間を短縮する試みを行っているケースがあります。また別のあるサロンでは、スタッフ定着率向上のために働きやすさを追求し、完全週休 2 日制や残業ゼロ運動を導入したところ離職者が大幅に減少したという報告もあります。さらに、店長級のリーダー育成にも注力し、現場を牽引できる幹部人材を計画的に育てた結果、複数店舗展開でもサービス水準を保ち安定した経営を実現した例も見られる。これらの成功事例から導かれる改善点として、サロン運営では「人」と「サービス」の両面を磨くことが不可欠だと言えます。つまり、顧客に選ばれる魅力的なサービスを創造すると同時に、そのサービスを提供するスタッフ自身の成長と働きやすさを保証することが重要です。



また、近年ではデジタル活用によるマネジメント改善も注目されています。顧客予約管理システムや売上分析ツールを導入してデータに基づく経営判断を行ったり、SNS マーケティングで新規顧客を獲得したりするサロンも増えています。例えば予約の無断キャンセル（No-show）対策として事前確認を自動化したり、顧客の来店サイクルに合わせてリマインドメールを送るなど IT を活用した仕組みづくりも効果を上げています。こうした最新事例に学びつつ、自店の課題に合った改善策を取り入れる柔軟性がマネジメントには求められています。

【結論と展望】

以上のように、美容サロンの運営におけるマネジメントは、業界特有の課題を踏まえ多角的な視点で取り組む必要があります。顧客満足の追求、スタッフ育成と定着、現場の運営効率化、そして差別化戦略の策定と実行――これらをバランス良く推進していくことが、競争の激しい美容業界でサロンが持続的に発展していく鍵です。講義では特に「人」に焦点を当て、人材力の強化こそがサービス業である美容業の成長エンジンである点が強調されました。実際、技術や設備以上に「人」が提供する価値が重要なこの業界では、スタッフ一人ひとりの成長がお客様の信頼獲得と売上向上に直結します。

今後の展望として、美容業界は消費者ニーズの多様化やデジタル技術の浸透などによりさらなる変化が予想されます。例えば男性美容（メンズグ ROOMING）の市場拡大や、高齢化に伴う大人世代向けサービスの需要増など、新たなチャンスも生まれています。こうした変化に対応するためにも、サロン経営者・マネージャーには学習し続ける姿勢と組織を変革する柔軟性が求められるでしょう。幸い美容業界は現場から新しいアイデアが生まれやすく、スタッフの創意工夫がサービス向上につながる余地が大きい業種でもあります。マネジメント側は現場の声に耳を傾け、良いアイデアは積極的に採用していくことで、時代の流れに合ったサロンづくりが可能となります。

結論として、美容サロン運営のマネジメントにおいては「経営視点（収益や戦略）」「労務視点（働き方改革）」「顧客視点（顧客満足・マーケティング）」「教育視点（人材育成）」のすべてを的確に盛り込む包括的なアプローチが必要です。本講義は社会人基礎レベルの学生に対し、サービス業である美容サロンの現場マネジメントの要点を平易に解説し、将来現場に立つ際の指針となる示唆を提供しました。美容業界の構造的な課題は決して容易ではありませんが、現場力とマネジメント力を磨くことで乗り越えられる可能性があります。学生にとっても、本講義で学んだ現場視点のマネジメントスキルは美容業界に限らず様々な職場で応用できる社会人基礎力となるでしょう。サービス現場をマネジメントする難しさとやりがいを理解し、将来のキャリアに活かしていってほしいというメッセージで講義は締めくくられました。

●マネジメント　　蒲生　典子　講師

第 3 回	2025 年 11 月 12 日（水）18:20～19:50



【サロン経営におけるブランドマネジメントの重要性】

〇背景・内容： 美容室やエステサロンの数は現在コンビニエンスストアよりも多いと言われており、激しい競争環境の中で生き残るには「ブランディング」すなわちブランドマネジメントが欠かせません。ブランドマネジメントとは、単なるロゴや内装デザインを整えることではなく、自社のサービスや店舗の価値を明確化し、その価値を維持・強化する戦略のことです。サロンがどのようにお客様に認識され、愛される存在になるかを決定づける重要な経営手法と言えます。

〇主要ポイント： 適切なブランディングを実践したサロンには以下のようなメリットがあります:

・顧客ロイヤリティの向上: 一貫したブランド理念やイメージを打ち出すことで、お客様に「このサロンでなくてはダメだ」という強い愛着を持ってもらいやすくなり、リピート率が向上します。例えば、価格ではなく提供する体験や安心感に価値を感じてもらえれば、多少高い料金でも顧客は繰り返し来店してくれるようになります。

・**競合との差別化**：明確なブランドがあると、自店の強みや特徴が際立ちます。他店にはないコンセプトやサービスを提示できれば、近隣に類似のサロンが多数あっても選ばれる理由をお客様に提供できます。
新規顧客の獲得効率：熱心なファンとなったお客様が口コミでサロンを紹介してくれたり、ブランドの評判を聞きつけた新規客が増えたりします。広告宣伝に頼らずとも「〇〇ならこのサロン」と認知されれば、集客コストを抑えつつ顧客基盤を拡大できます。

・**経営の安定化**：強いブランドを持つサロンは安易な値引き合戦に巻き込まれにくく、適正価格でサービスを提供できます。その結果、客単価と利益率が維持向上し、長期的に安定経営が可能となります。一方、ブランド戦略のないサロンは価格以外の強みがないため値下げ競争に陥りがちで、経営が不安定になるリスクがあります。

・**具体例**： 実際、数多くの美容室・サロンを支援してきた現場の声によれば、安定して繁盛しているサロンには必ず「強いブランド」が存在し、お客様に「このお店でなければならない理由」を提供しているといいます。例えば都心部のある小規模サロン A は、「髪質改善」に特化した高品質サービスという明確なコンセプトを打ち出したところ、値引きなしでも顧客の支持を集めリピート率が飛躍的に向上しました。一方で差別化策のないサロン B は周囲の激安店との競争に巻き込まれてしまい、収益が悪化したケースも報告されています。このようにブランドの有無がサロンの盛衰を分けることが現場の実感として語られています。

〇**結論・示唆**： ブランドマネジメントは美容サロン経営の成否を左右する極めて重要な要素です。競争激化の時代においては、技術や価格だけに頼らず、自サロンならではの価値を明確に打ち出す戦略が不可欠と言えます。学生の皆さんも今後サロンの企画・運営に携わる際には、まず自店のブランドを確立し育てていく視点を持つことが示唆されます。それが将来、安定した集客と経営の土台になるからです。

【独自ブランド構築のステップと差別化戦略】

〇**背景・内容**： 強いブランドを築くためには、まずサロンの独自性を明確化することが出発点となります。多くの競合がひしめく中で「自店ならでは」のポジ

ションを確立するには、提供できる価値を尖らせ、他店との違いを打ち出す必要があります。闇雲に集客策を講じる前に、「誰に」「何を提供し」「どんな喜びを届けるのか」というコンセプトメイキングが重要です。

〇主要ポイント： サロンのブランド構築にあたって検討すべき代表的な要素は次の通りです:

・コンセプトとターゲットの明確化: 自店の理念や世界観を定め、理想の顧客像を具体的に描きます。「おしゃれに敏感な 20 代女性」等の漠然としたイメージではなく、年齢層・ライフスタイル・価値観まで掘り下げたペルソナを設定します。例えば「自然志向の 30 代キャリア女性に、オーガニック志向の癒しを提供するサロン」のように、誰に何を提供するかを明文化します。

・独自の強み（コアバリュー）の設定: 数あるサロンの中で自店が選ばれるための強みは何かを洗い出します。他店には真似できない技術やサービス、人材、立地条件などを分析し、自店の USP（Unique Selling Proposition）を一言で言える形にまとめます。「当店は〇〇ならではの△△が強み」である、と言えるものがブランドの核になります。

・視覚的アイデンティティの統一: ロゴマーク、店舗の内外装、インテリア、スタッフの制服や身だしなみなど、視覚に訴える要素をコンセプトに沿ってデザインします。高級感を売りにするなら内装の素材や照明の色調に至るまでこだわり、ナチュラル志向なら観葉植物や木目調の家具で世界観を演出する、といった具合に目に見える情報すべてでブランドイメージを表現します。

・サービスと接客スタイル: 提供するメニューや接客の流れにもブランドコンセプトを反映させます。たとえば「癒し」がテーマのサロンであれば、入店時のあいさつからカウンセリングのトーンまで穏やかにし、施術中はリラックスできる音楽や香りを用意するなど、接客の所作一つひとつまで統一します。メニュー構成も、コンセプトに沿った代表メニューを中心に据えて特徴づけます。

・情報発信とコミュニケーション戦略: ブランディングした内容を効果的に届けるための発信媒体や方法を検討します。ターゲット層が普段情報収集に使っている媒体（Instagram 等の SNS、ホームページ、チラシ、口コミサイトなど）を見極め、最適なチャネルを選んでブランドメッセージを発信します。発信内容もコ

ンセプトに合致したトーン＆マナーで統一し、サロンの世界観に共感してもらう工夫が必要です。

・**具体例**： ブランドコンセプトを体現する看板メニューの開発も有効な差別化戦略です。闇雲にあれこれ手広く提供するのではなく、自店が特に自信を持つ技術やサービスに絞って「ここに来ればこれが体験できる」という目玉商品を作ります。例えば、髪質改善が得意なサロンが独自開発のトリートメントコースをオリジナル名称で提供し、そのメニュー誕生の背景にサロンの想いや専門性を込めたストーリーを添えて発信すれば、お客様の心に強い印象を残すことができます。

　また、「オーガニック製品専門のヘアケア」を掲げるサロンなら、自社でオーガニック素材の施術プロダクトを企画・導入することで、「自然志向で安全」というブランドイメージを一層強固にできます。例えば実例として、ある地方のエステサロンでは地元産ハーブを使ったオリジナルオイルマッサージを看板メニューに据えたところ、唯一無二の体験が口コミで評判を呼び、遠方からも顧客が訪れるブランドに成長しました。



〇**結論・示唆**： ブランド構築段階では、自店のアイデンティティを徹底的に言語化・視覚化することが肝心です。コンセプト・強み・デザイン・サービス・発信の各要素が統一されたとき、初めてお客様に伝わる強いブランドが生まれま

す。学生の皆さんはサロンの企画を行う際、まずこのようなブランドの骨格を設計し、一貫性を持って打ち出すことを意識してください。それが他店との差別化につながり、地域で唯一無二の存在になるための土台となります。

【ブランド体験の提供と日常運営】

〇背景・内容： 一度確立したブランドも、それを日々のサロン運営の中で体現し続けることではじめて意味を持ちます。ブランドは静的な約束ではなく、お客様がサロンと接するあらゆるタッチポイントでの体験の積み重ねによって形作られます。したがって、スタッフの対応やサービス提供の細部に至るまでブランドコンセプトとの整合性を保つことが重要です。

〇主要ポイント： 日常のサロンワークにおいてブランドを具現化・維持するためのポイントを整理します。

・スタッフ教育と理念共有：サロンスタッフ一人ひとりがブランドの担い手です。経営者の理念やブランドコンセプトをスタッフと共有し、接客マニュアルや研修を通じて浸透させます。例えば、「癒しの提供」がブランドの核であるサロンなら、受付から仕上げまで穏やかな笑顔と言葉遣いを徹底する、といったガイドラインを設けます。スタッフ自身がブランドの価値を理解・共感していれば、その想いは接客の所作ににじみ出て顧客にも伝わります。

・顧客体験の一貫性：来店時の挨拶、カウンセリングの態度、施術中のおもてなし、見送りの言葉に至るまで、毎回ブレのないサービス品質を提供します。例えば高級志向のサロンであれば、毎回上質なドリンクのサービスやふかふかのクッションの用意など細かな部分まで抜かりなく実施し、「ここに来れば特別に大切に扱われる」という体験をお客様に保証します。一貫性のある体験は安心感を生み、「次も同じ満足が得られる」という期待がリピート利用につながります。

・五感に訴える演出：サロン空間における視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚への働きかけもブランド体験の一部です。例えばアロマの香りや BGM の選曲、椅子の座り心地や施術後に出すお茶の風味まで、コンセプトに合った演出で統一します。これらの細部にわたるこだわりが、お客様に「このサロンならではの世界観」を感じてもらう鍵となります。

・**品質管理とフィードバック**：提供するサービスや商品にムラが生じればブランドへの信頼は揺らぎます。薬剤の品質管理や技術水準の均一化はもちろん、万一トラブルやクレームが発生した場合には迅速かつ誠実に対応し、ブランドの約束を守る姿勢を示すことが大切です。定期的にお客様アンケートを行ったり、SNS上の評価をチェックしたりしてブランド体験に綻びがないかフィードバックを収集し、改善を重ねていきます。

・**具体例**： ブランドコンセプトを体現する接客の例として、あるサロンでは新人を含む全スタッフが朝礼でブランド理念を唱和し、その日の予約客の情報を共有してから業務を開始しています。これによりスタッフ全員が常にブランド価値を意識し、統一されたサービス提供につなげています。また、「また来たい」とお客様に思わせる感動を生むため、サプライズ演出として誕生日月にささやかなプレゼントを手渡すなど、おもてなしの工夫も行っています。さらに、オーナーの想いを伝えるストーリーを店内ポスターや SNS で発信し、「なぜこのサロンを始めたのか」「お客様にどうなってほしいのか」を伝えることで共感と信頼を育んでいます。例えば「髪を通じてお客様の自信を引き出したい」というメッセージを打ち出すことで、スタッフ自身もその目的意識を持って働き、お客様にもサロンの使命感が伝わるという好循環が生まれています。

〇**結論・示唆**： ブランドは顧客との接点で生きるものであり、日々の積み重ねによって信頼と愛着が育まれます。どんなに立派なコンセプトやデザインを策定しても、現場で体現されなければ絵に描いた餅です。裏を返せば、日常業務の一つひとつをブランド視点で磨き上げることで、顧客はサロンのファンになっていきます。「ブランドとは約束」であるとも言われますが、その約束を違えない誠実な運営姿勢こそがブランド価値を高めるのです。学生の皆さんには、現場でスタッフと協力しながらブランドを運営管理していく視点を持つことの重要性が示唆されます。具体的には、サービス標準の策定、スタッフ教育、顧客フィードバックの活用など、地道な取り組みを通じてブランドを守り育てていく姿勢が求められるでしょう。

【ブランド価値の発信と顧客ロイヤリティの醸成】

〇**背景・内容**： 強いブランドを築き上げた後は、それを適切に対外発信し、更なる顧客ロイヤリティの向上や事業成長につなげていく段階です。現代は SNS や動画共有サイトなど個人でも情報発信できる時代であり、サロンも積極的にブラ

ンドメッセージを発信して顧客との接点を広げることが求められます。また、ブランドを起点とした新たな展開（商品開発や多店舗展開）を図る場合にも、一貫したブランド管理が重要となります。

〇主要ポイント： ブランドの浸透と発展を図るためのポイントをまとめます。

・一貫したメッセージ発信： 前節で定めた情報発信戦略に基づき、統一感のあるブランドメッセージを継続的に発信します。SNS 投稿やブログ記事ではサロンの世界観に合ったビジュアルや言葉遣いを用い、キャンペーン等もブランドコンセプトに沿った内容にします。たとえば高級路線のサロンなら SNS でも上質な写真と落ち着いた語調で投稿し、カジュアルで親しみやすいサロンならフレンドリーな動画配信で親近感を演出するといった具合に、オンライン上でも顧客がブランド体験できる工夫を凝らします。

・顧客との双方向コミュニケーション： 発信するだけでなく、顧客からの声に耳を傾けることもロイヤリティ向上に欠かせません。SNS のコメント欄や口コミサイトでのフィードバックに丁寧に返信したり、アンケートを実施して顧客参加型のイベント（新メニューのアイデア募集やファン感謝デー等）を行ったりすることで、顧客は自分もブランドの一部だと感じるようになります。こうしたエンゲージメント施策によりサロンと顧客の絆が深まり、結果として他店には乗り換えにくいコミュニティ的なロイヤリティが生まれます。

・ブランド価値の拡張戦略： サロンブランドが確立すると、新商品の開発や他店舗展開といった事業拡大の機会も生まれます。例えば自サロンのブランド名を冠したヘアケア商品を開発し通信販売する、美容講座を開講して専門知識を発信するといった展開です。ただしその際に注意すべきは、ブランド価値を毀損しない範囲で行うことです。安易に低品質の商品ラインを増やしたり過剰なディスカウント展開をしたりすれば、せっかく築いたブランドへの信頼が崩れかねません。例えばプロの美容師が立ち上げた高級志向のサロンが大量生産の安価な関連商品を販売すれば、「こだわり」というブランドイメージとの乖離が顧客に伝わってしまう恐れがあります。そこで、新規事業を行う際は既存顧客が「このブランドなら品質は間違いない」と感じられる範囲で計画することが大切です。

・人材ブランドと業界評価： 自店のブランド力が向上すると、顧客だけでなく業界内での評価や人材面にも好影響が現れます。例えば、新卒者やスタイリストが

「ぜひあの有名サロンで働きたい」と感じるようになり優秀な人材を惹きつけられる、人材採用面で有利になるといった効果があります。さらに、社員教育を通じてスタッフの技術やホスピタリティを高め続ければ、「〇〇サロン出身のスタッフなら信頼できる」と業界内で評価されるようになります。実際、ある急成長中のサロンでは「そのサロンの出身者なら間違いない」と他店からも一目置かれる存在が増えることがブランド価値につながると述べています。このように、人の成長や業界からの信頼によってもブランド価値は高まっていくのです。

・具体例： SNS でのブランド発信の例として、東京郊外のあるヘアサロンは Instagram 上で統一感のある投稿を心がけています。店内の世界観を伝える写真に加え、スタッフの想いや専門知識を語る動画を定期的にアップし、フォロワーとのコメントのやり取りも大切にしています。その結果、オンライン上にサロンのファンコミュニティが形成され、新商品を発売すれば SNS 経由ですぐに反響が得られるなど、広告に頼らない集客と売上増につなげています。また別の事例では、老舗サロンが自店ブランドのシャンプーを開発する際、品質維持のため生産ロットを絞り込んで職人と共同開発を行い、高価格帯でも「サロンと同じ品質」と顧客に認められる商品化に成功しました。これにより売上の多角化を図りつつもサロン本体のブランドイメージを損なうことなく収益源を拡大できた例として注目されています。さらに、人材面では、有名サロン出身の美容師が独立して活躍することで元のサロンの名声が高まり、「〇〇出身のスタイリストは技術力が高い」という信頼がブランドの付加価値となるケースもあります。

〇結論・示唆： 構築したブランドを積極的に発信し育てていくことで、サロンは単なる一店舗から顧客に愛され続ける存在へと発展します。重要なのは、一貫性を保ちながら時代の流れに合わせてブランド表現やサービスを進化させていく柔軟性です。学生の皆さんには、ブランドは作って終わりではなく育て続けるものであると理解し、SNS 等の新しいツールも活用しつつ常にブランド価値を高める経営を志向することが求められます。ブランドを軸に据えた経営は、長期的な顧客ロイヤリティの醸成や持続的な事業成長につながるという示唆が得られます。

【まとめと今後への示唆】

〇講義のまとめ： 本講義では、美容業界におけるサロン運営の視点からブランドマネジメントの意義と実践ポイントを概観しました。まず、ブランドマネジメ

ントが競争優位の源泉となり得ること、そのためには自店の独自性を明確化し顧客に選ばれる理由を提供する必要性を確認しました。次に、ブランド構築のステップとしてコンセプト策定・差別化・視覚的演出・サービス統一・情報発信の重要性を学び、具体的な手法や事例を通じて理解を深めました。さらに、日常のサロン運営においてブランドを体現し続けることが顧客体験の質とリピート率向上に直結する点や、確立したブランドを発信・拡張していくことで経営資源を強化できる点にも言及しました。



〇結論： サロンにおけるブランドとは単なる名前や雰囲気ではなく、顧客との信頼関係の蓄積によって形作られる「無形の資産」です。優れたブランドは顧客にも従業員にも愛され、サロンにもたらされる恩恵（安定した集客、高収益、人材の確保など）は計り知れません。ブランドマネジメントは決して大企業だけのものではなく、小規模サロンでも今日から実践できる経営の基本原則と言えます。

〇今後への示唆： 学生の皆さんは、本講義で学んだブランドマネジメントの考え方を、今後のサロン企画・運営にぜひ活かしてください。具体的には、プランニング段階で自店のミッションやコンセプトを言語化することから始め、それをブレない軸としてサービスを設計し、お客様との接点で常に体現するよう努めてください。時には環境の変化に応じてブランド戦略の見直しも必要になりますが、基本軸さえしっかりしていればブレずに対応できるでしょう。最後に、ブラ

ンドは育てるほどに価値が増す資産です。一朝一夕で築けるものではありませんが、粘り強く磨き続けることで将来のサロンの強みとなり得ることを忘れないでください。その積み重ねが、「またこのサロンに来たい」「このサロンのファンでいたい」と思ってもらえる信頼と愛着を生み、皆さんが将来携わるサロンの成功につながるでしょう。

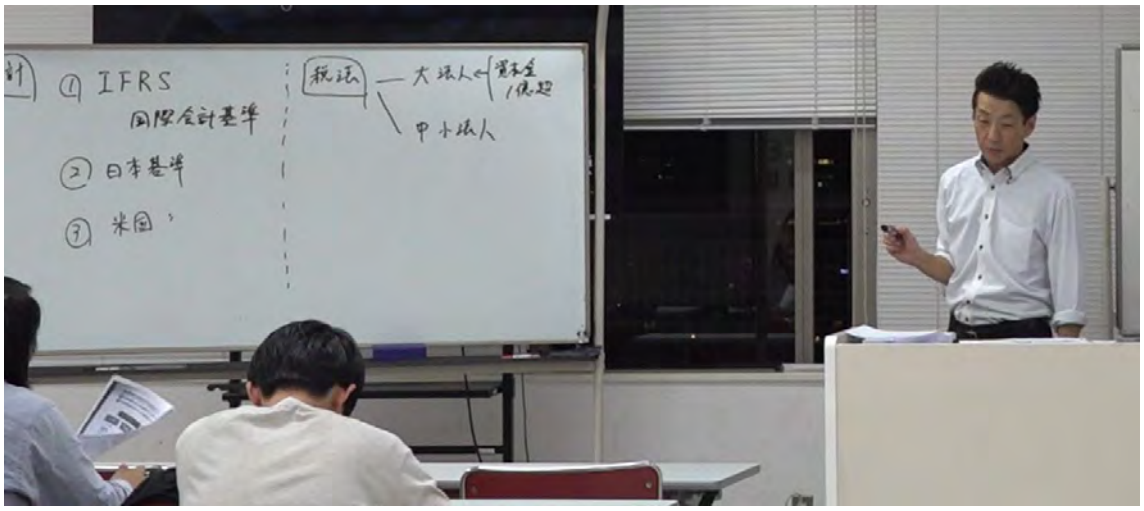
●財務会計　　田井　良夫　講師

第 1 回	2025 年 10 月 14 日（火）20:00～21:30

【背景と講義の目的】

財務諸表分析を目的とした実証講座は、学生が実際の企業の財務諸表を用いて分析スキルを身につけることを目指した特別講義です。背景として、会計学の基礎知識を座学で習得しても、それを実際の財務データに応用するのは容易ではないという課題があります。多くの学生は簿記や財務諸表の基本を理解していても、現実の企業の決算書を前にするとどこから手を付けてよいか戸惑いがちです。

本講義は、このギャップを埋めるために企画され、理論と実践を結びつけて財務諸表分析の重要性を体感することを目的としています。実際の企業のデータを用いた分析の過程を示すことで、数字の背後にある企業の状況を読み解く力を養う狙いがあります。学生にとって、教科書で学んだ知識を現実のケースに当てはめて考察することで、会計の学びをより深める機会となりました。



【財務諸表分析の重要性と意義】

財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）は企業の財政状態や経営成績を明らかにする基本資料です。その内容を分析する財務諸表分析は、企業の経営の健全性や収益力、将来性を評価し、課題を発見するために欠かせない手法です。財務諸表分析の結果は、経営者が経営改善策を検討する際や、投資家・金融機関が投資・融資判断を行う際の重要な判断材料となります。こうした決算書を読み解く力はビジネスにおいて必須の基礎スキルであり、財務会計を学ぶ学生にとっても実務に直結する重要な学びとなります。

財務諸表分析では、財務三表の数値から様々な指標を算出し、それらを用いて企業の状態を多面的に評価します。特に、安全性・収益性・効率性・成長性といった主要な観点から企業の経営状態を評価する方法が一般的であり、業種平均や競合他社の指標と比較することで客観性を高めることができます。本講義でも、これら複数の視点をバランスよく捉えることの重要性が強調されました。次節では、それぞれの観点について詳しく見ていきます。

【財務諸表分析の主要な観点】

財務諸表分析では、主に以下の 4 つの観点から企業の状況を評価します。各観点ごとに代表的な財務指標が存在し、それぞれ企業の異なる側面を明らかにします。

〇**安全性**：企業の財務の安定性や支払い能力を示す観点です。短期的な支払能力を表す流動比率や、財政基盤の健全性を示す自己資本比率などの指標が含まれます。これらにより、企業が債務を適切に履行できるか、財務構造に過度なリスクがないかを評価します。

〇**収益性**：企業がどれだけ効率的に利益を上げているかを示す観点です。売上高当期純利益率（売上高利益率）や、株主資本に対する利益率である ROE（自己資本利益率）などが代表的な指標です。これらの指標によって、本業の収益力や投下資本に対するリターンの水準を評価します。

〇**効率性**：企業が保有する資産や資金をどれだけ効率よく活用しているかを見る観点です。資産全体の回転の速さを示す総資本回転率や、在庫の回転期間（日数）を測る棚卸資産回転日数などの指標があります。これらにより、企業の経営資源の使い方が無駄なく行われているかを分析します。

〇**成長性**：企業の事業規模や業績がどの程度拡大しているかを示す観点です。売上高や利益の増加率（前年比成長率など）の指標によって、企業の成長度合いを評価します。成長性の分析により、業績が拡大傾向にあるか停滞しているか、将来的な発展性が見込めるかといった点を把握します。

以上の指標それぞれは企業の一側面を示すに過ぎないため、複数の観点を組み合わせて総合的に判断することが重要です。講義でも、単一の数字だけで結論を出すのではなく、複数年度の推移や同業他社との比較も併せて検討することで、

より信頼性の高い分析ができることが示されました。各指標の動向を時間軸で追ったりベンチマークと照らし合わせたりすることで、企業の置かれた状況を立体的に捉えられると強調されています。



【財務諸表分析の具体例】

講義では具体的なケーススタディとして、ある上場企業の財務諸表データが題材に取り上げられました。実際の貸借対照表・損益計算書の抜粋が配布され、まずその企業の資産・負債の構成や売上高・利益水準など、基本的な財務数値の概要を把握しました。企業の業種や規模、最近の業績動向について講師から説明があり、分析に入る前提として経営環境やビジネスモデルの背景も共有されました。

次に、その財務諸表から主要な財務指標を実際に計算し、前述の各観点ごとに企業の状態を評価しました。まず、安全性については流動比率を算出したところ100%以上となり、短期的な支払能力は十分であると判断されました。一方で、自己資本比率はやや低め（負債依存度が高め）であることが分かり、長期的な財務安定性の面では注意が必要であるとの指摘もありました。

収益性の面では、売上高当期純利益率やROEの値を確認した結果、この企業の収益力は同業他社と比較して良好であることが示されました。効率性については、総資本回転率の分析から資産活用の効率は業界平均程度であると評価されました。また、成長性に関しては、売上高の前年比成長率がプラスで推移してお

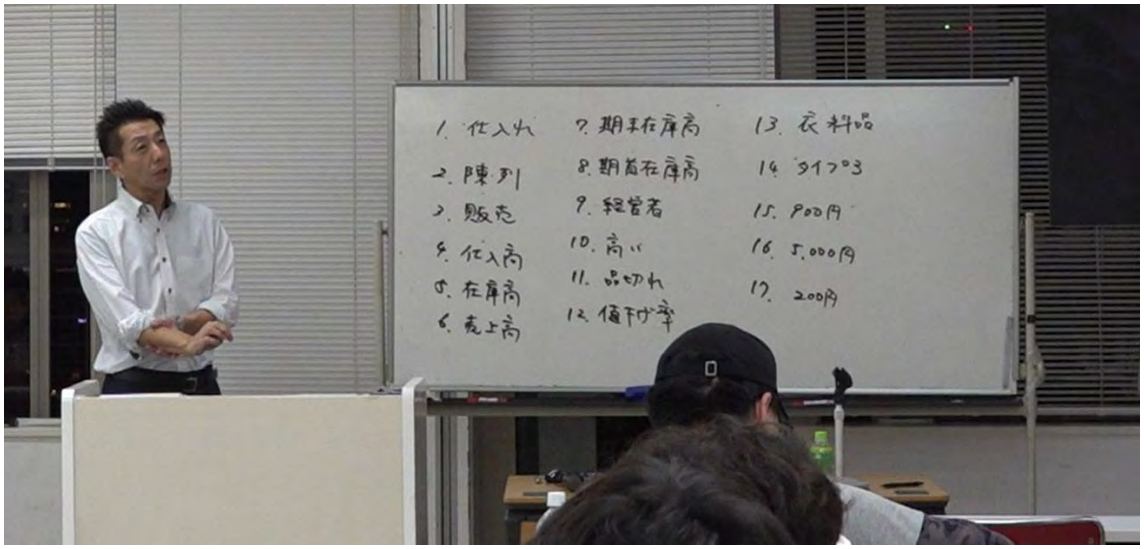
り、緩やかながら成長基調にあることが確認されました。これらの実地分析を通じて、各指標が具体的に何を意味し、どのように企業の強みや弱みを浮き彫りにするかが示され、数字の持つ意味をより実感することができました。

【結論と示唆】

講義の最後に、財務諸表分析の有用性とその実務への応用可能性が改めて強調されました。本実証講座を通じて、学生たちは財務諸表の数字の裏にある企業の実態を読み解く方法を具体的に学び、教科書で得た知識を現実のビジネスに結びつける視点を養うことができました。講義内容を振り返ると、以下のような示唆が得られます。

・財務諸表分析は企業を客観的に評価する上で不可欠であること
・単一の数値ではなく複数の指標を組み合わせて総合判断する重要性
・実際の財務データを用いた演習が理解を深めるのに有効であること

以上のポイントを踏まえ、財務諸表分析の手法は自ら手を動かして実践することで身につくものだといえます。今回習得した分析アプローチを今後も継続的に活用し、様々な企業の財務データに当たってみることで、更なる理解の深化とスキル向上につながっていくことでしょう。



●財務会計　　田井　良夫　講師

第 2 回	2025 年 10 月 21 日（火）20:00～21:30

【財務諸表分析の重要性と目的】

財務諸表分析（経営分析）は、企業の財務諸表を用いてその経営状態や課題を明らかにし、投資家や債権者など利害関係者の適切な意思決定を助ける重要な手法です。企業の現状や問題点を数字の面から客観的に把握することで、経営上の強み・弱みを評価し、改善策や戦略立案に役立てることができます。また、財務諸表分析は財務会計の学習において欠かせない実践的スキルであり、企業の価値評価や将来性の判断にも直結します。本講義では、この財務諸表分析の意義と基本的な方法について、実際の企業データを用いながら解説されています。



【財務諸表の構成と会計制度の概要】

企業は決算期末に「貸借対照表」「損益計算書」「キャッシュ・フロー計算書」などからなる財務諸表を作成します。これらは一般に「財務三表」と呼ばれ、企業の財政状態・経営成績・資金状況を示す中心的な報告書類です。貸借対照表（Balance Sheet, B/S）は決算日時点の資産・負債・純資産を表し、企業がどのように資金を調達し、どのような形で運用しているかを示します。損益計算書（Profit & Loss Statement, P/L）は当期の収益と費用および利益（または損失）をまとめ、企業が一年間でどれだけの利益を生み出したか、その構造を明らかにします。キャッシュ・フロー計算書（Cash Flow Statement, C/F）は当期の現金収支の流れを営業・投資・財務の各活動別に示し、利益と現金の動きの違いや資金繰りの状況を把握するのに用いられます。

特に上場企業では、これら財務諸表の作成と開示が金融商品取引法によって義務づけられており、財務諸表は有価証券報告書の一部として金融庁に提出されます。企業は日本基準の会計ルールや国際会計基準(IFRS)に則って財務諸表を作成し、公認会計士による監査を受けることでその信頼性が担保されています。こうした制度会計の仕組みの下で提供される財務諸表は、投資家や債権者に企業情報を提供する公式なデータ源となり、分析の土台となります。

【財務諸表分析の主要な指標と手法】

財務諸表分析では、財務データを様々な角度から評価するために多数の指標が用いられます。代表的な分析視点としては、安全性、収益性、効率性（生産性）、成長性の 4 つが挙げられます。

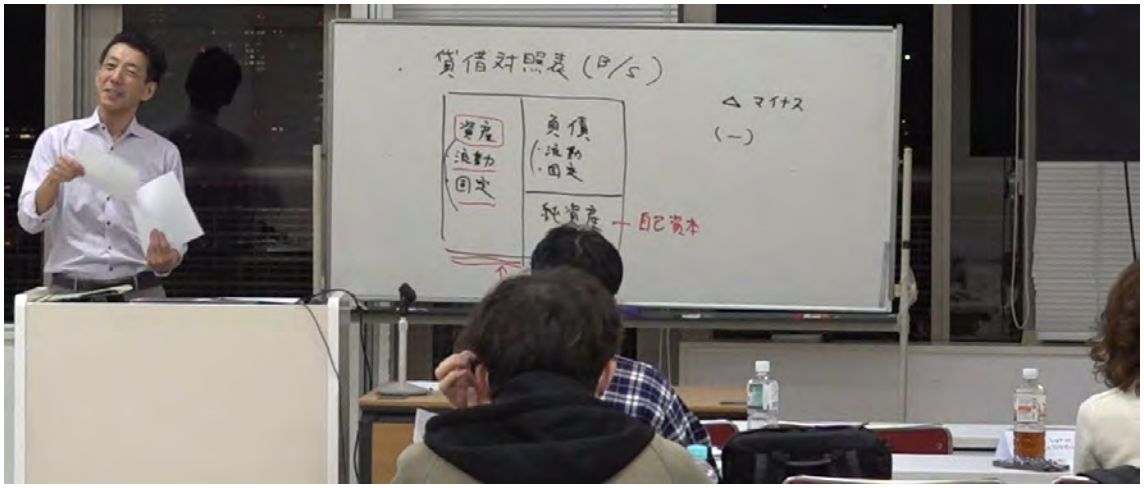
安全性は企業の支払能力や財務構造の健全性を評価する視点で、短期的な支払能力を見る流動比率・当座比率や、長期的な安定性を見る自己資本比率（株主資本÷総資産）・負債比率（負債÷自己資本）などの指標があります。これらにより企業が債務超過や倒産のリスクがないかを分析します。

収益性は投入した資本に対してどれだけ効率的に利益を上げているかを示す視点で、売上高利益率（売上高に対する利益率）や総資産利益率（ROA）、自己資本利益率（ROE）といった指標が含まれます。ROE は特に株主の出資に対する収益性を表す重要な指標で、高いほど株主資本を有効に活用して利益を生んでいることを意味します。なお、ROE は当期純利益÷自己資本で計算されますが、これはさらに売上高当期純利益率（収益性）、総資産回転率（効率性）、財務レバレッジ（負債依存度）という 3 要素に分解することができ、企業の「儲ける力」「資産の活用効率」「資金調達構造」を総合的に映し出す指標となっています。

次に、効率性（生産性）の分析では、企業が経営資源をどれだけ効率よく使って付加価値や売上を生み出しているかを評価します。例えば総資産回転率（売上高÷総資産）は資産の有効活用度合いを示し、この値が高いほど少ない資産で大きな売上を上げていることを意味します。また棚卸資産回転期間や売上債権回転期間といった指標から、在庫管理や代金回収の効率も分析できます。

最後に、成長性は企業の業績が将来的に拡大する可能性を測る視点で、売上高や利益の増加率、一株当たり利益(EPS)の成長率などが用いられます。例えば「増収増益」（売上も利益も前年より増えている）であれば成長性が高いと判断されますし、逆に売上は伸びても利益が伸びていない場合はコスト増大など課題が示唆されます。財務諸表分析では、これら複数の指標を総合的に検討し、企業の収益力や財務健全性を立体的に評価します。また、時系列分析（過去数年の推移比較）や他社比較（同業他社や業界平均との比較）も取り入れて、単年度の数

値をより深く解釈します。こうした手法により、企業の財務状況を多角的に分析し、課題の原因や改善の方向性を探ることが可能になります。



【財務諸表分析の具体例（実証講座でのケーススタディ）】

講義では、理論の理解を深めるために実際の財務諸表データを用いたケーススタディが紹介されました。例えば、製造業A社の財務諸表を分析するケースでは、まず損益計算書から近年の業績推移を検討しました。A社は売上高が毎年順調に増加していましたが、売上高営業利益率を見ると徐々に低下していることが分かりました。これは売上拡大に伴い販売費や製造原価などコストが比例以上に増加し、利益を圧迫している可能性を示しています。実際、利益率悪化の要因を詳しく調べると、原材料費の高騰や人件費の増加が背景にあり、収益性の課題として浮かび上がりました。

一方、貸借対照表の分析では、A社の流動比率が100%前後と低めで、短期負債の割合が高いことが確認されました。これは手元資金と流動負債のバランスが悪く、万一売上金の回収が滞れば支払い能力に不安が残る状態です。さらに自己資本比率をみると20%台と業界平均を下回っており、負債依存度が高い財務構造になっていました。このことは財務の安全性の面でリスクがあることを意味します。

加えてキャッシュ・フロー計算書を分析すると、A社の営業活動によるキャッシュフローはわずかながらプラスを維持していました。しかし、利益に比べて営業キャッシュフローが少額である点に着目すると、売上債権の増加や在庫の積み上がりにより、利益が十分な現金流入に結びついていない可能性がありました。実際、A社では積極的な販売拡大策により売掛金と棚卸資産が増大し、資金繰りを圧迫していることが分かりました。このケースから、売上拡大の裏で収益性と資金効率が悪化しているという重要な示唆が得られます。

分析結果を踏まえ、講義では対策として
(1) 原価管理の徹底や価格戦略の見直しによる利益率改善、
(2) 在庫管理の強化や与信管理の適正化によるキャッシュフロー改善、
(3) 必要に応じた資本増強による財務安定性の向上
などが議論されました。さらに、他の企業との比較分析も行われ、A 社と同業他社 B 社を比べることで、B 社は高い ROE と潤沢な営業キャッシュフローを維持している点が紹介されました。これにより、効率的な経営を行う企業との対比から A 社の改善余地を浮き彫りにし、具体的な経営改善策の検討につなげています。



【結論：財務諸表分析から得られる示唆と重要性】

財務諸表分析は、このように企業の経営実態を数字の面から解明する強力なツールです。財務データを実際の企業活動と結びつけて考察することで、表面的な数字の増減だけでなく、その背後にあるビジネス上の要因や問題点を読み解くことができます。分析によって客観的に把握された経営上の課題は、経営者にとって改善策を検討する出発点となり得ます。例えば、収益性分析で判明した利益率低下の原因を突き止めればコスト削減や価格設定の見直しといった戦略的対応が可能となりますし、安全性分析で高い負債比率が問題となれば資本構成の是正や資金調達方針の見直しが必要だと判断できます。

財務諸表分析による気づきは、企業内では経営管理や内部改善に活かされ、企業外部の利害関係者にとっては投資判断や与信判断の根拠となります。講義のま

とめとして強調されたのは、財務諸表分析は単なる計算上の作業ではなく、「数字を経営に結びつける思考法」であるという点です。財務データを鵜呑みにするのではなく、その背景を論理的に考察することで初めて有益な示唆が得られます。

学生の皆さんにとっても、財務諸表分析の手法を習得することは、企業の財務的健全性や収益力を正しく評価する力を養うだけでなく、経営全体を俯瞰して問題解決に取り組む姿勢を身につけることにつながります。結論として、財務諸表分析は企業の現状を多面的に評価し、将来の方向性を考える上で不可欠なプロセスであり、その理解と活用は実務において大いに役立つものです。講義を通じて学んだ分析の視点と方法を活用し、数字の背後にあるストーリーを読み取る力を磨いていきましょう。

●人材育成　　津田　まどか　講師

第 1 回	2025 年 11 月 26 日（水）18:20～19:50

【背景と目的：美容業界の人材育成が求められる理由】

美容業界では、高度な技術と顧客サービスを提供する人材がサロンの成長を支える重要な資産です。講師の津田まどか氏（ネイリスト兼中小企業診断士）は、自身が東京・大阪・名古屋などでネイルサロン 17 店舗・60 名のスタッフを統括した経験から、人材育成の重要性を強調しました。特に近年、美容師やネイリストなど美容分野の職員は若手が中心ですが、早期離職率の高さが業界全体の課題となっています。厚生労働省の調査によれば、美容師の場合就職 1 年で約 50%が離職し、3 年以内では約 80%にも上るとされています。

こうした背景から、サロン現場での効果的な人材育成と定着支援が求められています。本講義の目的は、サロン運営者の立場から、人材育成の考え方や実践方法、そしてキャリア形成支援の重要性について理解を深めることです。



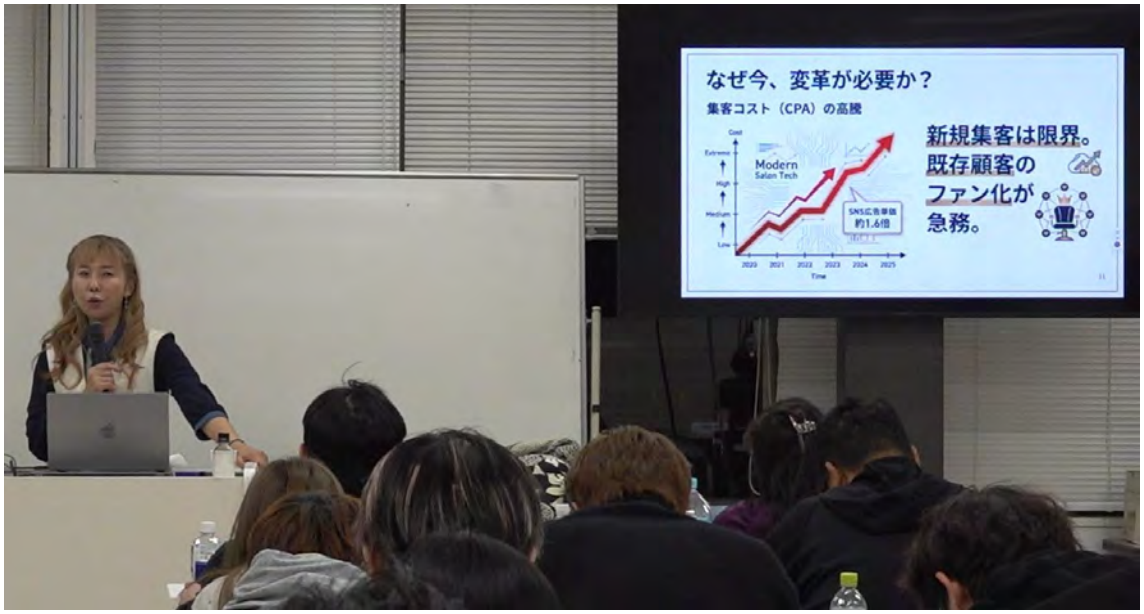
【美容業界における人材育成の現状と課題】

美容業界では新人育成の多くが現場 OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）によって行われています。専門学校や養成施設で基礎資格を取得した新人も、実際のサロン業務に必要な実践力を身につけるには、現場での経験が不可欠です。しかし現状では、多くのサロンが体系立った研修制度を十分に整備できておらず、教育の属人化（先輩個人のやり方に頼る指導）や指導者不足が課題として挙げられています。加えて、美容業界には以下のような構造的な問題が指摘されています。

・**待遇面の問題**：給与が低く、長時間労働・休日の少なさが一般的である。

・**職場環境の課題**：厳しい上下関係や人間関係のストレスが存在しやすい。
・**成長機会の不足**：一人前のスタイリストやネイリストになるまでに時間がかかり、明確なキャリアパスが見えにくい。

こうした要因が重なり、新人スタッフが志半ばで離職してしまうケースが後を絶ちません。津田氏は、「人材が定着しないこと自体がサロンの損失」であると指摘し、離職率の高さを改善するには育成と労働環境の両面からのアプローチが必要だと述べました。



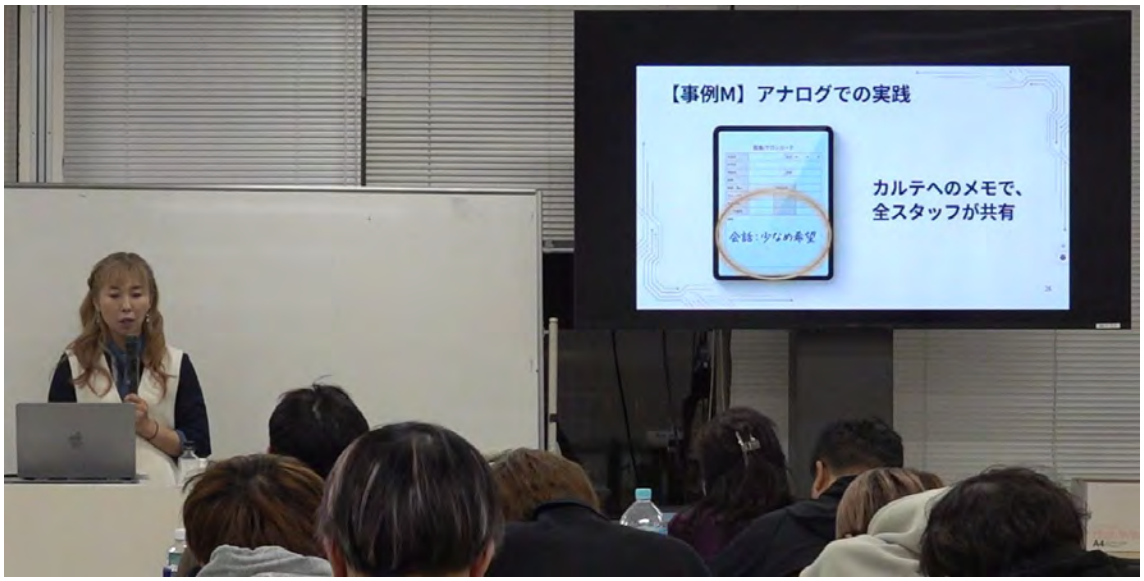
【サロン現場での育成手法と工夫】

現場でスタッフの能力を伸ばすためには、計画的かつ継続的な育成プログラムの導入が重要です。津田氏は、自身がマネージャーを務めたサロンチェーンで実践したいくつかの手法を紹介しました。例えば、新人には段階的に技術習得の目標を設定し、指導担当の先輩（メンター制度）を付けて日々の業務の中で技術指導を行いました。また、月次で技術チェックや接客ロールプレイ研修を実施し、定期的なフィードバックによって成長を実感させる仕組みを作りました。こうした OJT 中心の育成ですが、現場任せにせず標準化された研修カリキュラムを用意することがポイントです。

具体的には、サービスマニュアルや技術手順書を整備し、スタッフ全員が共通の基準で業務を学べるようにする取り組みが挙げられました。例えばネイルサロンでは、新人はまず受付対応や簡単なケア業務から始め、先輩の施術を見学・補助しながら徐々に施術範囲を広げていきます。一定期間ごとに技術テストを行い、合格すれば次のステップ（例えばジェルネイルの施術デビューなど）に進む

といったステップアップ方式です。このように小さな成功体験の積み重ねを設計し、スタッフのモチベーションを維持する工夫が効果的だと述べました。さらに津田氏は、人材育成には単に技術を教えるだけでなく「接客マインドの育成」が不可欠と強調しました。

　具体例として、スタッフ同士でお客様役と技術者役に分かれて接客シミュレーションを行い、顧客満足度を高めるコミュニケーション術を練習するといった研修も紹介されました。こうした現場での工夫により、津田氏の在籍したサロンではスタッフのサービス品質が均一化し、結果として顧客からの信頼向上や売上増加に繋がったということです。



【キャリア形成支援と従業員の成長・定着】

　スタッフ一人ひとりの長期的なキャリア形成を支援することは、人材の定着率向上とサロンの発展に直結します。津田氏はサロン運営者として、従業員の将来像を共に描くことの重要性を述べました。具体的には、定期的な個人面談を通じて「将来的にどのような美容師・ネイリストになりたいか」「5 年後・10 年後にどのような働き方を望むか」をヒアリングし、その目標に沿った役割や研修機会を提供するよう努めたといいます。例えば、あるスタッフが「将来は自分のサロンを持ちたい」という目標を語った場合、経営視点を学べるように店長補佐の役割を与えたり、外部の経営セミナーに参加させたりする支援を行いました。

　また社内昇進制度や表彰制度を整備し、努力と成果が可視化され報われる環境づくりにも触れました。キャリア支援の一環として、社内で複数のキャリアパスを提示することも有効です。例えば、トップスタイリストとして技術を極める

道、店長やマネージャーとしてマネジメントに進む道、あるいは教育担当トレーナーとして新人育成に携わる道などです。

こうした選択肢が示されることで、スタッフは自分の適性やライフステージに応じて将来像を描きやすくなり、「このサロンで成長し続けられる」という安心感が生まれます。津田氏の経験でも、明確なキャリア展望を示したスタッフほど仕事に前向きに取り組み、離職せず長く貢献する傾向が見られたということです。

さらに、職場の心理的安全性にも言及がありました。新人が失敗や疑問を素直に相談できる風通しの良い職場文化を育むことで、学習意欲が高まり成長が加速します。以上のように、キャリア形成を支援し働きやすい環境を整えることが従業員の成長と定着を促し、結果的にサロン全体の活力につながると結論付けました。



〇結論と示唆：人材育成がもたらすもの

本講義を通じて強調されたのは、人材育成はコストではなく将来への投資であるという点です。美容業界のサロン経営において、スタッフの育成に真剣に取り組むことは、技術力の向上とサービス品質の統一につながり、それが顧客満足度の向上や売上増加といった形で経営面にも大きく寄与します。津田氏は、自身のマネージャー経験から「人が育てばサロンが育つ」ことを実感したと語りました。現場での具体的な育成策（OJT の計画的実施、フィードバック体制の構築、接客スキル研修など）や、長期的視点に立ったキャリア支援策（キャリア面談、昇進制度の整備、多様なキャリアパスの提示など）は、人材の成長と定着に効果があることが示されました。

学生への示唆として、たとえ自分が将来経営者にならない場合でも、職場の人材育成に関する知見を持つことは社会人基礎力の一部であるといえます。新人として働く際には自身の成長計画を主体的に考え、逆に先輩やリーダーとなった際には後輩育成に積極的に関与する姿勢が求められます。本講義の内容は美容業界に特化した事例ではあるが、「人を育てる」ことの難しさと重要性はあらゆる業界に通じる普遍的なテーマです。美容業界における人材育成の取り組みから学べるように、常に現場目線で人の成長を支援していく姿勢を持つことが、これから社会に出る学生にとっても大切であると結ばれました。

●人材育成　　津田　まどか　講師

第 2 回	2025 年 12 月 10 日（水）18:20～19:50

【ミドル層の成長：現場を支える中堅人材の育成】

〇内容・背景： 美容業界では、新人離職率の高さが長年の課題です。実際、理美容業界では新卒の約 4 割が 3 年以内に離職するとの調査結果も報告されています。こうした厳しい現状を生き残ったスタッフがミドル層（中堅層）です。しかし彼らもまた、将来のキャリアが描けず成長の壁に直面しがちです。

　スタイリストに昇格しても「この先の成長が見込めない」「独立以外に選択肢がない」と感じれば、不安から離職を考えるケースも少なくありません。講師の津田まどか氏は、ミドル層の成長促進こそが組織全体の活性化に直結すると強調しました。



〇主要ポイント： 津田氏はサロンの将来を担う中堅スタッフに継続的な学びの機会と役割を与える重要性を説いています。具体的には、新しい技術習得の研修や外部セミナーへの参加支援、さらには後輩指導やプロジェクト任務など、日々の業務以外で能力を発揮できる場を提供することが挙げられました。中堅が指導者やリーダー補佐の役割を担うことで、自身のスキル向上だけでなく後輩育成にも寄与でき、組織内に好循環が生まれます。津田氏の経験からも、店長やオーナーが意図的にミドル層へ権限移譲し、小さな成功体験を積ませることで、彼らの成長意欲と責任感が飛躍的に高まった事例があるといいます。

〇具体例： 例えば津田氏がかつてマネージャーを務めたネイルサロンでは、入社 3〜5 年目のスタッフを対象に「ジュニアリーダー制度」を導入しました。ジュニアリーダーに任命されたスタッフは、新人研修の企画運営やサロンのサービス向上プロジェクトを担当します。当初は戸惑いもありましたが、自ら学び工夫する中で中堅スタッフの表情や仕事ぶりに変化が現れました。あるスタッフは「新人に教えることで自分も成長できた」と語り、自信とモチベーションを取り戻したそうです。このように中堅に活躍の場を与える施策は、個人の成長と同時に新人の定着率向上にもつながり、現場全体のレベルアップを促しました。

〇結論・示唆

ミドル層の育成は現場を支える土台づくりです。中堅スタッフが成長を実感できれば、離職抑制はもちろん、顧客サービスの質向上や売上増にも貢献します。津田氏は「スタッフの“定着”と“成長”こそが、サロンの未来をつくる」と述べています。現場の管理者にとって、日々の業務に追われがちな中でも中堅への投資を惜しまず、キャリアパスの明示や挑戦の機会創出に努めることが重要な示唆といえるでしょう。

【チームビルディング：強いチームがもたらす効果】

〇内容・背景： サロン運営においてチームワークの醸成は、人材育成の別視点として見逃せません。美容室・サロンはスタッフ数が限られ密な人間関係になりやすい職場です。そのため職場の雰囲気や上下関係がギクシャクすると、大きなストレス要因となって離職にも直結します。津田氏は講義の中で、自身のネイルサロン複数店舗のマネジメント経験から、チームビルディングの重要性を繰り返し強調しました。「スタッフ同士が支え合い、何でも話し合える職場風土が人を育てる土壌になる」というのが氏の持論です。

〇主要ポイント： チームビルディングの核となるのは、円滑なコミュニケーションと心理的安全性の確保です。津田氏いわく、「風通しの良い職場ではスタッフが安心して挑戦や発言ができ、結果として自発的な成長が促される」とのことでした。オーナーや店長は日頃からスタッフの声に耳を傾け、悩みや意見を気軽に共有できる場を設けるべきです。実際、オープンで正直な対話やスタッフへの傾聴・サポートを通じて信頼関係を築くことが、スタッフの安心感とサロンへの愛着心を高める鍵となります。津田氏はまた、共通の目標設定もチームを一つにまとめる有効策だと述べました。売上など数値目標だけでなく、「お客様満足度

を地域一番にする」などサービス面のビジョンを共有し、達成に向けチーム全員で知恵を出し合うプロセス自体が人材育成の機会になるといいます。



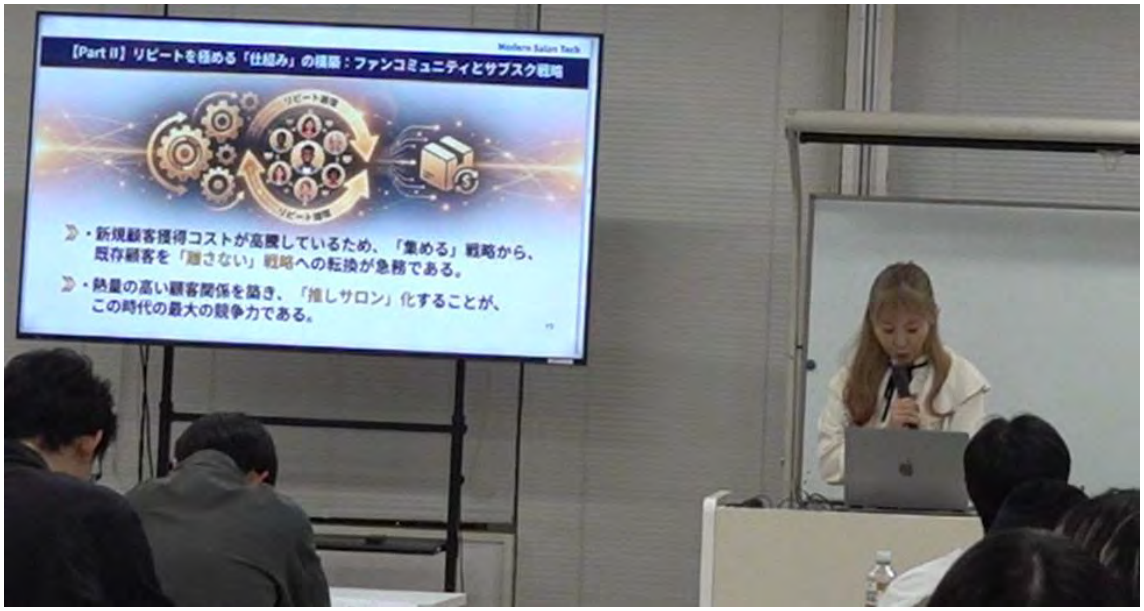
〇具体例： 講義では、津田氏が関わったサロンでのエピソードが紹介されました。ある店舗ではスタッフ間の連携不足からサービス品質にばらつきが生じていました。そこで週１回の全体ミーティングを導入し、良かった事例共有や課題の話し合いを継続したところ、数ヶ月でスタッフ同士の声掛けや協力体制が格段に向上しました。また別の事例では、新メニュー導入時にスタッフ全員で目標を立てて取り組んだ結果、「自分たちのサロンを良くする」という当事者意識が芽生え、離職ゼロ・売上増加を達成したとのことです。

第三者の調査にも、徹底したコミュニケーションによるチームビルディング型サロンでは心理的安全性が高まり、結果として定着率向上につながっているという報告があります。これらの例からも、強いチームづくりがスタッフ育成と経営成果の両面に寄与することが実証されています。

〇結論・示唆： チームビルディングによって生まれる信頼関係と協調的な職場文化は、人材育成の基盤そのものです。チーム全体で新人を育て、困難を乗り越える風土が整えば、一人ひとりの孤立感が薄れ組織の安定性が高まります。その結果、顧客へのサービス品質も向上し、スタッフも長く働きたいと思えるサロンになるでしょう。津田氏の講義を通じて、管理者への示唆として浮かび上がったのは「人が辞めないチームづくり」の大切さです。

具体的には、日常的な声掛けや定期ミーティングの場づくり、懇親会やレクリエーションを通じた交流促進など、大小様々な施策を継続することが肝要です。

チームで育て合う文化を醸成することが、結果的にサロン全体の成長スピードを高めるという点は見逃せません。



【多様性への対応：ダイバーシティがもたらす成長機会】

〇内容・背景： 時代の変化とともに、美容業界にも多様性（ダイバーシティ）の波が押し寄せています。かつてはスタッフも顧客も画一的な属性が多かった業界ですが、近年では外国人観光客や男性客の増加、LGBTQ+当事者のニーズ、高齢者や障がいのある方々の美容需要など、顧客層が幅広くなっています。それに伴い、美容サロンには誰もが安心して利用できる環境づくりが求められるようになりました。2024 年 4 月からは事業者に対し障がい者への合理的配慮提供が義務化されるなど、法制度面でも多様な顧客への対応が業界標準になりつつあります。津田氏は講義で、「多様なお客様に対応できる人材育成」がこれからの美容サロン経営に不可欠であり、同時にそれが新たな市場開拓と組織の成長機会になると述べました。

〇主要ポイント： 多様性対応の第一歩は、サロンの経営者自身が明確なビジョンを打ち立てることです。津田氏は「どんなサロンにして、どんな価値を提供したいのか」というビジョンを定めスタッフに共有することから全てが始まると強調しました。例えば「誰もが自分らしく美を楽しめるサロンにする」という理念を掲げれば、スタッフもその実現に向けた意識と行動指針を持ちやすくなります。その上で具体的な育成策として、異文化理解や接遇スキルの研修を取り入れることが挙げられました。言語面では簡単な英語・中国語対応を学ぶ機会を設け

たり、接客面ではLGBTQ+や障がい者の方への応対をロールプレイングで練習するなど、実践的なトレーニングが有効です。

　また津田氏自身のコンサル現場では、多国籍のスタッフを採用して成功したヘアサロンの例も紹介されました。日本人スタッフしかいなかったサロンが留学生出身の美容師を受け入れたところ、外国人顧客への対応力が飛躍的に高まり新規客層を獲得しただけでなく、社内にも異文化コミュニケーションを学ぶ前向きな空気が生まれたそうです。多様な人材の受け入れは新しい発想や技術の共有にもつながり、組織に刺激と活力を与えます。



〇具体例： 講義では、多様性対応に積極的に取り組む地方サロンのケーススタディも取り上げられました。ある美容室では、聴覚障がいのあるお客様向けに筆談ボードを常備し、スタッフ全員が筆談や手話の基礎を習得しています。また、子育て中の美容師やシニア世代のスタッフも在籍し、勤務時間や業務内容に柔軟な体制を敷くことで多様な人材が働き続けられる環境を実現しました。その結果、「バリアフリーで温かみのある店」と地域で評判が広がり、新規顧客の増加とスタッフ定着率の向上という成果を上げています。このようにダイバーシティ経営を推進することは、顧客満足度と従業員満足度の双方にプラスに働くことが示されています。

〇結論・示唆： 多様性への対応は美容業界における人材育成の新境地といえます。従来の延長線上では捉えきれない多様なお客様・スタッフのニーズに応えることで、サロン自体が進化し競争力を高めるからです。津田氏のメッセージは明

快で、「多様なお客様が安心できるサロンづくり」はもはや特別な取り組みではなく業界のスタンダードになっていくというものでした。

　この示唆は学生にとっても、自らが現場で働く際に柔軟な発想と受容力を持つことの大切さを教えてくれます。経営サイドに立ったときには、明確な理念の下で研修計画や職場環境を整え、多様な人材が能力を発揮できる組織づくりを率先して行うことが求められるでしょう。



【リーダー育成：次世代を担う人材の計画的な成長支援】

〇内容・背景： 最後に津田氏が強調したテーマが、リーダー育成です。サロンオーナーや店長自身が「現場のリーダー」として育ってきた背景もあり、美容業界では属人的な経営になりがちです。しかし、優秀なスタイリストが必ずしも優れたリーダーになれるとは限らない現実があります。美容サロンが持続的に発展していくためには、現場を束ね引っ張っていける次世代リーダーの存在が欠かせません。津田氏は、計画的なリーダーシップ人材の育成こそ経営安定のカギであり、中長期的な視点で取り組む必要性があると述べました。

〇主要ポイント： リーダー育成においてまず重要なのは、「リーダー像」の明確化です。どんな資質・能力を持った人材をリーダーとして育てるべきか、組織として定義することが出発点になります。一般にサロンの次世代リーダーに求められる資質として、ビジョン共有力（サロンの理念や方向性を理解し周囲に伝える力）、チーム育成力（個々の強みを伸ばしチーム全体を成長させる力）、数値管理力（売上や顧客満足度など業績指標を分析し改善策を実行できる力）の 3 点が挙げられます。津田氏も、単に技術に秀でた人よりも「人間力とマネジメント

力を備えた人材」をリーダー候補とすべきだと指摘しました。そして、そのような人材を育てる具体策としてメンター制度や段階的な研修プログラムの導入が議論されました。新人～中堅スタッフには先輩が仕事だけでなくキャリア面の相談相手となるメンターを付け、日頃から悩みや目標を共有できる仕組みを整えます。現場に信頼関係が育まれ心理的安全性が高まることで、結果的に「この職場で成長したい」と思える人が増えて定着率向上にもつながるといいます。

さらにリーダー候補者に対しては、段階に応じた研修カリキュラムを用意します。若手のうちは傾聴力や承認力（相手の話を丁寧に聴き、努力や成長を認める力）を磨く研修を行い、中堅になれば数値管理やマネジメントの基礎を学ぶ機会を与える、といった具合にステップを踏んで育成するのです。津田氏は「一朝一夕でリーダーは育たないからこそ体系立てた育成が必要だ」と述べ、場当たりではない計画的な人材育成システムの重要性を説きました。

〇具体例： 津田氏の講義では、リーダー育成に成功した事例として地方サロンの取り組みが紹介されました。そのサロンでは店長候補生に対し半年間の育成プログラムを実施しました。最初の 2 ヶ月はメンターによるマンツーマン指導期間とし、毎週 1 回の面談でスタッフとしての悩みや目標を共有。次の 2 ヶ月で店舗運営に関する座学研修（売上管理や接客クレーム対応法など）を行い、最後の 2 ヶ月は実際に店長代理としてシフト編成や在庫管理などを任せてみる期間としました。プログラム修了後、候補生は正式に店長に就任し、以降も新人メンター役や勉強会の講師役を兼務しています。

このケースでは育成されたリーダーが中心となり新人教育の質が上がっただけでなく、オーナーも現場業務の一部を任せられるようになったため新店舗展開の準備に注力できるという好循環が生まれました。また、津田氏自身の経験として、日々の朝礼でスタッフの良い取り組みを具体的に誉める「承認の習慣」を根付かせたところ、スタッフのモチベーションと定着率が向上したエピソードも紹介されています。小さな声掛けやフィードバックの積み重ねが人を育てることを、現場の実例が物語っています。

〇結論・示唆： リーダー育成は、人材育成の最終段階でありながら最も重要な要素です。現場を託せるリーダーが育てば、経営者はさらに将来の戦略に専念でき、組織全体の成長スピードが上がります。また育成されたリーダー自身が良きメンターとなり、次の世代の人材育成を内製化できるという波及効果もあります。

津田氏の講義を総括すれば、リーダー育成にはビジョンの共有と人を思いやる姿勢が何より大切だということです。「スタッフの努力や成長プロセスに目を向け、適切に承認・フィードバックする習慣づけが組織を強くする」とのメッセージは、受講した学生にとっても自身が職場でリーダーシップを発揮する際の指針となったことでしょう。将来マネジメント層になる彼らに向け、津田氏は「学び続けるリーダーであれ」とエールを送り、常に現場から学び自分も成長する姿勢を示すことが部下の手本になると締めくくりました。

【おわりに：現場で生きる人材育成マインドの醸成】

本講義を通じて提示された美容業界における人材育成の新たな視点は、ミドル層の成長、チームビルディング、多様性対応、リーダー育成という 4 つの柱に整理することができます。津田まどか氏のサロン運営の経験と中小企業診断士としての知見から語られたこれらのポイントは、単なる理論ではなく現場で実践され効果を上げてきた具体策である点に特色があります。学生にとっては、美容業界のマネジメント課題を多面的に学び、自らの将来のキャリア像を考える上で貴重な示唆となったはずです。

人材育成は一朝一夕に成果が出るものではありませんが、現場のマネジメント力と育成意識を高めることで確実に職場環境とサービス品質は向上します。今回学んだ視点を踏まえ、現場では常に部下や同僚の成長に目を配り、チーム全体で支え合う文化を育むことが求められます。美容業界ならではの繊細な職人技も、人が育ちチームが機能してこそ持続可能な価値となるでしょう。講義の締めくくりに津田氏が述べた「育てた人材が未来の財産になる」という言葉通り、現場で日々後進を育てる意識を持つことが、受講者である学生自身の成長にもつながるのではないでしょうか。本講義で得た知見を今後の実務やキャリア形成にぜひ活かしていってください。

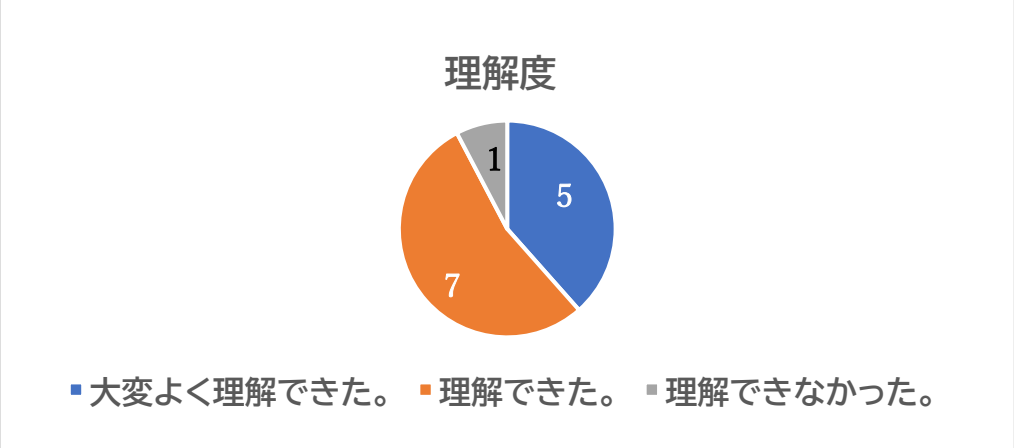
５-３　実証講座の結果

① MINATO シニアコレクション

シニアコレクションの参加者は延べ 100 名を超えていたが、港区との共催でもあり、ここでは、本学が募集して「みなと区民大学」（第 1 回～第 5 回の講座）を受講した 13 名の参加者に対するアンケートの実施結果を掲載する。

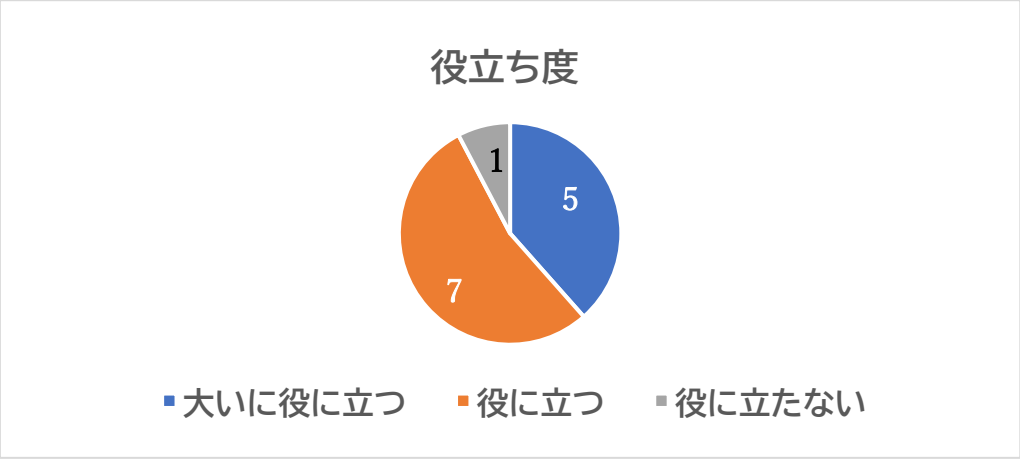
〇理解度

1 名を除いて「理解できた」と回答した。



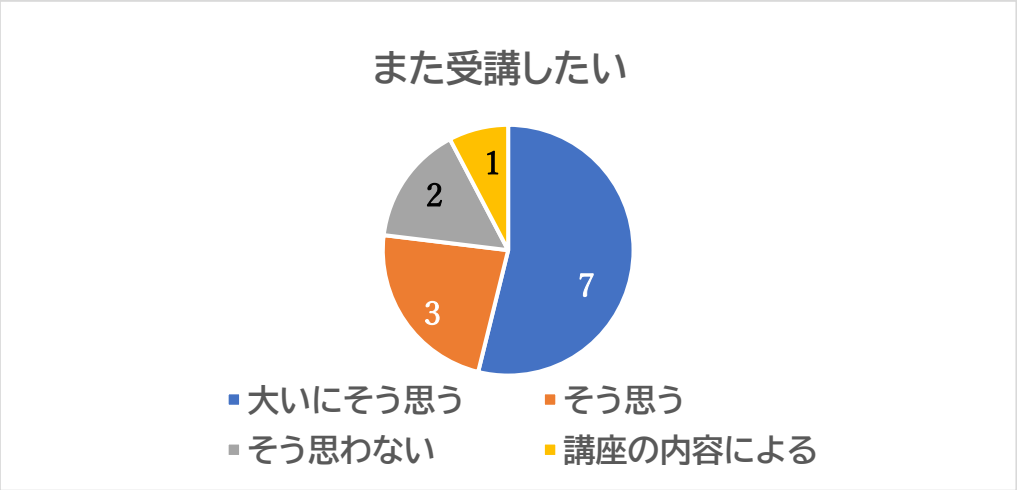
〇役立ち度

1 名を除いて「役に立つ」と回答した。



〇また受講したいか

13 名中 10 名が「また受講したい」と思っていることがわかった。



〇自由意見

「お礼の言葉」に相当するものと「意見・アドバイスに相当するもの」があった。

お礼の言葉に相当

- 美しい姿を追求する気持ちが高まりました。ありがとうございました。
- 美しくなる姿を追求する意識が高くなりました。ありがとうございました。
- 美しくなる姿を追求する意識が高くなり良かったです。ありがとうございました。
- 楽しく学ぶことが出来ました。これからもこの様な機会に巡り会いたいです。
- 貴重な経験、時間を過ごすことができました。有難うございました。
- 活躍していらっしゃる講師の方々をお招きいただいて、励みになる内容の講義、またお声かけ、お言葉を頂けて、感謝しております。シニアになり、社会から排除されていくような無力さに不安を募らせでいた自分に、まだ頑張ろう、と思えるお力添えを頂きました。心から感謝申し上げます。

意見・アドバイスに相当

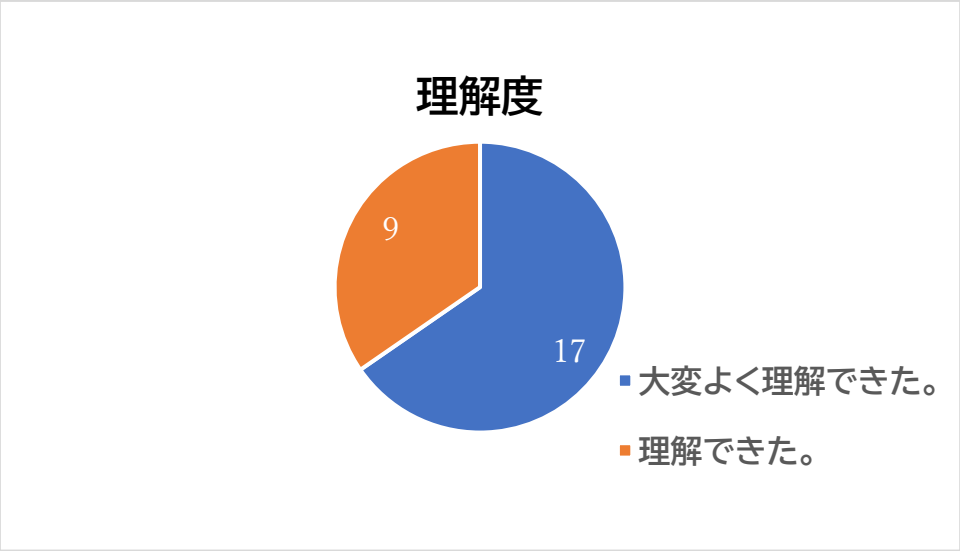
- もっと個人へのアドバイスがあるとよい　物足りない

② 国家試験対策講座（VR 使用）

26 名の受講者アンケートに関する回答状況を掲載する。

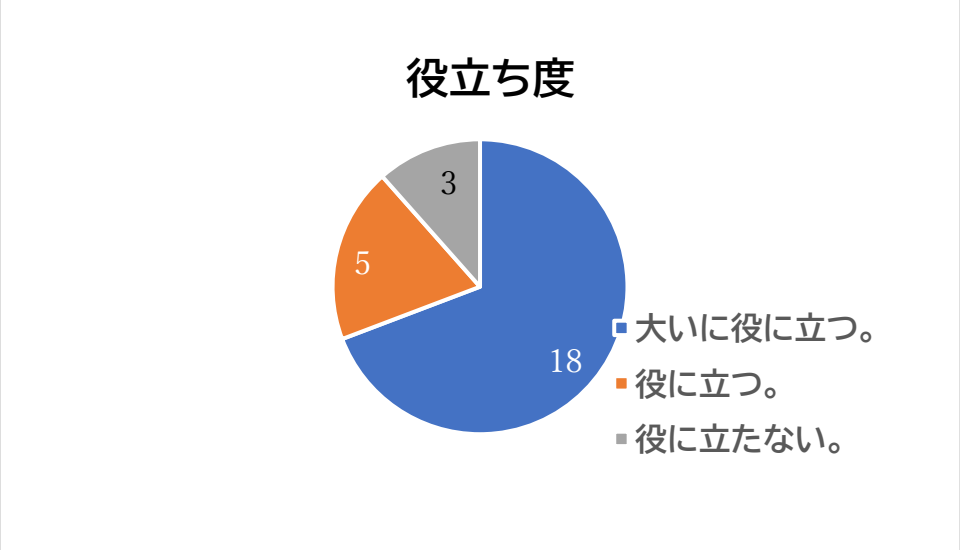
〇理解度

26 名全員が「理解できた」と回答した。



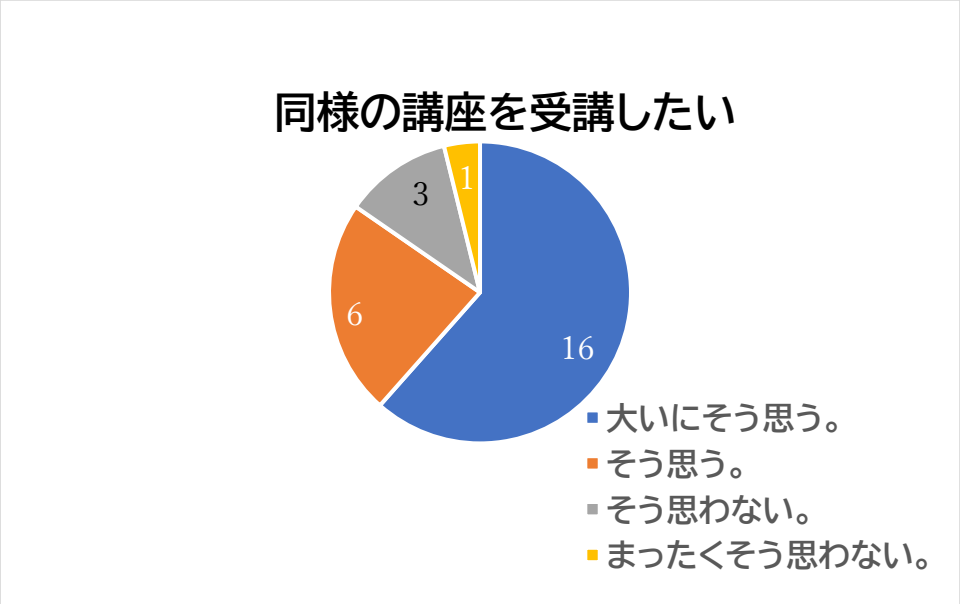
〇役立ち度

3 名を除いて「役に立つ」と回答した。



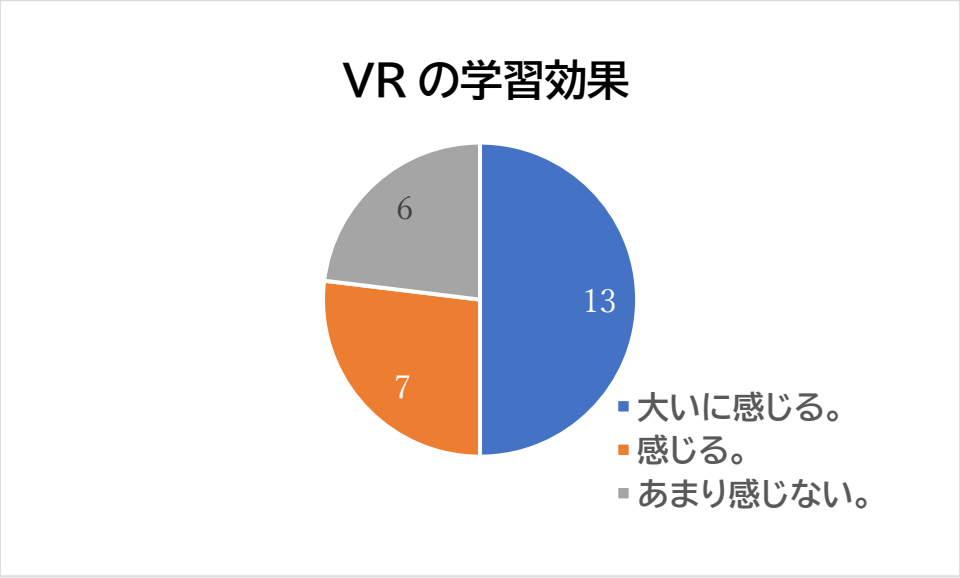
〇同様の講座を受講したいか

4 名を除いて「受講したい」と回答した。



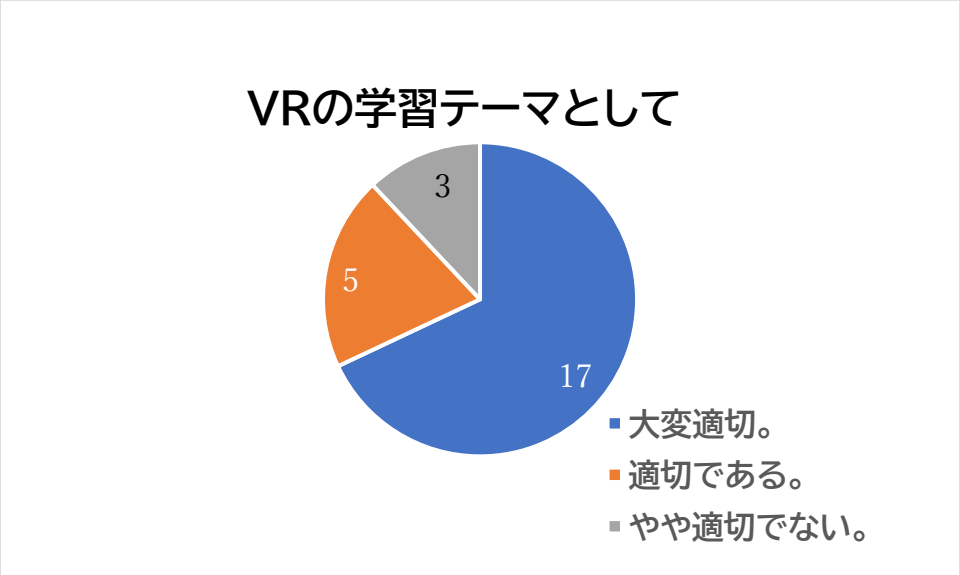
〇VR の学習効果

およそ 3/4 が学習効果を感じていると回答した。



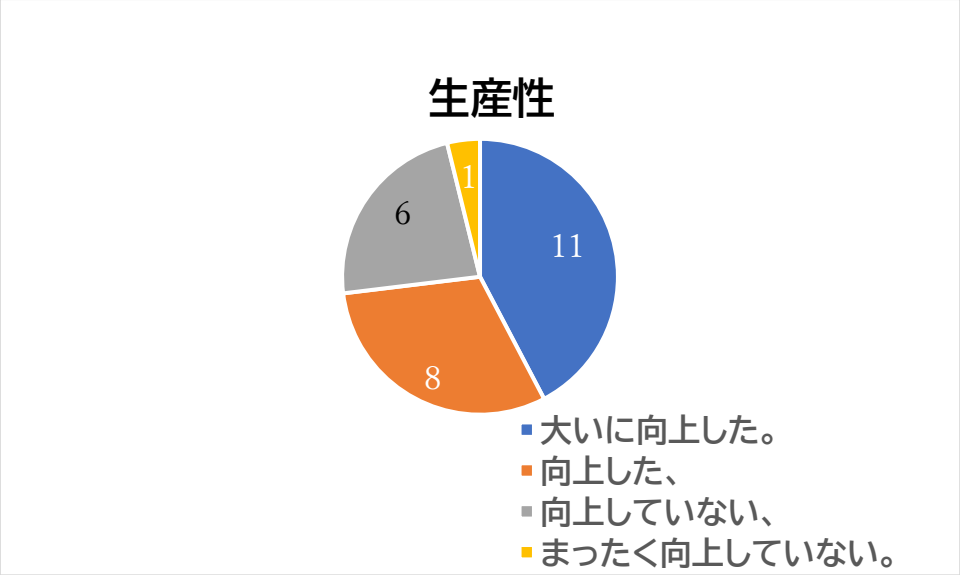
〇VR の学習テーマとしての適切性

3 名を除いて VR の学修テーマとして「適切である」と回答した。



〇生産性

およそ 3/4 の受講者が「生産性が向上した」と回答した。



〇自由意見

アンケートの自由意見からは、VR 技術を用いた授業に対する肯定的な意見や学習効果への期待、逆に機材や視点に関する課題・改善要望など、複数の傾向が見られた。

・VR 体験の興味・好意的評価

- 初めての VR 体験楽しかった
- 画面を見るだけではなく、自分がその場にいるような感覚があり、とても印象に残りました。
- 今回の VR 体験授業を通して、今まで想像でしかなかった現場の雰囲気を、よりリアルに感じることができました。
- 新しい視点で見れて学びがありました！
- VR で動きや手元の角度が分かりやすく、理解が深まる授業だと感じました。
- VR の技術はすごいと思ったし、みていてすごく楽しかった。

多くの回答者が、VR 技術を用いた授業の「新鮮さ」や「没入感」を高く評価している。例えば「初めての VR 体験楽しかった」「VR の技術はすごいと思ったし、みていてすごく楽しかった」といった声が聞かれ、「楽しかった」「すごい」「リアル」 などのキーワードが頻出した。また、「想像でしかなかった現場の雰囲気をよりリアルに感じることができました」「自分がその場にいるような感覚があり、とても印象に残りました」といった文章からは、実際の施術シーンを臨場感たっぷりに体験できる点が好評であることが分かる。このように VR の魅力や斬新さに触発された意見が複数見受けられ、総じて好意的な反応が寄せられていた。

・学習効果・理解度向上への影響

- 繰り返し見ることができ、大変役に立った。
- 画面を見るだけではなく、自分がその場にいるような感覚があり、とても印象に残りました。”
- 自己流になっていたワインディングの先生の手技の詳細を確認でき、初期の頃から体験してみたかったです。
- VR をすることで落ち着いて練習に励むことができて良かったです。
- 腕の角度などが特に分かりやすかったです。
- 当事者の視点になって見るだけでこんなにわかりやすいんだなと思いました。
- 毛の広げ方や巻き込み方も何度も巻き戻して見れる点が良いと思いました。
- 自宅で練習できない時の自宅学習用にはまあまああっても良いと思いました。
- 視覚的にイメージで捕らえる方が自分には合っているのでとても分かりやすかったです。

VR 授業による学習効果についても、高評価の声が目立ちました。「分かりやすい」「理解が深まる」「役に立った」といった言葉が多く使われていた。具体的には、「繰り返し見ることができ、大変役に立った」「腕の角度などが特に分かりやすく、…理解が深まる授業だと感じました」といった意見から、施術者の動きや手元の角度を詳細に確認できる点が学習に役立っていることが伺える。また、「自己流になっていた…手技の詳細を確認でき、初期の頃から体験してみたかった」「VR をすることで落ち着いて練習に励むことができて良かった」といった意見からは、復習や練習の自律的なサポートになるとの期待も見られる。これらの傾向から、視覚的なイメージ学習が得意な受講者には特に効果が高く感じられたことが示されている。

・機材・使用感に関する課題

- VR が重くて長時間の学習には不向きと感じました。
- VR の機械が重すぎて途中から集中できませんでした。
- 座って見てるだけじゃ絶対上手くならないから、映像流しながら手も動かす風にしないと眠くなりました。自分自身の手も映るようにするとかが良いと思いました。あと 20 分巻きの手の動きじゃないと 2 年でやるなら無意味だと思いました。構成とかも分からない 1 年生に見せるなら良いと思います。20 分で早巻きしながら、手の動きとかスライスとか上手い人の目線でどうなってるのかを見たいと思いました。
- 下巻きの時の下から見る指の動きや、コームの動かし方などその都度のポイント点があるとよりありがたいです。

一方で、VR 機器の物理的な扱いに関する不満や課題も複数挙げられた。最も多いのは、機器の重さや長時間使用による負担への指摘で、「重すぎる」「頭が痛くなる」「集中できない」といったキーワードが目立つ。たとえば「VR の機械が重すぎて途中から集中できませんでした」「長時間 VR を使用するのは頭が痛くなるので難しいと思った」といった意見があり、首や肩への負担、長時間の学習への不向きさが指摘されている。また、「間近で見られるのは良かったが、説明が難しいことがあった」「重かったです」といった短いコメントからも、機器装着時の快適性や操作のしやすさに不満があることが読み取れる。これらの意見からは、VR ヘッドセットの軽量化や装着法の工夫など使用環境の改善が今後の課題であることが示唆される。

・視点・角度に関する要望

- スライス線が見たかった
- 初めて VR を体験しましたが、今回は定点カメラだったため色々な角度から見られるようにするとより良くなると思いました。
- 施術者の完全目線のアングルが見れたらもっと良かったです。
- 角度がもう少し見たい角度で調整出来たら良かった。しゃがめないのがネープ部分見えなくて意味がないと感じた
- VR には限度があるなと思いました。ある程度たくさんの画角がないと学べないこともある。専門的なことをいうと、ネープあたりのスライス線が見えないので、しゃがんで下から見た画角が欲しい。
- VR の取り扱い説明がやや足らず見たい角度で見ることが出来なかった。また映像の巻くスピードが普段より遅いため、20 分以内での早巻きを見たかった。
- 全体的に目線で見たかった。
- 実際にブロッキングをとっているところやスライス線、スライス幅立ち位置の目線、20 分間のトータルの流れが国試向けには欲しいなと思いました。
- 下巻きの時の下から見る指の動きや、コームの動かし方などその都度のポイント点があるとよりありがたいです。

授業内容の映像に関する改善要望も多く挙げられた。特に視点や撮影角度について、「違った角度で見たい」という声が目立つ。「角度がもう少し調整できたら良かった」「施術者の完全目線のアングルが見れたらもっと良かったです」といった意見や、「スライス線が見たかった」「ネープ部分が見えなくて意味がない」といった具体的な要望が寄せられている。キーワード

は「角度」「視点」「スライス線」「ネープ」「巻くスピード」などで、映像の複数視点からの撮影や特定の技術ポイントの明示が期待されている。また、「映像の巻くスピードが普段より遅いため、20 分以内での早巻きを見たかった」といった時間長さに関する要望も見られ、カメラ操作や動画編集面の工夫がさらに有用であることが示唆される。総じて、VR コンテンツにおける「見たいものを見られる」柔軟性の向上が求められている。

・その他の意見・今後への期待

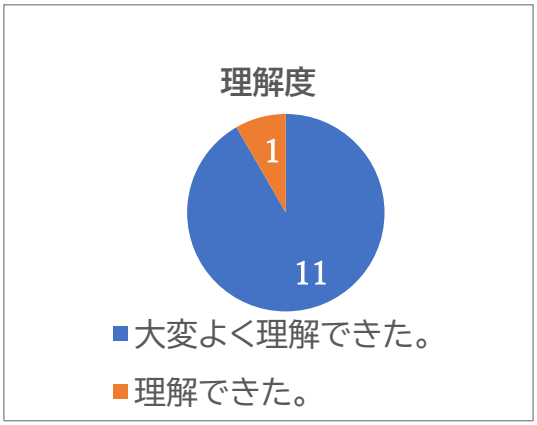
- 間近でみられるのはとても良かったが、説明が難しいことがあった。
- 必ずメリットがあればデメリットもあると思いました。
- 直接先生に教えていただいたほうが分かりやすいし吸収できる。
- 学校で VR を見るというのは時間の効率が悪いです。
- もっと早く導入していただきたかったです！
- 今後の生産性に期待しております！

その他、教育手法全体へのコメントや今後への期待もあった。たとえば「直接先生に教えていただいたほうが分かりやすい」「VR には限度がある」として授業と VR の併用や対面指導の重要性を指摘する意見があった（回答例：「直接先生に教えていただいたほうが分かりやすいし吸収できる。VR には限度があるなと思いました。」）。一方で「もっと早く導入していただきたかったです！今後の生産性に期待しております！」といった期待の声もあり、VR 授業への前向きな期待が感じられる。また、講師やカリキュラムそのものに関する愛着表現もあり（例：神田先生の授業を称賛する声）、全体的に受講者は新たな学習方法に高い関心を示していることがうかがえる。

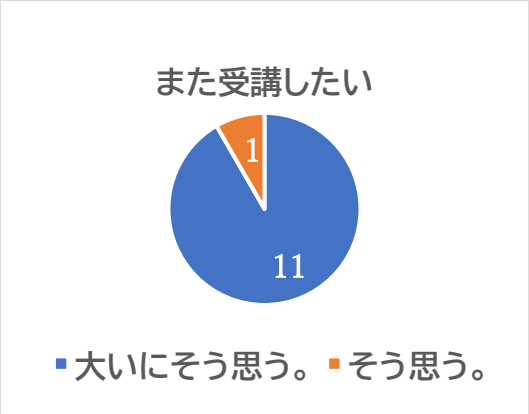
以上のように、自由意見からは「VR 授業の新鮮さ・学習効果への期待」と「機材や視点に関する課題・要望」という二大テーマが浮かび上がった。今後は肯定的意見を踏まえつつ、機器面やコンテンツの改善に取り組むことで、授業の質向上が期待される。

③ VTR 講座

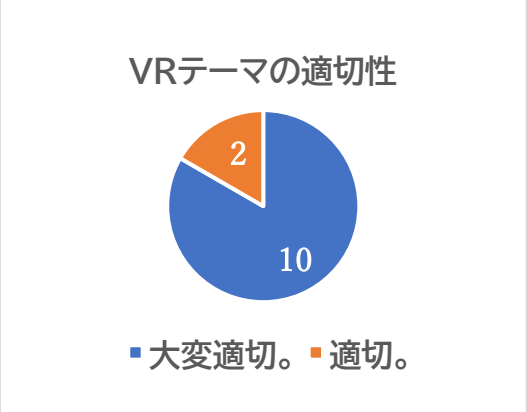
12 名の受講者アンケートに関する回答状況を掲載する。

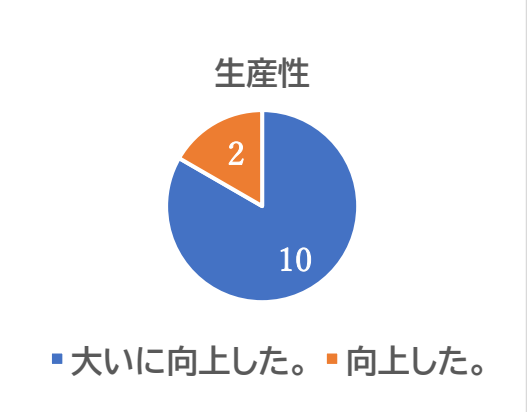












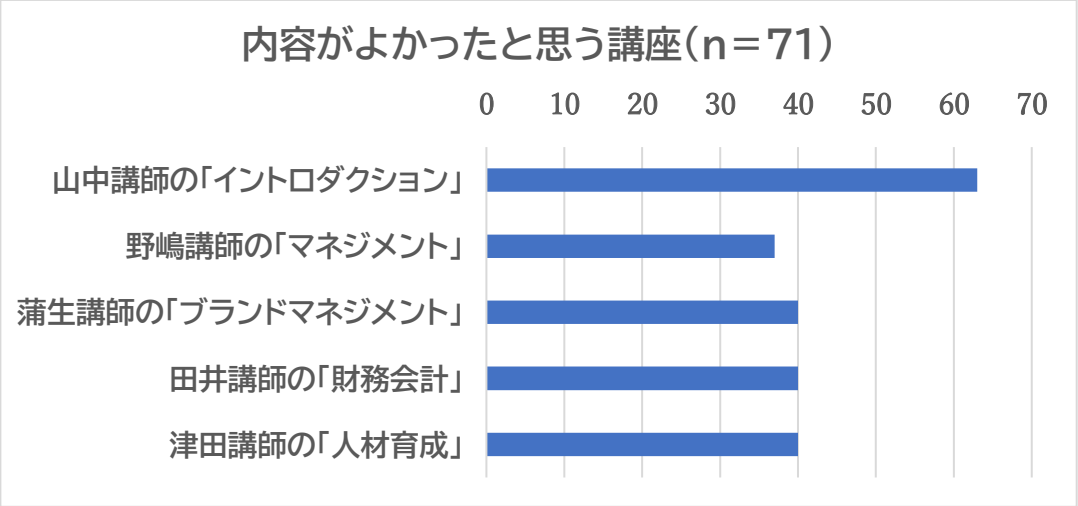
きわめて高い評価が得られた。これは、VTR のテーマが受講生にフィットしていたことに加え、普段接することが少ない現役美容師の講師であったことが理由として考えられる。

④ マネジメント講座

71 名の受講者アンケートに関する回答状況を掲載する。

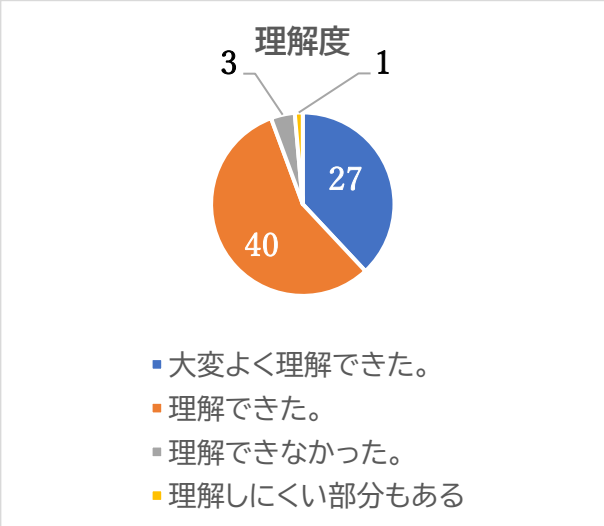
〇内容がよかったと思う講座

アンケートはすべての講座が終了した後に実施したが、回答時点から最も時間が経っているにも関わらず、「イントロダクション」がよかったという回答が多かったのは、講座全体に対してポジティブな気持ちが多い表れではないか。



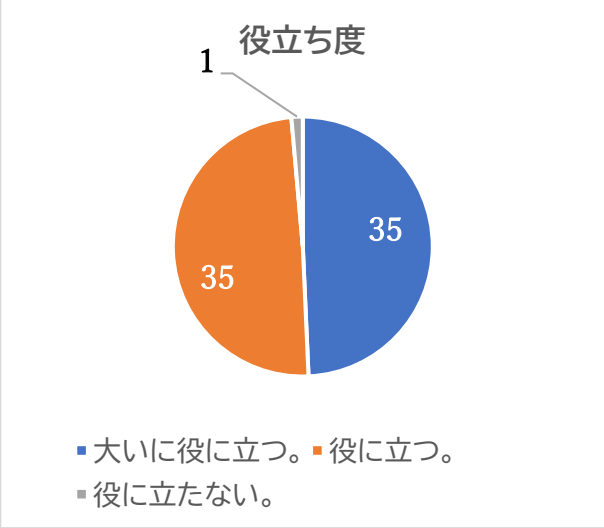
〇理解度

4 名を除いて、「理解できた」との回答であった。



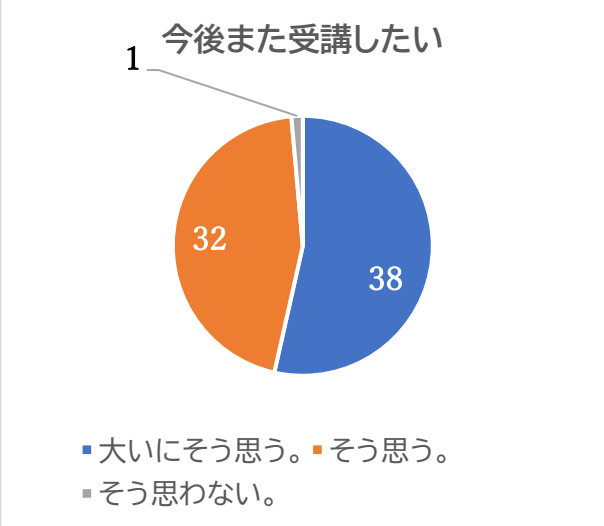
〇役立ち度

１名を除いて、「役に立つ」との回答であった。



〇今後また受講したいか

１名を除いて、「また受講したい」との回答であった。



〇自由意見

アンケートの自由意見からは、講座内容の充実度・有用性、分かりやすさやよい講師評価などの肯定的意見が多く寄せられた。また、「AI の企業への活用についても話が聞きたかった」というような前向きな意見も寄せられた。

・講座内容の充実度・有用性

回答例
- 「今回の講座は、内容が充実しており、実務に役立つ知識が得られました。講義も分かりやすく、大変参考になりました。」
- 「今回の講義を通して、ビジネスの考え方を具体的に理解することができました。難しい内容もありましたが、丁寧な説明のおかげで興味を持って学ぶことができました。」

講義内容が充実しており、実務や今後の学びに役立つという意見が多く寄せられた。難しいテーマもあったものの、丁寧な説明のおかげで理解が深まり、勉強になったという声が目立つ。例えば、「内容が充実しており、実務に役立つ知識が得られました」、「興味を持って学ぶことができました。今後の勉強にも活かしていきたいと思います」といった回答があった。

・学習効果・理解度向上への影響

回答例
- 「本授業は分かりやすく、専門分野について理解を深めることができました。」
- 「理論だけでなく実例も交えて説明していただき、とても理解しやすかったです。」

講師の説明がわかりやすく、内容が理解しやすいと評価する回答も多く見られた。具体的な事例を交えながら説明してくれたことや、講師の経験に基づく説得力あるお話が好評であった。

これにより、講師の工夫ある説明や講義構成が、受講生の理解を促進していることが示唆されている。

・幅広い視点・多様な学び

回答例
- 「各分野の先生方の授業に参加することは、大きな収穫がございました。」
- 「異なる視点が私の専門に大きな利益をもたらしてくれました。」

多様な講義を通じて、多方面からの視点や専門知識を得られたという意見があった。各分野の講師による講義参加が「大きな収穫」であったり、異なる視点が自身の専門に利益をもたらしたと感じる受講生が見られる。

こうした意見から、講座を通じて幅広い分野の知識や異文化的な視点に触れられたことが、受講者にとって有意義であったことがわかる。

・今後への活用意欲

回答例
- 「先生に教えていただいたことを今後の仕事や生活に活かしていきたいと思います。」
- 「今後の学習や研究にも活かしていきたいと思います。」

学んだ内容を今後の学習やキャリアに活かしたいという意見も多く、受講生の学びへの意欲が表れている。講義で得た知見を「仕事や生活に活かしたい」「研究に活かしたい」という具体的な意思表明が見られた。

これらの回答は、受講後の学びを積極的に実践や探求につなげようとする受講者の姿勢を示しているといえる。

・講師・講義への感謝と称賛

回答例

- 「貴重なお話をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。」
- 「お疲れ様でした！ありがとうございます。」

講師陣への感謝や講義全体への称賛の声も多く寄せられた。講義の有益さやわかりやすさに対し、「ありがとうございます」と直接感謝する回答が目立つ。

このように、講義内容への満足度の高さと講師への尊敬・感謝が示されており、受講生にとって充実した講座であったことがうかがえる。

・今後の期待・要望

回答例
- 「幅広い分野の内容を学ぶことができればありがたいです。特に、AI の企業への活用に関する内容があると、なお嬉しいです。」
- 「もっと具体的なデータが欲しい。」

一方で、講座の今後への要望やリクエストも散見された。より具体的なデータや事例を求める声や、関心のあるテーマの講義を希望する意見があった。

これらの回答からは、受講者が自身の興味やニーズに応じた講義の深化や新規テーマの導入を期待していることが分かる。

・簡潔な評価・無回答

中には短い賛辞や無記入の回答も見られた。「面白い」「素晴らしい」など一言のみの肯定的な意見や、「意見なし」「なし」などの回答が複数あった。例えば、回答例として「面白い」「素晴らしい」「意見なし」などが挙げられる。これらは詳細なコメントこそないものの、総じて講座に肯定的であったことを示している。

以上のように、自由意見の回答からは講座内容の高評価と講師への感謝が大半を占める一方、さらなる充実に向けた意見や要望も寄せられた。これらを踏まえ、今後の講座企画・運営に役立てていきたい。

6　まとめ

以下、本事業のまとめである。

1 年目（令和 5 年度）は、10,000 名を超える卒業生に対する調査からスタートし、技術領域だけでなく、マネジメント領域におけるリカレント学習ニーズを明らかにした。

2 年目（令和 6 年度）は、1 年目の成果を受け、サロン経営者に対する学習ニーズを深掘りした調査を行った。その結果、シニアコレクションや成功体験を基にした講座の実施を行った。

3 年目（令和 7 年度）は、2 年間の成果を受け、VR や AI の必要性を感じ、オリジナルの VR コンテンツの開発やマネジメント講座の充実を図った。

来年度以降は、この流れを重視し、VR 教育の充実や AI 活用の発展を図り、卒業生のネットワーク化によるリカレント学修の定着を図り、より一層のプロ教育・学修システム全体のデジタル化・AI 化を推進していきたい。

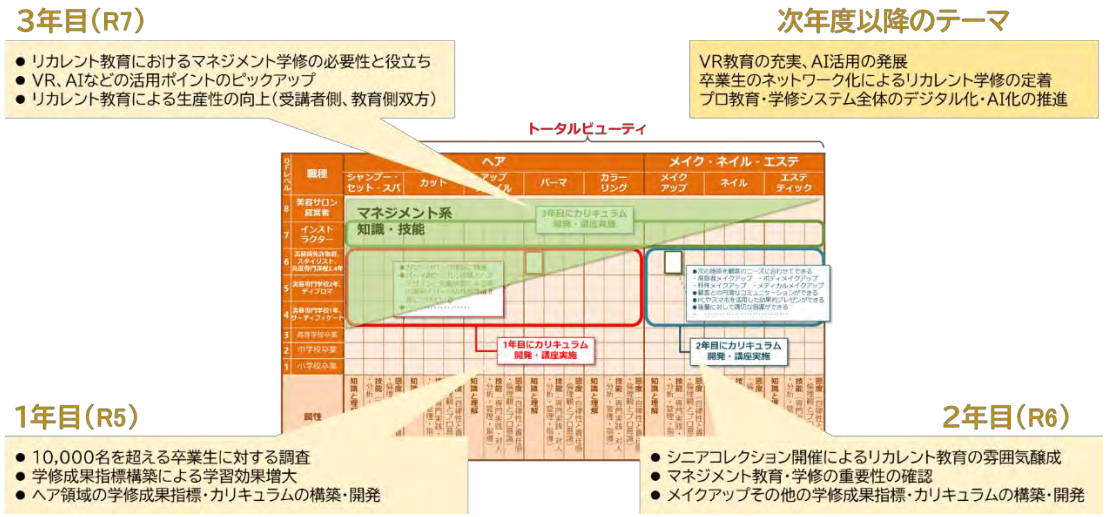


図 14　まとめの図

資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能*1	分析技能*2	管理・指導技能		
8	学習者は、学問分野や専門的実務分野の最前線にある最先端の知見について、批判的理解を示す。 新しく独創的な知見／実務につながる高度な研究を、主体的に実施・管理・統率する。 論文、特許、製品、新規の高度な専門的実務、先進技術、創造的モデル、芸術作品や音楽などの形で研究成果を産み出す。 専門分野の観点、主張、アイディアを、知識と自信をもって提示し、正しいと証明する能力を発揮する。	学問分野または専門的実務分野の最先端で、課題となっている問題について、包括的、体系的、統合的で新しく複雑な抽象的アイディアを実証する。 分野横断的な観点・知識・理解を持つ。	学問分野や専門的実務分野の最先端にある新しく複雑な抽象概念や課題を、批判的に分析・評価して、総合的に対応する。また、既存の概念や実務の高度化を図る。 高度な研究手法・解析手法・技法を独力で用いて、現代の複雑で抽象的な新しい問題や課題を解決し、学問分野や実務分野の新しい知見、理論、解決策、実践方法を創造的に産み出す。 ピアレビューや国際基準を満たす独創性の高い研究により、新しい知見、理論、解決策、実践方法を産み出す。	実用的・技術的な技法／実践方法や科学的技法を使いこなす高度な能力を発揮する。このような能力は、複数の分野の最先端において、複雑で最新の問題を解決するための技法、技術や解決策を開発するものである。 複数の分野で、高度で専門的な研究方法論を設計／実施／改良する能力を発揮する。	同業者、研究者コミュニティや一般社会に対して、当該分野の研究成果を効果的に伝える。 学習の場や職場の人々、民族や職業が異なるグループ・ネットワークに所属する多様な人々に対応する。 専門分野の情報、知見、アイディア、課題やその解決法について、同業者、研究者コミュニティや一般社会に説得力をもって理路整然と伝える。	研究・実務活動の質を高めるために、既存の手法／方法論を利用／選択／改善する、あるいは適切な新しい手法／方法論を開発する。 数値データや図表データの批判的評価を行う。	新しい知見を産み出し、実務、プロセスや製品の高度化に貢献する研究や資源管理について、主体性、自主性、権限をもって取り組む。 リーダーシップ、プロ意識、管理能力を発揮し、多様なパートナーと効果的に協力する。 専門職／専門家レベルの新たな問題について、学術的および専門職の観点から、社会的、文化的進歩に貢献する。	自分自身の仕事について、全面的に責任を負う。必要に応じて、所属する組織の運営管理全般にも説明責任を負う。 生涯学習に対する知見と、新しいアイディア、解決策、システムの開発・融合を図る。 ベンチャー事業およびプロジェクトを起こしたり、そのリーダーになったりする。	法律上、職業上の行動規範や、倫理的に健全な行動規範を遵守する。 倫理上、職業上の新たな課題を見いだし、その複雑さや、専門分野における研究の進展や社会全体への影響を明らかにする。 社会的、技術的、経済的発展に専門的立場から貢献する。

7	学習者は、学習／研究／専門的実務を進めることにより、高度な理論的知識、批判的思考、創造能力や革新能力に関する理解を基礎として、学問／実務の特定分野における高度な知識を習得する。また、課題に対して、新しい解決策を産み出す。 世界でも、知識と能力を生かして、自信をもって行動する。	学問分野または実務分野において、分析的・批判的評価を行い、複雑な情報や専門的な概念・理論・手法・実務をまとめ上げるために、独創性と主体性を発揮する。	高度な技術、手法、技能を活用して、新しいアイディア／画期的な実践法を産み出すためのアプローチを幅広く、総合的に行い、知識を批判的・統合的に応用し、学問／実務分野における複雑な課題に対処し解決する。	標準の専門的研究手法／アプローチによって、最先端の知識や学問分野の最新動向から得られる実務技能・手法、研究手法を応用する。 学問分野または実務分野の複雑な問題や課題に対処し解決する能力を発揮する。 最低一つの外国語を使い、仕事や高度な学習を行う能力を発揮する。	同業者、専門家、素人に対して、最低一つの国際言語で、適切な方法を用いて、知識、技能、アイディア、評論、結論／論拠を明確に伝える。 学習の場や職場の多様な人々や、民族や職業が異なるグループ・ネットワークと協力しながら仕事ができる。	研究・実務活動の質を高めるために、適切なデジタル技術やソフトウェアを幅広く効果的に利用する。 新しい解決策／課題に取り組むために、アプリケーションやシステムを調整する。情報・メディア・技術のアプリケーションを幅広く利用して、学習／研究／実務を支援する。 数学的手法や他の定量的・定性的手法を活用して、学習／仕事の数値データや図表データを分析・評価するなど、評価業務を設計・立案する能力を発揮する。	職場やクラスで、かなりの自主性、主体性、リーダーシップ、対人技能を発揮する。 複雑かつ予測がつかない状況下で、自分のチーム内の作業や他チームとの協働作業の企画、資源管理、監督、問題解決、作業管理に相当の責任を持つ。	研究者や職業人として成長を続けることにより自己の向上を図る。 ベンチャー事業あるいはプロジェクトを起こしたり、そのリーダーになったりする。	法律上、倫理上、職業上の行動規範を遵守する。 批判的洞察や倫理的配慮に基づき、複雑な問題について助言や決定を行う自信を示す。 国や世界の社会的、技術的、経済的発展のために、専門的立場で貢献する。 市民社会や世界が抱えるさまざまな問題に、自分の専門分野で取り組む能力を発揮する。
6	学習者は、専門分野での研究開発、創造性や革新が欠かせない準専門職の仕事に求められる、広範囲で体系的な知識と能力を理解する。 専門職業人としての姿勢・心構えと柔軟な対応力を持ち、倫理観ある職場文化や持続可能性に向けて取り組み、日本の国家目標に沿いながら国際社会の一員としての認識を持つ。	理論や技術について、高度で総合的な知識を言葉で説明し、関連する専門分野の能力、または学習／研究／仕事／実務分野に関わる学際的な能力を発揮する。	学習／研究／仕事／実務の分野で、批評的・分析的能力や評価能力を用いて、当該分野の知識の活用において知的主体性を発揮する。 複雑な用途を管理、解明し、創造的で画期的な解決策を用いて、予測できない問題に対処する。 学習／研究／仕事／実務の分野で、技能／知識をさまざまなアプローチに応用する。	広範囲にわたる複雑な問題の解決に、基本的な方法や手法を幅広く応用する。 専門分野に関する実務や手法の見直し、調整、監督を行う。	多様な他者に対して、アイディアや考えを、文書および口頭で、適切な表現方法を用いて、自信をもって正確に理路整然と伝える。 学習や仕事などの多様なコミュニティの人々や、地域や国が異なる多様な人々と協力する。	多様なITツールやメディア、アプリケーションを幅広く使用し、学習／仕事を支援する。 数値データや図表データ／視覚データを組み合わせて学習／仕事に使う。	多様な組織的枠組みや制約の下で、自主的に仕事をし、各種業務管理でリーダーシップとプロ意識を発揮する。 自分や他者の業務について、相当レベルの責任を負う。 事前に定めた目標や成果に向けて仕事をすることで、意思決定能力とプロ意識を発揮する。	遇んだプロジェクトの中で企業家としての能力を発揮する。 自ら定めた方向で、生涯学習や職業の実現に向けて取り組む。 地域／国／世界の社会政治・経済・文化的に幅広い課題について認識を示す。 専門分野で、説明責任を果たす。	社会的・職業上の多様な環境や実務の中で、倫理観を遵守し、倫理上の課題を明らかにし、倫理観を持って決定し、専門職業人として行動をする能力を発揮する。 地元や世界が抱える科学、技術、ビジネス、社会、環境の課題について、深い認識と知識を示す。

5	学習者は、相当量の理論的・専門的知識を持ち、職場で複雑な状況に対処することができ、組織や職業で求められることを理解し、それに従うことができる。 学習者は、倫理的にも、地域社会や世界で働いたり生活したりする場合にも、持続可能な方法を用いる能力を持つ。	高度な専門知識が求められる分野で、予測不可能な多様な任務／仕事／学習に取り組むために、理論、概念、技術について広範囲の知識と理解を有する。	一つの専門分野または仕事において、専門的・概念的・理論的知識を詳細に認識し、解釈、応用、分析、評価する。 矛盾で複雑な定型的・非定型的な状況や、予測できない状況でも、限られた範囲のアプローチや自主性をもって、問題や課題を解決する。	実務能力を幅広く活用して、多様な学習や複雑な任務について、必須の方法論や手法を用いる。 関連した実施方法やプロセスの見直しや調整を行い、他の人たちを監督する。	社会的、学術的、職業上の目的で、多様な聞き手に情報、アイディア、問題、解決策を伝えるために、分かりやすい方法で、説得力を持ち、効果的にコミュニケーションを取ったり交流したりする。 最低二つの言語で、高い会話力や文書作成力を示す。	多様なITツールやメディア、アプリケーションを幅広く利用して、学習／仕事を支援する。 複雑で定型的、非定型的な数値データや図表データ／視覚データを解釈して使用する。	相当な自主性をもって、かなり個人責任を負いながら仕事をする。 職場で、資源の割り当てや他者の成績に関わる判断について、単独で経営的決断を下す。 責任を取ったり、説明責任を負ったりする能力を示す。 業務分野が明確でない場合を含め、新しい環境で、チーム・リーダーシップを発揮する。	関連する特定の状況で、企業家的な能力を発揮する。 自ら方向を定めた生涯学習に効果的に取り組み、専門的な共同制作や研究に自主的に参加する。 地域や世界で、複数の言語が飛び交う多民族・多文化の状況下で、仕事や学習を行う能力を発揮する。	社会的責任を果たす能力を発揮する。専門職業人に相応しい倫理的慣行や持続可能な慣行に従う能力を示す。 地域や世界で、持続可能な社会をつくるために貢献する。
4	学習者は、一般理論・原理について幅広い知識を獲得し、特定分野の学習／訓練の能力を発揮する。それにより、技術職・専門職・経営職の分野のキャリアにつながる専門的な仕事を行うことができる。 学習者は、進学への関心を示す。 学習者は、倫理観ある適切な行動を取ろうと努力し、世界の中の日本という視点で、日本の目標への理解を示す。	当該分野の学習／訓練の中で、複雑で定型的／非定型的な任務／学習を行うための複雑な理論的知識・能力について、広範囲にわたり体系的に把握・理解する。	学習／仕事の内容が明確になっている場合、最低限の監督を受けて、一般概念／理論／運用原理を認識・解釈・適用・評価する。 明確でありふれた問題や、日常的に見られない性質の問題を解決する。	実務能力、技法、手法を限られた範囲で応用し、求められた任務／仕事を行う。 定型的または非定型的な任務に関する実務やプロセスについて、必要に応じて検討と修正を行う。	他の学生や専門家、素人などに対して、アイディア、情報、問題、解決策を、口頭でも文書でも明確に伝える。 単独、またはチームメンバーの一員として、管理者や同僚、部下と効果的に交流する。 日本語のほかに最低一つの言語で、能力を発揮する。	学習／仕事を支援したり、仕事や学習に関するデータを調べて処理するために、多様なデジタルツールを利用する。 所定の複雑な数値データや図表データ／画像データを解釈し活用する能力を発揮する。	さまざまな状況で実施される明確で非定型的な学習／任務について、幅広い助言や指導を受けて、かなりの責任感と自主性をもって仕事をする。 職場で各種チームの統率と管理を行い、問題に対処する。	企業家的な活動について調べたり参加したりする。 進学の可能性や自己研鑽の取り組み方を明確にする。キャリアや職業について現実的な目標を立てる。 地元・地域社会づくりにつながる専門的活動や市民活動に関心を示し、参加する。	仕事において、組織の倫理や職業倫理を理解し、従う能力を示す。地域社会や世界で働いたり生活したりする場合、持続可能な方法を適切に用いる能力を示す。

3	学習者は、中級レベルの事実や原理原則について、基本的、理論的かつ専門的な知識を獲得する。必要に応じて、仕事に関するバランスの取れた能力を発揮する。 学習者の興味や仕事に関連する学習や訓練に興味を示す。 年齢相応に地域社会に参加し、世界の問題に対して年齢相応の認識を持つ。 英語など、日本語以外の一つの言語で、初級の言語能力を獲得する	ある学習や訓練についてかなりの知識を持つ中で、基本的な原理原則、理論、技能を言葉で説明し、明確な各種の定型的任務/仕事に取り組む。	知識や、よく知っている手法、スキルを活用して、定型的任務／学習の予測できる問題を解決する。	教師の監督の下で、情報、適切な手法やツール、技術、材料を使って、定型的・非定型的な任務／問題への取り組み／解決策を組織・運用し、完了させる。	他の学生、専門家、素人に対して、単独で、あるいはチームで、口頭または文書によって、アイディア、情報、問題、解決策を効果的かつ明確に伝える。 日本語以外に最低一つの国際語の初歩的能力を養成する。	学習／仕事を支援する基礎的なITアプリケーションを利用して、学習／仕事に関連するデータを調査、処理する。 よく知っていて分かりやすい数値データや図表データを解釈し、活用する。	最低限の指導監督で、かなり自主的に仕事をする能力を示す。 学習／仕事の枠内で、相手に助言を与える。 成果の質と影響についてかなりの責任を負う。 学習／仕事／任務の成果や成績について、よく考え、責任を負う	最低限の指導監督下で、学習による自己研鑽やトレーニングを積んだり、進学を希望したりする。 日本および近隣諸国について、認識と一般的知識を持つ。 企業家に求められる知識や能力について、基礎的な理解を示す。	多文化環境の中で行う学習／任務で、職業倫理に従うことができる。 地域社会や世界に役立つ事柄（環境問題など）について、地域社会と積極的に関わる。
2	学習者は、一定の環境で責任感と倫理観のある職業人として仕事を行うための知識と技能を獲得する。 進学や、積極的に生涯学習に取り組むことに関心を示す。 地域社会に参加する技能を高める。 英語など、一つの外国語の基礎的能力を高める。	学習のため、あるいは各種の定型・非定型の任務／仕事に取り組むために、複数の主題／分野の知識を言葉で説明する能力を身に付ける。	知識と技能を、明確な定型的学習／任務に活用する。 明確な定型的学習／任務において、よく知っている解決法を応用して予測できる問題を解く。	一般的な基本手法、材料を用いて、指導を受けて、明確な任務を計画し、完成させる能力を発揮する。	よく知っている日常的な事柄について、単純で直接的な情報のやりとりが必要な限られた状況で、コミュニケーションをとる。 日本語以外の言語一つの基礎的能力を高める。 進学準備に責任を持ち、準備に取り掛かる。	教師の監督の下で、所定の任務を行うために、十分な、限られた基礎的なアプリケーションやITツールを利用して、簡単なデータを処理する。 少量の単純でよくある数値データや図表データを解釈する。	体系化された活動において、監督の下で、ほとんど自主性なく、相当な支援を受けて、作業や仕事をする。 責任や説明義務をほとんど負わずに、チームで作業し、意見交換や相手へのフィードバックを行う。	教師の指導を受けて、学習に一定の責任を担い始める。 任務や個人の行為・価値観について考える力を発揮する。	一定の個人の価値観を学習／任務の中で生かす能力を示す。 自分以外の文化や価値体系に触れ続けることで、文化的多様性への理解を深める。 政治意識や社会意識を高める。

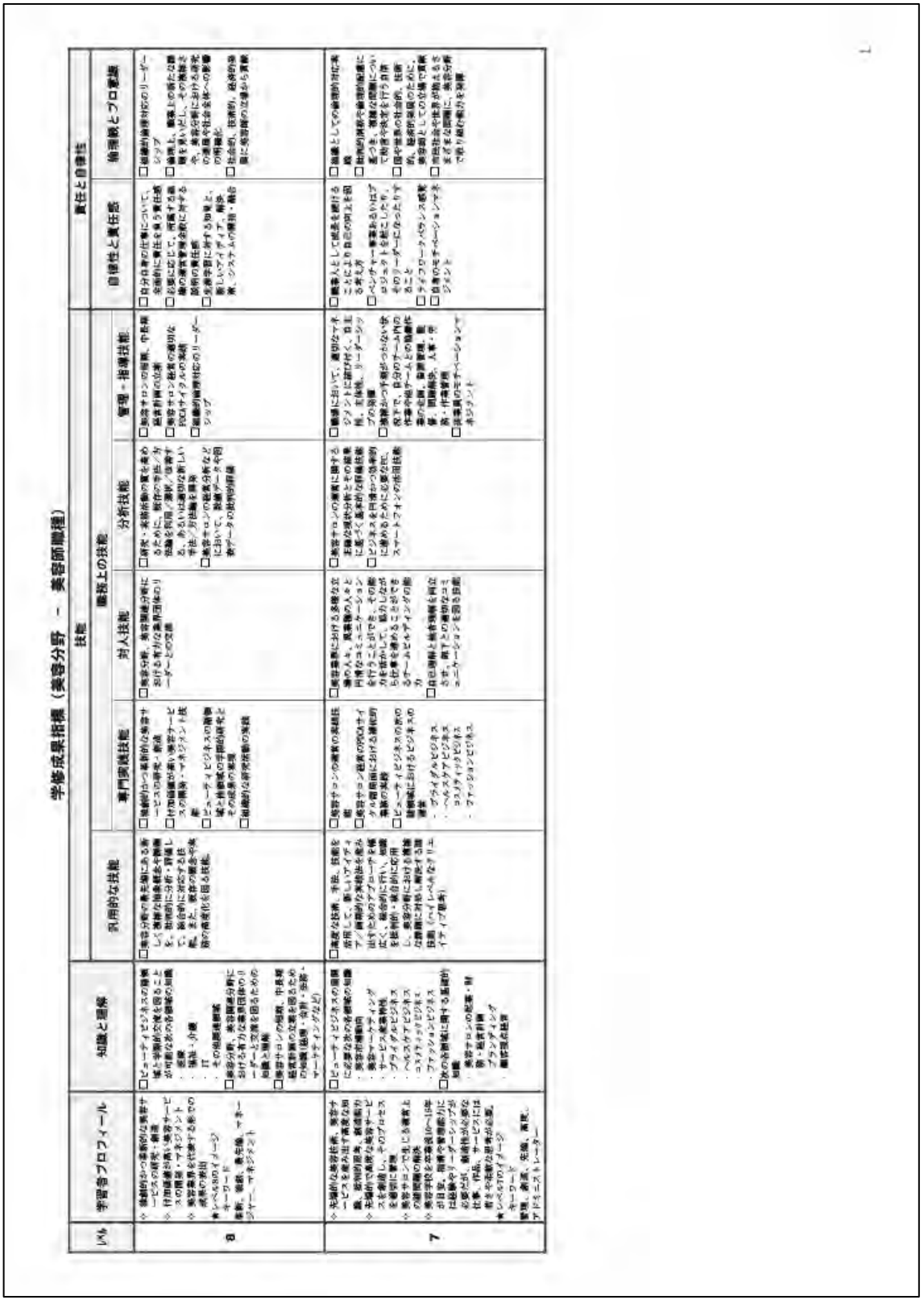
1	学習者は、最低レベルの基礎的な一般知識・技能を獲得し、指導の下で、基本的かつ極めて定型的な任務を行い、さらに学習を進め、責任感と倫理観ある職業人になるための準備をする。 地域社会や、地方・国の制度について認識し、自分以外の世界に好奇心を持つ。	分野や対象の狭い範囲内で、単純で基本的な知識と技能を言葉で説明し、非常に定型的で予測できる任務および学習を行う。	定型的で明確で予測できる任務において、指導を受けて、基礎的な知識を活用する。 成果や成績について、考え、改善する力を発揮する。	明確な任務について、各種の一般的な基本手法や材料を使う初歩的な技能を発揮する。	限られた状況の下で、馴染みある日常的な表現や簡単な言葉を伝える。	基礎的な数学的手法（記号など）を利用する力を示す。 教師の指導の下で、与えられた任務を行うのに十分な、いくつかの簡単な／基本的アプリケーションを利用する。	直接指導の下、支援を受けて、構成された活動／任務に取り組む。 単独またはチームで作業や仕事をする力を発揮する。	教師の働きかけと指導の下で、学習に一定の責任を担い始める。 教師の指導の下で取り掛かった／行われた任務について、検討・反省する力を発揮する。 学習や任務の中で、生かせる個人の価値観を明確にする能力を示す。	社会の責任あるメンバーとなり、自分以外の文化に対する配慮を示す。

*1 コミュニケーション技能等についても記述する。　*2 ディジタル・数的技能等についても記述する。

各レベルの目安

レベル8：専修学校専門課程（2）卒業後15～20年経過（35～40歳）、博士
レベル7：専修学校専門課程（2）卒業後10～15年経過（30～35歳）、修士、修士［専門職］
レベル6：専修学校専門課程（2）卒業後5～10年経過（25～30歳）、高度専門士、学士、学士［専門職］
レベル5：専修学校専門課程（2）卒業（20歳）、専門士、短期大学士、短期大学士［専門職］、準学士
レベル4：専修学校専門課程（1）卒業（19歳）
レベル3：高等学校卒業（18歳）
レベル2：中学校卒業（15歳）
レベル1：小学校卒業（12歳）

B　学修成果指標（美容分野）



学修成果指標（美容分野 － 美容師職種）

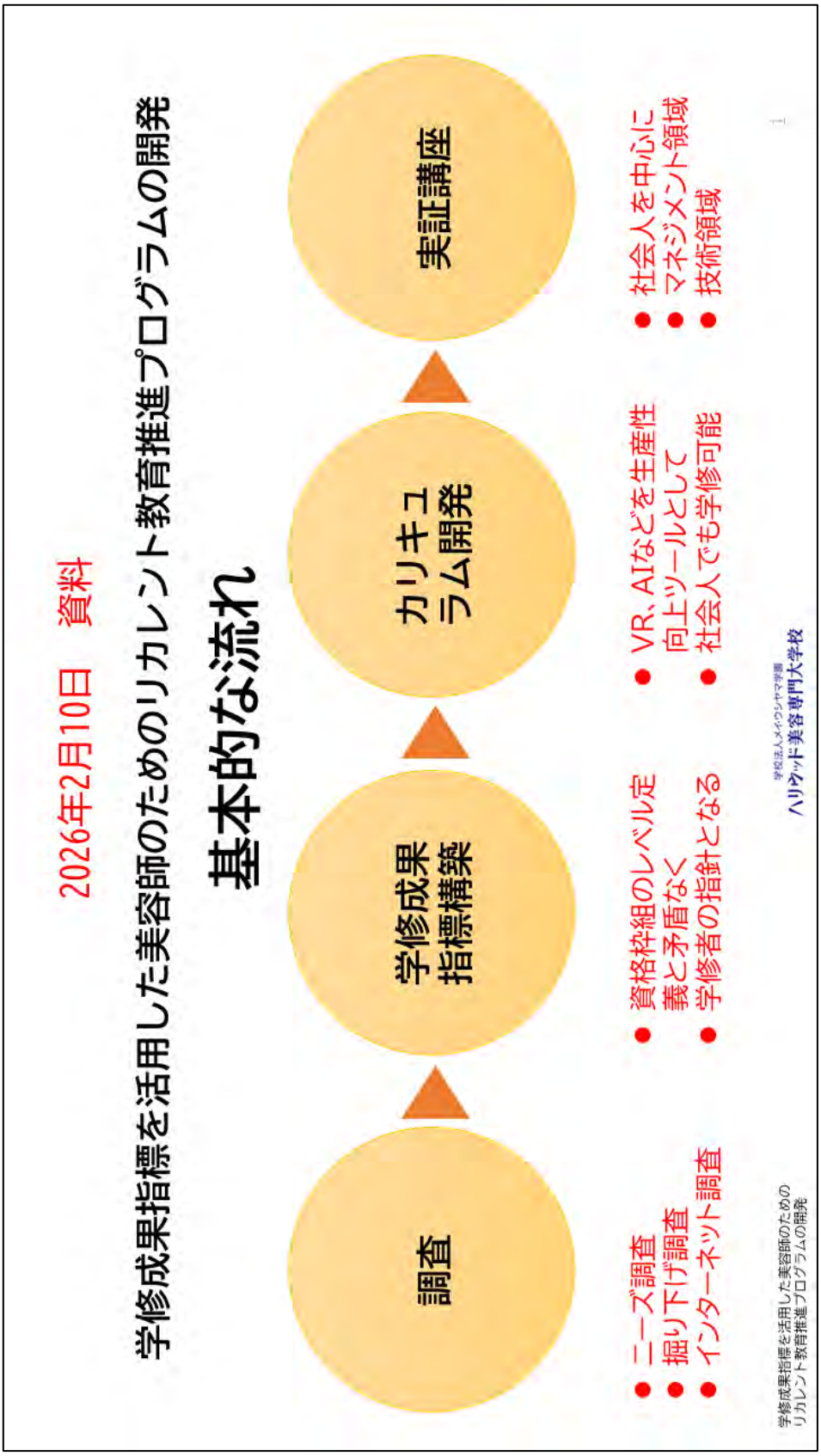
レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能				責任と自律性	
			汎用的な技能	職業上の技能			自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能	
8	◇ 体験的かつ高度的な美容サービスの提供・創造 ◇ 行政機関や異業種サービスの開発・マネジメントの実務 ◇ 美容業界を牽引する多くの成果の発信 ★レベル8のイメージ キーワード 事業、組織、責任感、マネージメント、マネジメント	□ビューティビジネスの発展に向けた新たな価値や技術を図ることが可能な次の領域の知識 ・医療 ・福祉・介護 ・IT ・その他関連領域 □美容分析、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーと交渉を図るための知識と技術 □美容サロンの経営、市長経営改善の立案を図るための知識（経理・会計・宣伝・マーケティングなど）	□美容分野における高度な技術と美容分析の結果を、総合的に分析・評価し、総合的に対応する技術、また、経営の観点から改善の提案を図る技能。	□独創的かつ革新的な美容サービスの提案・創造 □付加価値が高い美容サービスの開発・マネジメント技術 □ビューティビジネスの発展と技術革新の学問的研究とその成果の実践 □独創的な研究活動の実践	□美容分野、美容関連分野において多方的な業界団体のリーダーとの交渉を図る技能	□研究・実務経験の蓄積をもとめるために、独自の学生／カウンセリングの実施 □美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交渉 □美容サロンの経営分析などにおいて、経営データや個人データの総合的解釈	□美容サロンの経営、市長経営改善の立案を図るための知識 □美容サロン経営の最適な方法の提案 □美容サロンの開発・マネジメント技術 □独創的な研究活動の実践	□自分自身の仕事について、全般的に責任を負う責任感 □社会に対して、何ができる最善の貢献を図るかを問い続ける姿勢 □生涯学習に対する知識と、新しいアイディア、発想、システムの構築・構造
7	◇ 先端的な美容技術、美容サービスを産み出す高度な知識、技術的基盤、経営能力 ◇ 先端的で高度な美容サービスを提供し、そのプロセスを管理し、サポートする能力 ◇ 美容サロンで生じる諸課題の解決 ◇ 美容学校と密接な関係を図ることが可能 ◇ 次の各領域に関する基礎的知識 美容サロンの起業・財務・経営計画 ブランディング 顧客満足経営 ★レベル7のイメージ キーワード 管理、責任、先端、高度、アドバンストレーター	□ビューティビジネスの展開に必要な次の基礎知識、技術的基盤、経営能力 □先端的で高度なサービスを提供し、そのプロセスを管理し、サポートする能力 □美容サロンで生じる諸課題の解決 □美容学校と密接な関係を図ることが可能 □次の各領域に関する基礎的知識 美容サロンの起業・財務・経営・計画・ブランディング 顧客満足経営	□高度な技術、手段、技能を所有し、新しいアイディア、発想法を考え出す高度な知識、技術的基盤 □美容サロン経営の最適な方法の提案 □美容サービスの開発・マネジメント技術 □ビューティビジネスの新しい、独創的な技術を図ることが可能 □美容学校と密接な関係を図ることが可能 □次の各領域に関する基礎的知識 ・プライベートビジネス ・ヘルスケアビジネス ・コスメティックビジネス ・ファッションビジネス	□美容業界における多様な立場の人々、異業種の人々と円滑なコミュニケーションを行うことができ、その能力を活かして、協力しながら仕事を進めることができるチームビルディングの能力 □自己理解と他者理解を同じ立ち、周りとの適切なコミュニケーションを図る技能	□美容サロンの経営に関する主観的現状分析とその結果に基づく基本的な評価技術 □ビジネスを円滑かつ効率的に進めるために必要なPC、スマートフォンの活用技術	□職場において、適切なケースバイケースに応じて柔軟、且つ的確に、リーダーシップの発揮 □美容分野、美容関連分野における有力な業界団体のリーダーとの交渉 □美容サロンの経営、市長経営改善の立案を図るための知識 □美容サロンの開発・マネジメント技術 □独創的な研究活動の実践	□職業人として成長を続けることによる自己の向上を図る考え方 □ベンチャー事業おおいにプロジェクトを起こしたり、そのリーダーになったりすること □ライフワークバランス感覚 □自身のセミナーやコンサルタント	□地域としての倫理的対応考慮 □地域的貢献や倫理的配慮について、常時、積極的に行う自覚 □国や世界の社会的、技術的、経済的貢献のために、美容師としての立場で貢献 □市民社会や世界が抱えるさまざまな問題に、美容分野で何ができるかを実践

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
6	◇顧客を満足させるために必要な理論的・専門的知識、技能 ◇革新的で創造性に富む高度な美容サービスの創出に必要な、広範囲で体系的な知識・技能 ◇美容サロンの一員としての組織的対応と、そこで生じる広範囲な問題の解決 ◇美容師としての誇りに裏付けられ、優れた指導力を駆使した後進の育成 ◇顧客のニーズに合わせた施術と接客、顧客からの信頼の獲得 ◇美容学校を卒業後5～10年を想定。スタイリスト歴2～10年程度の経験。 ★レベル6のイメージキーワード 「教える」、「できる」、管理美容師、スタイリスト、トレーナー、インストラクター、問題解決能力	□カウンセリング理論 □パーマ剤ケミカル詳細とヘアデザインと毛髪状態による剤の選択とパーマの技術理論 □カラーリングデザイン理論 ・ワンレン ・ロングレイヤ ・グラデーション ・ショートレイヤー	□美容師としての仕事において、専門的・概念的・理論的知識を詳細に認識し、解釈、応用、分析、評価する能力 □美容分野の知識の活用において知的主体性を発揮する能力 □あいまいで複雑な状況や予測できない状況でも、多方向からのアプローチや自主性をもって、問題や課題を解決する能力 □サービスの創出につながるクリエイティブ思考 □広範な課題の解決に必要なレベルのロジカルシンキング能力	□カウンセリング実習 □サロンで売れるヘアデザインの習得 ・今人気のヘアデザイン ・若見えヘアデザイン ・小顔ヘアデザイン ・似合わせヘアデザイン □ニュアンスカット ・毛量調整 ①セニングカット ・質感調整 ①ストロングカット ②エフェクトカット ③スライドカット ④レザーカット □カラーデザインの習得 ・ダブルカラー ・グラデーションカラー ・ディップ・ダイ ・バレイヤージュ	□顧客との円滑なコミュニケーションの実践能力 □円滑なミーティングの実施に必要なコミュニケーション技能 □中間管理職的なコミュニケーションや円滑なミーティングの実施に必要なコミュニケーション技能	□美容サロンの顧客管理につながるPCやスマートフォンの操作（SNSの活用等） □PCやスマートフォンを活用した効果的で説得力のあるプレゼンテーション技能	□多様な組織的枠組みや制約の下で、自主的に仕事を進め、各種業務管理でリーダーシップを発揮する能力 □後輩に対する適切な指導能力 □組織の他者に対する業績の評価	□組織の一員としての責任感 □自分や他者の業務について、相当レベルの責任感 □美容師としての自覚と誇りを持って後進の育成にあたる責任感 □美容の社会的位置づけの正しい認識に裏付けられた美容師としての誇りを持った自己管理 □自身のキャリアパスの明確化（キャリアディベロップメント） □自身の活動を効率的にするタイムマネジメント □自身に発生するストレスを軽減・コントロールするためのストレスマネジメント	□社会的・職業上の多様な環境や実務の中で、倫理観を遵守し、倫理上の課題を明らかにし、倫理観を持って決定し、美容師として行動をする能力を発揮 □地域や世界が抱える科学、技術、ビジネス、社会、環境の課題について、深い認識と知識 □地域や世界で、持続可能な社会をつくるために美容師の立場から貢献 □美容師として、専門職業人に相応しい倫理的慎行や持続可能な慎行に従う能力

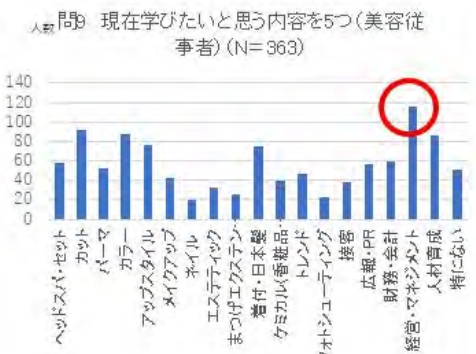
レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
5	◇美容師としての一般理論・原理に関するひととおりの知識の獲得 ◇美容師としての基本的な技術の獲得 ◇美容サロンの一員としての職業倫理 ◇美容サロンにおいて必要な職業人基礎、職業倫理 ◇美容学校を卒業後2 ~3年程度の美容師を想定、アシスタント、もしくはスタイリストデビュー後1~2年 ★レベル5のイメージ キーワード 「わかる」、美容師、ジュニアスタイリスト	□経営領域の知識 ・現在の日本の美容界の実情 ・社会人と学生の違い ・美容室の従業員間のつながり ・何のために仕事をするのか ・プロの定義 ・仕事に上って得られる無限の報酬と価値 ・自分からコミュニケーションをとれる人になる ・顧客の世界での考え方とは ・サービス業とは、美容業とは、美容室のサービスとは ・物理の効用 ・時間厳守の意味 ・職場における コミュニケーション：報告／連絡／相談 ・常にトップを目指す ・上達の法則：努力直線・向上曲線 ・サロンのハウスルールとマナー・礼儀 ・就職後に起きやすい悩みと解決法 ・問題解決の考え方 ・アシスタントがサロンの流れを作る：スーパーアシスタントの提唱 ・外国人が訪れやすいクレーム&トラブル対応 ・カルテ記入と管理の注意点 ・各管理の仕事（ホロ/スタッフ/顧客/商品/技術/営業/ ・キャリアプランニング（ゴール目標/1年後・3年後・5年後） ・朝礼と終礼の意味 ・個人情報の取り扱い ・就職活動全般について	□学習／仕事の内容が明確になっている場合、最低限の監督を受けて、一般概念／理論／運用原理の認識・解釈・適用・評価 □明確でありふれた問題や、日常的に見られない性質の問題の解決	□国家試験実技課題（ガット・ワインディング・ウェーブ）合格レベル習得 □施術図の書き方習得 □ベーシックカット技術習得 ・グラデーションカット ①サイドグラデーション ②45度グラデーション ・ショートレイヤー □カラーリングデザインを再現する技術の習得 ・ハイライト ・ローライト ・インナーカラー（ブリーチ） □ヘルプ技術の習得 ・技術領域・技術理論 ①機器準備 ②アシスタントのセーフティテクニック ・技術領域・ヘルプ技術 ①タオルセッティング ②クロスセッティング ③マッサージ ④シャンプーテクニック ⑤カラーリタッチ/リタッチ ⑥ハンドブロー ・接遇領域・技術理論 ①今、日本水準で求められているサービスとは ②アシスタントの責任 ③客単価 ④アプローチ会話の分類とサロン内で話してはいけない話題 ⑤場面ごとに変わる お客様心理 ⑥待機時間の気配り ⑦クリンリネス（整理・整頓・清掃） ⑧基本接客技術 ⑨応用接客技術 ⑩フロント業務 ⑪身だしなみ（清潔と清潔感の違い）/接客用語/敬語・尊敬語・丁寧語・クッション言葉/お声がけの場面とお かけする言葉 ⑫読んでいただく雑誌の種類と渡し方 接遇領域・接客技術 ①挨拶/正しい姿勢/お辞儀/笑顔/ブランケットのかけ方 ②施術誘導 ③電話応対と注意点 ④フロント業務	□基本的な対人関係能力 ・最低限のマナーを越えた接客能力及び会話の能力 ・職場の同僚、先輩、後輩との良好な関係を築く姿勢と会話の能力 ・組織の一員として円滑に業務を遂行するために必要な情報力と意思疎通の能力	□基本的な資料作成能力 ・学習及び習得した経験や技術を整理整頓する能力 ・PCやスマートフォンを操作し、資料を作成する能力 □基本的なプレゼンテーション能力 ・経験や技術を実現する能力 ・作成した資料を他者が共感できるように共有する能力 ・PCやスマートフォンなどを使用し、社会一般に公表、表現する能力（SNSなど）	□さまざまな状況で実施される明確で非定型的な学習／仕事について、幅広い助言や指導を受けて、かなりの責任感と自主性をもって仕事をする技術 □職場で各種チームの構築と管理を行い、問題に対処する技術	□美容師及び美容の仕事に携わる者としての自覚や自尊心、仕事に対する情熱を持っている（美容師としての誇り） ・仕事に対する意欲及び責任感 ・知識、及び技術の経験を修得する為の問題解決に粘り強む姿勢 □自己管理能力 ・自分のおかれた状況を理解することができている ・技術向上に関して、計画的に取り組むことができる □組織の一員としての円滑な業務の遂行 ・自己だけでなく他者との共同作業をする姿勢と完遂する責任感 □不確実な事象の発生に対応する為の考え方と真摯な姿勢	□社会的規範を理解し、コンプライアンス意識を持った行動 □個人情報やプライバシーに配慮 □守秘義務の順守

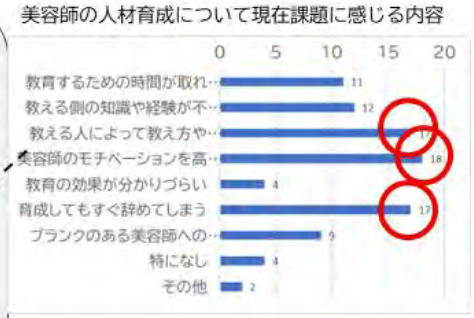
レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
4	◇美容師となるために必要な基礎的理論・原理をひととおり理解 ◇美容師としての仕事をひととおり理解 ◇職業人意識や職業倫理に対する前向きな姿勢 ★レベル4のイメージ キーワード 「学ぶ」、ベーシックビューティスチューデント、美容学生	□国家試験実技課題（カット、ワインディング、ウェーブ）の理論と学科課題の学修 □毛髪診断 □ケミカル（基本） ・シャンプー剤／トリートメント剤 ・カラー剤 ・パーマ剤 ・スタイリング剤 ・ヘアケア剤 □SNSによる疑似集客体験	□知識や、よく知っている手法、スキルを活用して、定型的任務／学習の予測できる問題を解決する技能	□国家試験実技課題（カット、ワインディング、ウェーブ）の学修 □ベーシックカット技術の修得 ・髪の導らし方 ・セクションの分け取り方と止め方 ・シェイピング ・鋏の開閉 ・ワンレングスカット（ショートボブ） ・ロングレイヤーカット □パーマ基本技術の習得 ・ロングレイヤーカットウイッグにロッドを巻いて塗布し、ウェーブを作る ・ロッドの巻き方の習得 ①縦巻き（スパイラル）/斜め巻き ②根本巻き/中間巻き/毛先巻き ③ビッグロッドに慣れる ・その他施術的経験、及び資格取得に必要な実体験の習得 □カラーリング基本技術の習得 ・リタッチ ・ジャストタッチ ・ゼロテク ・ホイルワーク ①スライシング ②ウィービング（メッシュ）	□望まれる学習成果を修得する為、先生や同輩など連絡相談をする関係者と信頼関係を築く能力 □職場で必要な対人関係構築能力を習得するため、同級生、先輩、後輩と良好な関係を築くコミュニケーション能力	□ 資料作成及びプレゼンテーションスキル（PCやスマートフォンなどを使用したSNS投稿技術なども含む）	□最低限の指導監督で、かなり自主的に仕事をする能力 □学習／仕事の枠内で、相手に助言を与える能力	□学業に対する意欲及び責任感 □知識及び技術的経験を修得するための問題解決に取組む姿勢 □国家資格を取得し、美容師及び美容の仕事に携わる者としての自覚と自尊心、仕事に対する情熱	□社会的規範を理解し、社会及び学校生活を送るにあたり、コンプライアンス意識を持った行動

C　成果報告会配布資料


2026年2月10日　資料
学修成果指標を活用した美容師のためのリカレント教育推進プログラムの開発
基本的な流れ
調査
学修成果
指標構築
カリキュ
ラム開発
実証講座
● ニーズ調査
● 掘り下げ調査
● インターネット調査
● 資格枠組のレベル定義と矛盾なく
● 学修者の指針となる
● VR、AIなどを生産性向上ツールとして
● 社会人でも学修可能
● 社会人を中心に
● マネジメント領域
● 技術領域
学修成果指標を活用した美容師のための
リカレント教育推進プログラムの開発
学校法人メイクシヤマ学園
ハリウッド美容専門大学校

調査





1年目（R05）　2年目（R06）

母集団
ハリウッド卒業生
10,000名以上

回答者
（個人）
500余名

実施
（サロン）
500余名

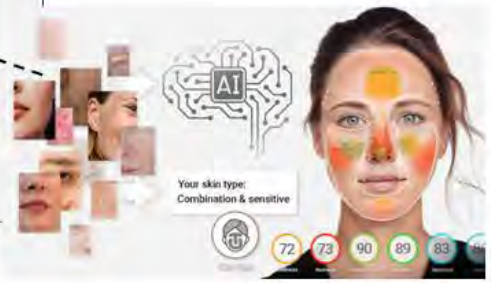
VR

AI

その歴史や現状、今後の発展の方向性などを調査

3年目（R07）





学修成果指標を活用した美容師のための
リカレント教育推進プログラムの開発

学校法人メイウシヤマ学園
ハリウッド美容専門大学校

2

学修成果指標構築

1年目(R05)

美容マネジメント



2年目(R06)

メイクアップ



3年目(R06)

国家試験対策



学修成果指標を活用した美容師のための
リカレント教育推進プログラムの開発

カリキュラム開発

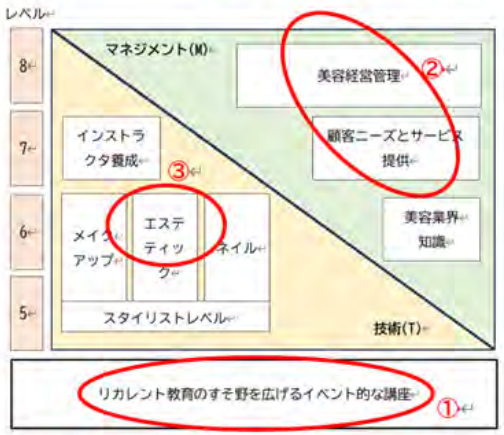
1年目(R05)



実証講座

① ビューティサロンビジネス論
② フォイルヤージュセミナー
③ 失敗しないパーマのためのカット理論
④ 失敗しないパーマデザインセミナー

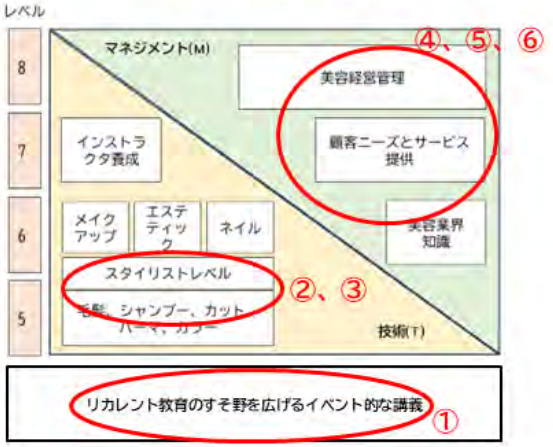
2年目(R06)



実証講座

① MINATOシニアコレクション
② 成功哲学・経営実践論
③ ソシオエステティック実用論

3年目(R06)



実証講座

① MINATOシニアコレクション
② 国家試験対策(VR活用)
③ VTR講座
④ マネジメント講座
⑤ 財務会計講座
⑥ 人材育成講座

学修成果指標を活用した美容師のための
リカレント教育推進プログラムの開発

学校法人メイワシヤマ学園
ハリウッド美容専門大学校

実証講座

①　MINATOシニアコレクション（9/4～10/25）

美健食・スキンケア

笑顔のビューティパフォーマンス

カラーコーディネート

ウォーキング

ヘアメイク

ファッションショー

港区在住のシニア層の方々を対象としたファッションショーを開催。リカレントの機運を盛り上げる目的







実証講座

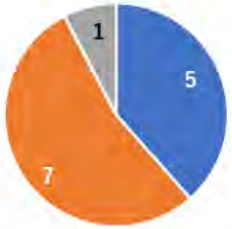
①　MINATOシニアコレクション（9/4～10/25）

理解度



▪大変よく理解できた。▪理解できた。▪理解できなかった。

役立ち度



▪大いに役に立つ　▪役に立つ　▪役に立たない

また受講したい



▪大いにそう思う　▪そう思う
▪そう思わない　▪講座の内容による

自由意見より（大学院経由で応募・受講した14名の回答）

お礼の言葉に相当

- 美しい姿を追求する気持ちが高まりました。ありがとうございました。
- 美しくなる姿を追求する意識が高くなりました。ありがとうございました。
- 美しくなる姿を追求する意識が高くなり良かったです。ありがとうございました。
- 楽しく学ぶことが出来ました。これからもこの様な機会に巡り会いたいです。
- 貴重な経験、時間を過ごすことができました。有難うございました。
- 活躍していらっしゃる講師の方々をお招きいただいて、励みになる内容の講義、またお声かけ、お言葉を頂けて、感謝しております。シニアになり、社会から排除されていくような無力さに不安を募らせでいた自分に、まだ頑張ろう、と思えるお力添えを頂きました。心から感謝申し上げます。

意見・アドバイスに相当

- もっと個人へのアドバイスがあるとよい　物足りない

実証講座

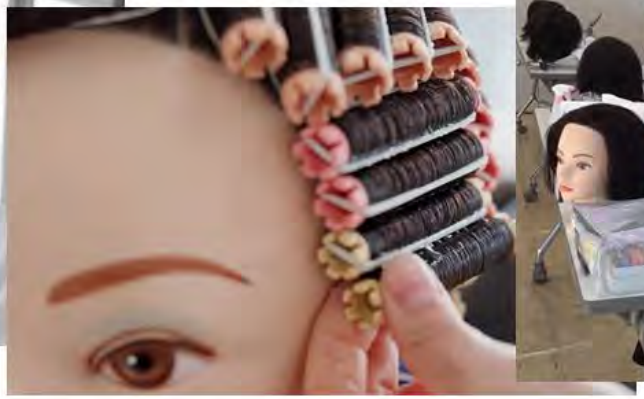
②　国家試験対策講座［VR活用］（12/18）

カッティング

ワインディング

オールウェーブ
セッティング





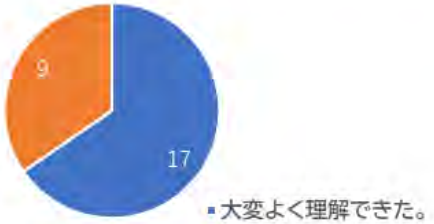


3つのテーマごとに
VR動画を作成。社会
人出身で美容師国家
試験を目指す学生
（26名）向けに実施。

実証講座

②　国家試験対策講座［VR活用］（12/18）

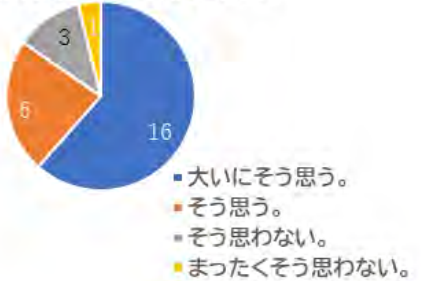
理解度



役立ち度



同様の講座を受講したい

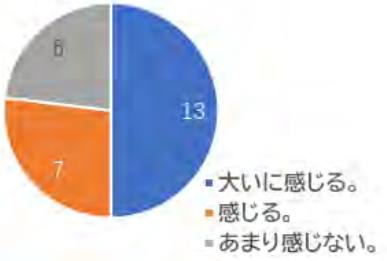


- 「理解度」：まったく問題はなかった
- 「役立ち度」：基本的に問題ないが、3名は「役に立たない」と回答
- 「同様の講座を受講したいか」：否定的な回答が4件

実証講座

②　国家試験対策講座［VR活用］（12/18）

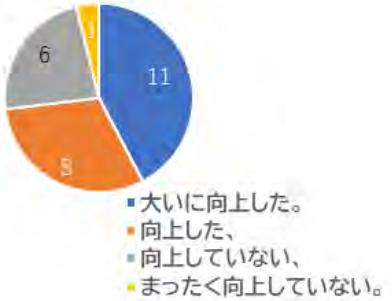
VRの学習効果



VRの学習テーマとして



生産性



- 「VRの学習効果」：約3/4が「感じている」
- 「VRの学習テーマ」：基本的に問題ないが、3名は「やや適切でない」と回答
- 「生産性」：3/4弱が「向上」と回答するも残りは否定的

実証講座

②　国家試験対策講座［VR活用］（12/18）

自由意見

概ね5つに
分類できる

VR体験への興味・好意的評価

- 初めてのVR体験楽しかった
- 画面を見るだけではなく、自分がその場にいるような感覚があり、とても印象に残りました。
- 新しい視点で見れて学びがありました！
- VRで動きや手元の角度が分かりやすく、理解が深まる授業だと感じました。
- VRの技術はすごいと思ったし、みていてすごく楽しかった。

学習効果・理解度向上への影響

- 繰り返し見ることができ、大変役に立った。
- 今回のVR体験授業を通して、今まで想像でしかなかった現場の雰囲気を、よりリアルに感じることができました。
- 画面を見るだけではなく、自分がその場にいるような感覚があり、とても印象に残りました。"
- 自己流になっていたワインディングの先生の手技の詳細を確認でき、初期の頃から体験してみたかったです。
- VRをすることで落ち着いて練習に励むことができて良かったです。
- 腕の角度などが特に分かりやすかったです。
- 当事者の視点になって見るだけでこんなにわかりやすいんだなと思いました。
- 毛の広げ方や巻き込み方も何度も巻き戻して見れる点が良いと思いました。"
- 自宅で練習できない時の自宅学習用にはまあまあ あっても良いと思いました。
- 視覚的にイメージで捕うえる方が自分には合っているのでとても分かりやすかったです。

機材・使用感に関する課題

- VRが重くて長時間の学習には不向きと感じました。
- VRの機械が重すぎて途中から集中できませんでした。
- 座って見てるだけじゃ絶対上手くならないから、映像流しながら手も動かす風にしないと眠くなりました。自分自身の手も映るようにするとかが良いと思いました。あと20分巻きの手の動きじゃないと2年でやるなら無意味だと思いました。構成とかも分からない1年生に見せるなら良いと思います。20分で早巻きしながら、手の動きとかスライスとか上手い人の目線でどうなってるのかを見たいと思いました。
- 下巻きの時の下から見る指の動きや、コームの動かし方などその都度のポイント点があるとよりありがたいです。"

視点・角度に関する要望

- スライス線が見たかった
- 初めてVRを体験しましたが、今回は定点カメラだったため色々な角度から見られるようにするとより良くなると思いました。
- 施術者の完全目線のアングルが見れたらもっと良かったです。
- 角度がもう少し見たい角度で調整出来たら良かった。しゃがめないのがネープ部分見えなくて意味がないと感じた
- VRには限度があるなと思いました。ある程度たくさんの画角がないと学べないこともある。専門的なことをいうと、ネープあたりのスライス線が見えないので、しゃがんで下から見た画角が欲しい。
- VRの取り扱い説明がやや足らず見たい角度で見ることが出来なかった。また映像の巻くスピードが普段より遅いため、20分以内での早巻きを見たかった。
- 全体的に目線で見たかった。
- 実際にブロッキングをとっているところやスライス線、スライス幅立ち位置の目線、20分間のトータルの流れが国試向けには欲しいなと思いました。
- 下巻きの時の下から見る指の動きや、コームの動かし方などその都度のポイント点があるとよりありがたいです。"

その他の意見・今後への期待

- 間近でみられるのはとても良かったが、説明が難しいことがあった。
- 必ずメリットがあればデメリットもあると思いました。
- 直接先生に教えていただいたほうが分かりやすいし吸収できる。
- 学校でVRを見るというのは時間の効率が悪いです。
- もっと早く導入していただきたかったです！
- 今後の生産性に期待しております！"

実証講座

③　VTR講座（11/17、12/1、12/8、12/15）

カット	カラー	メイクアップ



高度専門課程3年生12名を対象。3つの分野ごとに、既存の動画を使って学習する。講師はサポートに入る。

実証講座

③　VTR講座（11/17、12/1、12/8、12/15）

理解度



役立ち度



また受講したい



- 大変評価が高い。
- VTRのテーマがフィット
- いつもと違う現役美容師講師

VTRテーマの適切性



VRテーマの適切性



生産性



自由意見は割愛

実証講座

④　マネジメント講座（10/1、10/22、10/29、11/12）

イントロダクション	マネジメント	ブランドマネジメント
		
山中　祥弘 （学校法人メイ・ウシヤマ学園理事長）	野嶋　朗 （株式会社ノートラック代表取締役）	蒲生　典子 （株式会社ガモウ代表取締役）

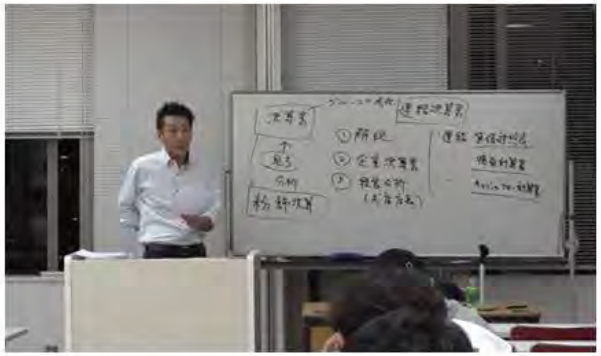
実証講座全体のイントロダクションと、「マネジメント」に集中した講義

実証講座

⑤　財務会計講座（10/14、10/21）

財務諸表分析の観点

財務諸表分析の
主要な指標と手法





田井　良夫
（ハリウッド大学院大学教授）

「財務会計」、特に、
「財務諸表分析」に
特化した講義

実証講座

⑥　人材育成講座（11/26、12/10）

美容業界における
人材育成の現状と課題

ミドル層の成長：現場を
支える中堅人材の育成



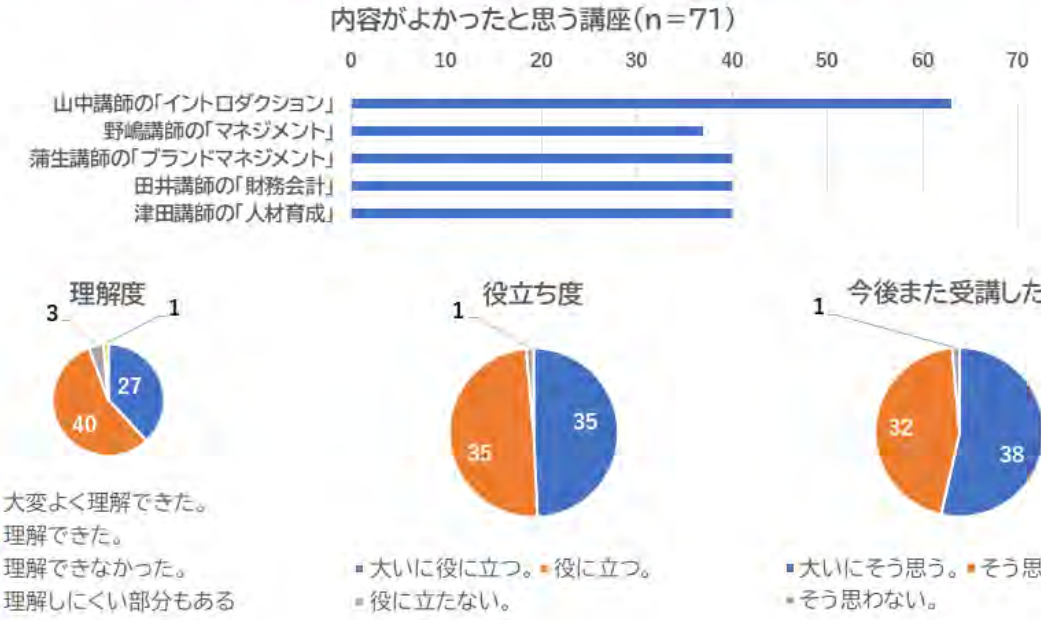


津田　まどか
（ネイリスト、中小企業診断士）

ネイリストで、かつ、
中小企業診断士でも
ある津田先生の講義

実証講座

④マネジメント　⑤財務会計　⑥人材育成講座　についてまとめてアンケート→71件の回答



実証講座

④マネジメント　⑤財務会計　⑥人材育成講座　についてまとめてアンケート→71件の回答

自由意見

概ね7つに分類できる

講座内容の充実度・有用性	●「今回の講座は、内容が充実しており、実務に役立つ知識が得られました。講義も分かりやすく、大変参考になりました。」 ●「今回の講義を通して、ビジネスの考え方を具体的に理解することができました。難しい内容もありましたが、丁寧な説明のおかげで興味を持って学ぶことができました。」 など
分かりやすさ・講師評価	●「本授業は分かりやすく、専門分野について理解を深めることができました。」 ●「理論だけでなく実例も交えて説明していただき、とても理解しやすかったです。」など
幅広い視点・多様な学び	●「各分野の先生方の授業に参加することは、大きな収穫がございました。」 ●「異なる視点が私の専門に大きな利益をもたらしてくれました。」 など
今後への活用意欲	●「先生に教えていただいたことを今後の仕事や生活に活かしていきたいと思います。」 ●「今後の学習や研究にも活かしていきたいと思います。」 など
講師・講義への感謝と称賛	●「貴重なお話をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。」 ●「お疲れ様でした！ありがとうございます。」 など
今後の期待・要望	●「幅広い分野の内容を学ぶことができればありがたいです。特に、AIの企業への活用に関する内容があると、なお嬉しいです。」 ●「もっと具体的なデータが欲しい。」 など
簡潔な評価・無回答	●「面白い」「素晴らしい」など一言のみの肯定的な意見や、「意見なし」「なし」などの回答が複数

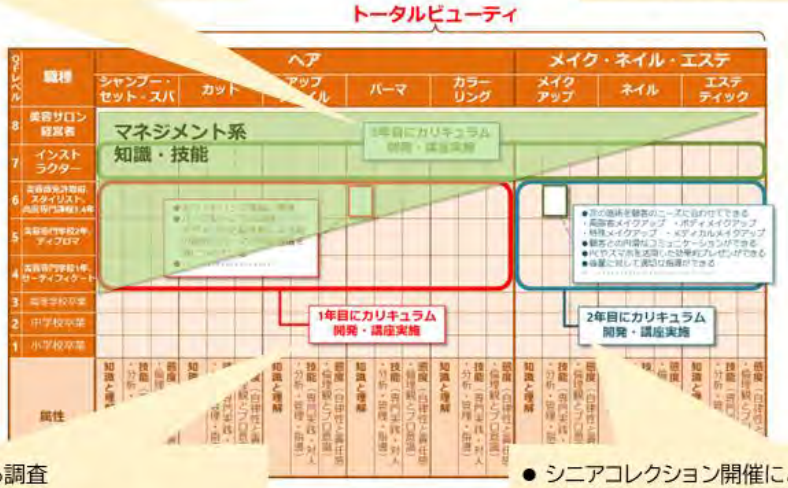
まとめ

3年目（R7）

- リカレント教育におけるマネジメント学修の必要性と役立ち
- VR、AIなどの活用ポイントのピックアップ
- リカレント教育による生産性の向上（受講者側、教育側双方）

次年度以降のテーマ

VR教育の充実、AI活用の発展
卒業生のネットワーク化によるリカレント学修の定着
プロ教育・学修システム全体のデジタル化・AI化の推進



1年目（R5）

- 10,000名を超える卒業生に対する調査
- 学修成果指標構築による学習効果増大
- ヘア領域の学修成果指標・カリキュラムの構築・開発

2年目（R6）

- シニアコレクション開催によるリカレント教育の雰囲気醸成
- マネジメント教育・学修の重要性の確認
- メイクアップその他の学修成果指標・カリキュラムの構築・開発

プレスリリース動画



https://www.youtube.com/watch?v=KkLb4sjq25k&t=1s



https://www.youtube.com/watch?v=tCehRTL2SMk&t=1s

令和 7 年度文部科学省
専門職業人材の最新技能アップデートのための
専修学校リカレント教育推進事業

学修成果指標を活用した美容師のための
リカレント教育推進プログラムの開発

事業成果報告書

発行日　令和 8 年 3 月
発行者　学校法人 メイ・ウシヤマ学園　ハリウッド美容専門学校
〒106-8541　東京都港区六本木 6-4-1 六本木ヒルズハリウッドプラザ
■禁無断転載■